

(仮称) 東京都北区子どもの貧困対策に関する
支援計画策定のための実態調査
調査結果の概要

平成 28 年 11 月
北区教育委員会

目次

I	調査の実施概要	1
1.	調査の目的	3
2.	調査の実施方法等	4
3.	調査票の回収状況	7
4.	調査結果の分析	8
5.	経済的困窮状態にある子どもと家庭の状況の把握	9
6.	報告書のみかた	9
II	区民アンケートの調査結果	11
1.	調査対象、回答者の属性・世帯類型	13
(1)	回答者の世帯内訳	13
(2)	宛名の子どもの属性	13
(3)	回答者の属性	15
(4)	世帯人員・構成	16
(5)	居住地区	18
2.	国の「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもと世帯の割合	19
(1)	アンケート調査における「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもの割合	19
(2)	アンケート調査における「貧困線」を下回る世帯の割合	19
3.	物質的剥奪・社会的孤立の状況	21
(1)	暮らし向きに対する認識	23
(2)	基本ニーズ（必要な食料・衣料を買えなかった経験）	24
(3)	物質的剥奪（子どもが必要とする文具・教材等）	26
(4)	医療の受診	27
(5)	外出等の状況（外食、旅行）	29
(6)	地域行事への参加状況	31
(7)	相談相手の有無	32
4.	住まいの状況	34
(1)	住居の状況	35
(2)	住居費	37
(3)	家賃等の滞納状況	39

5. 就業の状況	40
(1) 保護者の就業状況	41
(2) 児童育成手当受給世帯の就業状況	44
6. 健康状態	48
(1) 保護者の健康状態	49
(2) 保護者の抑うつ傾向	51
(3) 保護者の病気・障害等の状況	53
7. 子どもが置かれている生活状況	55
(1) 「孤食」の状況	56
(2) 放課後の過ごし方	59
(3) 家族との関わり	61
8. 子どもが置かれている学習・進学に関する環境	63
(1) 学校での成績	64
(2) 学校以外での勉強時間	65
(3) 塾や習い事	67
(4) 経済的な理由による子どもの進学の断念の経験	69
9. ひとり親世帯特有の課題の状況	70
(1) 養育費の取り決めの状況	71
(2) 面会交流の状況	73
10. 貧困の背景、連鎖に関わる状況	75
(1) 保護者自身の経験	76
(2) 保護者の最終学歴	79
11. 必要としている支援等	83
(1) 子どもについての悩み	85
(2) 子どもにとってあるとよいと思う支援	88
(3) 子ども食堂などの夜の居場所の利用意向	91
(4) 学生ボランティア等による無料の学習支援制度の利用意向	94
(5) 保護者が重要だと思う支援	96
Ⅲ 小学校5年生アンケートの調査結果	99
1. 回答者の属性	101
(1) 回答者の世帯内訳	101
(2) 保護者の属性	102
(3) 世帯構成・人数	103

(4) 居住地区.....	105
2. 国の「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもと世帯の割合.....	106
(1) アンケート調査における「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもの割合.....	106
(2) アンケート調査における「貧困線」を下回る世帯の割合.....	106
3. 子どもの状況.....	107
(1) 朝食の摂取.....	109
(2) 物品等の所有状況.....	111
(3) 子どものための支出.....	113
(4) 友人関係.....	115
(5) 子どもの相談相手.....	117
(6) 自己肯定感.....	118
(7) 将来の夢について.....	120
4. 子どもが置かれている学習・進学に関する状況.....	122
(1) 授業の理解度.....	123
(2) 学習意欲.....	126
(3) 学習塾・習い事.....	127
(4) 子ども自身の進学希望.....	130
(5) 子どもの教育・進学に対する保護者の意向.....	131
IV 施設等利用者アンケートの調査結果.....	133
(1) 自分の健康状態.....	137
(2) 悩みごとや心配なこと.....	138
(3) 学習意欲.....	143
(4) 自己肯定感.....	144
(5) 将来の夢.....	146
(6) 将来行きたい学校.....	148
V 支援者ヒアリングの調査結果.....	153
1. 調査結果に関する留意点.....	155
2. 調査結果からうかがわれる状況や課題.....	155
(1) 困難を抱える家庭の子どもや保護者の状況.....	155
(2) 今後求められる取り組み.....	158

VI 調査票	159
1. 区民アンケート	161
(1) 18歳未満の子どもがいる世帯	161
(2) 児童育成手当受給世帯	169
2. 小学校5年生アンケート	177
(1) 小学校5年生児童	177
(2) 小学校5年生保護者	181
3. 施設等利用者アンケート	189
(1) 児童養護施設に入所している子ども	189
(2) フリースクールに通っている子ども	191
(3) 定時制高校の生徒	193

I 調査の実施概要

I 調査の実施概要

1. 調査の目的

子どもの将来がその生まれ育った環境において左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図り、子どもの貧困対策を総合的、効果的に推進するため、「(仮称) 東京都北区子どもの貧困対策に関する支援計画」の策定にあたっての基礎資料とすることを目的に、以下の調査を実施しました。

(1) 区民アンケート

18歳未満の子どもがいる世帯、児童育成手当（育成手当）を受給している世帯を対象に、家庭の経済的困窮の状況や物質的剥奪^{*1}の状況、子どもや保護者の健康状態、就業状況、子どもの生活環境や学習、進学状況等について把握し、子どもの貧困の状況を様々な観点から分析することを目的として実施しました。

なお、児童育成手当（育成手当）とは、区内に在住し、18歳に達した日の属する年度の末日までの児童を養育しており、①離婚、死亡等により父または母がいない場合、あるいは、②父または母に重度の障害がある場合に支給される手当です。（所得制限あり）

(2) 小学校5年生アンケート

区立小学校5年生の児童と保護者を対象に、児童については、子どもの基本的な暮らしや学校生活の様子、学習意欲、放課後の過ごし方、将来の夢や希望、保護者との関わり等を把握するとともに、保護者については、家庭の経済状況や、就業状況、子どもとの関わり、子どもの学習・進学に関する意向等を把握し、子どもの生活実態と経済状況などの家庭の状況との関連を分析することを目的として実施しました。

(3) 施設等利用者アンケート

区内の児童養護施設で生活する中学生・高校生や定時制高等学校の生徒、フリースクールに通う中学生・高校生の年代の子どもを対象に、生活状況や心配ごと・悩み、学習意欲、自己肯定感、将来の夢をかなえるために必要なこと等について直接的に意見をうかがうことを目的として実施しました。

(4) 支援者ヒアリング

日ごろから困難を抱える家庭の子どもと保護者への支援に関わっている関係機関や学校関係者、NPO法人等を対象に、支援に関わる方の視点から、困難を抱える家庭の子どもと保護者の背景や生活状況、今後必要となる取り組み、課題等について把握することを目的にヒアリングを実施しました。

^{*1} 物質的剥奪とは、貧困の状態において、社会で最低限必要とされる物が得られていない状況をいう。

2. 調査の実施方法等

(1) 区民アンケート

区民アンケートは、18歳未満の子どもがいる世帯および児童育成手当（育成手当）を受給している世帯（以下、児童育成手当受給世帯という。）を対象に、郵送により調査を実施しました。

なお、回答は宛名の子どもの保護者に依頼し、調査期間中に1回、御礼状兼督促状を発送しています。

①18歳未満の子どもがいる世帯

・調査対象	区内在住の18歳未満の子どもがいる世帯のうち、4,000世帯を無作為抽出
・調査期間	平成28年7月22日から8月5日
・調査方法	郵送配布・郵送回収（返信用封筒を同封）

②児童育成手当受給世帯

・調査対象	平成28年度の児童育成手当受給世帯のうち、2,000世帯を無作為抽出
・調査期間	平成28年7月22日から8月5日
・調査方法	郵送配布・郵送回収（返信用封筒を同封）

※各アンケートの対象者は、重複しないように抽出しています。

(2) 小学校5年生アンケート

小学校5年生アンケートは、区立小学校に通う小学校5年生児童とその保護者を対象に、学校の協力を得て実施しました。なお、児童とその保護者の回答を紐づけするため、あらかじめ整理番号を付したうえで配布しています。

①区立小学校5年生（児童）

・調査対象	区立小学校5年生（悉皆調査）
・調査期間	平成28年7月12日から7月22日
・調査方法	学校で配布・回収

②区立小学校5年生（保護者）

・調査対象	区立小学校5年生の保護者（悉皆調査）
・調査期間	平成28年7月12日から7月26日
・調査方法	学校で配布、郵送回収（返信用封筒を同封）

(3) 施設等利用者アンケート

施設等利用者アンケートは、区内の児童養護施設で生活する中学生・高校生、定時制高等学校の生徒、フリースクールに通う中学生・高校生の年代の子どもを対象に、各施設等の協力を得て実施しました。

①児童養護施設

・調査対象	星美ホームに入所している中学生、高校生
・調査期間	平成28年9月1日から9月8日
・調査方法	施設で配布・回収

②定時制高等学校

・調査対象	東京都立桐ヶ丘高等学校の1年生
・調査期間	平成28年9月6日
・調査方法	学校で配布・回収

③フリースクール

・調査対象	フリースクール東京シューレに通う中学生、高校生の年代の子ども
・調査期間	平成28年9月1日から9月12日
・調査方法	施設で配布・回収

(4) 支援者ヒアリング

支援者ヒアリングは、以下の対象に対して、北区職員、(株)ジャパンインターナショナル総合研究所研究員が訪問等の上、ヒアリングを実施しました。

	区分	対象	実施日
1	児童相談所	東京都北児童相談所	8月26日
2	子ども家庭支援センター	北区子ども家庭支援センター	8月2日
3	母子・父子への相談等支援	母子・父子自立支援員(北区生活福祉課)	8月10日
4	自立相談支援機関	北区くらしとしごと相談センター	8月2日
	社会福祉協議会	北区社会福祉協議会(子ども支援担当)	
5	児童養護施設	星美ホーム	7月29日
6	母子生活支援施設	北区立浮間ハイマート	7月28日
7	保育所	北区立保育園(浮間保育園、堀船南保育園)	8月18日
8	学校関係者	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー(教育相談所配置)、北区立教育相談所	8月22日
9		スクールカウンセラー(学校配置)	8月25日

	区分		対象	実施日
10	定時制高等学校		東京都立桐ヶ丘高等学校	8月5日
11	ハローワーク		ハローワーク王子	8月22日
12	民生委員・児童委員		民生委員・児童委員	8月12日
13	支援を行う NPO 法人等団 体	子ども食堂等居場所 提供	NPO法人アビリティクラブたすけあ い北区たすけあいワーカーズひよこ	8月10日
14			子ども食堂キタクマ	7月21日
15			グリーンハート 若者の性と生を北区 から考える会	8月8日
16		地域の子ども等への 学習等支援	北区豊島高齢者あんしんセンター	8月25日
17		不登校の子ども・若者 等への学習等支援	NPO法人東京シュレー	7月29日
18		児童養護施設の子ど もへの自立等支援	星の子キッズ	8月19日
19		児童養護施設出身学 生向けシェアハウス	NPO法人学生支援ハウスようこそ	8月31日

3. 調査票の回収状況

各調査の有効回答数、有効回答率は以下のとおりです。

(1) 区民アンケート

種別	配布数	有効回答数	有効回答率
18歳未満の子どもがいる世帯	4,000 票	2,213 票	55.3%
児童育成手当受給世帯	2,000 票	778 票	38.9%

(2) 小学5年生アンケート

種別	配布数	有効回答数	有効回答率
小学校5年生児童	1,866 票	1,466 票	78.6%
小学校5年生保護者	1,866 票	1,184 票	63.5%

(3) 施設等利用者アンケート

種別	配布数	有効回答数	有効回答率
星美ホームに入所している中学生、高校生	43 票	43 票	100.0%
東京都立桐ヶ丘高等学校の1年生	153 票	107 票	69.9%
フリースクール東京シューレに通う中学生、高校生の年代の子ども	78 票	32 票	41.0%

4. 調査結果の分析

アンケート調査及びヒアリングについて、以下のとおり調査結果を整理・分析しました。

(1) 区民アンケート

区民アンケートの分析にあたっては、「18歳未満の子どもがいる世帯アンケート」の回答者の「ふたり親世帯」の占める割合が、96.3%（世帯構成不明世帯は、1.4%）となっていること、また、「児童育成手当受給世帯アンケート」の回答者の「ひとり親世帯^{*2}」の占める割合が、91.8%（世帯構成不明世帯は、6.7%）となっていることから、「18歳未満の子どもがいる世帯アンケート」は、「ふたり親世帯」の状況、「児童育成手当受給世帯アンケート」は、「ひとり親世帯」の状況を示すものとして扱い、結果を比較することで、世帯類型と子どもや家庭が置かれている状況との関連を分析しました。

また、それぞれのアンケート結果について、経済的困窮状態にある子どもや家庭が置かれている状況との関連性を分析するため、経済的状況別（「貧困線以上の世帯」及び「貧困線を下回る世帯」）に分類し、比較分析を行いました。

(2) 小学校5年生アンケート

児童の回答をもとに、子どもの生活状況を把握するとともに、児童と保護者の回答と紐づけすることで、家庭における子どもの状況を、世帯類型（「ふたり親世帯」及び「ひとり親世帯」）や経済的状況（「貧困線以上の世帯」及び「貧困線を下回る世帯」）に分類し、比較分析を行いました。

(3) 施設等利用者アンケート

区内の児童養護施設で生活する中学生・高校生や定時制高等学校の生徒、フリースクールに通う中学生・高校生の年代の子どもが置かれている状況等について、選択式による回答から傾向を把握するとともに、自由記述欄に記載された回答内容を手掛かりに、将来への不安や夢をかなえるために必要なことの把握を試みました。

(4) 支援者ヒアリング

日ごろから困難を抱える家庭の子どもや保護者への支援に関わっている各機関・団体から共通して聞かれた情報について「困難を抱える家庭の子どもや保護者の状況」、「今後求められる取り組み」の観点から整理を行いました。

^{*2} アンケート調査におけるひとり親世帯とは、未婚、死別又は離別の女（男）親と、その未婚の20歳未満の子とも及び他の世帯員（20歳以上の子どもを除く。）から成る一般世帯を含めた世帯をいう。

5. 経済的困窮状態にある子どもと家庭の状況の把握

本調査では、経済的困窮（貧困）状態にある子どもや家庭の状況の把握にあたり、国が「相対的貧困率^{*3}」を算出する際の基準としている平成25年国民生活基礎調査に基づく貧困線を基に、以下のとおり、「貧困線以上の世帯」及び「貧困線を下回る世帯」に分類し、比較分析を行いました。

【国民生活基礎調査における方法】

- 所得額（万単位）、課税等の額（千円単位）、ならびに世帯人員数の情報から「等価可処分所得」を算出し、等価可処分所得の中央値の半分の額を貧困線として定める。
- 「等価可処分所得」は、世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で除して調整して算出する。なお、平成25年国民生活基礎調査に基づく貧困線は122万円。

【本調査における方法】

- アンケート調査票において、①「世帯員人数」、②「世帯全体の所得を合計した総額」、③「世帯全体の各種税金・社会保険料の支払い総額」を万円単位で回答していただいた。
- ②から③を差し引いた「可処分所得」を①の平方根で除して「等価可処分所得」を算出し、平成25年の国民生活基礎調査の結果に基づいて国が算出した貧困線となる122万円未満の世帯を経済的困窮（貧困）状態にある「貧困線を下回る世帯」としています。

6. 報告書のみかた

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- 回答は、各設問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で表現しています。また、小数点第2位以下を四捨五入しているため、表記されている各選択肢の回答割合の合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- 設問の中には、前問に答えた人のみ回答する設問など、回答者を限定している限定設問があり、表中の「回答者数」全体より少なくなる場合があります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表します。

^{*3} 相対的貧困率とは、収入から税金・社会保険料等を差し引いた手取り収入から、世帯人数による影響を調整して算出した、世帯人員1人当たりの所得の中央値の半分の額（「貧困線」という。）に満たない人の割合をいう。

II 区民アンケートの調査結果

各項目の横の設問番号に記載している「子」は『18歳未満の子どもがいる世帯』を対象とした調査票の設問番号を示し、「育」は『児童育成手当受給世帯』を対象とした調査票の設問番号を示しています。

また、数値で回答いただく設問には【数値回答】、複数の回答をしていただく設問には【複数回答】と記載しています。

II 区民アンケートの調査結果

1. 調査対象、回答者の属性・世帯類型

(1) 回答者の世帯内訳

- 本調査では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで2,213件、児童育成手当受給世帯アンケートで778件から回答が得られました。
- 18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの回答者2,213件のうち、「ふたり親世帯」が2,131件(96.3%)、「ひとり親世帯」が52件(2.3%)となっています。
- 児童育成手当受給世帯アンケートの回答者778件のうち、「ふたり親世帯」が12件(1.5%)、「ひとり親世帯」が714件(91.8%)となっています。「ひとり親世帯」のうち、「母子世帯」が658件(84.6%)、「父子世帯」が44件(5.7%)となっています。

◆回答者の内訳

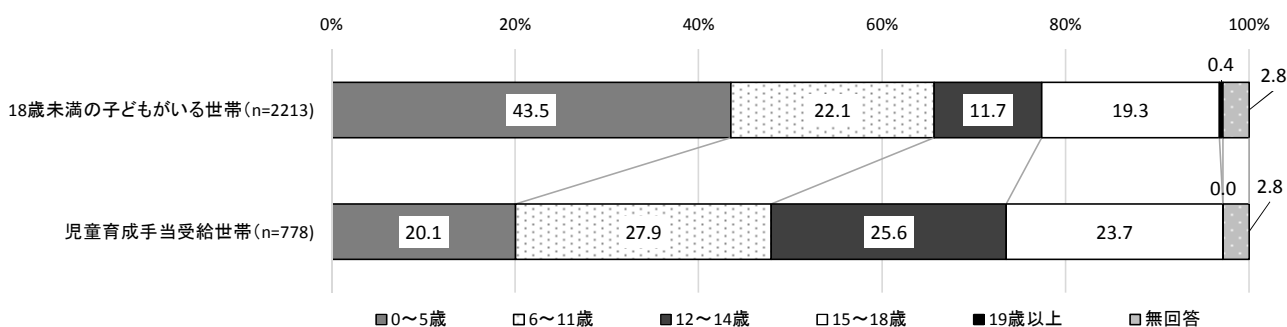
調査の種類	世帯類型	回答数(割合)
18歳未満の子どもがいる世帯 (回答数:2,213件)	ふたり親世帯	2,131件(96.3%)
	ひとり親世帯	52件(2.3%)
	無回答	30件(1.4%)
児童育成手当受給世帯 (回答数:778件)	ふたり親世帯	12件(1.5%)
	ひとり親世帯	714件(91.8%)
	母子世帯	658件(84.6%)
	父子世帯	44件(5.7%)
	無回答	12件(1.5%)
	無回答	52件(6.7%)

(2) 宛名の子どもの属性

①年齢【数値回答】(子:問1①、育:問8①)

- 宛名の子どもの年齢について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは「0～5歳」が43.5%で最も高く、次いで「6～11歳」が22.1%、「15～18歳」が19.3%と続いています。
- 児童育成手当受給世帯アンケートでは「6～11歳」が27.9%で最も高く、次いで「12～14歳」が25.6%、「15～18歳」が23.7%と続いています。

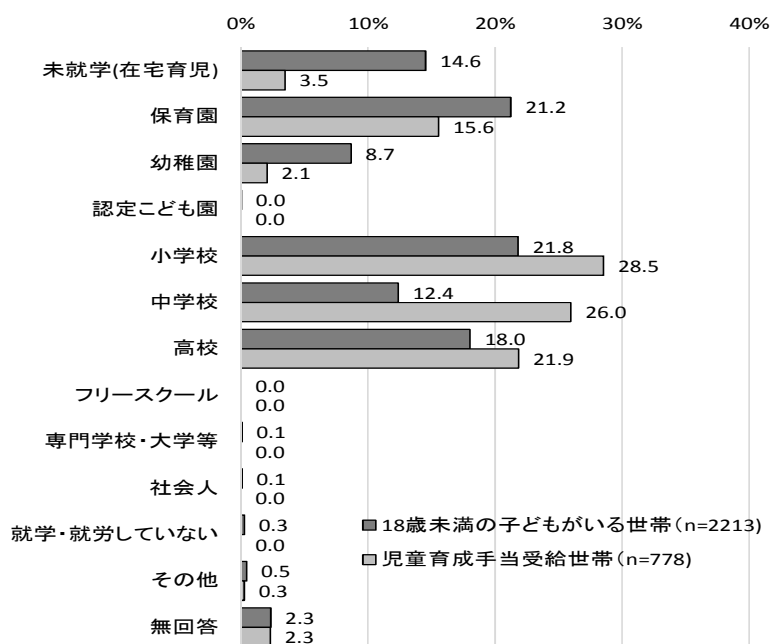
◆宛名の子どもの年齢



②就学・就労等の状況（子：問1③、育：問8③）

- 宛名の子どもの就学・就労等の状況について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、「保育園」が21.2%、「小学校」が21.8%、「高校」が18.0%となっています。
- 児童育成手当受給世帯アンケートでは、「小学校」が28.5%で最も高く、「中学校」の26.0%と合わせると、5割以上(54.5%)が小・中学校の児童生徒となっているほか、「高校生」は21.9%となっています。

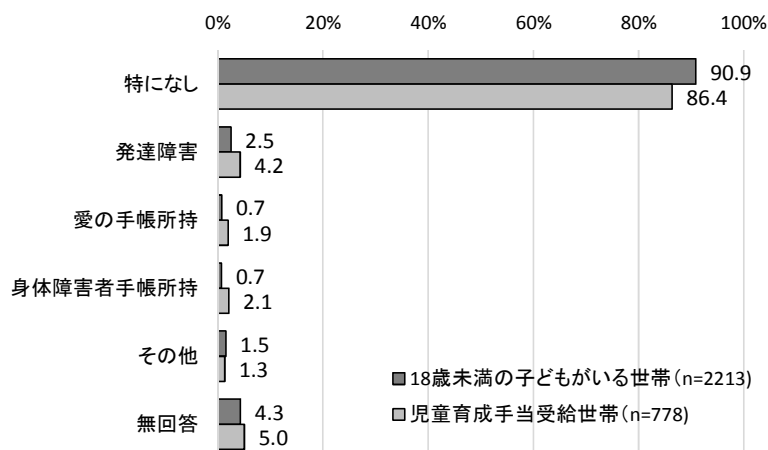
◆宛名の子どもの就学・就労の状況



③障害の有無（子：問1⑤、育：問8⑤）

- 宛名の子どもの障害の有無について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、「発達障害」が2.5%、「身体障害者手帳所持」、「愛の手帳所持」（知的障害）がともに0.7%、「その他」が1.5%となっています。
- 児童育成手当受給世帯アンケートでは、「発達障害」が4.2%、「身体障害者手帳所持」が2.1%、「愛の手帳所持」（知的障害）が1.9%、「その他」が1.3%となっています。

◆宛名の子どもの障害の有無

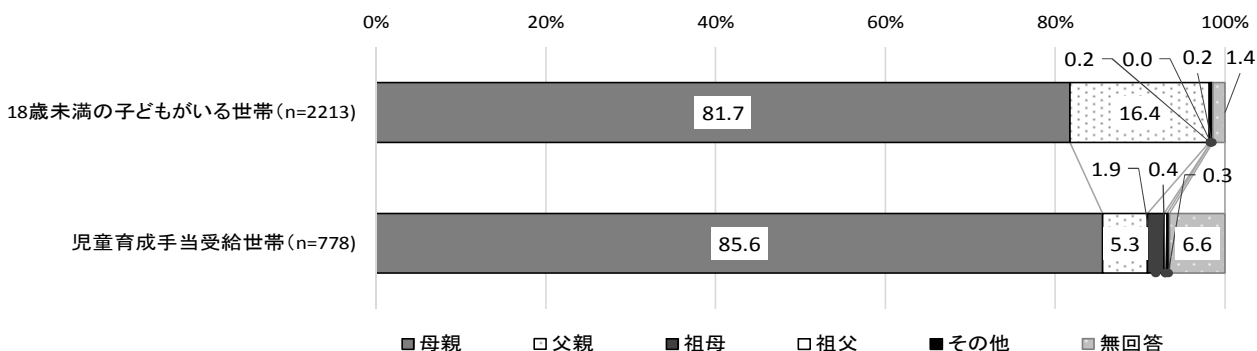


(3) 回答者の属性

①子どもとの続柄（子：問23、育：問1）

- 回答者と宛名の子どもとの続柄について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、「母親」が81.7%、「父親」が16.4%となっています。
- 児童育成手当受給世帯アンケートでは、「母親」が85.6%、「父親」が5.3%となっています。

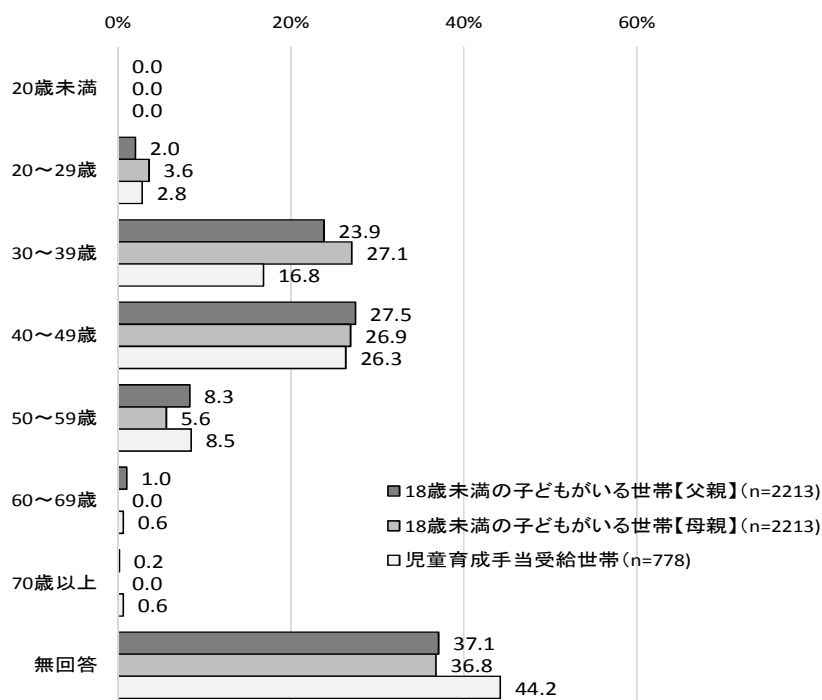
◆回答者と宛名の子どもとの続柄



②回答者及び配偶者の年齢【数値回答・生年月】（子：問29、育：問2）

- 回答者及び配偶者の年齢について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの父親では「40～49歳」が27.5%で最も高く、次いで「30～39歳」23.9%、「50～59歳」8.3%となっています。
- 18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの母親では「30～39歳」が27.1%で最も高く、次いで「40～49歳」26.9%、「50～59歳」5.6%が続いています。
- 児童育成手当受給世帯アンケートでは、「40～49歳」が26.3%で最も高く、次いで「30～39歳」16.8%、「50～59歳」8.5%が続いています。

◆回答者及び配偶者の年齢

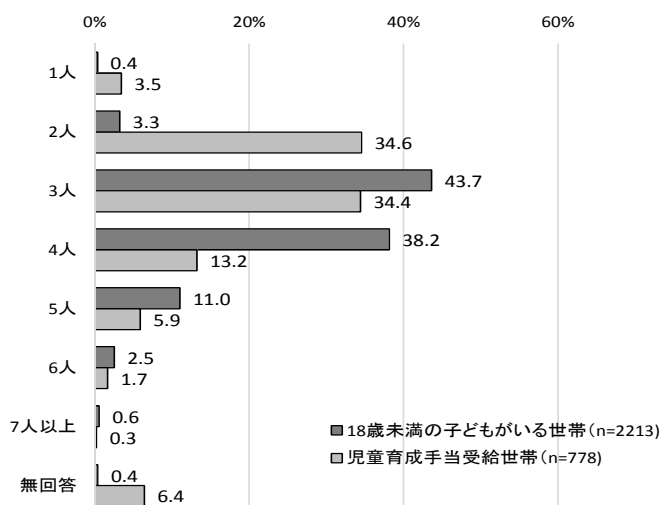


(4) 世帯人員・構成

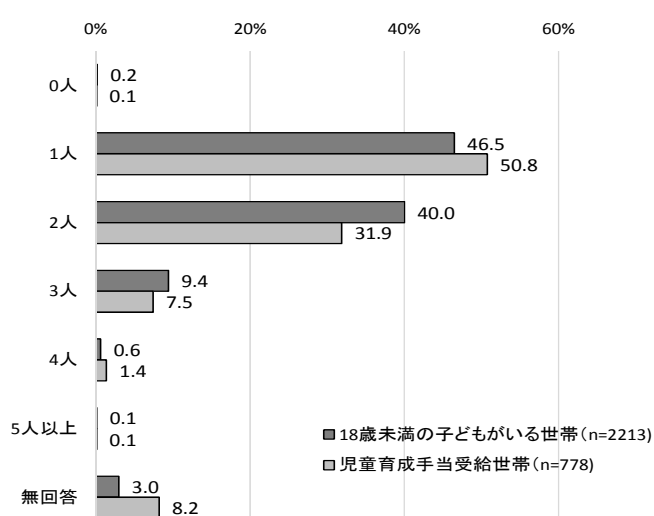
① 生計を共にしている世帯員の人数【数値回答】(子：問26、育：問3)

- 生計を共にしている世帯員の人数について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは「3人」が43.7%、「4人」が38.2%の順で高く、児童育成手当受給世帯アンケートでは「2人」が34.6%、「3人」が34.4%の順で高くなっています。
- 生計を共にしている世帯員のうちの子どもの人数について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート、児童育成受給世帯アンケートともに「1人」の回答が最も高くなっており、続いて「2人」の回答が高くなっています。

◆世帯員人数



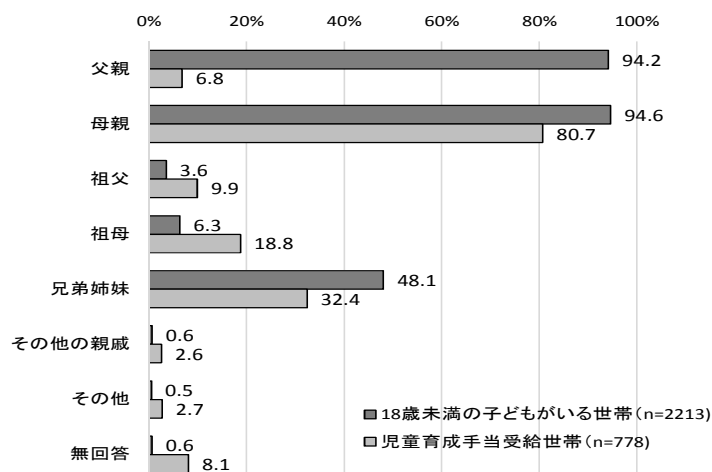
◆世帯員人数うち、子どもの人数



② 世帯に含まれる方の続柄【複数回答】(子：問27、育：問4)

- 世帯に含まれる方の続柄について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは「母親」、「父親」がともに9割を超え、「兄弟姉妹」が48.1%となっています。
- 児童手当受給世帯アンケートでは「母親」が80.7%、「兄弟姉妹」が32.4%に次いで、「祖母」が18.8%、「祖父」が9.9%となっています。18歳未満の子どもがいる世帯アンケートと比べて「祖母」、「祖父」の回答が高くなっています。「父親」は6.8%にとどまります。

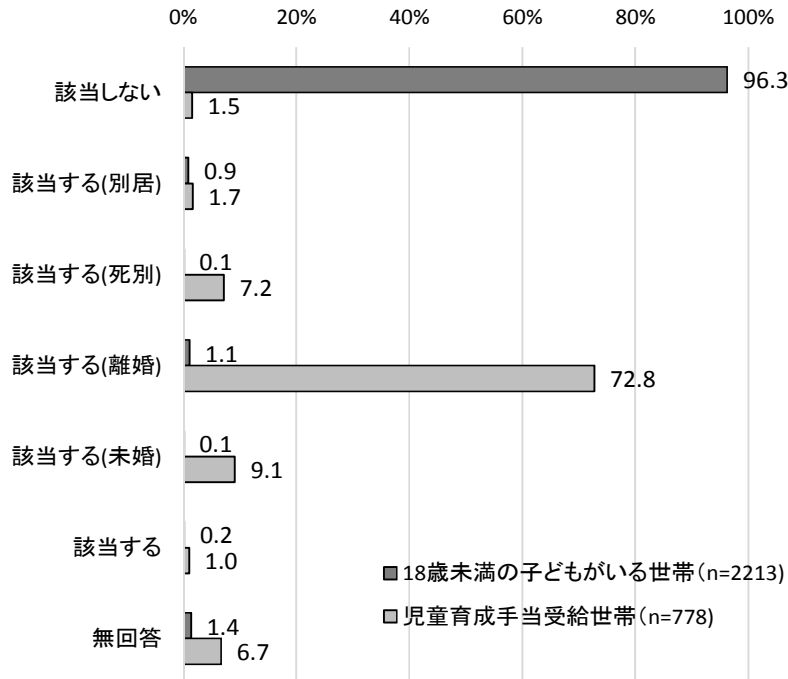
◆世帯に含まれる方の続柄



③ひとり親の該当の有無（子：問28、育：問7）

- ひとり親世帯に該当するか否かについて、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは96.3%が「該当しない」と回答しています。
- 児童育成手当受給世帯アンケートでは、全体の91.8%が「該当する」と回答しており、内訳は、「該当する（離婚）」が72.8%で最も高く、「該当する（未婚）」が9.1%、「該当する（死別）」が7.2%となっています。

◆ひとり親に該当するか



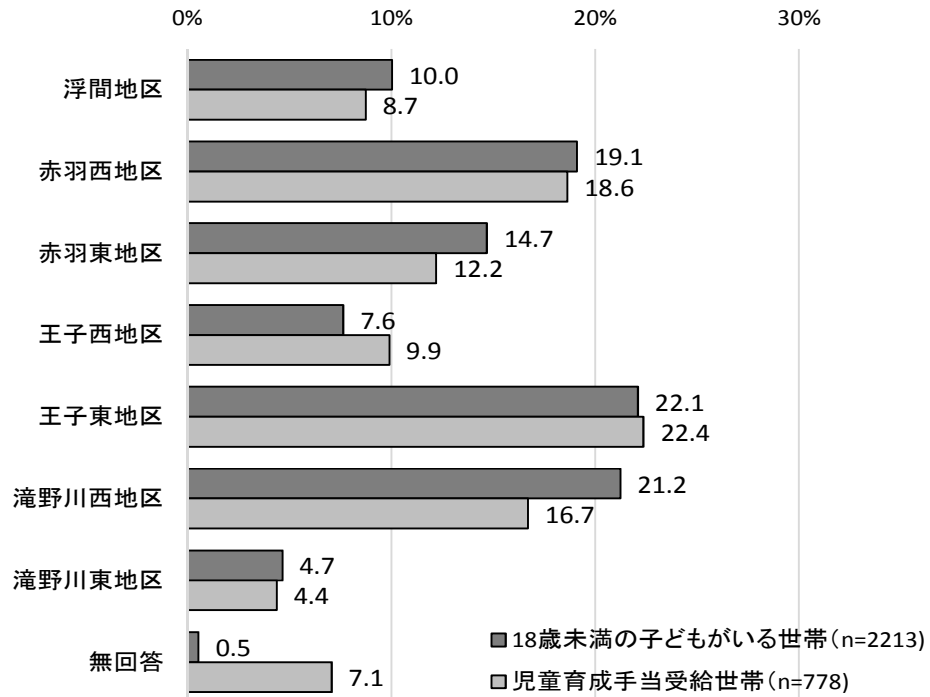
※ここでのひとり親世帯とは、現在配偶者のいない方が20歳未満の子どもを育てている世帯としています。

(5) 居住地区

①お住まいの地区（子：問25、育：問5）

- 居住地区について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート、児童育成手当受給世帯アンケートともに「王子東地区」が最も高く、「赤羽西地区」、「滝野川西地区」と続いています。

◆居住地区



2. 国の「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもと世帯の割合

区では、経済的困窮状態にある子どもと家庭の状況の把握にあたり、国が「相対的貧困率」を算出する際の基準としている平成 25 年国民生活基礎調査に基づく可処分所得額（貧困線）を基に、アンケート調査より得られた世帯全体の所得額、課税額等を使用して、国の貧困線を下回る水準で生活する子どもの割合及び貧困線を下回る世帯の割合を算出しました。

(1) アンケート調査における「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもの割合

- 国の「貧困線」を下回る世帯で生活している北区における子どもの割合は、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは 8.1%（158 人／1,944 人）となっています。参考値となりますが、児童育成手当受給世帯アンケートでは 55.1%（329 人／597 人）となっています。

指 標	アンケート調査
18 歳未満の子どもがいる世帯に含まれる子どものうち、貧困線を下回る世帯で生活する子どもの割合	8.1% (158 人／1,944 人)
児童育成手当受給世帯に含まれる子どものうち、貧困線を下回る世帯で生活する子どもの割合（参考値）	55.1% (329 人／597 人)

※割合の算出に必要な所得額、課税額等の回答があった世帯の子どもの数は、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケートの回答者の子どもの 55.6%（1,944 人）、児童育成手当受給世帯の回答者の子どもの 53.5%（597 人）となっています。

(2) アンケート調査における「貧困線」を下回る世帯の割合

- 国の「貧困線」を下回る世帯の割合は、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは 7.8%（96 世帯／1,226 世帯）となっています。参考値となりますが、児童育成手当受給世帯アンケートでは 53.2%（205 世帯／385 世帯）となっています。

指 標	アンケート調査
18 歳未満の子どもがいる世帯のうち、貧困線を下回る水準で生活する世帯の割合	7.8% (96 世帯／1,226 世帯)
児童育成手当受給世帯のうち、貧困線を下回る水準で生活する世帯の割合（参考値）	53.2% (205 世帯／385 世帯)

※割合の算出に必要な所得額、課税額等の回答があった世帯は、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケートで回答者全体の 55.4%（1,226 件）、児童育成手当受給世帯で回答者全体の 49.5%（385 件）となっています。

「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもの割合及び 「貧困線」を下回る世帯の割合に関する留意点

上記、「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもの割合及び「貧困線」を下回る世帯の割合は、北区の貧困線を新たに定め、相対的貧困率を算出したものではなく、必ずしも北区の状況を正確に反映している数値ではないことに留意が必要です。また、算出結果については、次の点にも留意が必要です。

○所得額、課税額等の無回答者の状況について

算出に必要な所得額、課税額等の設問に対し、一定割合の方が無回答となっています。

- ・ 18歳未満の子どもがいる世帯アンケート：全体の44.6%が無回答
- ・ 児童育成手当受給世帯アンケート：全体の50.5%が無回答

○ひとり親世帯の回答割合について

18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、国勢調査における北区の状況と比べ、ひとり親世帯の回答割合が低くなっているため、「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもの割合には、ひとり親世帯の状況が一部反映されていない可能性があります。

- ・ 平成22年国勢調査では北区の18歳未満の子どもがいる世帯のうち、ひとり親世帯の割合は8.1%^{*4}
- ・ 18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、全回答者のうちひとり親世帯の割合は2.4%

^{*4} 平成22年の国勢調査では、北区の18歳未満の子どもがいる世帯(23,779世帯)のうち、ひとり親世帯は1,932世帯とされている。

3. 物質的剥奪・社会的孤立の状況

【本節の概要】

○現在の暮らし向きに対する認識

現在の暮らし向きの認識について、貧困線を下回る世帯と児童育成手当受給世帯では、他の世帯と比較して厳しい状況にあることがうかがえます。現在の暮らしの状況に対する認識について、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体が28.3%であるのに対して、児童育成手当受給世帯アンケート全体では68.3%となっています。貧困線を下回る世帯では、18歳未満の子どもがいる世帯で54.2%、児童育成手当受給世帯で76.6%が『苦しい』と回答しています。

○物質的剥奪の状況

社会において最低限必要とされる物が得られていない物質的剥奪の状況について、基本ニーズである「食料」、「衣料」のほか、「必要な文具や教材」等について設問しました。

「食料」について、過去1年間に経済的理由により家族が必要な食料を買えない経験の有無をたずねたところ、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた『あった』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では2.5%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では10.8%となっています。貧困線を下回る世帯では、18歳未満の子どもがいる世帯で8.4%、児童育成手当受給世帯で13.6%が『あった』と回答しています。

「衣料」について、過去1年間に経済的理由により家族が必要な衣料を買えない経験の有無をたずねたところ、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた『あった』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では3.3%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では14.9%となっています。貧困線を下回る世帯では、18歳未満の子どもがいる世帯で11.5%、児童育成手当受給世帯で18.1%が『あった』と回答しています。

「必要な文具や教材」については、過去1年間に経済的理由により子どもが必要とする文具や教材が買えない経験の有無をたずねたところ、買えないことが「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた『あった』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では2.0%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では6.5%となっています。貧困線を下回る世帯では、18歳未満の子どもがいる世帯で5.2%、児童育成手当受給世帯で9.3%が『あった』と回答しています。

○社会的孤立の状況

社会的孤立の状況について、心おきなく相談できる相手の有無をたずねたところ、「相談相手がおらず、ほしい」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では8.9%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では17.5%となっています。貧困線を下回る世帯では、18歳未

満の子どもがいる世帯で 13.5%、児童育成手当受給世帯で 19.0%が「相談相手がおらず、ほしい」と回答しています。

また、地域の行事へのお子さんとの参加状況についてたずねたところ、参加することが「ない」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では 21.1%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では 35.6%となっています。貧困線を下回る世帯では、18歳未満の子どもがいる世帯で 26.0%、児童育成手当受給世帯で 32.2%が「ない」と回答しています。

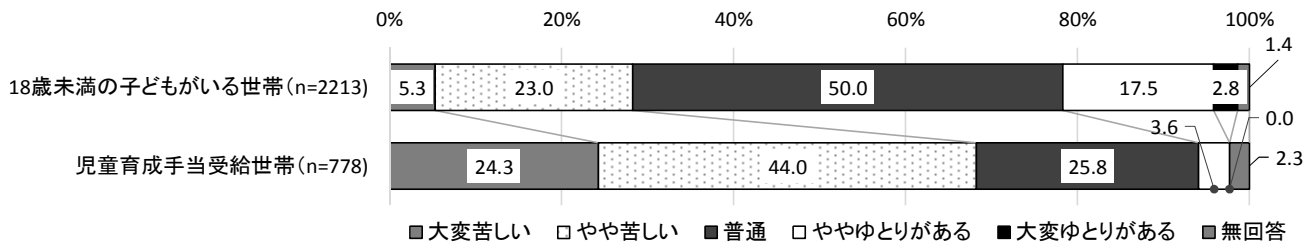
(1) 暮らし向きに対する認識

①現在の暮らしの状況を総合的にみてどう感じているか（子：問34、育：問35）

- 現在の暮らし向きに対する認識について、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では28.3%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では68.3%となっており、児童育成手当受給世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」は、『苦しい』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで23.7%、児童育成手当受給世帯アンケートで61.7%に対し、「貧困線を下回る世帯」は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで54.2%、児童育成手当受給世帯アンケートで76.6%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

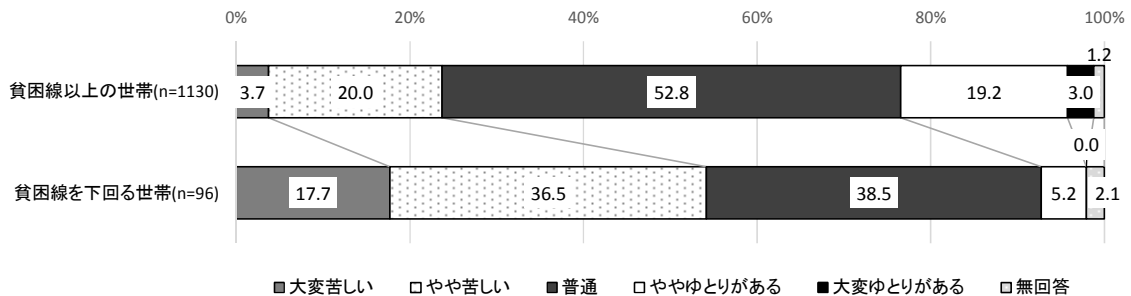
◆現在の暮らし向きに対する認識

【アンケート全体】

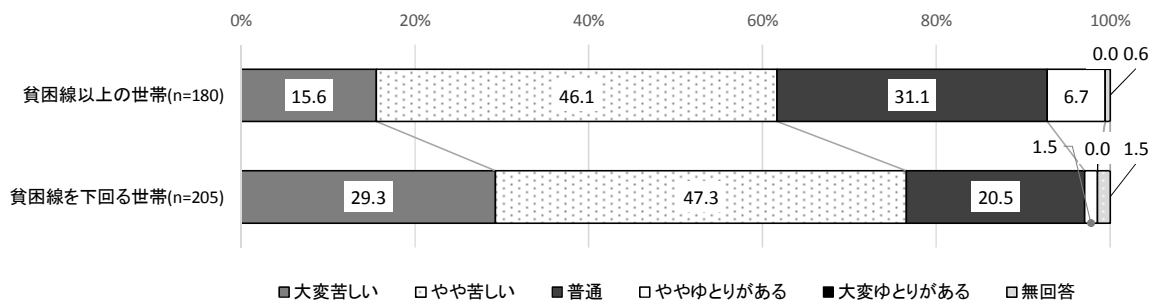


【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



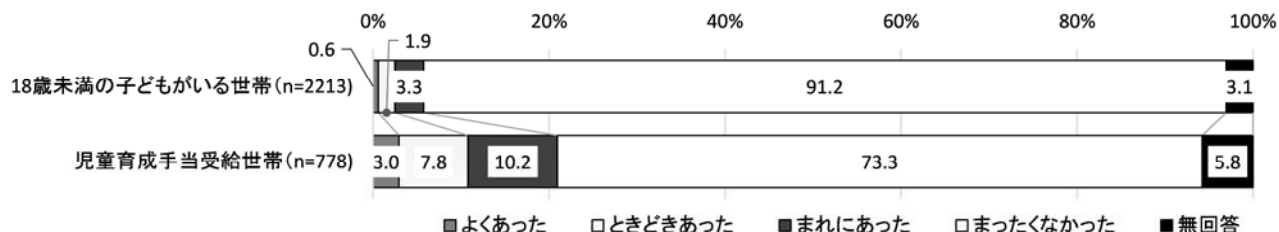
(2) 基本ニーズ（必要な食料・衣料を買えなかった経験）

① 家族が必要な食料を買えなかったこと（子：問 19(1)、育：問 25 (1)）

- 過去 1 年間に経済的理由により家族が必要な食料を買えなかった経験の有無について、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた『あった』の回答が、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では 2.5%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では 10.8% となっており、児童育成手当受給世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」は、『あった』の回答が、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケートで 2.0%、児童育成手当受給世帯アンケートで 6.1% に対し、「貧困線を下回る世帯」は、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケートで 8.4%、児童育成手当受給世帯アンケートで 13.6% となっており、「貧困線を下回るの世帯」の方が高くなっています。

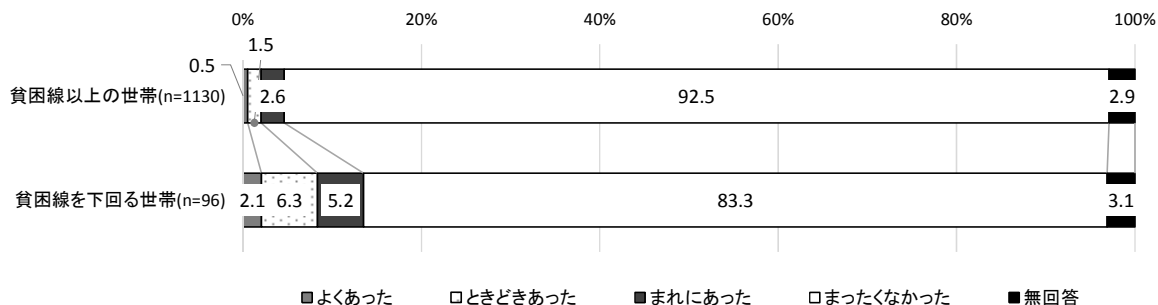
◆ 必要な食料が買えなかった経験の有無

【アンケート全体】

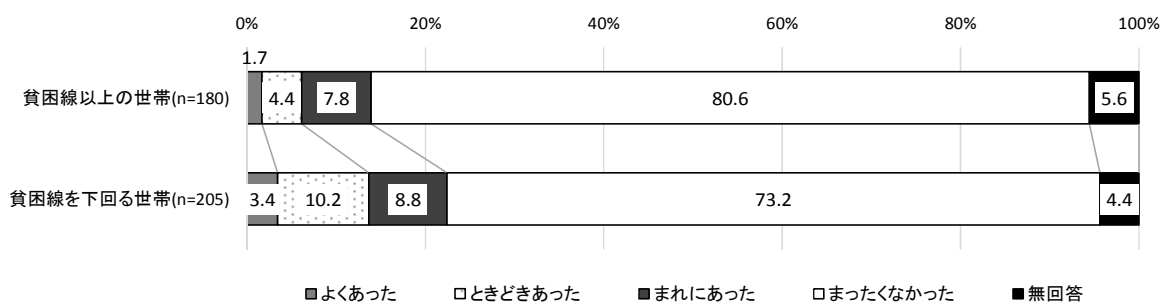


【経済的状況別】

（18 歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）

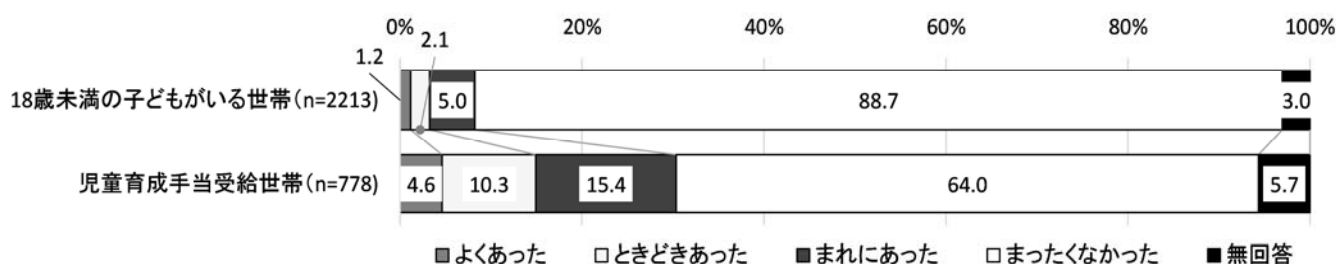


②家族が必要な衣料を買えなかったこと（子：問19(2)、育：問25(2)）

- 過去1年間に経済的理由により家族が必要な衣料を買えなかった経験の有無について、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた『あった』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では3.3%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では14.9%となっており、児童育成手当受給世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」は、『あった』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで2.4%、児童育成手当受給世帯アンケートで9.4%に対し、「貧困線を下回る世帯」は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで11.5%、児童育成手当受給世帯アンケートで18.1%となっており、「貧困線を下回るの世帯」の方が高くなっています。

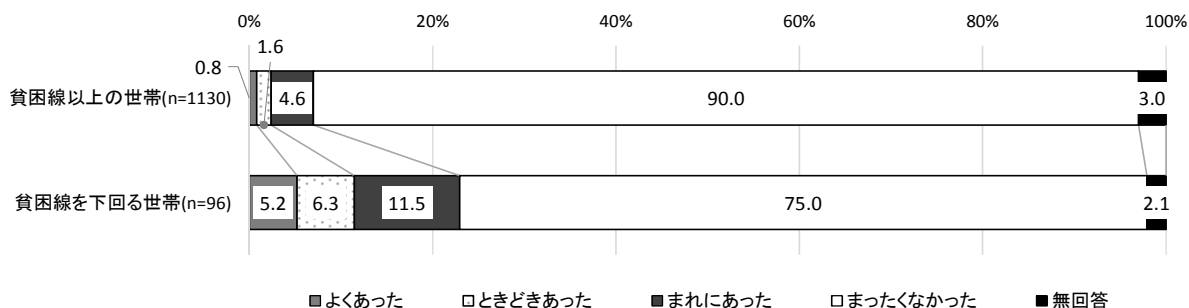
◆必要な衣料が買えなかった経験の有無

【アンケート全体】

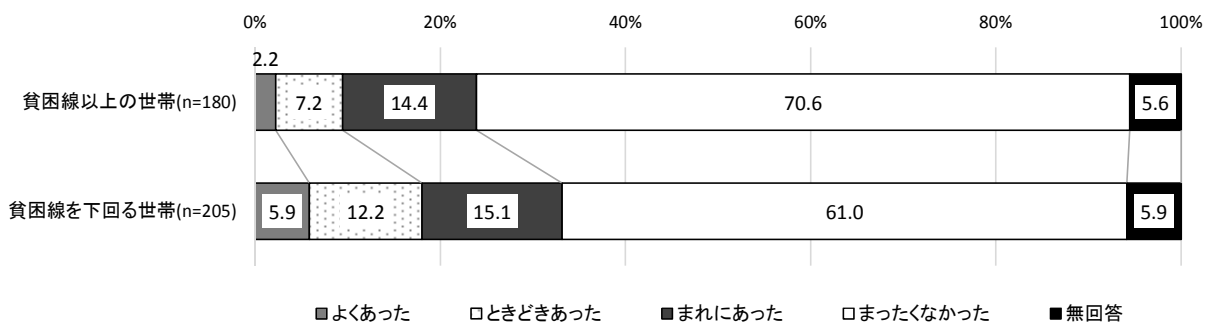


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）



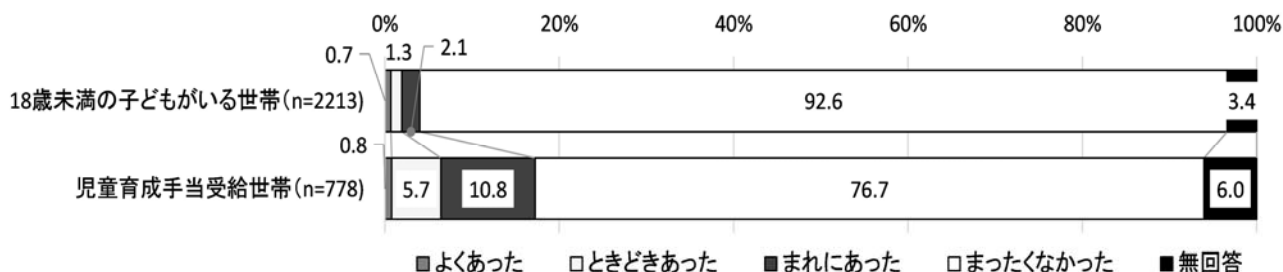
(3) 物質的剥奪（子どもが必要とする文具・教材等）

①子どもが必要とする文具や教材が買えなかったこと（子：問19(3)、育：問25(3)）

- 過去1年間に経済的理由により子どもが必要とする文具や教材が買えなかった経験の有無について、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた『あった』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では2.0%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では6.5%となっており、児童育成手当受給世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」は、『あった』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで1.7%、児童育成手当受給世帯アンケートで5.0%に対し、「貧困線を下回る世帯」は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで5.2%、児童育成手当受給世帯アンケートで9.3%となっており、食料や衣料と比べて、『あった』の回答の差は小さくなっています。

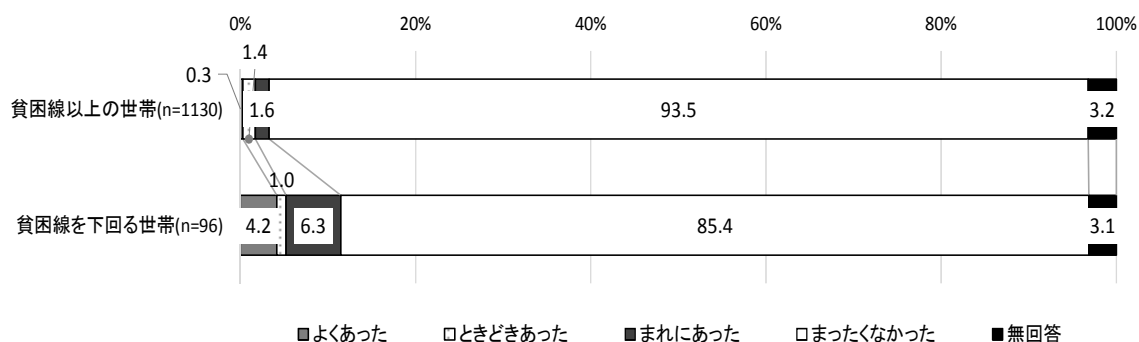
◆子どもが必要な文具や教材が買えなかった経験の有無

【アンケート全体】

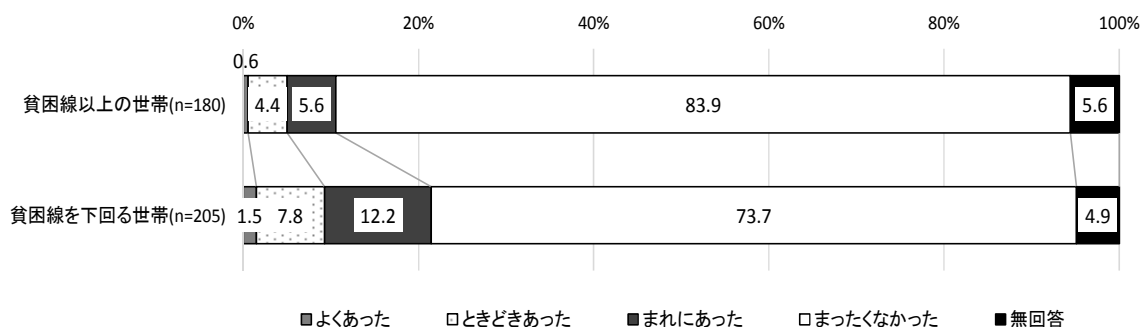


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）



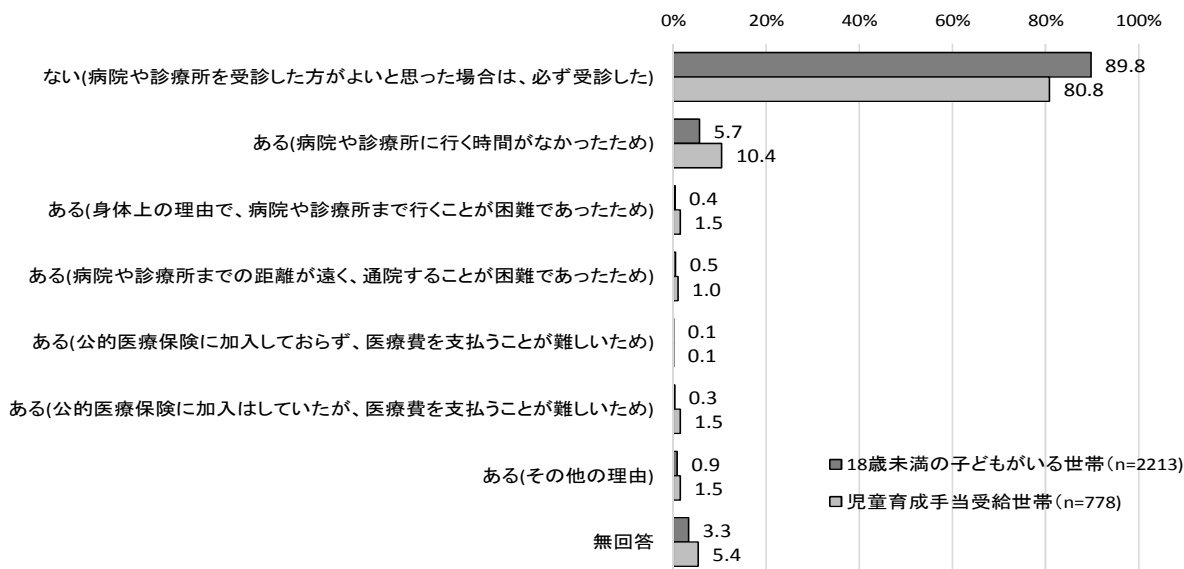
(4) 医療の受診

① 病気や怪我で受診したほうがよいと思ったが受診しなかったこと（子：問 20、育：問 26）

- 過去 1 年の間に、子どもが病気や怪我などで医療の受診が必要なときに受診しなかった経験の有無では、「ない」の回答が、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では 89.8%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では 80.8%となっており、児童育成手当受給世帯の方が低くなっています。
- 受診しなかった理由では、経済的な理由とする回答割合は小さく、「病院や診療所に行く時間がなかったため」の回答が、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは 5.7%、児童育成手当受給世帯アンケートでは 10.4%で、4.7 ポイントの差がみられました。また、経済的状况別では、「貧困線以上の世帯」と「貧困線を下回る世帯」で大きな差はみられませんでした。

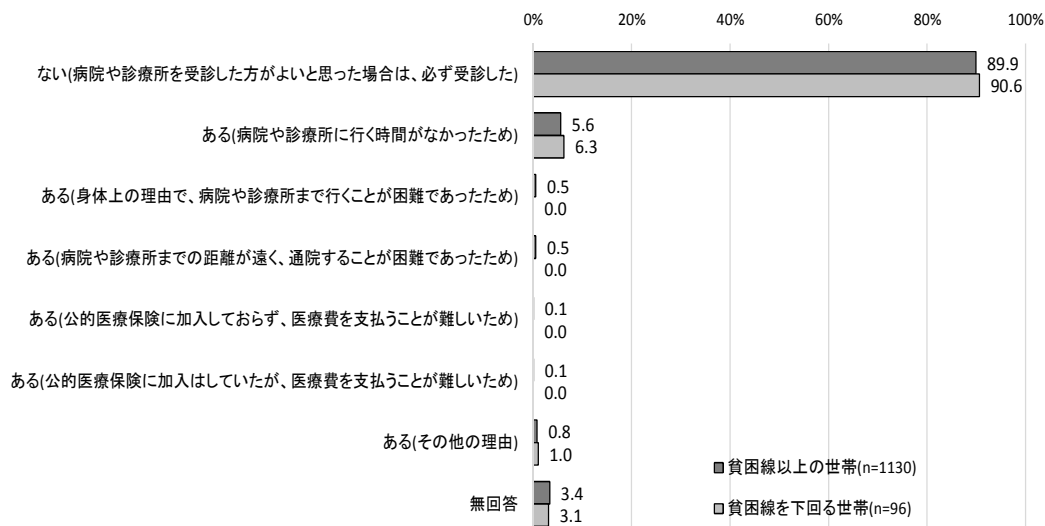
◆ 病院等を受診したほうがよいと思ったが受診しなかった経験の有無

【アンケート全体】

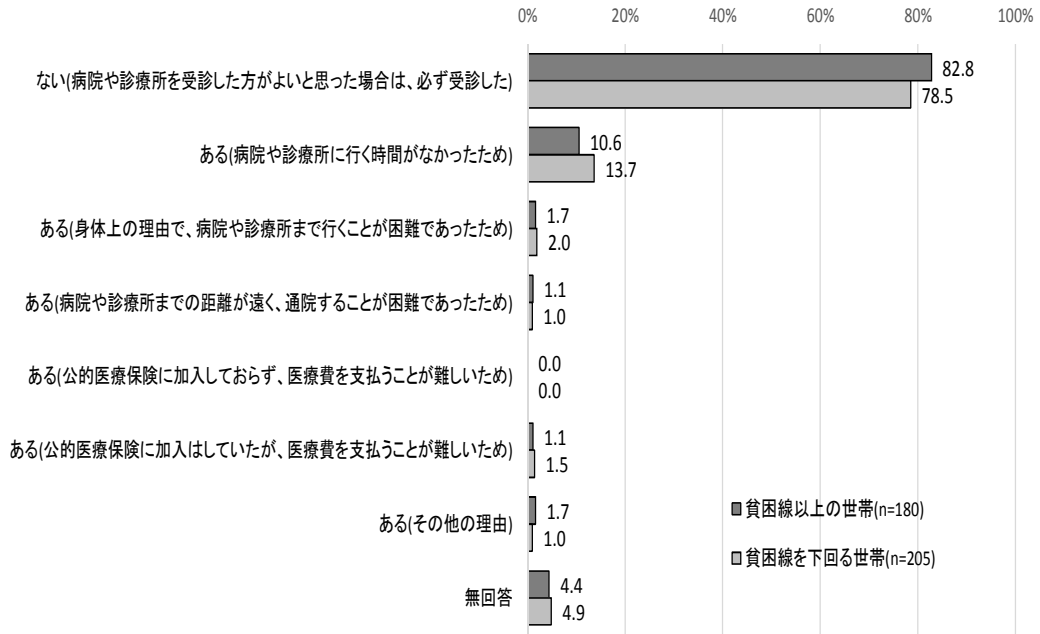


【経済的状况別】

(18 歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



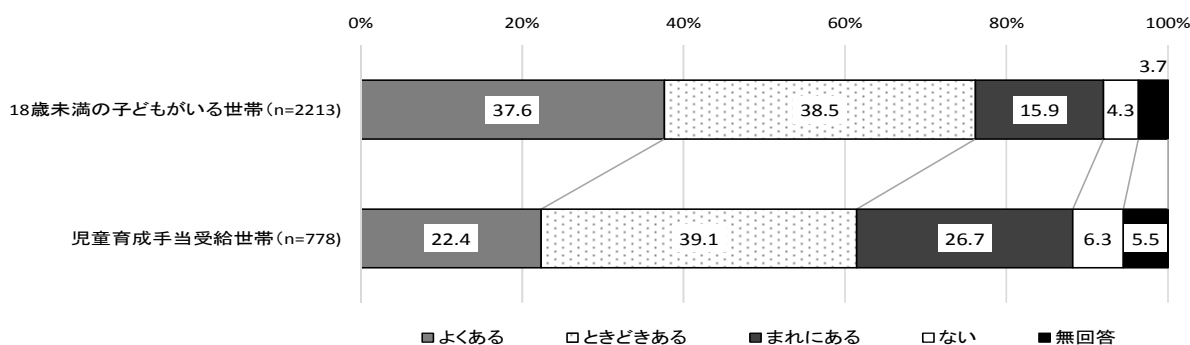
(5) 外出等の状況（外食、旅行）

①家族でファミリーレストラン等で外食する（子：問18(3)、育：問24(3)）

- 家族でファミリーレストラン等で外食する頻度について、「よくある」の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では37.6%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では22.4%となっており、18歳未満の子どもがいる世帯の方が高くなっています。一方、「まれにある」と「ない」を合わせた『ない』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では20.2%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では33.0%となっており、児童育成手当受給世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」は、『ない』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで19.2%、児童育成手当受給世帯アンケートで31.2%に対し、「貧困線を下回る世帯」は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで27.1%、児童育成手当受給世帯アンケートで36.6%となっています。

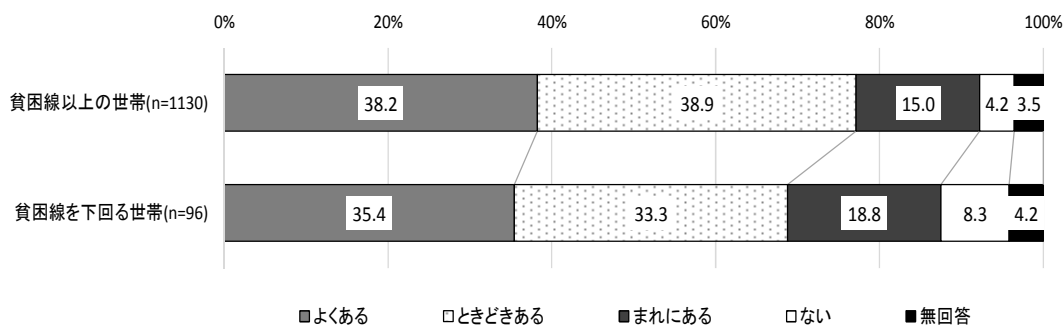
◆家族で外食の頻度

【アンケート全体】

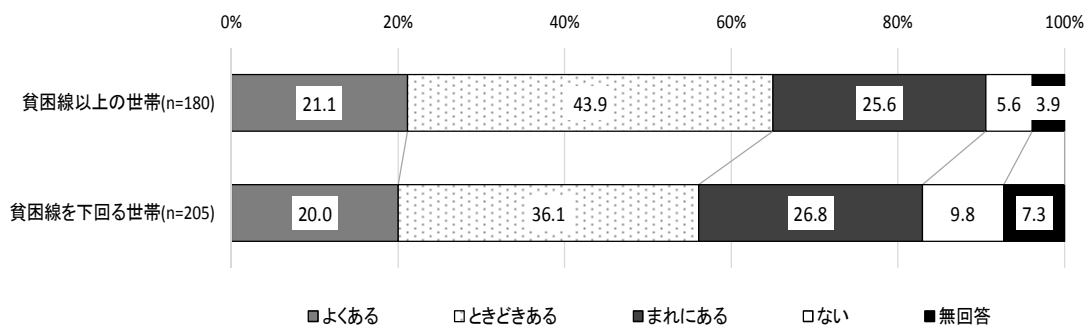


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）

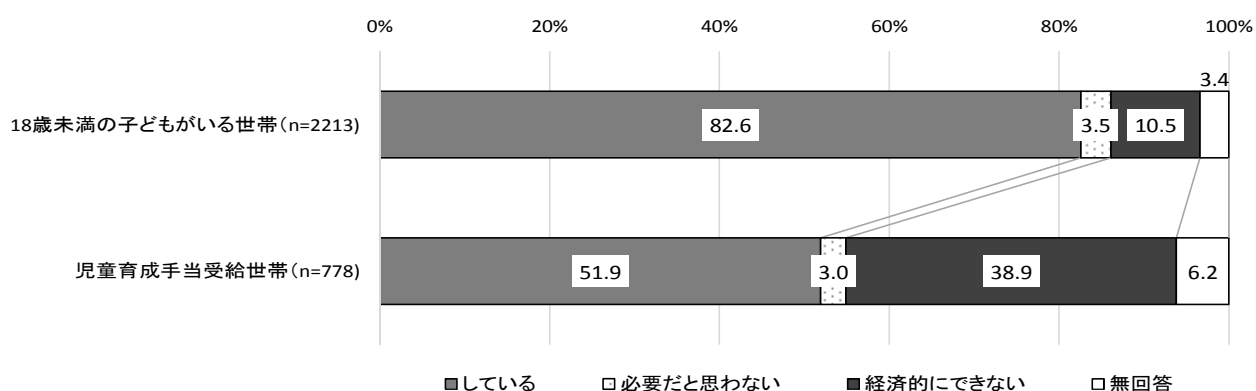


②1年に1回くらい家族旅行に行く（子：問12(4)、育：問19(4)）

- 1年に1回程度の家族旅行の状況について、「経済的にできない」の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では10.5%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では38.9%となっており、大きな差がみられます。
- 経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」は、「経済的にできない」の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで8.2%、児童育成手当受給世帯アンケートで33.3%に対し、「貧困線を下回る世帯」は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで28.1%、児童育成手当受給世帯アンケートで43.4%となっており、特に18歳未満の子どもがいる世帯で経済的状況による大きな差がみられます。

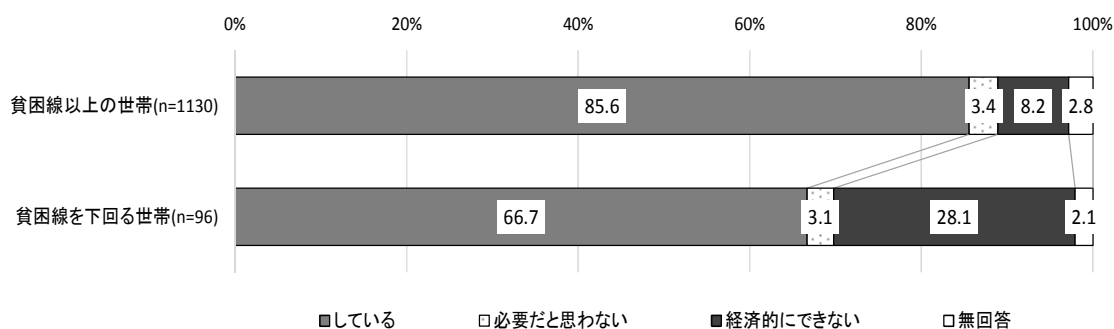
◆年1回くらいの家族旅行の状況

【アンケート全体】

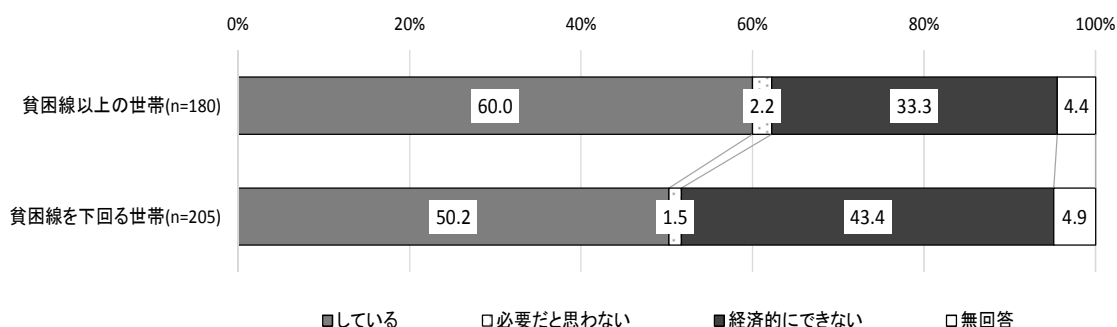


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）



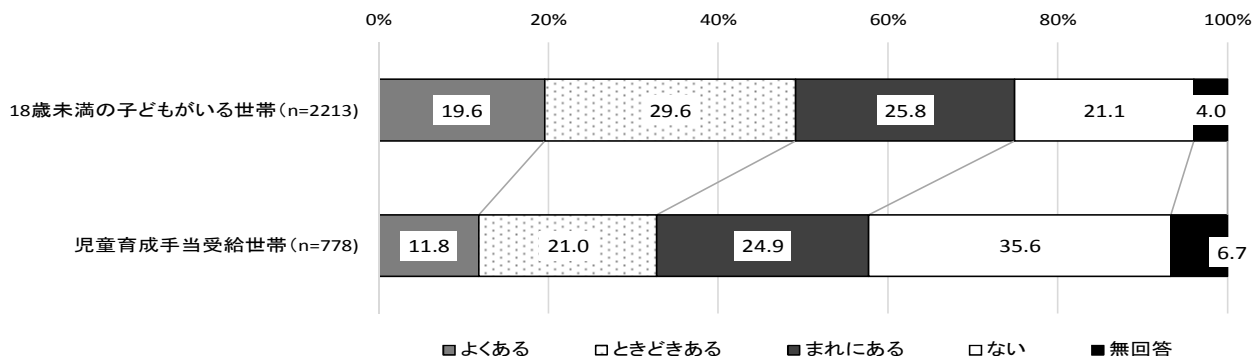
(6) 地域行事への参加状況

①地域行事への参加（子：問18(4)、育：問24(4)）

- 地域の行事へのお子さんとの参加状況については、「ない」の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では21.1%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では35.6%となっており、児童育成手当受給世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」は、「ない」の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで20.2%、児童育成手当受給世帯アンケートで34.4%に対し、「貧困線を下回る世帯」は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで26.0%、児童育成手当受給世帯アンケートで32.2%となっています。

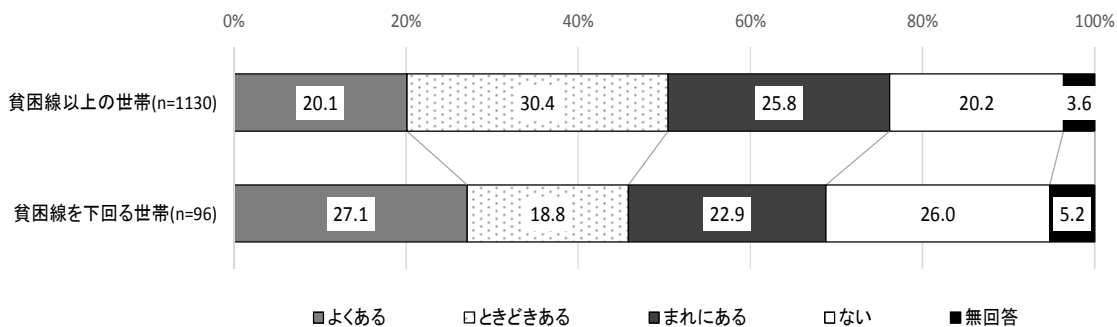
◆地域行事への参加状況

【アンケート全体】

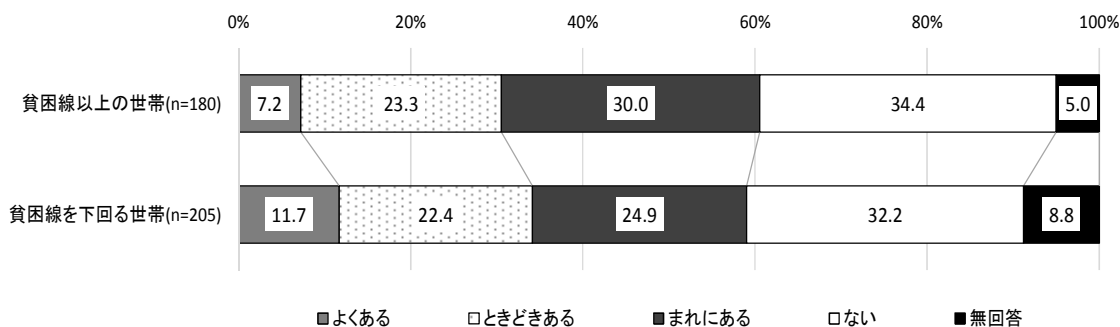


【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



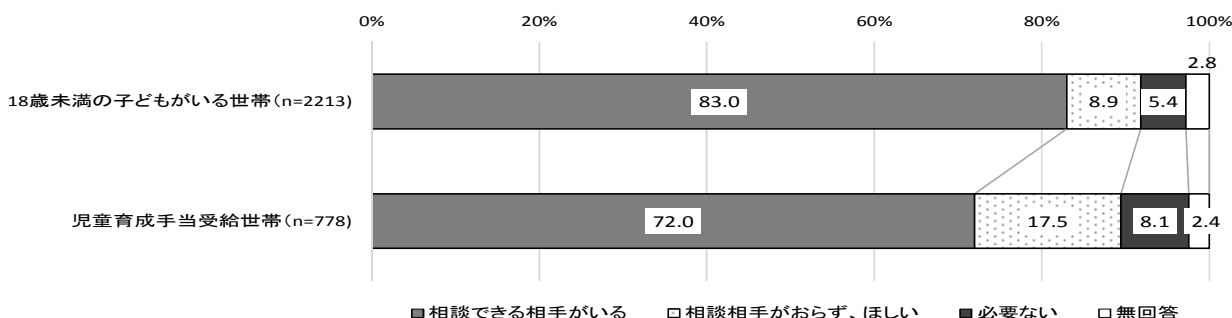
(7) 相談相手の有無

①悩みを心おきなく相談できる相手がいるか（子：問15、育：問29）

- 悩みを心おきなく相談できる相手の有無について、「相談相手がおらず、ほしい」の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では8.9%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では17.5%となっており、児童育成手当受給世帯の方が8.6ポイント高くなっています。
- 児童育成手当受給世帯アンケートで「相談相手がおらず、ほしい」と回答した場合に、相談したい相手についてたずねたところ、「友人・知人」（44.1%）に続き、「民間カウンセラーなどの専門家」（32.4%）や「相談機関（教育相談所、児童相談所、子ども家庭支援センターなど）」（22.1%）の回答が高くなっています。
- 経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」は、「相談相手がおらず、ほしい」の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで8.8%、児童育成手当受給世帯アンケートで18.9%に対し、「貧困線を下回る世帯」は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで13.5%、児童育成手当受給世帯アンケートで19.0%となっています。

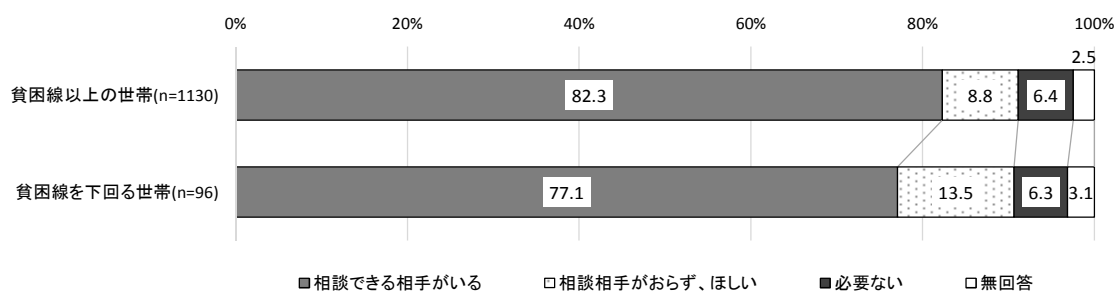
◆相談相手の有無

【アンケート全体】

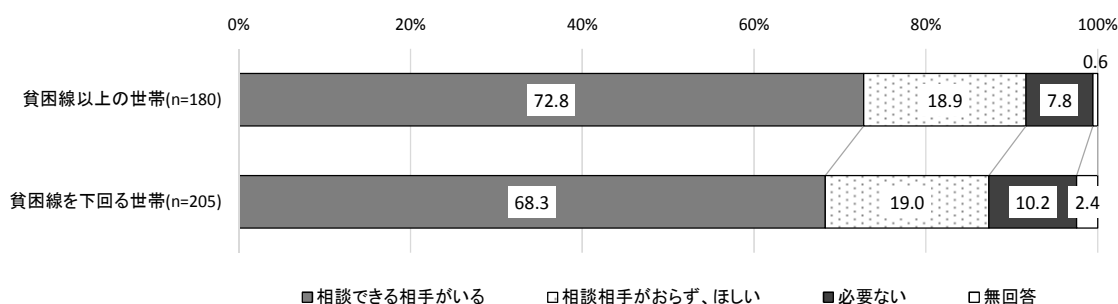


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）



◆相談している相手（いる）【複数回答】

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	配偶者	親	子ども	その他の親族	友人・知人	隣人・地域の人	職場の人	学校・幼稚園・保育所の先生	ワーカールーム	児童館・学童クラブの職員	相談機関（教育相談所、児童相談所、子ども家庭支援センターなど）	民間カウンセラーなどの専門家	民間団体やボランティア	インターネットのサイト	その他	無回答
18歳未満の子どもがいる世帯	1836 100.0	1501 81.8	1166 63.5	132 7.2	358 19.5	1147 62.5	110 6.0	349 19.0	499 27.2	48 2.6	87 4.7	64 3.5	32 1.7	12 0.7	88 4.8	37 2.0	25 1.4
児童育成手当受給世帯	560 100.0	9 1.6	314 56.1	111 19.8	137 24.5	424 75.7	24 4.3	146 26.1	67 12.0	21 3.8	12 2.1	22 3.9	13 2.3	1 0.2	3 0.5	19 3.4	10 1.8

◆相談したい相手（ほしい）【複数回答】

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	配偶者	親	子ども	その他の親族	友人・知人	隣人・地域の人	職場の人	学校・幼稚園・保育所の先生	ワーカールーム	児童館・学童クラブの職員	相談機関（教育相談所、児童相談所、子ども家庭支援センターなど）	民間カウンセラーなどの専門家	民間団体やボランティア	インターネットのサイト	その他	無回答
18歳未満の子どもがいる世帯	196 100.0	58 29.6	30 15.3	7 3.6	4 2.0	64 32.7	26 13.3	11 5.6	47 24.0	32 16.3	17 8.7	74 37.8	68 34.7	33 16.8	11 5.6	13 6.6	9 4.6
児童育成手当受給世帯	136 100.0	13 9.6	18 13.2	3 2.2	8 5.9	60 44.1	8 5.9	7 5.1	16 11.8	18 13.2	4 2.9	30 22.1	44 32.4	10 7.4	5 3.7	6 4.4	11 8.1

4. 住まいの状況

【本節の概要】

○住居の状況

住まいの状況について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では「持ち家」が57.7%で最も高く、児童育成手当受給世帯アンケート全体では「民間の借家（賃貸）」が32.3%で最も高くなっています。経済的状況別にみると、18歳未満の子どもがいる世帯と児童育成手当受給世帯の「貧困線を下回る世帯」では、「貧困線以上の世帯」と比べて、「持家」の回答が低く、「民間の借家（賃貸）」と「都営・区営住宅」の回答が高くなっています。

○住居費の状況

家賃や住宅ローンなど1ヶ月に負担している居住費について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「10万円以上」が47.9%で最も高く、「貧困線を下回る世帯」でも36.5%となっています。児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「6～8万円未満」が18.0%で最も高くなっていますが、「貧困線以上の世帯」では「10万円以上」が21.1%で最も高く、「貧困線を下回る世帯」では「6～8万円未満」が21.0%で最も高くなっています。

○家賃等の滞納状況

過去1年間における経済的な理由で家賃等が支払えなかった経験の有無について、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『あった』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では4.8%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では15.9%となっており、児童育成手当受給世帯の方が高くなっています。経済的状況別にみると、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯で13.6%、児童育成手当受給世帯で18.6%が『あった』と回答しています。

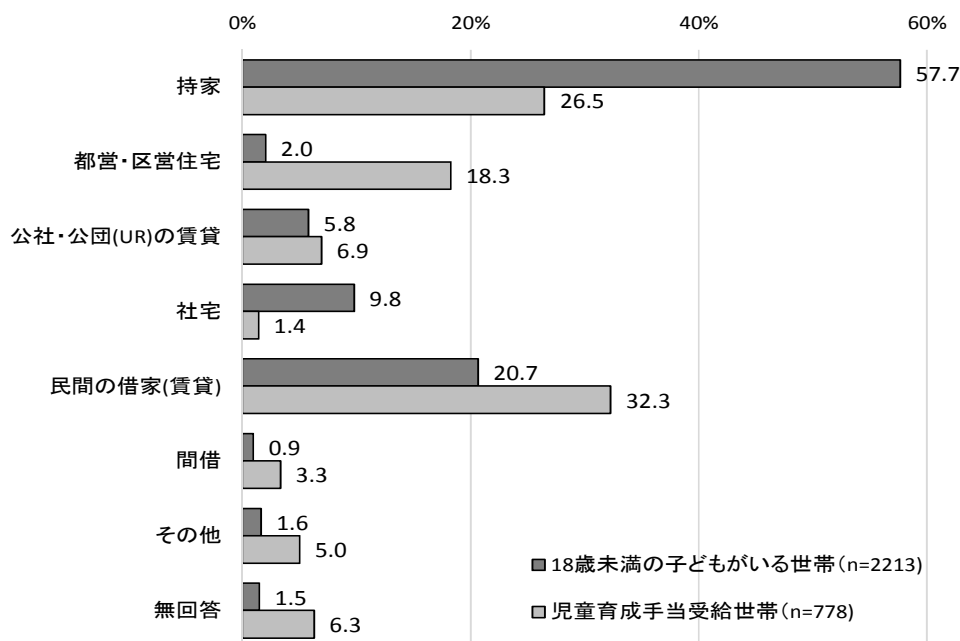
(1) 住居の状況

① 住まいの状況（子：問24、育：問6）

- 住まいの状況について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「持家」の57.7%が最も高く、「民間の借家（賃貸）」が20.7%と続いています。児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「民間の借家（賃貸）」の32.3%が最も高く、「持家」が26.5%、「都営・区営住宅」が18.3%と続いており、18歳未満の子どもがいる世帯に比べて、「民間の借家（賃貸）」と「都営・区営住宅」の回答が高く、「持家」の回答が低くなっています。
- 経済的状況別では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの「貧困線を下回る世帯」は、「貧困線以上の世帯」と比べて、「持家」の回答が低く、「民間の借家（賃貸）」と「都営・区営住宅」の回答が高くなっています。児童育成手当受給世帯アンケートの「貧困線を下回る世帯」では、「貧困線以上の世帯」と比べて、「持家」の回答が低く、「都営・区営住宅」の回答が高くなっています。

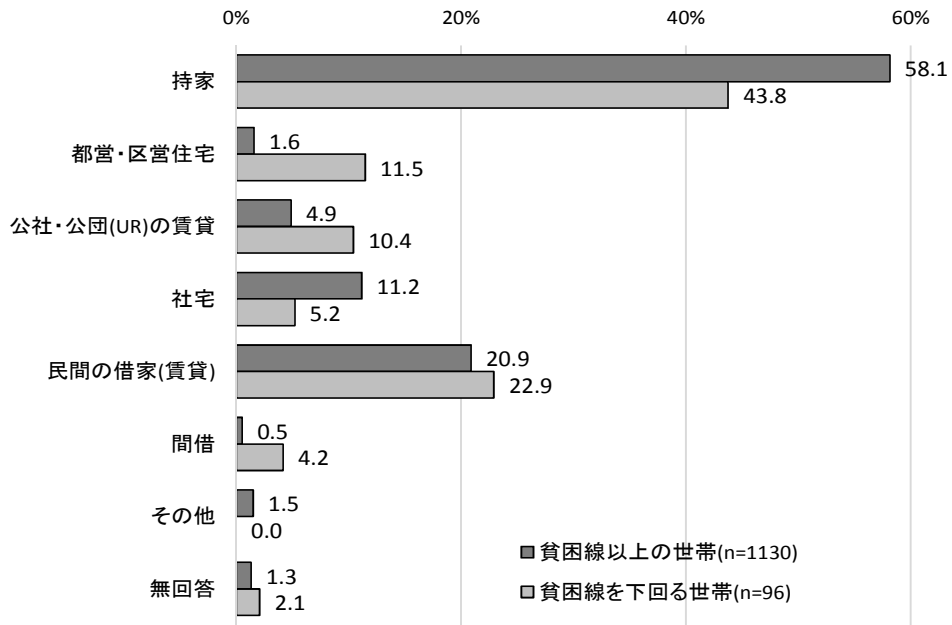
◆ 住まいの状況

【アンケート全体】

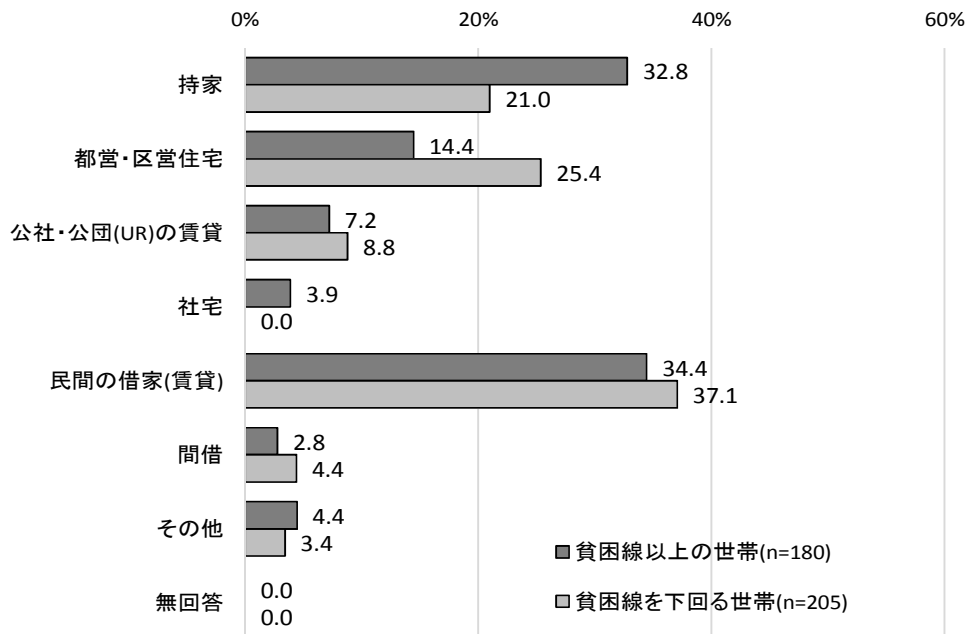


【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



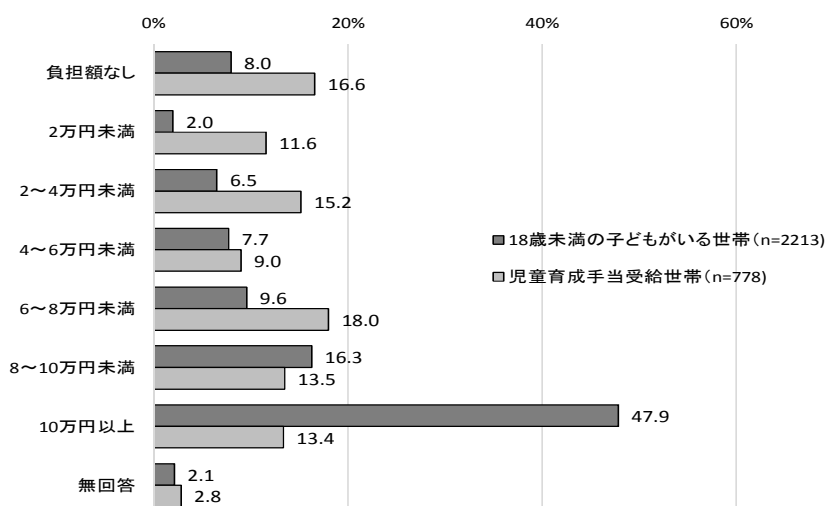
(2) 住居費

①家賃や住宅ローンなど1か月に負担している住居費（子：問35、育：問36）

- 世帯で1か月に負担している住居費（家賃や住宅ローンなど）について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「10万円以上」（47.9%）が最も高く、次いで「8～10万円未満」（16.3%）、「6～8万円未満」（9.6%）の回答が高くなっています。児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「6～8万円未満」（18.0%）に次いで、「負担額なし」（16.6%）、「2～4万円未満」（15.2%）の回答が高くなっています。
- 経済的状況別では、「10万円以上」の回答が、「貧困線以上の世帯」では18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで48.3%、児童育成手当受給世帯アンケートで21.1%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで36.5%、児童育成手当受給世帯アンケートで8.8%となっており、経済的状況による差がみられます。また、「2万円未満」の回答では、特に児童育成手当受給世帯アンケートの「貧困線を下回る世帯」が16.1%で、「貧困線以上の世帯」の5.6%と比べて10.5ポイント高くなっています。

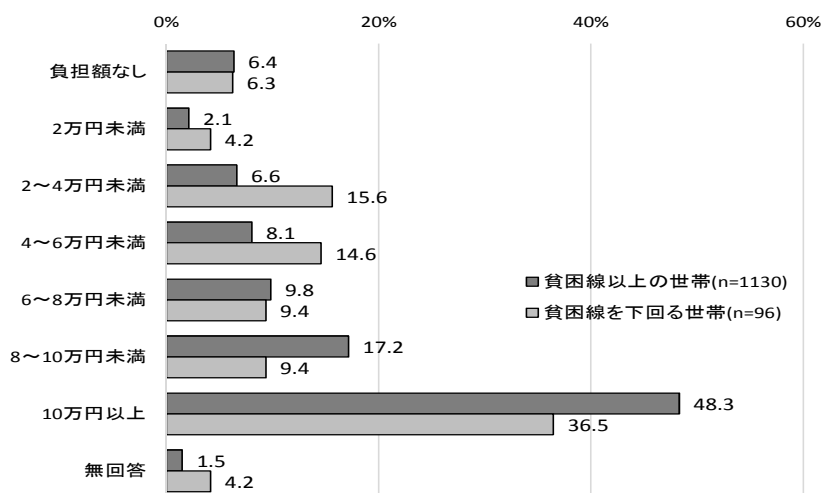
◆1か月に負担している住居費

【アンケート全体】

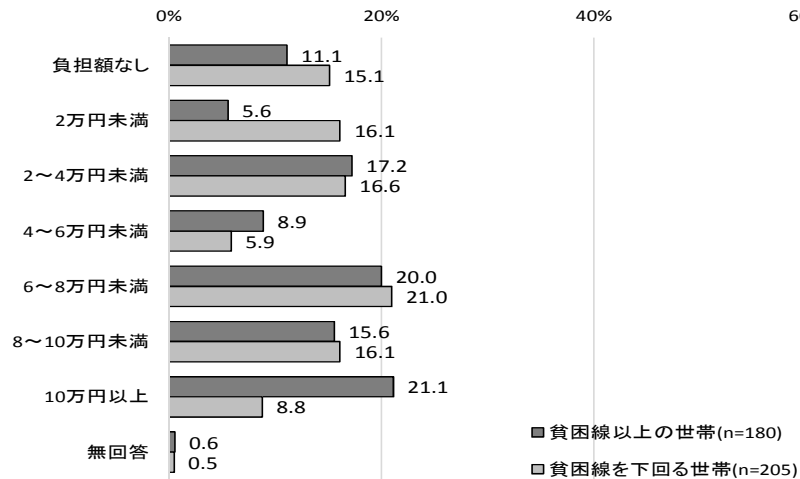


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



(児童育成手当受給世帯)



◆【参考】世帯収入と住居費の関係

(18歳未満の子どもがいる世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)		合計	負担額なし	2万円未満	2~4万円未満	4~6万円未満	6~8万円未満	8~10万円未満	10万円以上	無回答
	全体	2213	176	44	144	171	212	360	1059	47
		100.0	8.0	2.0	6.5	7.7	9.6	16.3	47.9	2.1
世帯全体の収入	100万円未満	46	2	0	3	3	7	9	19	3
		100.0	4.3	0.0	6.5	6.5	15.2	19.6	41.3	6.5
	100~300万円未満	49	7	4	3	4	1	7	21	2
		100.0	14.3	8.2	6.1	8.2	2.0	14.3	42.9	4.1
	300~500万円未満	289	23	8	21	24	48	64	96	5
		100.0	8.0	2.8	7.3	8.3	16.6	22.1	33.2	1.7
	500~700万円未満	394	31	6	30	29	40	75	177	6
	100.0	7.9	1.5	7.6	7.4	10.2	19.0	44.9	1.5	
700~900万円未満	438	30	13	27	36	37	82	205	8	
	100.0	6.8	3.0	6.2	8.2	8.4	18.7	46.8	1.8	
900万円以上	682	53	9	40	47	49	75	401	8	
	100.0	7.8	1.3	5.9	6.9	7.2	11.0	58.8	1.2	

(児童育成手当受給世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)		合計	負担額なし	2万円未満	2~4万円未満	4~6万円未満	6~8万円未満	8~10万円未満	10万円以上	無回答
	全体	778	129	90	118	70	140	105	104	22
		100.0	16.6	11.6	15.2	9.0	18.0	13.5	13.4	2.8
世帯全体の収入	100万円未満	104	17	17	15	8	21	16	7	3
		100.0	16.3	16.3	14.4	7.7	20.2	15.4	6.7	2.9
	100~300万円未満	260	33	35	48	25	55	40	22	2
		100.0	12.7	13.5	18.5	9.6	21.2	15.4	8.5	0.8
	300~500万円未満	168	27	15	25	16	27	20	38	0
		100.0	16.1	8.9	14.9	9.5	16.1	11.9	22.6	0.0
	500~700万円未満	49	8	1	7	6	4	9	13	1
	100.0	16.3	2.0	14.3	12.2	8.2	18.4	26.5	2.0	
700~900万円未満	16	7	0	1	1	2	2	3	0	
	100.0	43.8	0.0	6.3	6.3	12.5	12.5	18.8	0.0	
900万円以上	10	2	1	2	1	1	1	2	0	
	100.0	20.0	10.0	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0	0.0	

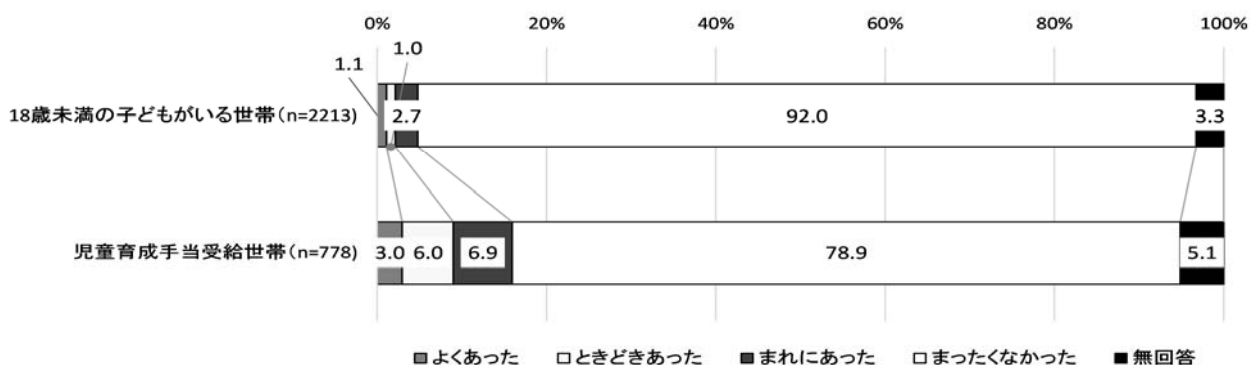
(3) 家賃等の滞納状況

①家賃やローンの滞納（子：問 19(5)、育：問 25(5)）

- 過去 1 年間における経済的な理由による家賃等の滞納状況について、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『あった』の回答は、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では 4.8%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では 15.9%となっており、児童育成手当受給世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、『あった』の回答は、「貧困線以上の世帯」では、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケートで 3.8%、児童育成手当受給世帯アンケートで 8.9%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18 歳未満の子どもがいる世帯アンケートで 13.6%、児童育成手当受給世帯アンケートで 18.6%となっており、経済的状況による差がみられます。

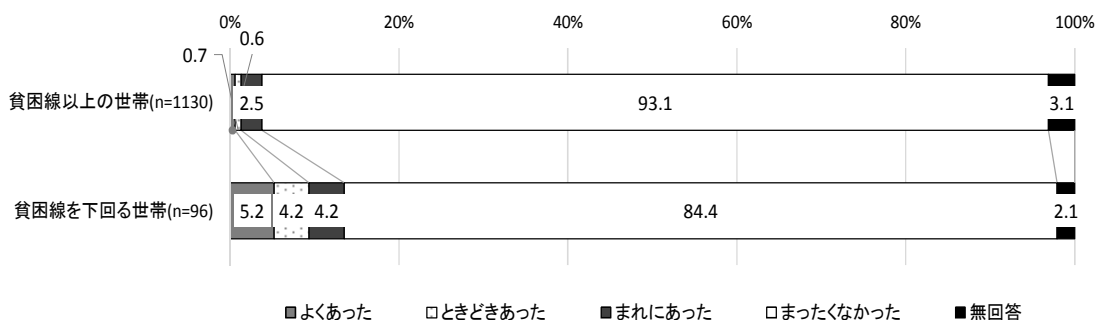
◆家賃やローンの滞納状況

【アンケート全体】

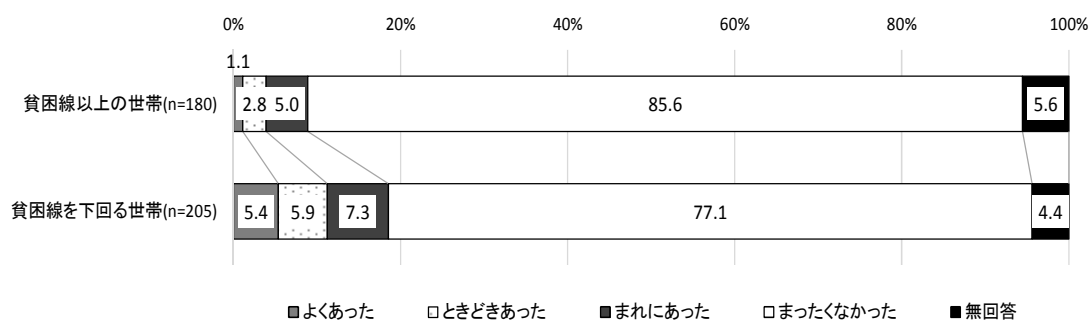


【経済的状況別】

（18 歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）



5. 就業の状況

【本節の概要】

○保護者の就業状況

保護者の就業状況について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、父親は70.7%、母親は49.6%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では83.2%が就業しています。そのうち、「パート・アルバイト」と「契約社員・嘱託（臨時職員、準社員、派遣社員を含む）」を合わせた『非正規雇用』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、父親で3.3%、母親で22.0%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では44.7%となっています。経済的状況別では、18歳未満の子どもがいる世帯、児童育成手当受給世帯ともに、「貧困線を下回る世帯」の方が、「貧困線以上の世帯」よりも、『非正規雇用』の回答が高くなっています。

また、児童育成手当受給世帯では、現在就業している人の39.4%が、転職・就労形態の変更を希望しており、その理由について、61.2%が「賃金が安いから」と回答し、希望する就労形態について、76.9%が「正規の会社員・職員・従業員」と回答しています。

○ダブルワークの状況（児童育成手当受給世帯だけに設問）

児童育成手当受給世帯に設問した過去1年間における複数の仕事の掛け持ち（ダブルワーク）の状況について、児童育成手当受給世帯の24.3%が経験しています。世帯類型別では、母子世帯が25.9%、父子世帯が8.1%で、母子世帯の方が大きく上回っています。経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」の22.7%、「貧困線を下回る世帯」の27.4%が複数の仕事を掛け持ちした経験があると回答しています。

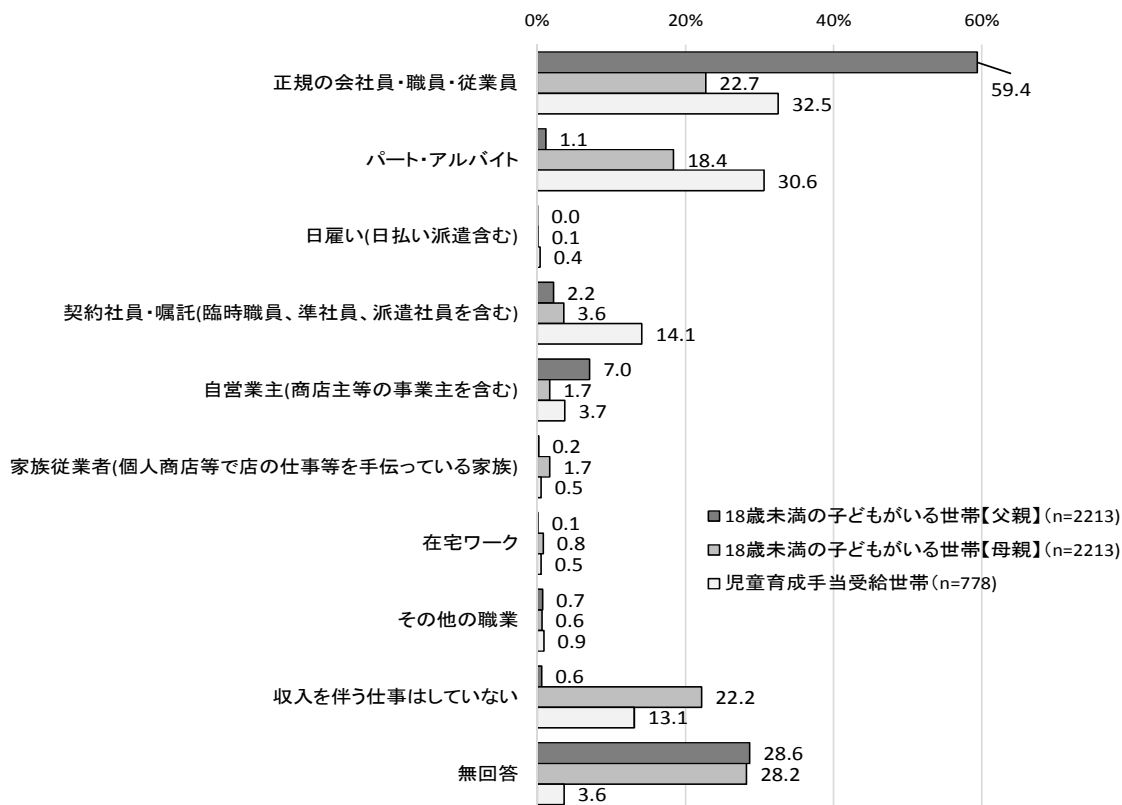
(1) 保護者の就業状況

①保護者の就業状況（子：問31、育：問34）

- 就業状況について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、父親で70.7%、母親で49.6%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では83.2%が就業しています。
- 「正規の会社員・職員・従業員」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、父親で59.4%、母親で22.7%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では32.5%となっています。また、「パート・アルバイト」と「契約社員・嘱託（臨時職員、準社員、派遣社員を含む）」を合わせた『非正規雇用』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、父親で3.3%、母親で22.0%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では44.7%となっています。
- 経済的状況別では、「正規の会社員・職員・従業員」の回答において、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの父親で59.6%、母親で23.8%、児童育成手当受給世帯アンケートで56.7%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの父親で39.6%、母親で14.6%、児童育成手当受給世帯アンケートで18.0%となっています。また、『非正規雇用』の回答においては、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの父親で3.0%、母親で18.9%、児童育成手当受給世帯アンケートで28.4%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの父親で11.5%、母親で26.1%、児童育成手当受給世帯アンケートで63.4%となっています。

◆保護者の就業状況

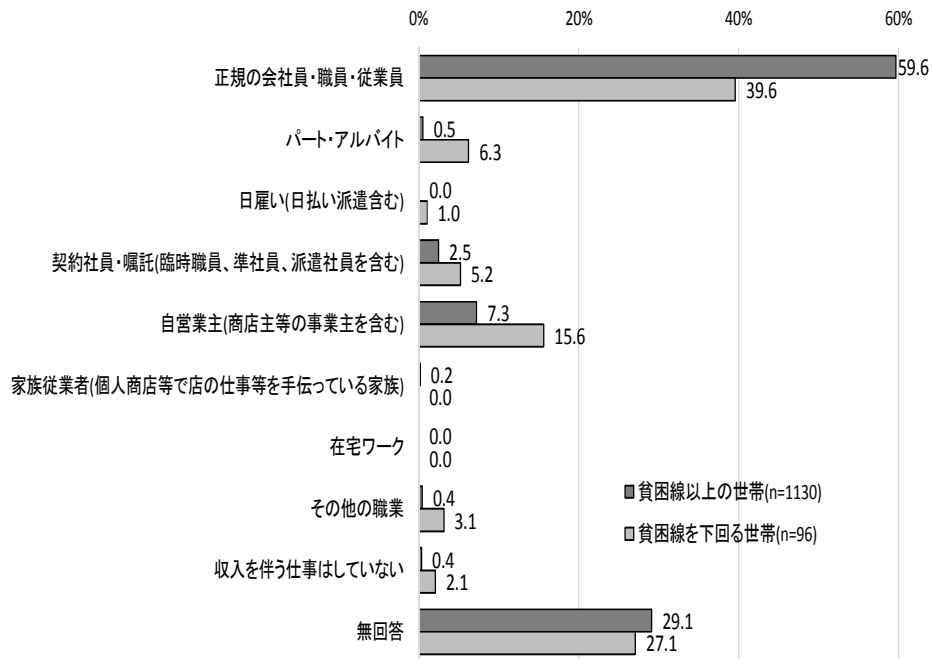
【アンケート全体】



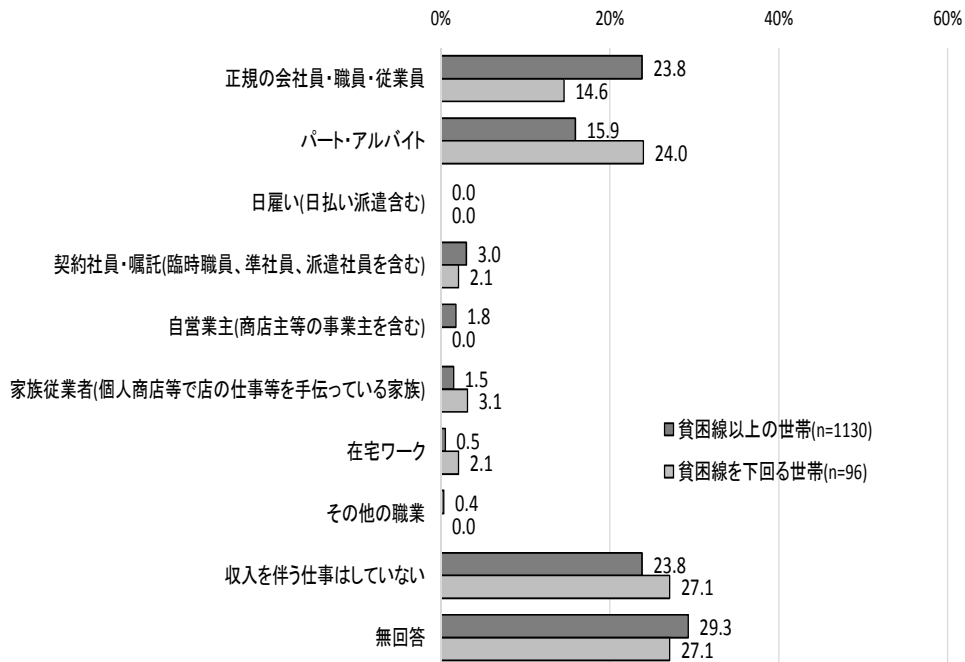
【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

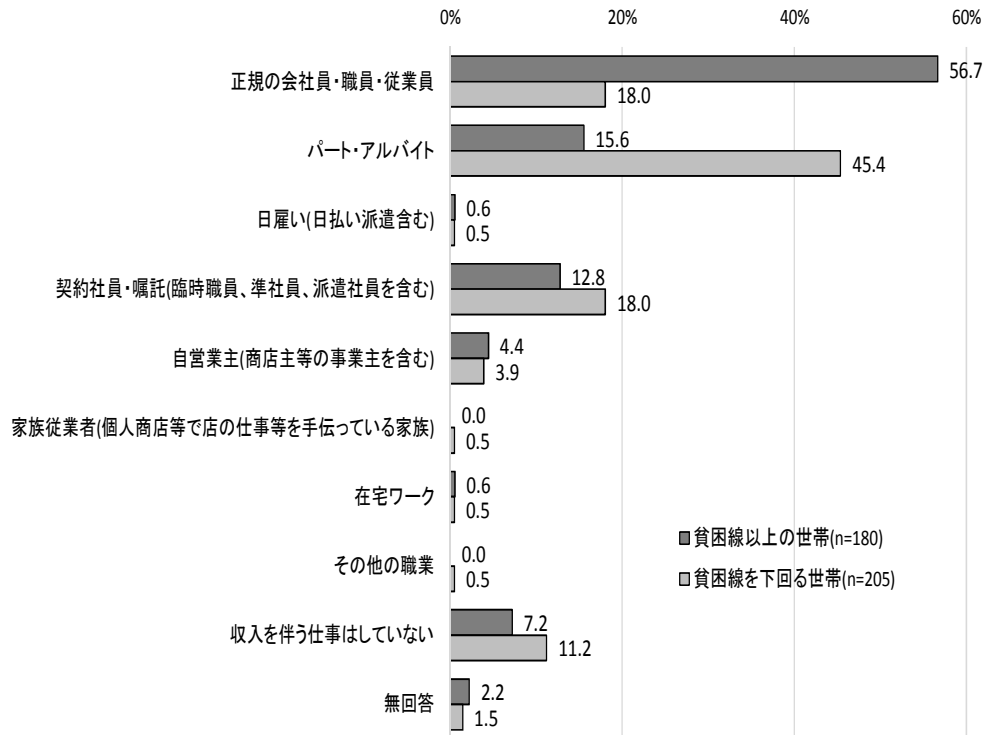
(父親)



(母親)



(児童育成手当受給世帯)



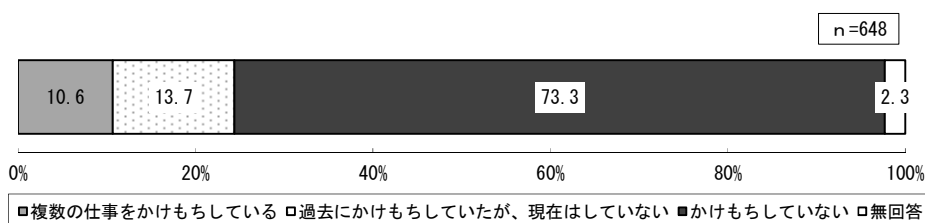
(2) 児童育成手当受給世帯の就業状況

①ダブルワークの状況（育：問 34-1）

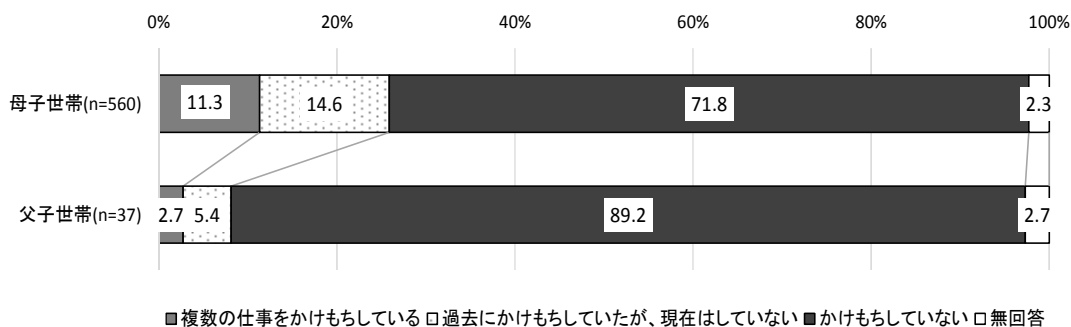
- 児童育成手当受給世帯に設問した昨年 1 年間の複数の仕事のかけもち（ダブルワーク）の状況について、「複数の仕事をかけもちしている」は 10.6%、「過去にかけもちしていたが、現在はしていない」は 13.7%であり、過去 1 年間にダブルワークを経験した世帯は 24.3%となっています。
- 世帯類型別では、「複数の仕事をかけもちしている」と「過去にかけもちしていたが、現在はしていない」を合わせた『している』の回答は、母子世帯が 25.9%、父子世帯が 8.1%となっており、母子世帯の方が大きく上回っています。
- 経済的状況別では、『している』の回答は、「貧困線以上の世帯」で 22.7%、「貧困線を下回る世帯」で 27.4%となっています。

◆昨年 1 年間のダブルワークの状況（児童育成手当受給世帯）

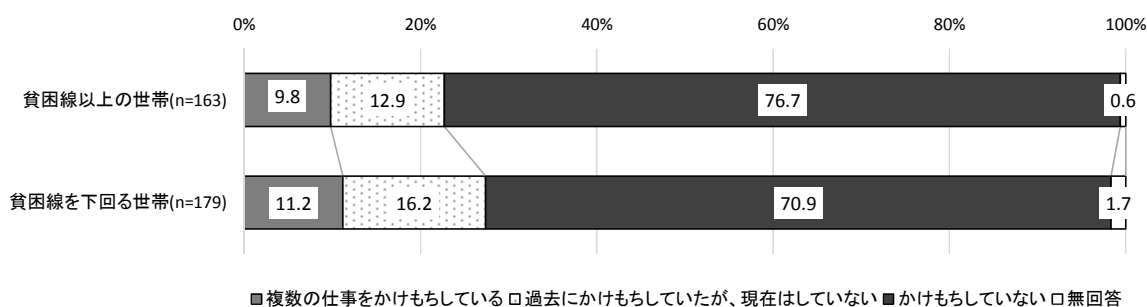
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】

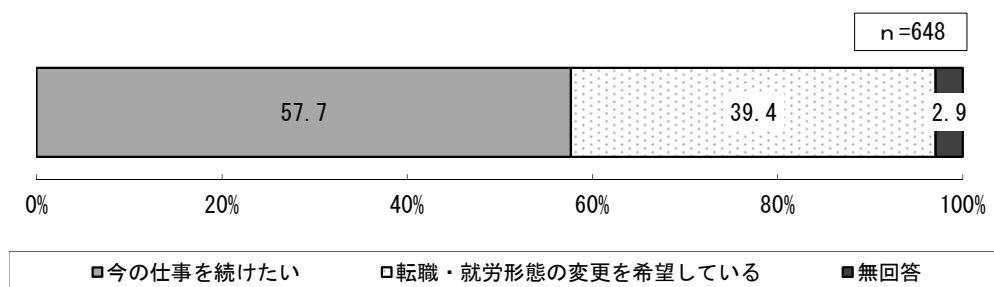


② 転職・就労形態変更の希望（育：問 34-3）

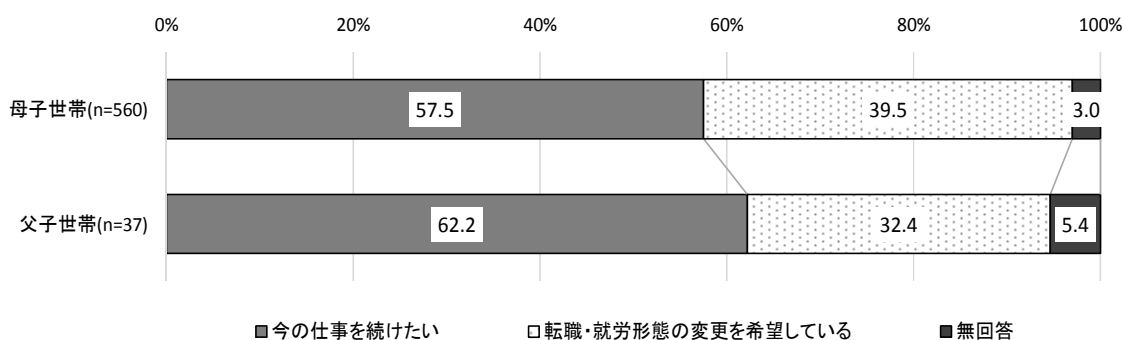
- 児童育成手当受給者のうち収入を伴う仕事をしている方に設問した転職あるいは就労形態の変更の希望について、「今の仕事を続けたい」は 57.7%、「転職・就労形態の変更を希望している」は 39.4%となっています。
- 世帯類型別では、「転職・就労形態を希望している」の回答が、母子世帯で 39.5%、父子世帯で 32.4%となっています。
- 経済状況別では、「転職・就労形態の変更を希望している」の回答が、「貧困線以上の世帯」では 34.4%、「貧困線を下回る世帯」では 42.5%となっています。

◆ 転職・就労形態変更の希望（児童育成手当受給世帯）

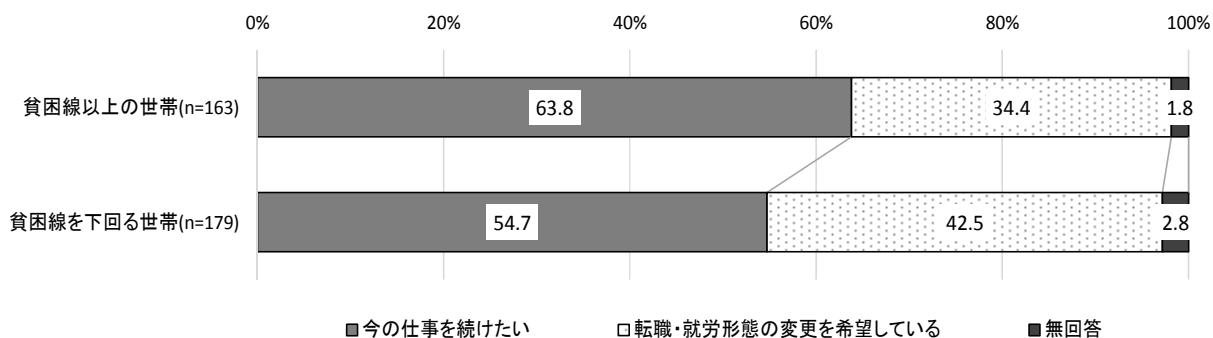
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】

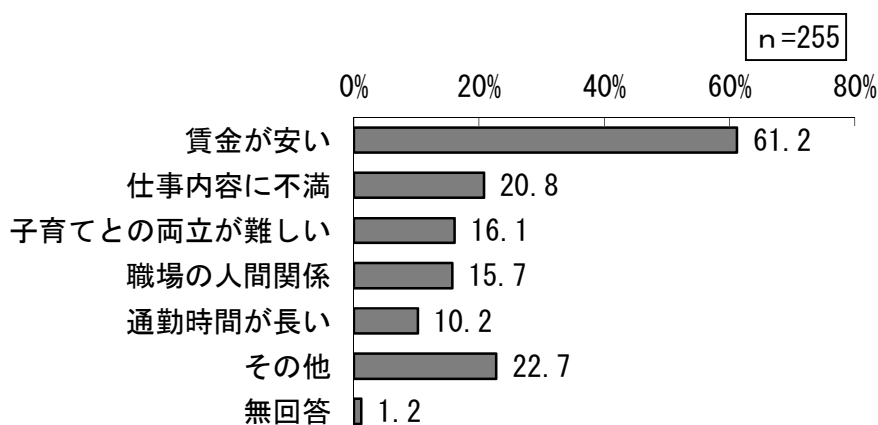


③ 転職・就労形態変更を希望する理由（育：問 34-4）

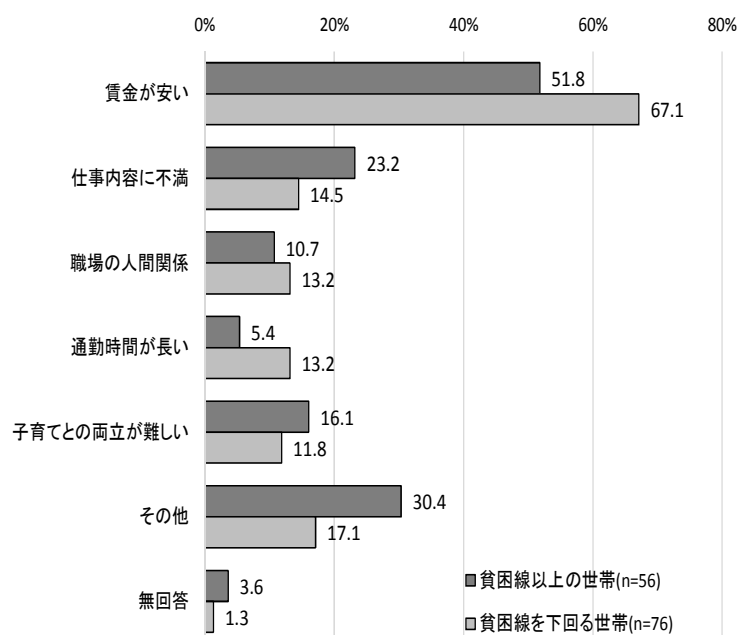
- 児童育成手当受給者のうち収入を伴う仕事をしている方の転職あるいは就労形態の変更を希望する理由について、「賃金が安い」（61.2%）が最も高く、次いで、「その他」（22.7%）、「仕事内容に不満」（20.8%）と続いています。なお、「その他」の内容では、収入や就労形態が不安定なことや、就労時間が長い（短い）等の意見が多くなっています。
- 経済的状況別では、「賃金が安い」の回答は、「貧困線以上の世帯」で51.8%、「貧困線を下回る世帯」で67.1%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

◆ 転職・就労形態変更希望の理由（児童育成手当受給世帯）

【アンケート全体】



【経済的状況別】

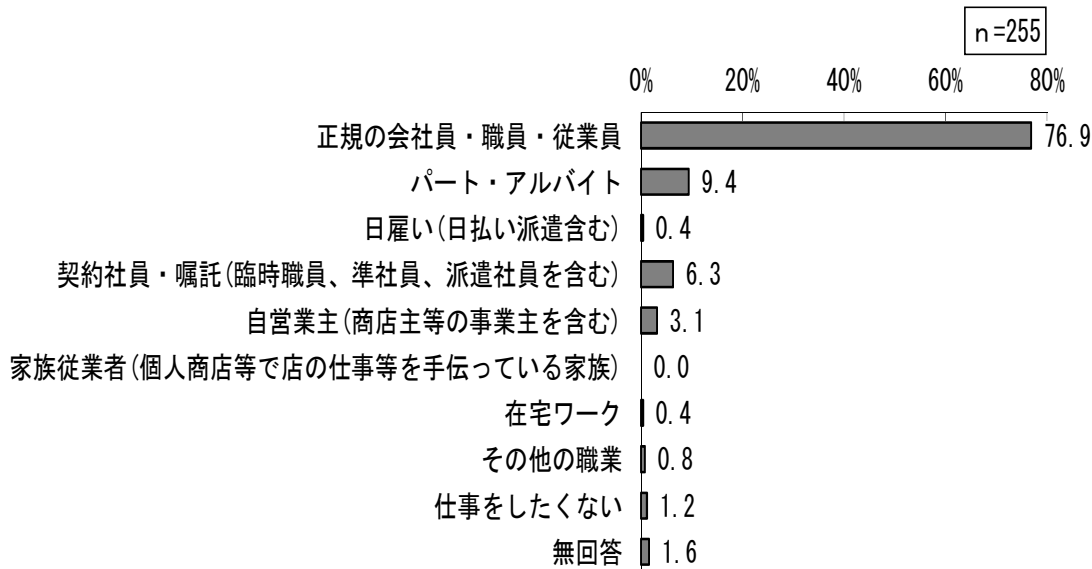


④希望する就労形態（育：問 34-5）

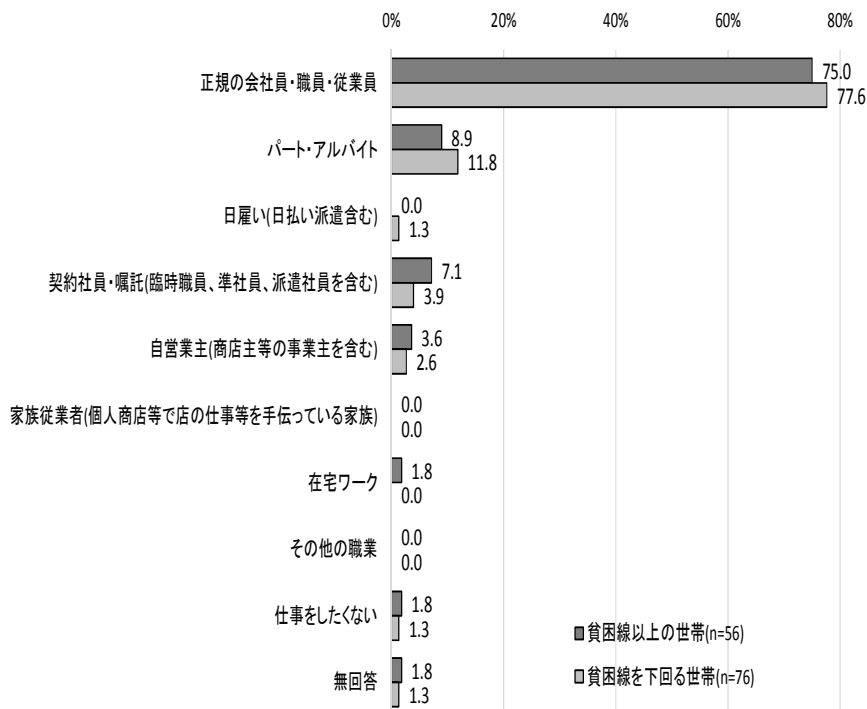
- 児童育成手当受給者のうち収入を伴う仕事をしている方の希望する就労形態について、「正規の会社員・職員・従業員」（76.9%）が大きな割合を占めています。
- 経済的状況別では、大きな差はみられませんでした。

◆希望する就労形態（児童育成手当受給世帯）

【アンケート全体】



【経済的状況別】



6. 健康状態

【本節の概要】

○保護者の健康状態

保護者の現在の健康状態について、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の父親で3.1%、母親で3.4%に対し、児童育成手当受給世帯アンケート全体では18.8%となっており、児童育成手当受給世帯の方が高くなっています。また、貧困線を下回る世帯では、18歳未満の子どもがいる世帯の父親で6.2%、母親で6.3%、児童育成手当受給世帯で20.0%が『よくない』と回答しています。

○保護者の抑うつ傾向（児童育成手当受給世帯だけに設問）

児童育成手当受給世帯に設問した抑うつ傾向を図る6つの項目による保護者の抑うつ傾向について、抑うつ傾向があると考えられる保護者の回答は、52.0%となっています。経済的状況別にみると、抑うつ傾向があると考えられる保護者の回答は、「貧困線以上の世帯」では48.8%、「貧困線を下回る世帯」では59.5%となっており、経済的状況による差がみられます。

また、保護者の抑うつ傾向と相談相手の有無との関連性をみると、相談相手の有無によって大きな差がみられ、「相談相手がおらず、ほしい」と回答した保護者の77.9%に抑うつ傾向があると考えられるという分析結果となっています。

○保護者の病気・障害等の状況

保護者の過去1年間での病気・障害等による「入院歴」や「仕事をやめた経験」の有無について、18歳未満の子どもがいる世帯の父親、母親と比べ、児童育成手当受給世帯の保護者の方が「経験があった」の回答が高くなっています。このうち、「過去1年間に、病気・障害等が原因で、仕事をやめた」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の父親、母親ともに0.3%に対し、児童育成手当受給世帯アンケート全体の保護者では4.1%となっています。経済的状況別では、児童育成手当受給世帯で「過去1年間に、病気・障害等が原因で、仕事をやめた」の回答は、「貧困線以上の世帯」では1.7%、「貧困線を下回る世帯」では4.4%となっています。

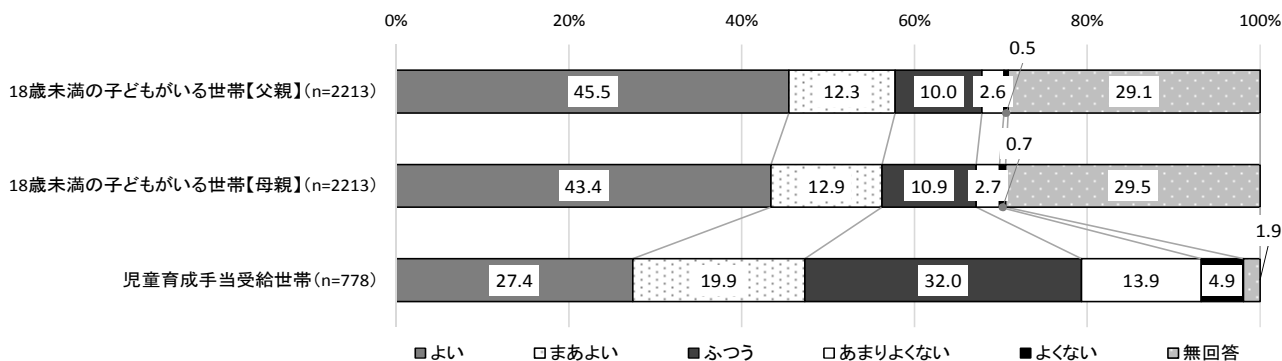
(1) 保護者の健康状態

①保護者の健康状態（子：問30、育：問28）

- 保護者の健康状態について、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の父親で3.1%、母親で3.4%に対し、児童育成手当受給世帯アンケート全体で18.8%となっており、児童育成手当受給世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、『よくない』の回答は、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの父親、母親ともに2.5%、児童育成手当受給世帯アンケートで11.7%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの父親で6.2%、母親で6.3%、児童育成手当受給世帯アンケートで20.0%となっており、経済的状況による差がみられます。

◆保護者の健康状態

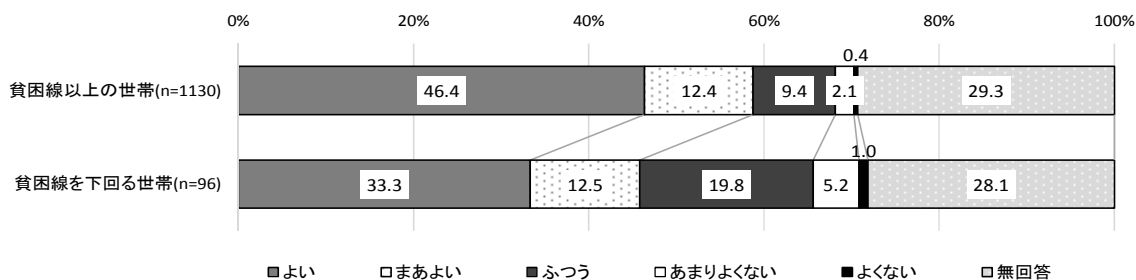
【アンケート全体】



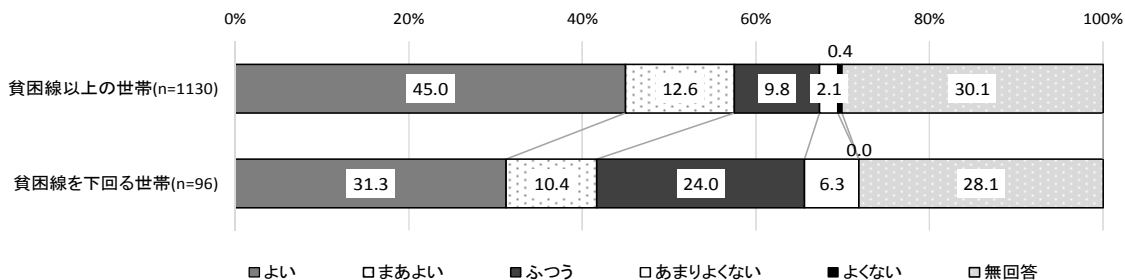
【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

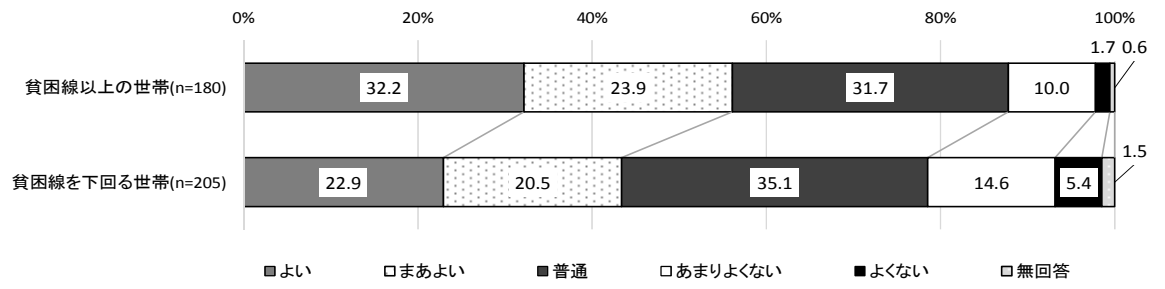
(父親)



(母親)



(児童育成手当受給世帯)



(2) 保護者の抑うつ傾向

①保護者の抑うつ傾向（育：問31）

- 抑うつ傾向を図る6つの項目（K6^{*5}調査）を使用し、児童育成手当受給世帯だけに設問した保護者の抑うつ傾向は、重度な不安・抑うつ状態を示す「13点以上」が13.8%、不安・抑うつ傾向があることを示す「5～12点」が38.2%となっており、抑うつ傾向があると考えられる「5点以上」の保護者は52.0%となっています。
- 経済的状況別では、抑うつ傾向があると考えられる「5点以上」の回答が、「貧困線以上の世帯」では48.8%、「貧困線を下回る世帯」では59.5%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

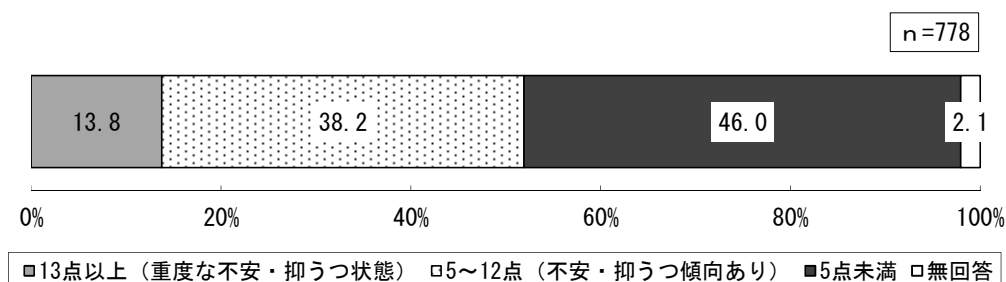
【参考】 抑うつ傾向 5点以上（不安、抑うつ傾向あり）の割合（全国）

20歳代 32.6% 30歳代 31.6% 40歳代 32.1%

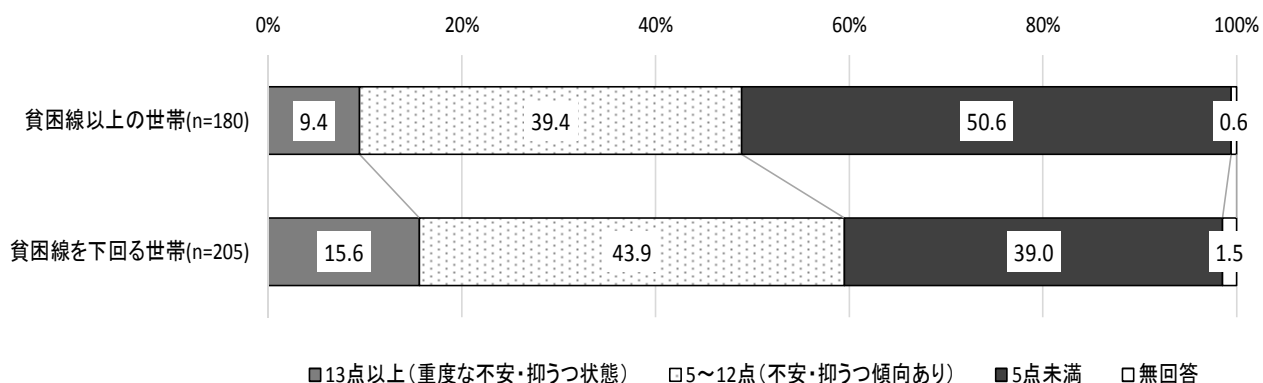
（平成25年度「国民生活基礎調査」（厚生労働省）より）

◆保護者の抑うつ傾向<K6の結果>（児童育成手当受給世帯）

【アンケート全体】



【経済的状況別】

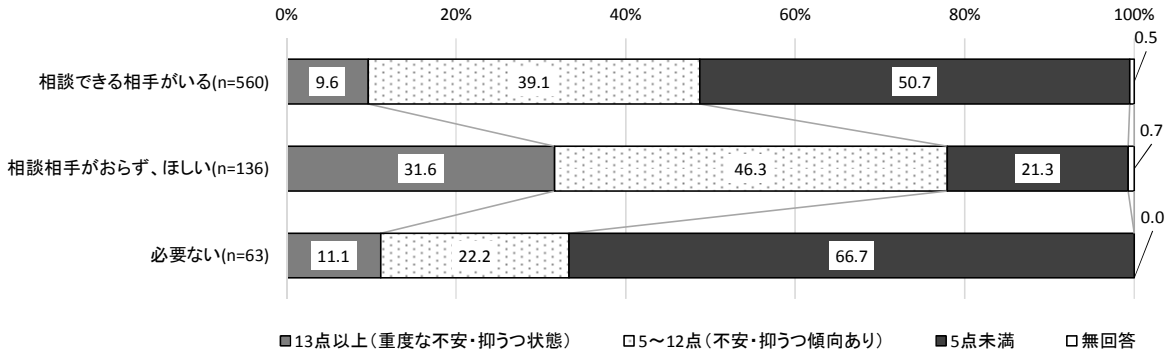


^{*5} K6とは、米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニング（選別）するために開発された尺度。6つの項目について5段階（「まったくない」（0点）、「少しだけ」（1点）、「ときどき」（2点）、「たいてい」（3点）、「いつも」（4点））で点数化する。合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があるとしてされている。

②相談相手の有無と抑うつ傾向の関連性（育：問31×問29）

○ 相談相手の有無と保護者の抑うつ傾向の関連性をみると、「相談できる相手がいる」の回答者のうち、抑うつ傾向があると考えられる「5点以上」の回答が、48.7%に対し、「相談相手がおらず、ほしい」では、77.9%となっており、相談相手の有無によって大きな差がみられます。

◆相談相手の有無と抑うつ傾向の関連性（児童育成手当受給世帯）



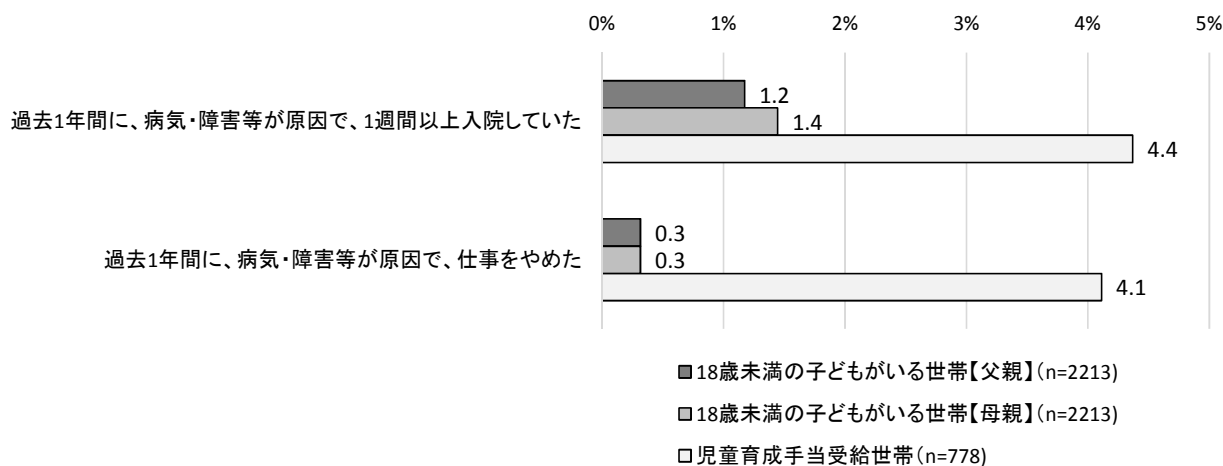
(3) 保護者の病気・障害等の状況

①保護者自身の経験（病気・障害等）【複数回答】（子：問33、育：問32）

- 保護者の病気・障害等の状況について、「過去1年間に、病気・障害等が原因で、1週間以上入院していた」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の父親で1.2%、母親で1.4%、児童育成手当受給世帯アンケート全体で4.4%となっています。また、経済的状況別では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで、「貧困線以上の世帯」より「貧困線を下回る世帯」の方が「1週間以上入院していた」の回答が若干高くなっています。
- 「過去1年間に、病気・障害等が原因で、仕事をやめた」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の父親、母親ともに0.3%、児童育成手当受給世帯アンケート全体で4.1%となっています。また、経済的状況別にみると、「貧困線以上の世帯」より「貧困線を下回る世帯」の方が「仕事をやめた」の回答が若干高くなっています

◆保護者の病気・障害等の経験の有無

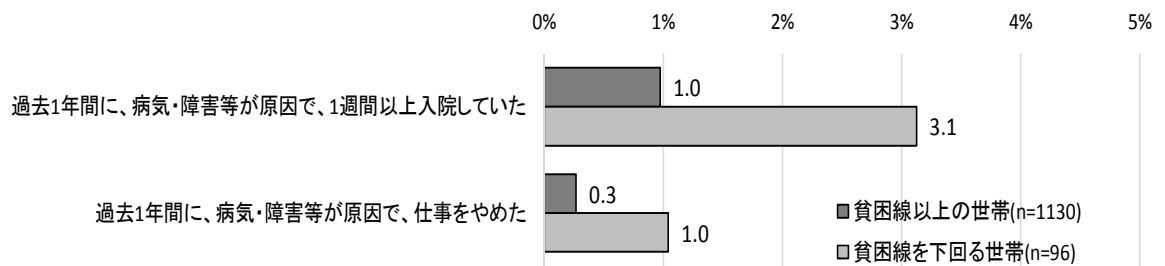
【アンケート全体】



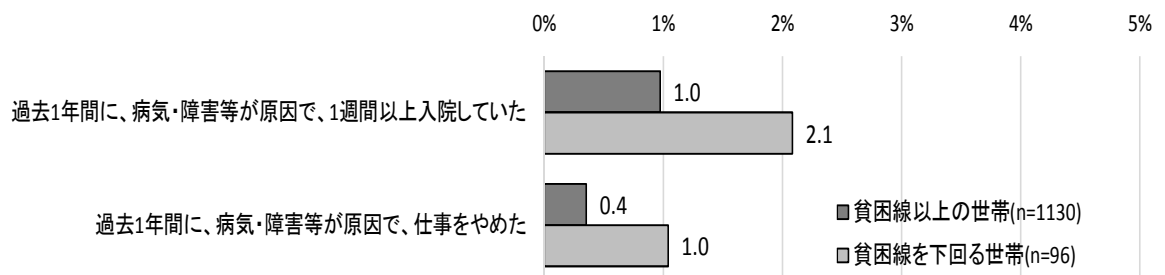
【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

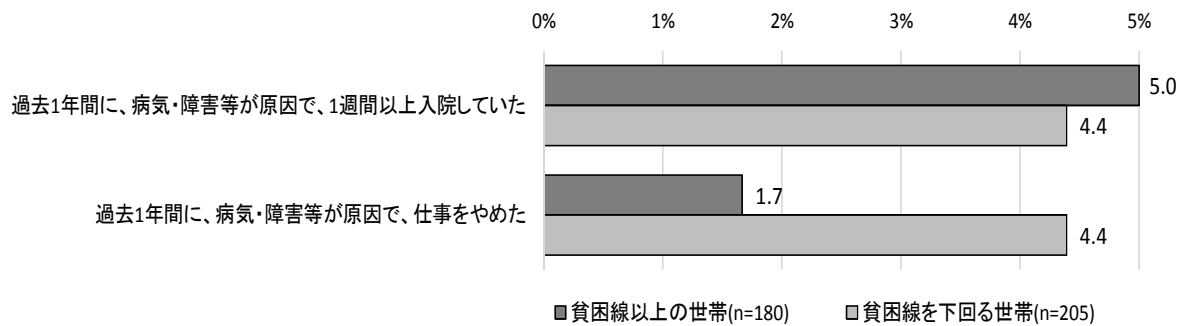
(父親)



(母親)



(児童育成手当受給世帯)



7. 子どもが置かれている生活状況

【本節の概要】

○子どもの「孤食」の状況

夕食を一緒に食べる相手について、「子どもだけ（きょうだいだけ）」と「子ども1人」を合わせた『子どもだけ』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体で5.9%、児童育成手当受給世帯アンケート全体で9.9%となっています。また、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯で5.2%、児童育成手当受給世帯で10.3%が『子どもだけ』と回答しています。

夕食を『子どもだけ』で食べる理由について、「働いている親の帰宅が遅いから」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では24.4%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では46.8%となっています。また、「働いている親の帰宅が遅いから」と回答した親の帰宅時間は『20～24時の間』が、18歳未満の子どもがいる世帯では56.0%、児童育成手当受給世帯47.0%となっています。

○放課後等の過ごし方

放課後の過ごし方について、18歳未満の子どもがいる世帯と児童育成手当受給世帯では、家での過ごし方に違いがみられ、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、家で家族と過ごす回答（37.7%）が高く、児童育成手当受給世帯アンケート全体では、家で一人で過ごす回答（28.3%）が高い傾向がみられます。また、「塾や習い事に行く」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では43.9%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では25.8%となっており、18.1ポイントの差となっています。経済的状況別では、「塾や習い事に行く」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯で、「貧困線以上の世帯」では45.0%、「貧困線を下回る世帯」では29.4%となっており、大きな差がみられます。

○家族との関わり

家族での買い物や週末に家族と出かける頻度について、18歳未満の子どもがいる世帯よりも、児童育成手当受給世帯の方が、「まれにある」と「ない」を合わせた『ない』の回答が高い傾向がみられます。特に週末に家族と出かけることについて、その差が顕著になっており、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では22.9%に対し、児童育成手当受給世帯アンケート全体では41.7%が『ない』と回答しています。経済的状況別にみると、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯で28.1%、児童育成手当受給世帯で42.9%が『ない』と回答しており、「貧困線以上の世帯」より高くなっています。

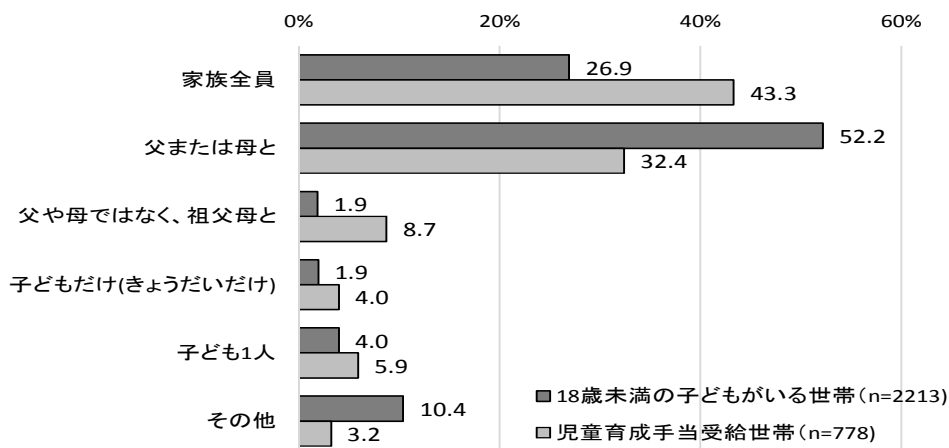
(1)「孤食」の状況

①夕食を一緒に食べる相手（子：問4、育：問11）

- 子どもが夕食を一緒に食べる相手について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「子どもだけ（きょうだいだけ）」と「子ども1人」を合わせた『子どもだけ』の回答は5.9%となっています。児童育成手当受給世帯アンケート全体では『子どもだけ』の回答は9.9%となっています。
- 「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの5.2%、児童育成手当受給世帯アンケートの10.3%が『子どもだけ』と回答しています。
- 子どもの年齢別では、『子どもだけ』の回答は、「6～11歳」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートが2.2%、児童育成手当受給世帯アンケートが4.6%となっています。また、「12～14歳」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートが6.9%、児童育成手当受給世帯アンケートが10.0%となっています。

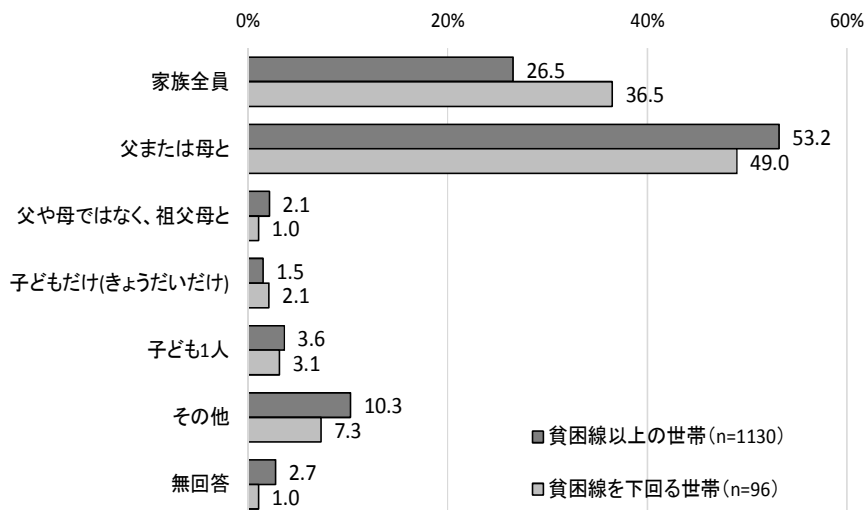
◆夕食を一緒に食べる相手

【アンケート全体】

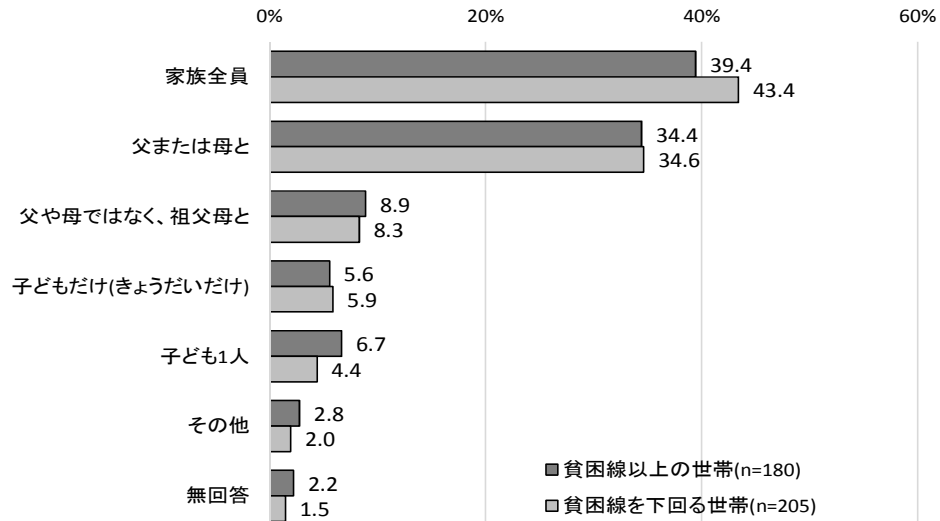


【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



【子どもの年齢別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	家族全員	父または母と	父や母ではなく、祖父母と	子どもだけ(きょうだいで)	子ども1人	その他	無回答
全体	2213 100.0	596 26.9	1155 52.2	41 1.9	43 1.9	88 4.0	230 10.4	60 2.7
0～5歳	963 100.0	198 20.6	637 66.1	16 1.7	9 0.9	22 2.3	73 7.6	8 0.8
6～11歳	490 100.0	153 31.2	240 49.0	13 2.7	9 1.8	2 0.4	71 14.5	2 0.4
12～14歳	260 100.0	98 37.7	108 41.5	4 1.5	8 3.1	10 3.8	31 11.9	1 0.4
15～18歳	428 100.0	137 32.0	160 37.4	8 1.9	16 3.7	54 12.6	52 12.1	1 0.2
19歳以上	9 100.0	2 22.2	5 55.6	0 0.0	1 11.1	0 0.0	1 11.1	0 0.0

(児童育成手当受給世帯)

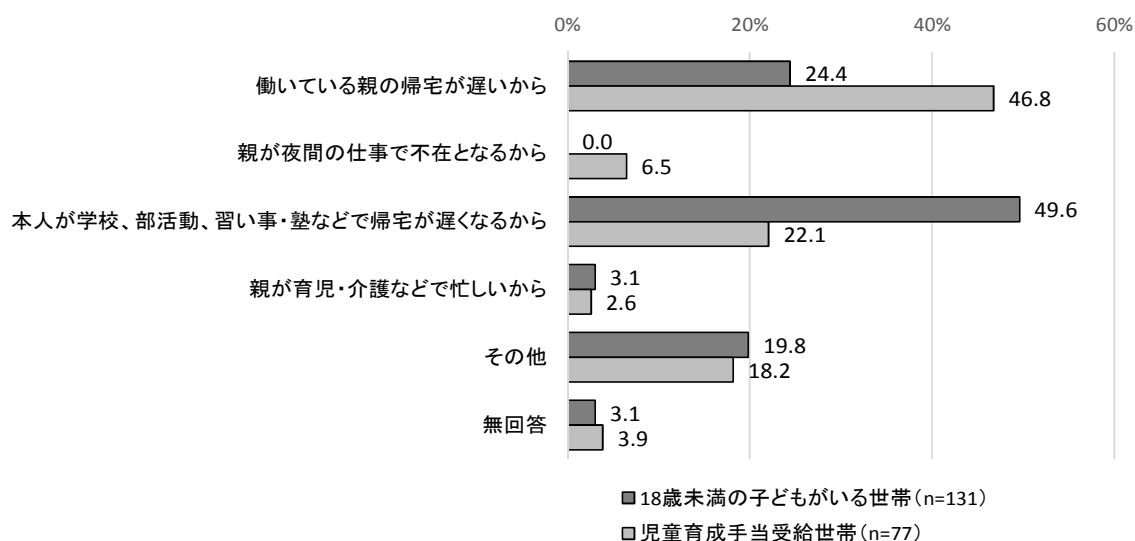
上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	家族全員	父または母と	父や母ではなく、祖父母と	子どもだけ(きょうだいで)	子ども1人	その他	無回答
全体	778 100.0	337 43.3	252 32.4	68 8.7	31 4.0	46 5.9	25 3.2	19 2.4
0～5歳	156 100.0	82 52.6	52 33.3	13 8.3	2 1.3	2 1.3	4 2.6	1 0.6
6～11歳	217 100.0	100 46.1	70 32.3	27 12.4	6 2.8	4 1.8	10 4.6	0 0.0
12～14歳	199 100.0	86 43.2	65 32.7	17 8.5	9 4.5	11 5.5	7 3.5	4 2.0
15～18歳	184 100.0	68 37.0	63 34.2	10 5.4	13 7.1	24 13.0	4 2.2	2 1.1

②夕食を子どもだけで食べる理由（子：問4-1、育：問11-1）

- 夕食を「子どもだけ（きょうだいだけ）」もしくは「子ども1人」で食べると回答した人に、その理由についてうかがったところ、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから」の回答が49.6%で最も高く、次いで「働いている親の帰りが遅いから」（24.4%）となっています。また、児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「働いている親の帰りが遅いから」の回答が46.8%で最も高く、次いで「本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから」（22.1%）となっています。
- さらに、「働いている親の帰宅が遅いから」と回答した人の保護者の「帰宅時間」を見ると、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは「20～22時の間」が48.0%、「18～20時の間」が28.0%、「18時まで」が16.0%となっており、児童育成手当受給世帯アンケートでは「18～20時の間」が32.4%、「20～22時の間」が29.4%、「22～24時の間」が17.6%となっています。

◆夕食を子どもだけで食べる理由

【アンケート全体】



◆「働いている親の帰宅時間が遅いから」と回答した人の帰宅時間

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	18時まで	18～20時の間	20～22時の間	22～24時の間	その他時頃	交替制勤務で帰宅時間は決まっていない	無回答	非該当
18歳未満の子どもがいる世帯	25 100.0	4 16.0	7 28.0	12 48.0	2 8.0	0 0.0	-	-	0
児童育成手当受給世帯	34 100.0	1 2.9	11 32.4	10 29.4	6 17.6	1 2.9	4 11.8	1 2.9	2

※18歳未満の子どもがいる世帯の親の帰宅時間は、父親、母親のいずれか早い方の時間で集計しています。

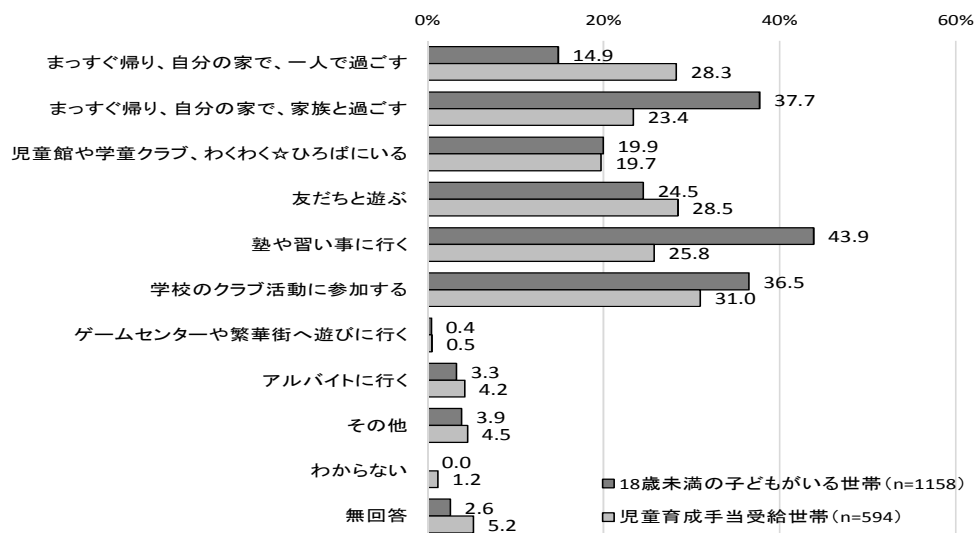
(2) 放課後の過ごし方

①平日学校が終わった後の過ごし方【複数回答（上位3つを選択）】（子：問6、育：問13）

- 子どもの放課後の過ごし方について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「塾や習い事に行く」（43.9%）が最も高く、次いで「まっすぐ帰り、自分の家で、家族と過ごす」（37.7%）、「学校のクラブ活動に参加する」（36.5%）が続いています。児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「学校のクラブ活動に参加する」（31.0%）が最も高く、次いで「友だちと遊ぶ」（28.5%）、「まっすぐ帰り、自分の家で、一人で過ごす」（28.3%）が続いています。
- 経済的状況別では、「塾や習い事に行く」の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、「貧困線以上の世帯」で45.0%、「貧困線を下回る世帯」で29.4%と、経済的状況により差がみられますが、児童育成手当受給世帯アンケートでは、経済的状況による大きな差はみられませんでした。

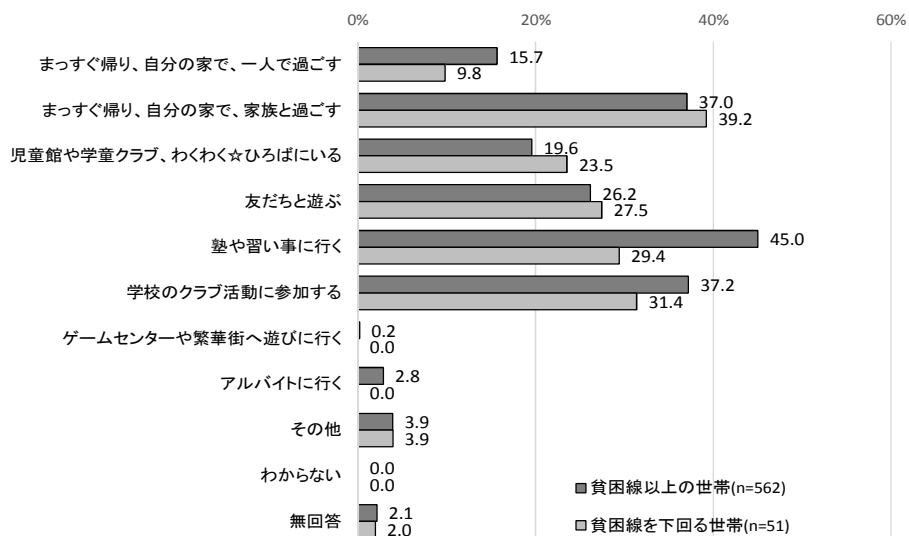
◆平日、学校が終わった後の過ごし方

【アンケート全体】

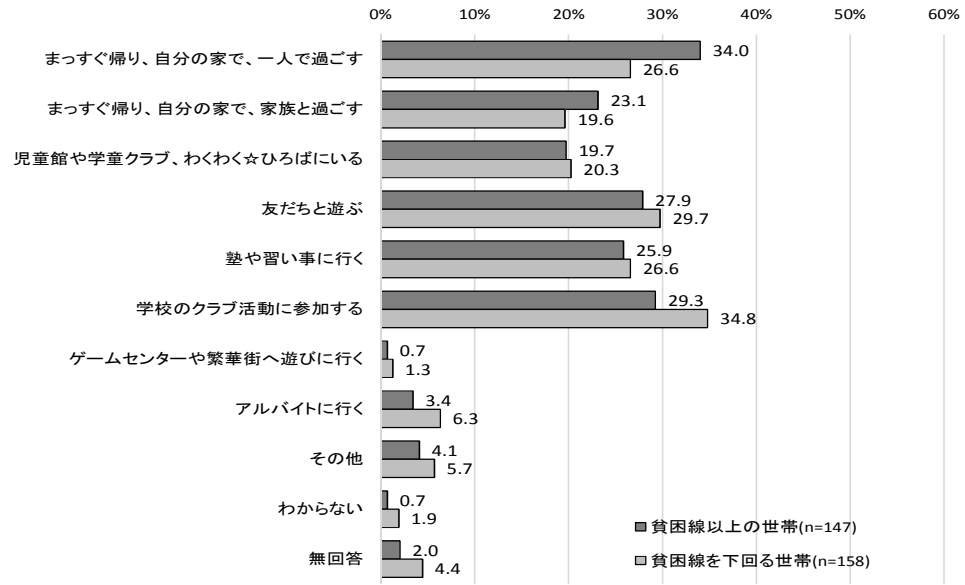


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



(児童育成手当受給世帯)



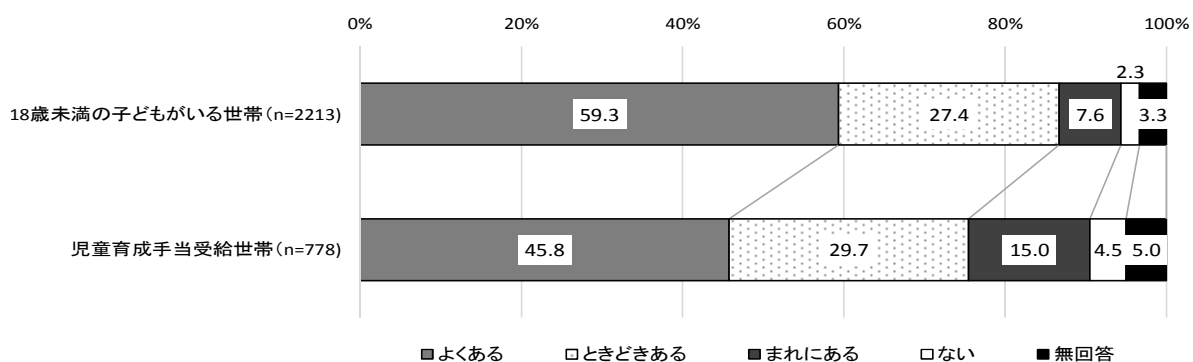
(3) 家族との関わり

①家族で買い物に出かけること（子：問 18(2)、育：問 24(2)）

- 家族で買い物に出かけることについて、「よくある」の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では59.3%に対し、児童育成手当受給世帯アンケート全体では45.8%となっています。また、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では「まれにある」と「ない」を合わせた『ない』の回答が9.9%に対し、児童育成手当受給世帯アンケート全体では『ない』の回答が19.5%となっています。
- 経済的状況別では、大きな差はみられませんでした。

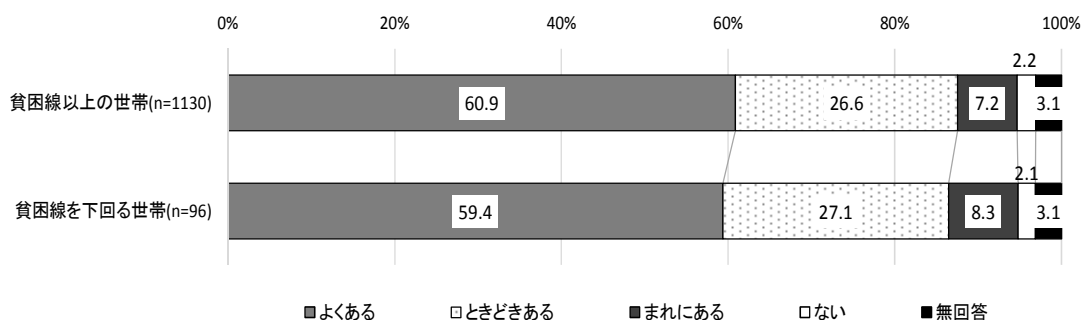
◆家族で買い物に出かけること

【アンケート全体】

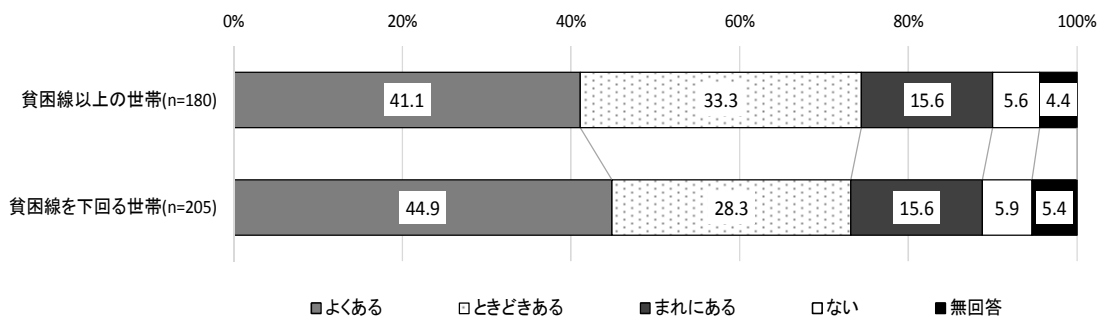


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）

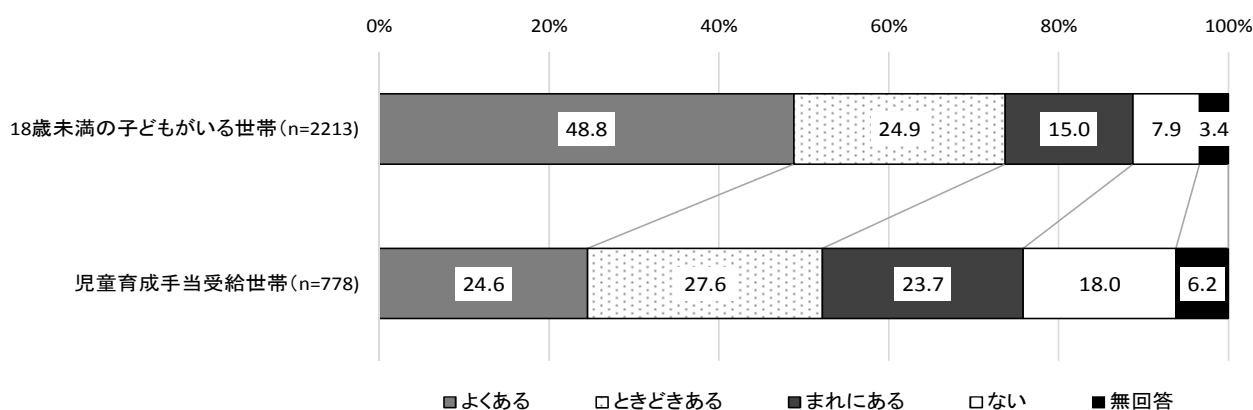


②週末に家族で出かけること（子：問 18(5)、育：問 24(5)）

- 週末に家族で出かけることについて「まれにある」と「ない」を合わせた『ない』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では22.9%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では41.7%となっており、大きな差がみられます。
- 経済的状況別では、『ない』の回答は、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで21.0%、児童育成手当受給世帯アンケートで38.9%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで28.1%、児童育成手当受給世帯アンケートで42.9%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

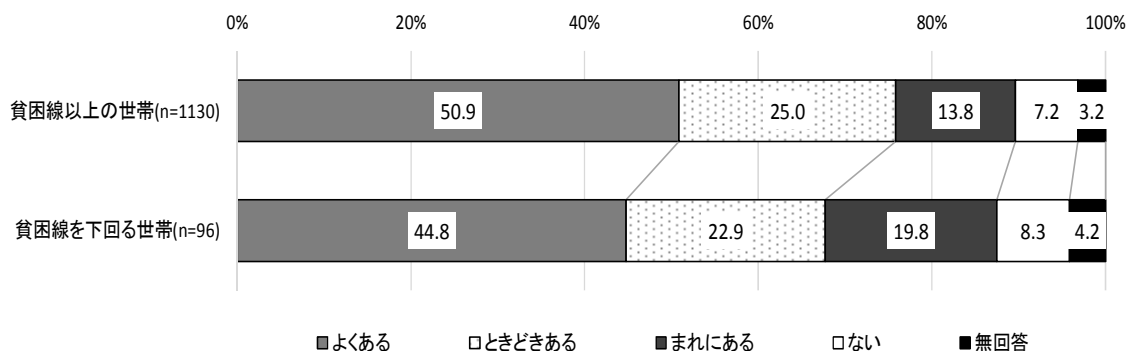
◆週末に家族で出かけること

【アンケート全体】

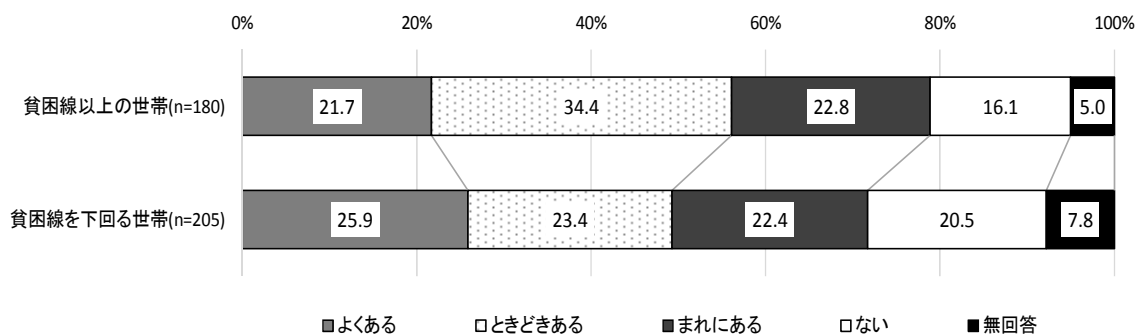


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）



8. 子どもが置かれている学習・進学に関する環境

【本節の概要】

○学校の成績・自宅での勉強時間

保護者の子どもの学校での成績に関する認識について、「よくない」と「あまりよくない」を合わせた『よくない』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体で15.3%、児童育成手当受給世帯アンケート全体で26.2%となっており、差がみられます。また、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯で7.9%、児童育成手当受給世帯で24.1%が『よくない』と回答しています。

平日の自宅での勉強時間について、「全くしていない」、「30分未満」、「30分～1時間未満」を合わせた『1時間未満』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体で63.1%、児童育成手当受給世帯アンケート全体で73.8%となっており、差がみられます。また、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯で80.3%、児童育成手当受給世帯で75.4%が『1時間未満』と回答しています。

○塾や習い事の状況

子どもの塾や習い事の状況について、アンケート全体では、18歳未満の子どもがいる世帯と児童育成手当受給世帯で大きな差はみられませんでした。しかし、経済的状況別では、「学習塾」において大きな差がみられます。「学習塾」の回答が、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯で21.5%、児童育成手当受給世帯で27.8%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯で12.5%、児童育成手当受給世帯で19.5%となっています。

○経済的な理由による子どもの進学の断念の経験

経済的な理由により、子どもの進学をあきらめたり学校を中退させたりしたことの経験について、「ある」と「これまでにはないが、今後その可能性がある」を合わせた『ある』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体で16.9%、児童手当受給世帯アンケート全体で50.9%となっており、大きな差がみられます。

経済的状況別では、『ある』の回答が、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯で13.5%、児童育成手当受給世帯で45.0%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯で33.3%、児童育成手当受給世帯で53.2%となっており、特に18歳未満の子どもがいる世帯において、経済的状況による大きな差がみられます。

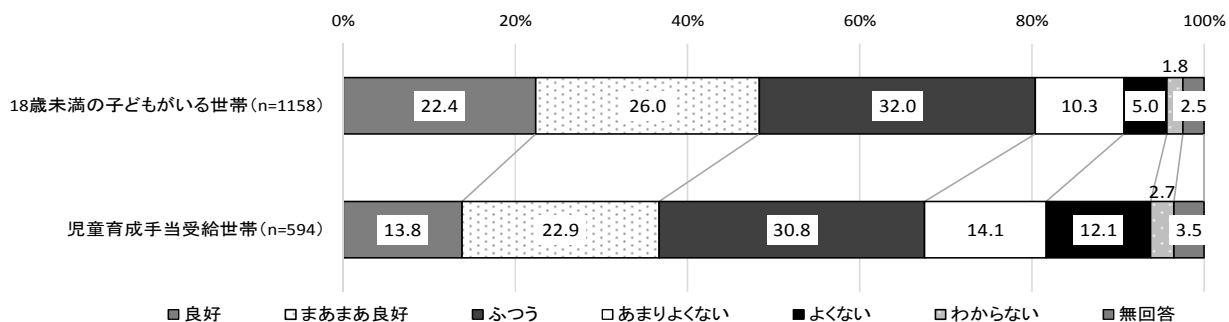
(1) 学校での成績

①子どもの学校での成績（子：問9、育：問16）

- 子どもの学校での成績について、「よくない」と「あまりよくない」を合わせた『よくない』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体で15.3%、児童育成手当受給世帯アンケート全体で26.2%と、10.9ポイントの差がみられます。
- 経済的状況別にみると、『よくない』の回答が、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで15.1%、児童育成手当受給世帯アンケートで28.5%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで7.9%、児童育成手当受給世帯アンケートで24.1%となっています。

◆子どもの学校での成績

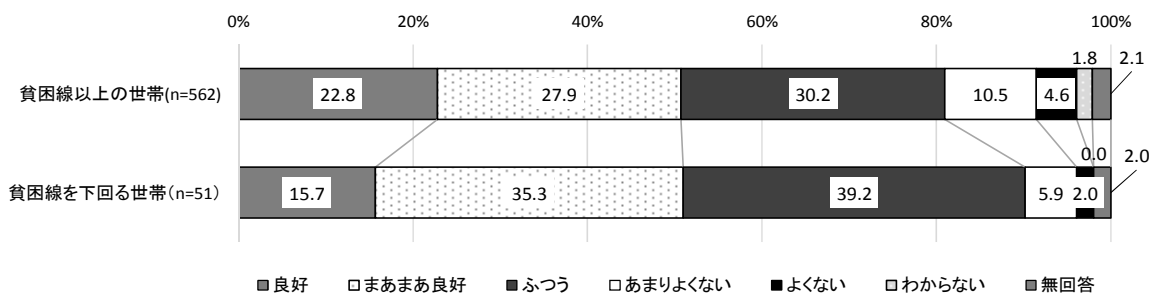
【アンケート全体】



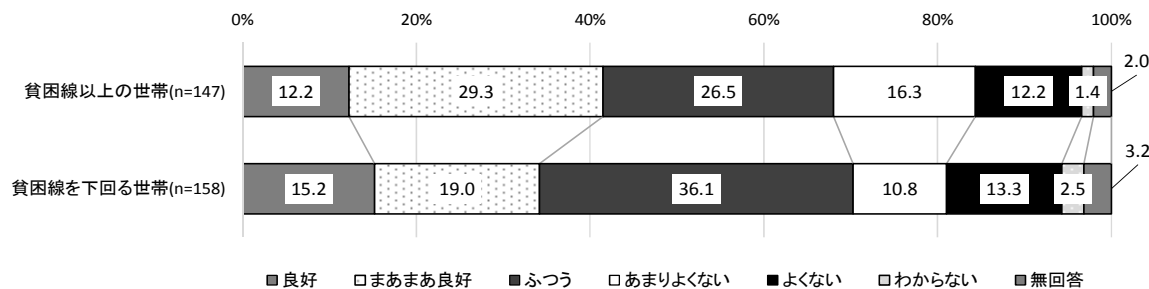
※宛名の子どもが小学生以上の世帯のみ集計対象としています。

【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



(2) 学校以外での勉強時間

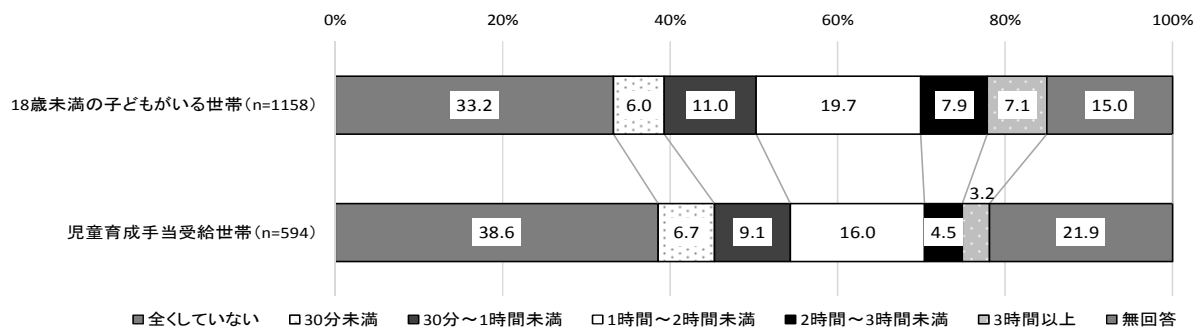
① 平日の学校以外での勉強時間（子：問 8、育：問 15）

ア. 塾など自宅以外での勉強

- 平日の自宅以外での勉強時間（塾など）について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「全くしていない」（33.2%）が最も高く、「全くしていない」、「30分未満」、「30分～1時間未満」を合わせた『1時間未満』の回答は、50.2%となっています。児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「全くしていない」の38.6%が最も高く、『1時間未満』の回答は、54.4%となっています。
- 経済的状況別では、『1時間未満』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで「貧困線以上の世帯」が52.1%、「貧困線を下回る世帯」が60.7%と「貧困線下回る世帯」の方が高くなっており、児童育成手当受給世帯アンケートでは、「貧困線以上の世帯」と「貧困線を下回る世帯」で大きな差はみられませんでした。

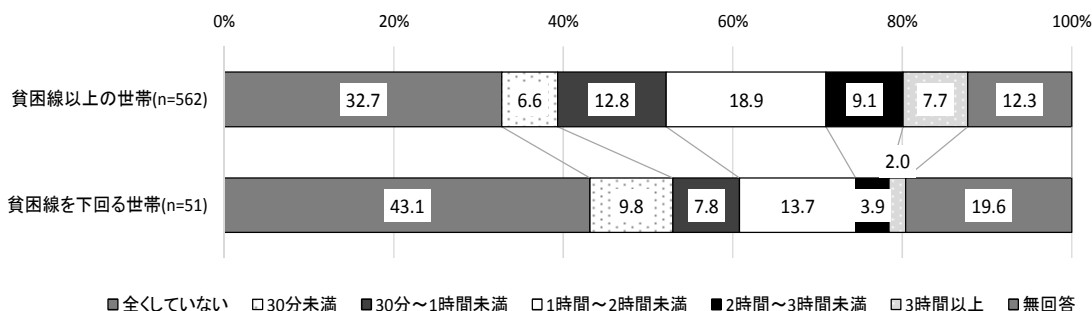
◆ 平日の自宅以外での勉強時間

【アンケート全体】

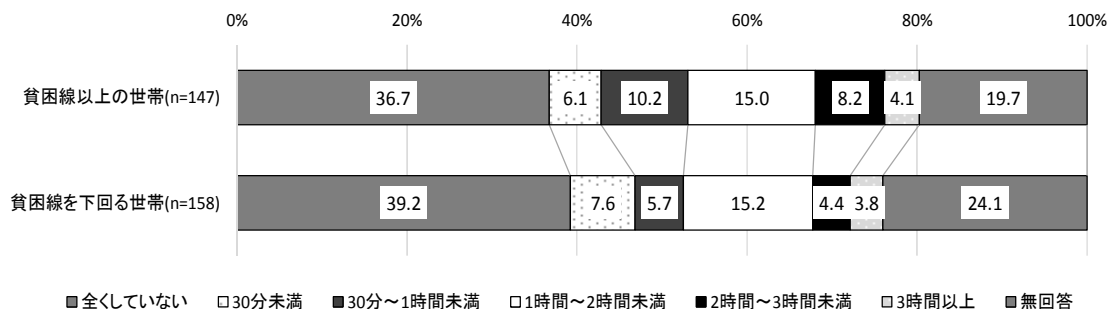


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）

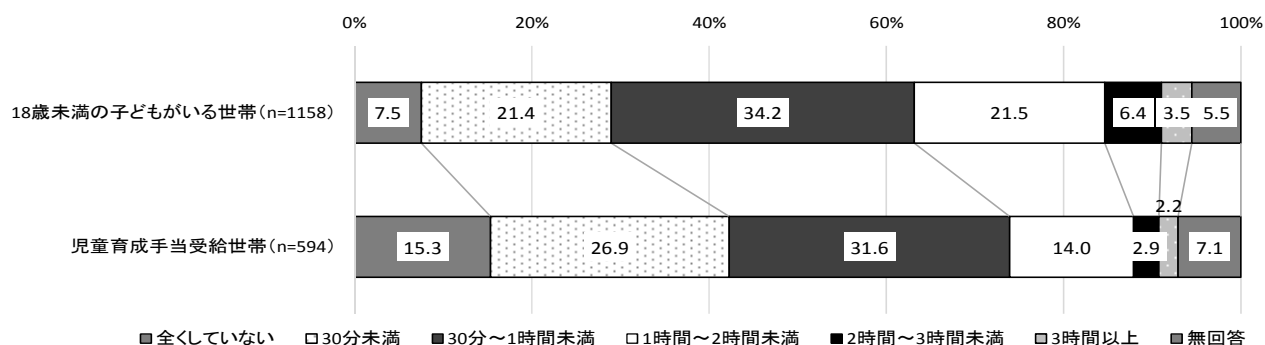


イ. 自宅での勉強

- 平日の自宅での勉強時間について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「30分～1時間未満」（34.2%）が最も高く、「全くしていない」、「30分未満」、「30分～1時間未満」を合わせた『1時間未満』の回答は、63.1%となっています。児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「30分～1時間未満」（31.6%）が最も高く、『1時間未満』の回答は、73.8%となっています。
- 経済的状況別では、『1時間未満』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで「貧困線以上の世帯」が62.8%、「貧困線を下回る世帯」が80.3%で、大きな差がみられ、児童育成手当受給世帯アンケートでは、「貧困線以上の世帯」と「貧困線を下回る世帯」で大きな差はみられませんでした。

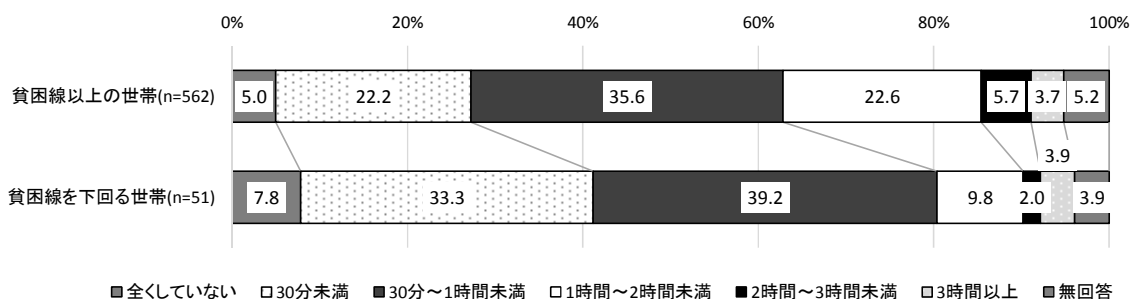
◆平日の自宅での勉強時間

【アンケート全体】

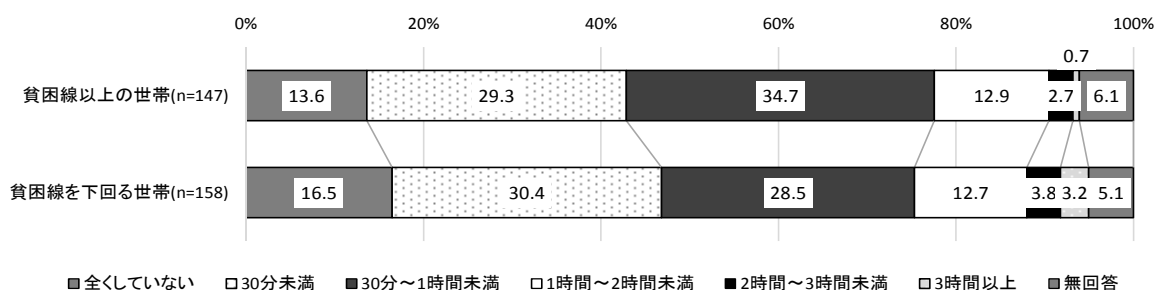


【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）



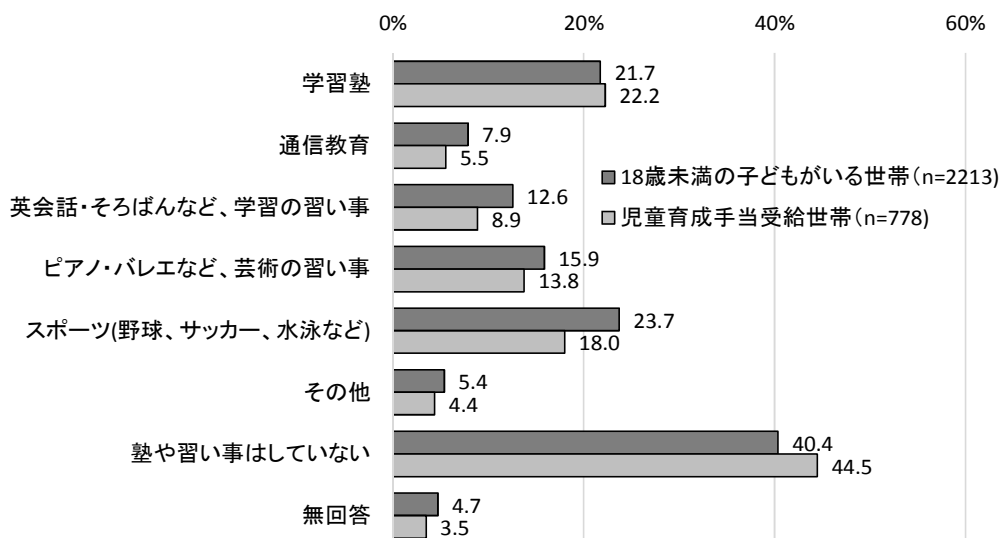
(3) 塾や習い事

①塾に行ったり習い事をしているか【複数回答】(子：問5、育：問12)

- 塾や習い事の状況について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「塾や習い事はしていない」(40.4%)に次いで、「スポーツ(野球、サッカー、水泳など)」(23.7%)、「学習塾」(21.7%)の回答が高く、児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「塾や習い事はしていない」(44.5%)に次いで、「学習塾」(22.2%)、「スポーツ(野球、サッカー、水泳など)」(18.0%)の回答が高くなっています。
- 経済的状況別では、「学習塾」の回答が、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯で21.5%、児童育成手当受給世帯で27.8%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで12.5%、児童育成手当受給世帯アンケートで19.5%となっています。

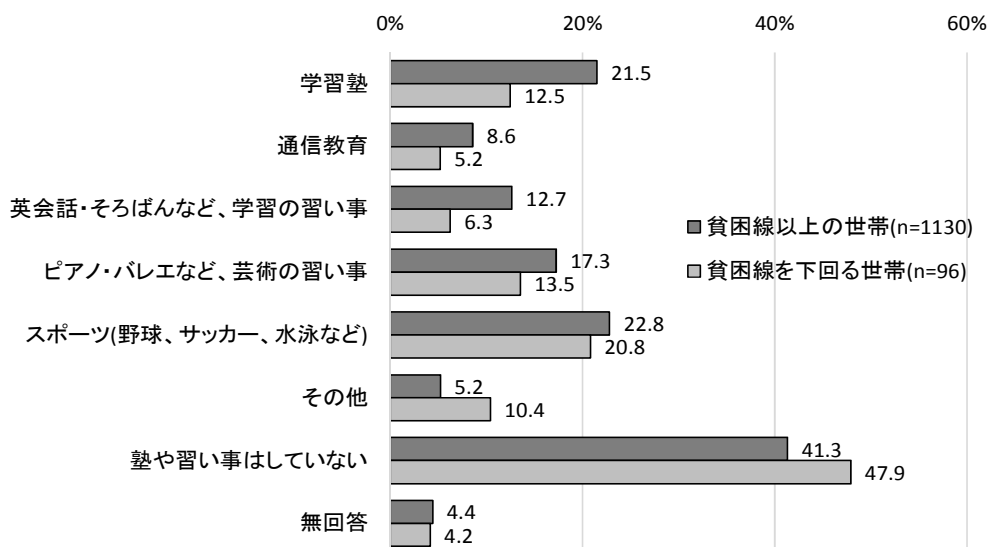
◆塾や習い事の状況

【アンケート全体】

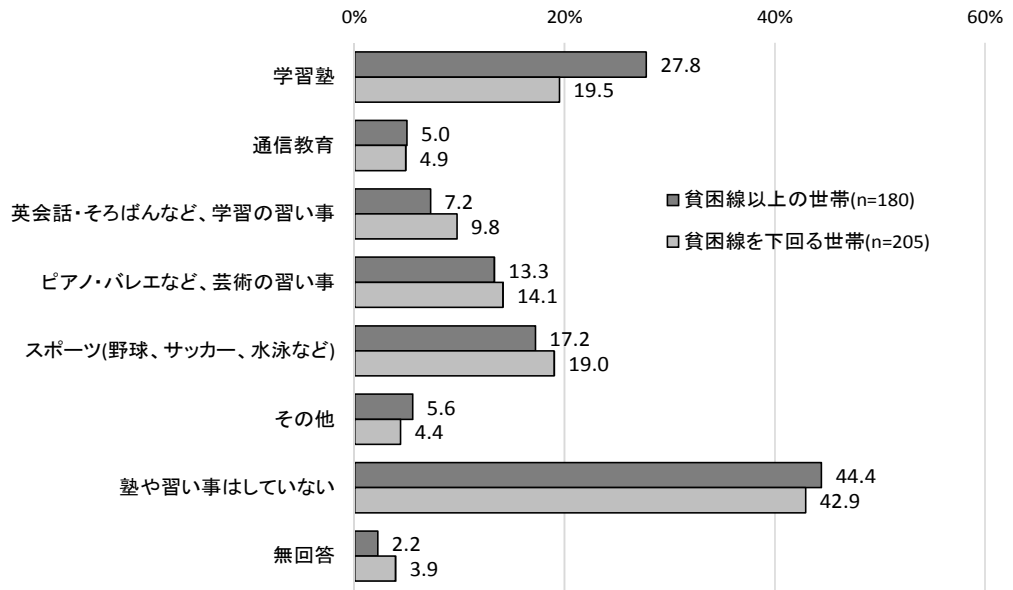


【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



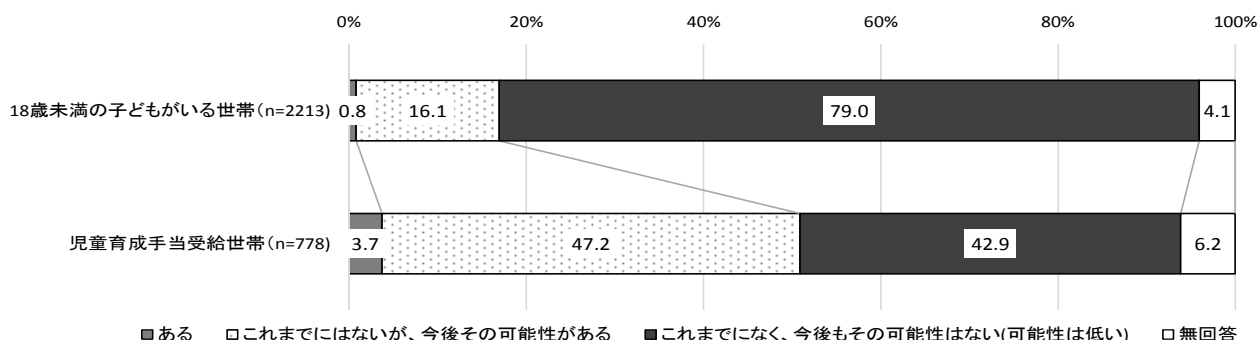
(4) 経済的な理由による子どもの進学への断念の経験

① 経済的な理由により子どもの進学を断念したこと（子：問 21、育：問 27）

- 経済的理由による子どもの進学への断念や中退の経験について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では「ある」は0.8%、「これまでにはないが、今後その可能性がある」は16.1%、児童育成手当受給世帯アンケート全体では「ある」は3.7%、「これまでにはないが、今後その可能性がある」は47.2%となっており、児童育成手当受給世帯で「今後その可能性がある」としている人の回答が高くなっています。
- 経済的地位別では、「ある」と「これまでにはないが、今後その可能性がある」を合わせた『ある』の回答が、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで13.5%、児童育成手当受給世帯アンケートで45.0%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで33.3%、児童育成手当受給世帯アンケートで53.2%となっており、特に18歳未満の子どもがいる世帯において、経済的地位による大きな差がみられます。

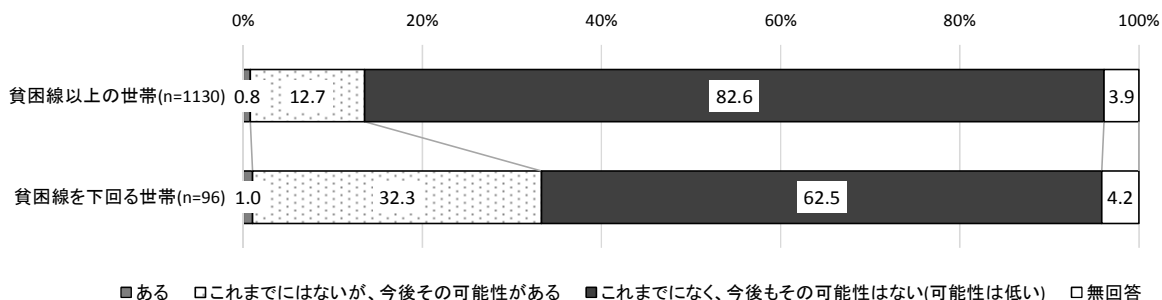
◆ 経済的な理由による子どもの進学への断念の経験

【アンケート全体】

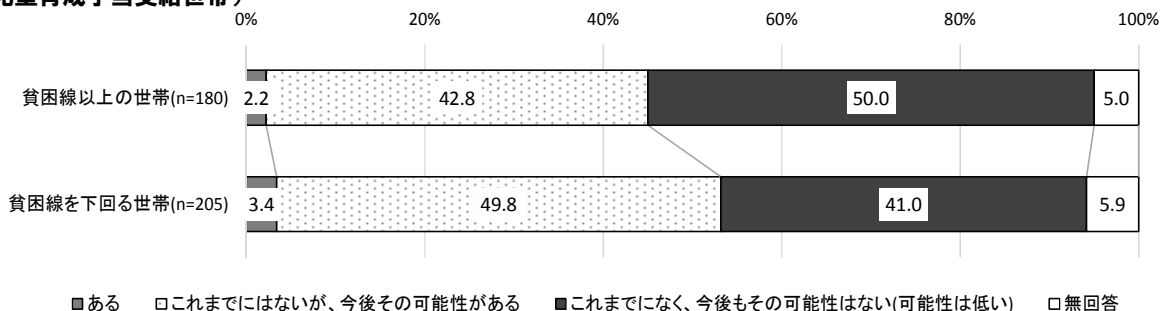


【経済的地位別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



9. ひとり親世帯特有の課題の状況

【本節の概要】

○養育費の取り決めについて（児童育成手当受給世帯だけに設問）

児童育成手当受給世帯に設問した養育費の取り決めの状況について、「取り決めていない」の回答が49.6%で最も高くなっています。その理由として、「相手と関わりたくない」（38.9%）、「相手の経済状況等から養育費を要求できない」（31.0%）の回答が高くなっています。

経済的状況別では、取り決めの有無においては大きな差はみられないものの、取り決めていない理由において、「相手の経済状況等から養育費を要求できない」の回答は、「貧困線以上の世帯」が26.0%に対し、「貧困線を下回る世帯」では33.7%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

○面会交流の状況について（児童育成手当受給世帯だけに設問）

児童育成手当受給世帯に設問した子どもと親（相手方）との面会交流の取り決めの状況について、「取り決めていない」の回答が50.7%で最も高く、次いで「口頭で取り決めている（口約束）」（17.6%）、「書面で取り決めている」（15.1%）と続いています。経済的状況による大きな差はみられませんでした。

また、子どもと親（相手方）との面会交流の実施状況についてうかがったところ、「子どもは相手方と会っておらず、電話やメールもしていない（と思う）」の回答が41.0%で最も高くなっています。経済的状況では、「子どもは相手方と会っておらず、電話やメールもしていない（と思う）」の回答は、「貧困線以上の世帯」が37.9%に対し、「貧困線を下回る世帯」では45.6%となっています。

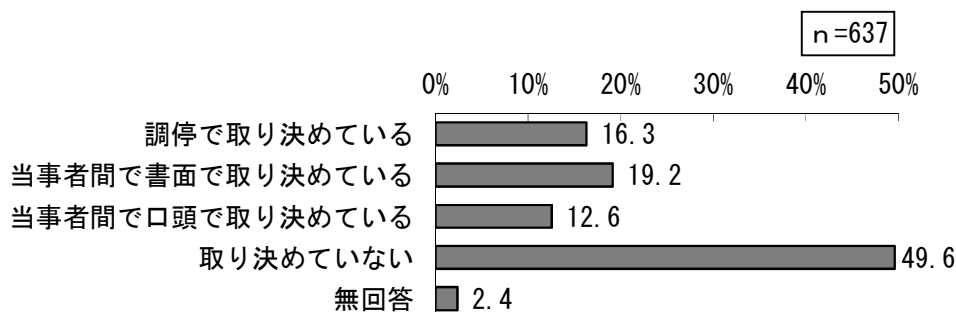
(1) 養育費の取り決めの状況

① 養育費の取り決めの有無（育：問7-3）

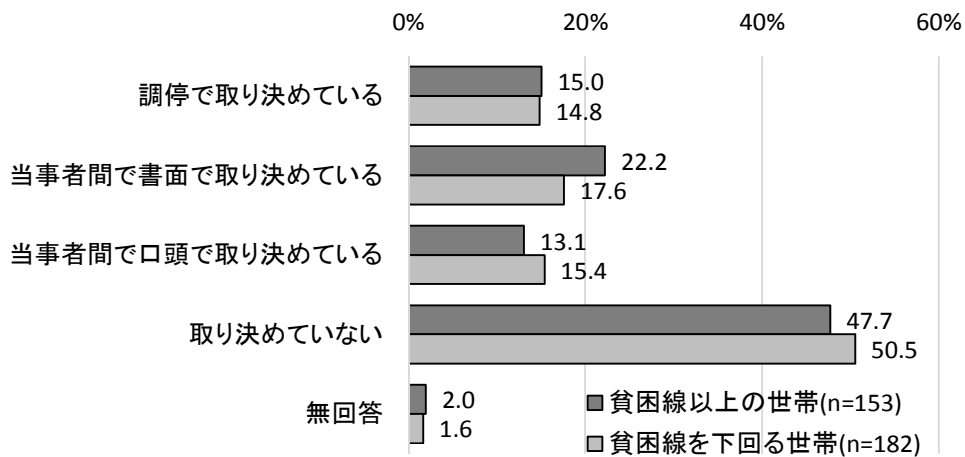
- 児童育成手当受給世帯に設問した養育費の取り決めの有無について、「取り決めていない」の回答が49.6%で最も高く、次いで「当事者間で書面で取り決めている」（19.2%）、「調停で取り決めている」（16.3%）と続いています。
- 経済的状況では、大きな差はみられませんでした。

◆ 養育費の取り決めの有無（児童育成手当受給世帯）

【アンケート全体】



【経済的状況別】

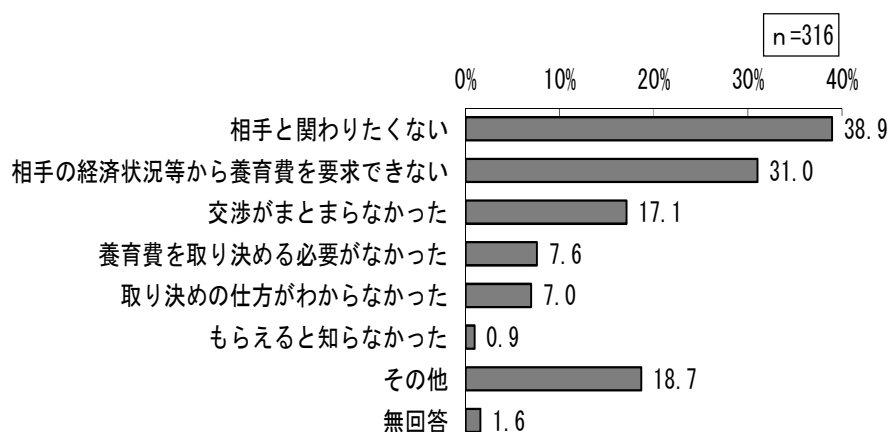


②養育費の取り決めをしていない理由（育：問7-4）

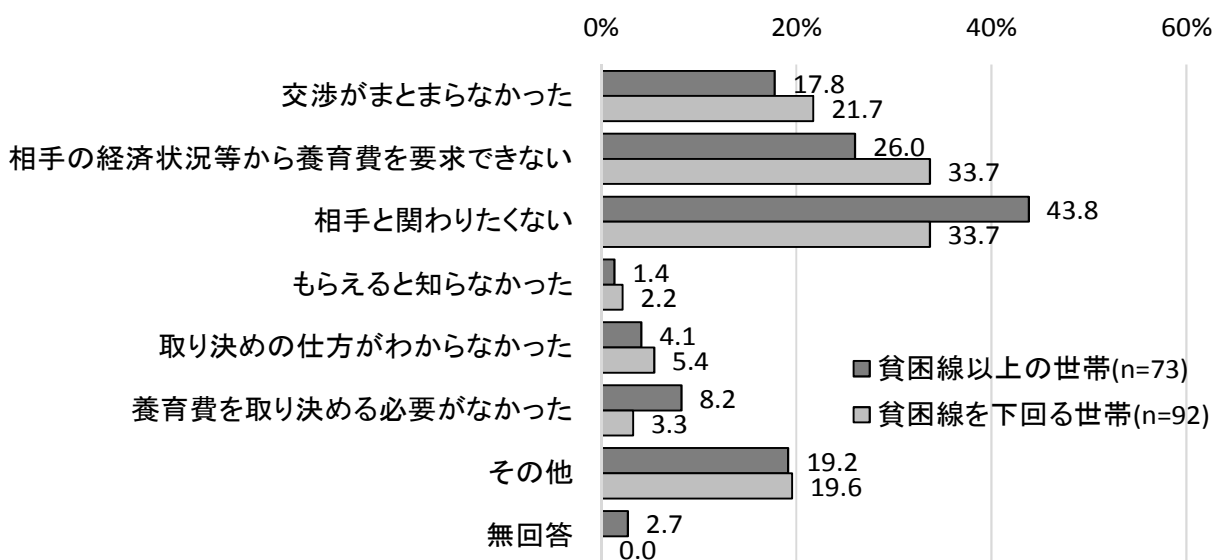
- 「養育費の取り決めをしていない」と回答した方に、その理由についてうかがったところ、「相手と関わりたくない」が38.9%で最も高く、次いで「相手の経済状況等から養育費を要求できない」（31.0%）、「その他」（18.7%）と続いています。
- 経済的状況別では、「相手の経済状況等から養育費を要求できない」の回答は、「貧困線以上の世帯」が26.0%に対し、「貧困線を下回る世帯」では33.7%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

◆養育費の取り決めをしていない理由（児童育成手当受給世帯）

【アンケート全体】



【経済的状況別】



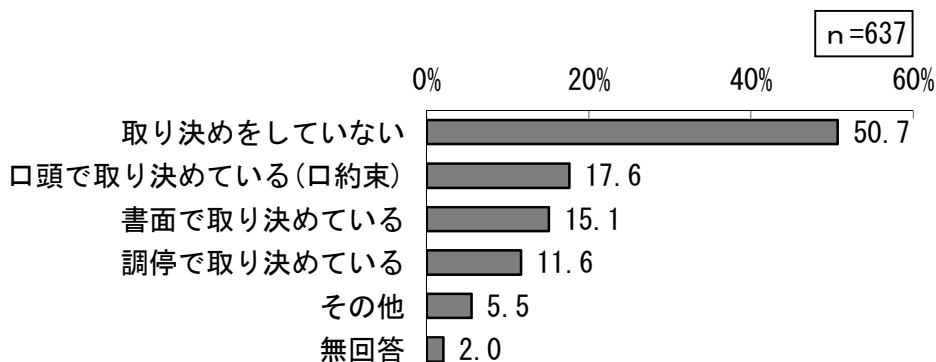
(2) 面会交流の状況

① 面会交流の取り決めの有無（育：問7-1）

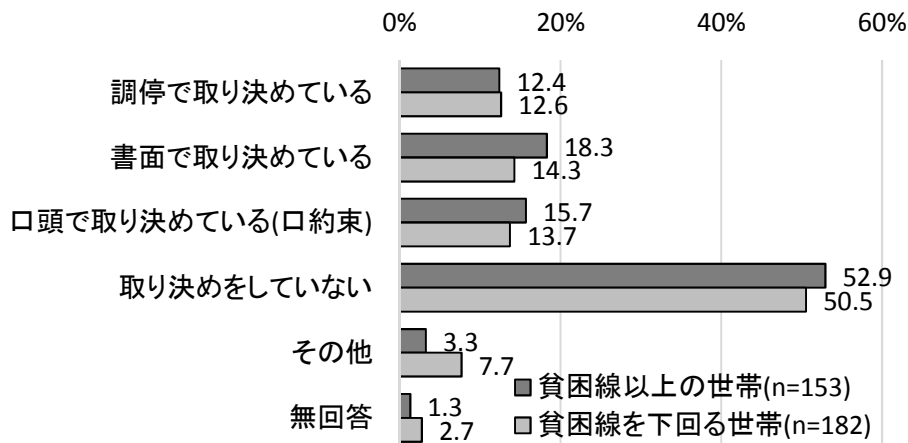
- 児童育成手当受給世帯に設問した子どもと親（相手方）との面会交流の取り決めの有無について、「取り決めていない」の回答が50.7%で最も高く、次いで「口頭で取り決めている（口約束）」（17.6%）、「書面で取り決めている」（15.1%）と続いています。
- 経済的状況では、大きな差はみられませんでした。

◆ 面会交流の取り決めの有無（児童育成手当受給世帯）

【アンケート全体】



【経済的状況別】

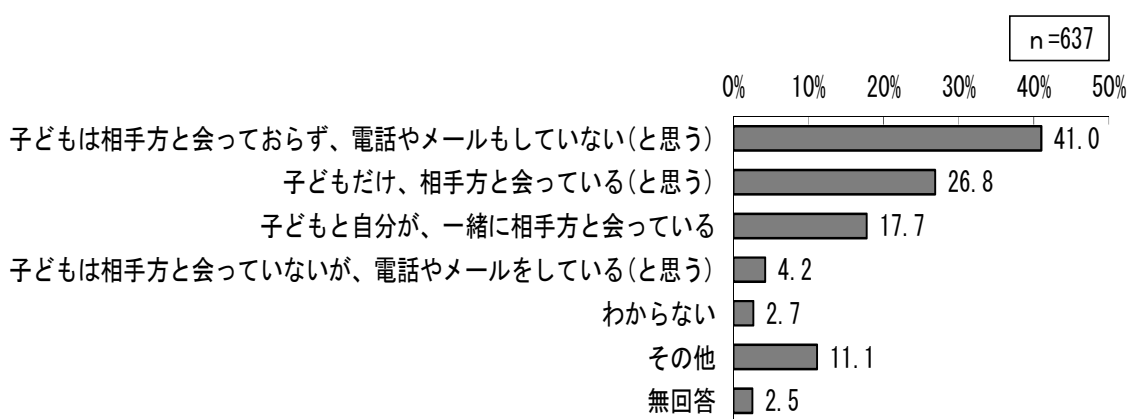


②面会交流の実施状況（育：問7-2）

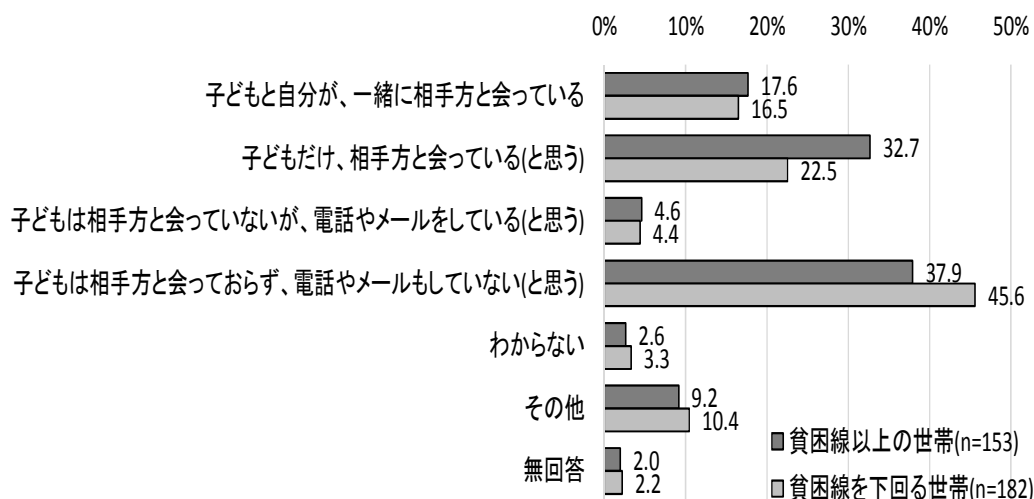
- 児童育成手当受給世帯に設問した子どもと親（相手方）との面会交流の実施状況について、「子どもは相手方と会っておらず、電話やメールもしていない（と思う）」の回答が41.0%で最も高く、次いで「子どもだけ、相手方と会っている（と思う）」（26.8%）、「子どもと自分が、一緒に相手方と会っている」（17.7%）と続いています。
- 経済的状況では、「子どもは相手方と会っておらず、電話やメールもしていない（と思う）」の回答は、「貧困線以上の世帯」が37.9%に対し、「貧困線を下回る世帯」では45.6%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

◆面会交流の実施状況（児童育成手当受給世帯）

【アンケート全体】



【経済的状況別】



10. 貧困の背景、連鎖に関わる状況

【本節の概要】

○保護者自身の経験

保護者自身の成育歴や過去の経験として、両親の離婚や親との死別、子どもの頃の経済的困窮、親や配偶者からの暴力等を受けた経験等について設問しました。

保護者自身の親との関係について、18歳未満の子どもがいる世帯と児童育成手当受給世帯ともに、「両親が離婚した」の回答が最も高く、次いで「成人する前の生活は経済的に困っていた」と続いています。「両親が離婚した」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の父親が7.2%、母親が8.0%に対し、児童育成手当受給世帯アンケート全体は19.0%となっています。貧困線を下回る世帯では、18歳未満の子どもがいる世帯において、「両親が離婚した」や「成人する前の生活は経済的に困っていた」の回答が高くなっています。

また、配偶者との関係、暴力の有無について、「配偶者または元配偶者に暴力を振るわれたことがある」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の母親では、2.3%となっており、児童育成手当受給世帯アンケート全体では、20.1%となっています。

○学歴の連鎖

貧困の背景の要因に関する保護者の最終学歴について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体と比べて、児童育成手当受給世帯アンケート全体の方が「高等学校卒業」の回答が高く、「大学卒業」の回答が低くなっています。また、経済的状況別では、18歳未満の子どもがいる世帯、児童育成手当受給世帯ともに、「貧困線以上の世帯」と比べて、「貧困線を下回る世帯」の方が「大学卒業」の回答が低くなっており、世帯状況や経済的状況と学歴の関連がうかがえます。

保護者の最終学歴と子どもの進学に対する意向の関係では、18歳未満の子どもがいる世帯、児童育成手当受給世帯ともに、保護者自身の学歴が高いほど、子どもに大学・大学院まで「受けさせたい」の回答が高い傾向がみられます。また、子どもに大学・大学院まで「受けさせたいが、経済的に受けさせられない」とする保護者は、18歳未満の子どもがいる世帯では、「父母ともに大学卒業以上」で0.2%、「いずれかが大卒以上」で4.9%、「父母共に非大学卒業」で16.7%、児童育成手当受給世帯では、「大学卒業以上」で10.3%、「非大学卒業」で35.3%となっており、明確な違いが見られます。

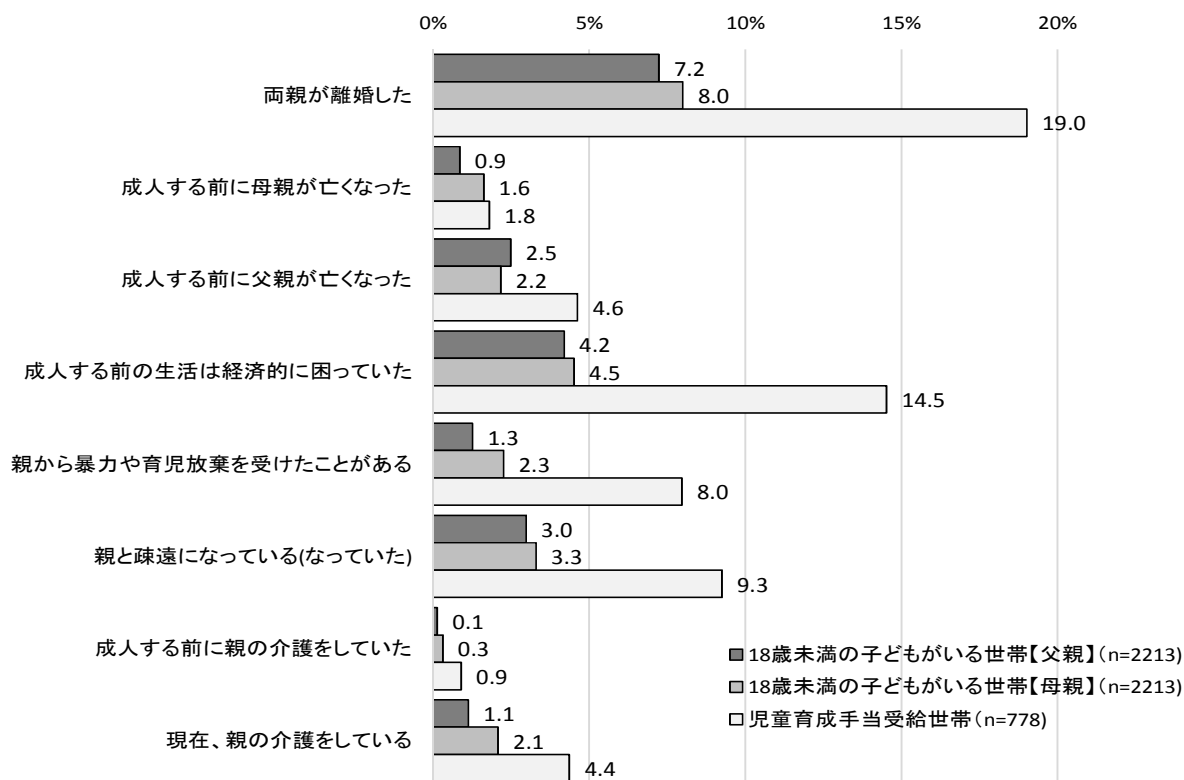
(1) 保護者自身の経験

①保護者自身の親との関係【複数回答】(子：問33、育：問32)

- 保護者自身の親との関係について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の父親、母親ともに、「両親が離婚した」(7.2%、8.0%)の回答が最も高く、次いで「成人する前の生活は経済的に困っていた」(4.2%、4.5%)、「親と疎遠になっている(なっていた)」(3.0%、3.3%)と続いています。児童育成手当受給世帯アンケート全体でも同様に、「両親が離婚した」(19.0%)の回答が最も高く、次いで「あなたが成人する前の生活は経済的に困っていた」(14.5%)、「親と疎遠になっている(なっていた)」(9.3%)と続いており、各項目で18歳未満の子どもがいる世帯の回答と比べて高くなっています。
- 経済的状况では、「両親が離婚した」や「成人する前の生活は経済的に困っていた」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで、「貧困線以上の世帯」より「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

◆保護者自身の親との関係

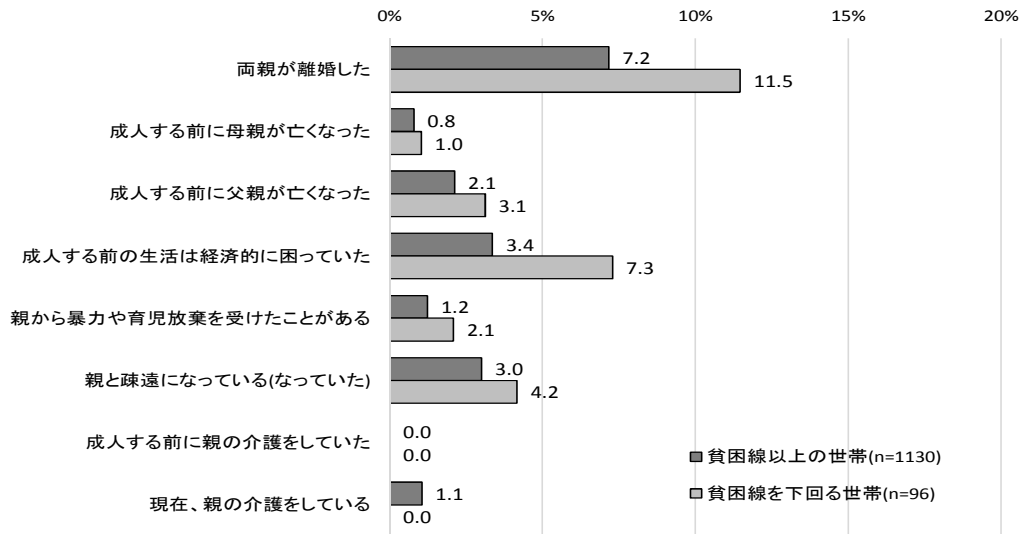
【アンケート全体】



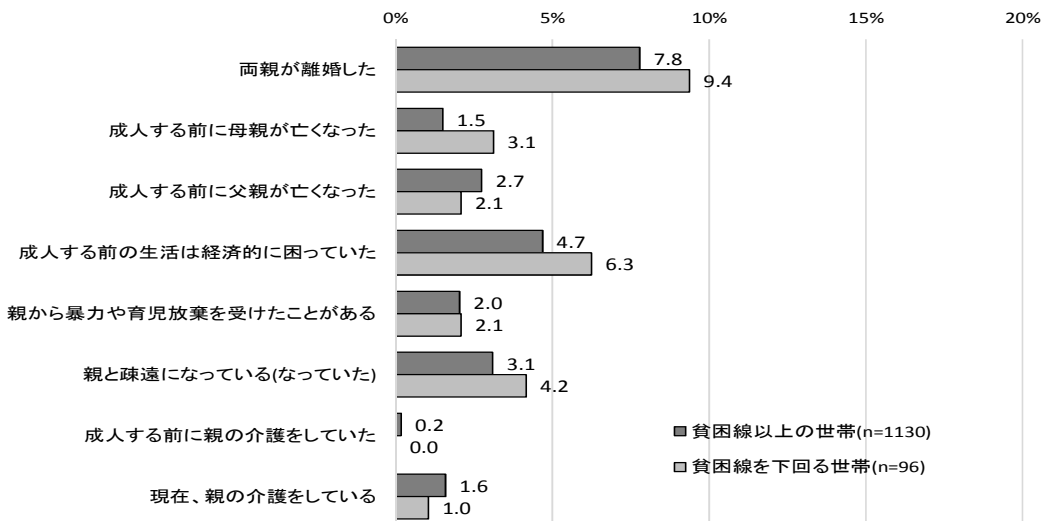
【経済的状况別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

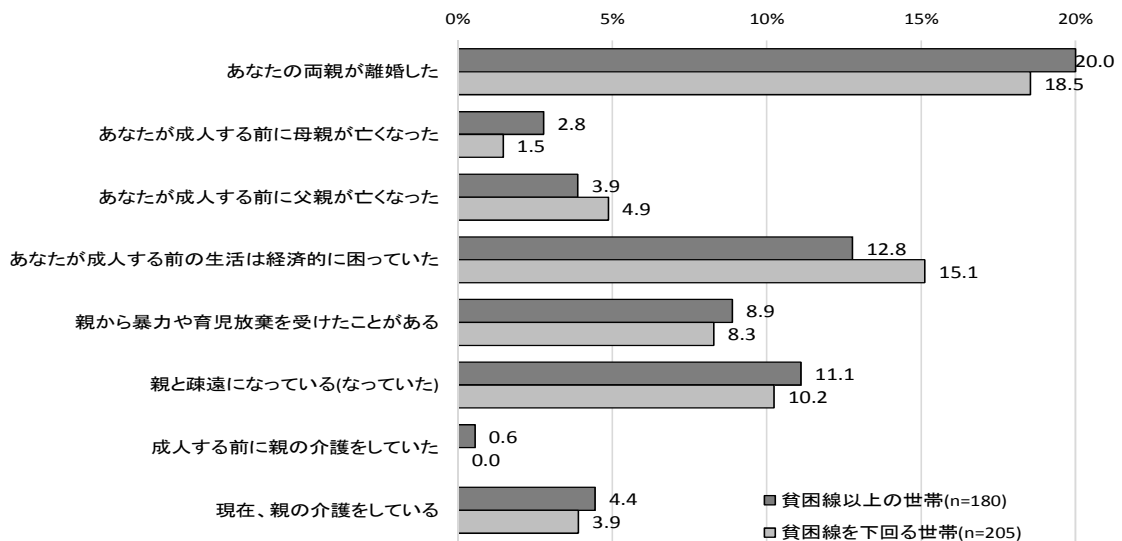
(父親)



(母親)



(児童育成手当受給世帯)

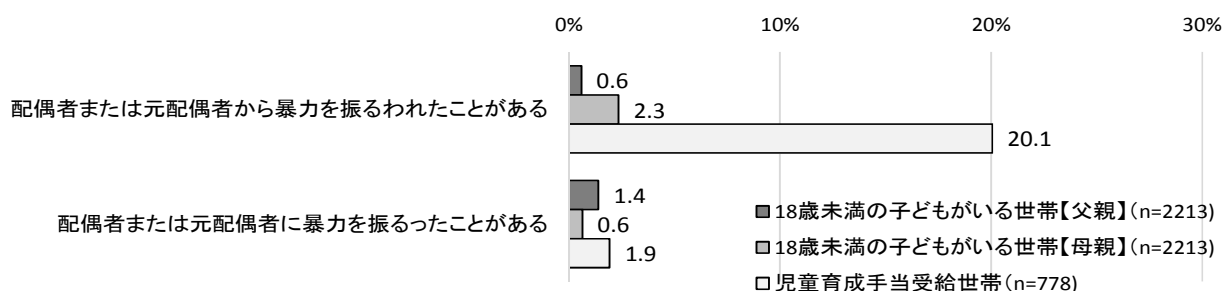


②保護者自身の配偶者との関係【複数回答】（子：問33、育：問32）

- 配偶者との関係、暴力の有無について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の父親では「配偶者または元配偶者に暴力を振るったことがある」が1.4%、母親では「配偶者または元配偶者に暴力を振るわれたことがある」が2.3%となっています。児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「配偶者または元配偶者に暴力を振るわれたことがある」が20.1%で、18歳未満の子どもがいる世帯の父親、母親と大きな差がみられます。
- 経済的状況別では、大きな差はみられませんでした。

◆保護者自身の配偶者との関係

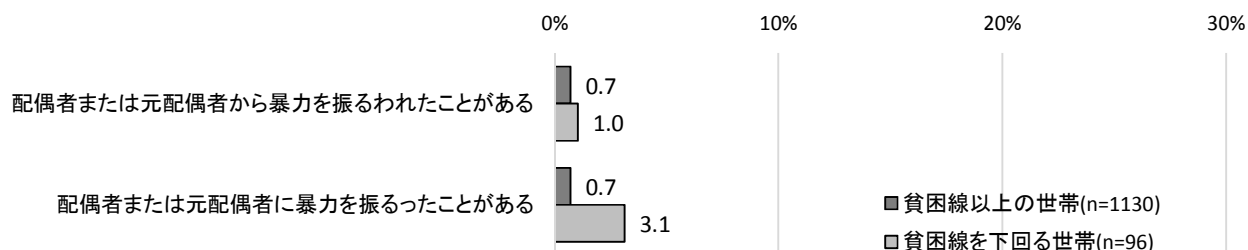
【アンケート全体】



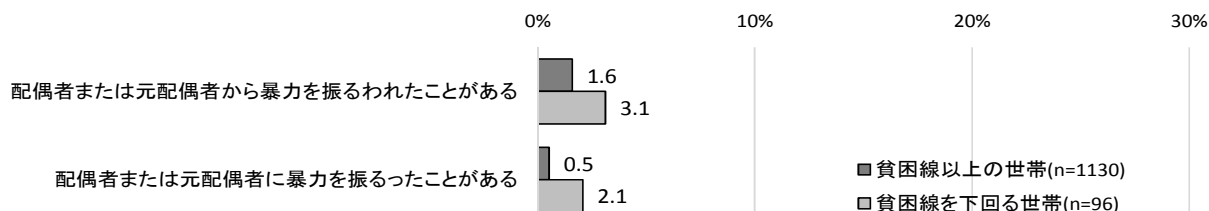
【経済的状況別】

（18歳未満の子どもがいる世帯）

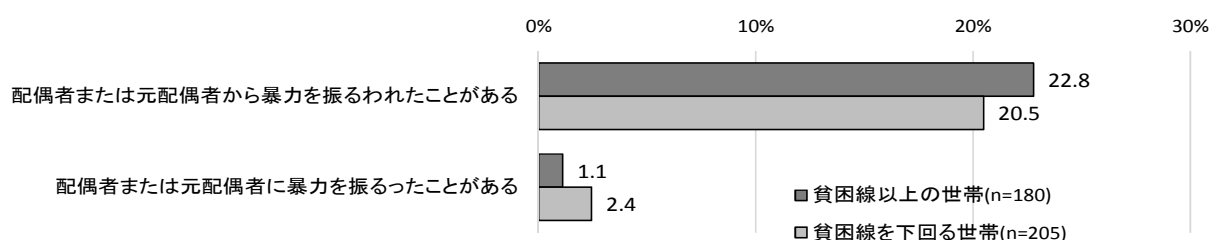
（父親）



（母親）



（児童育成手当受給世帯）



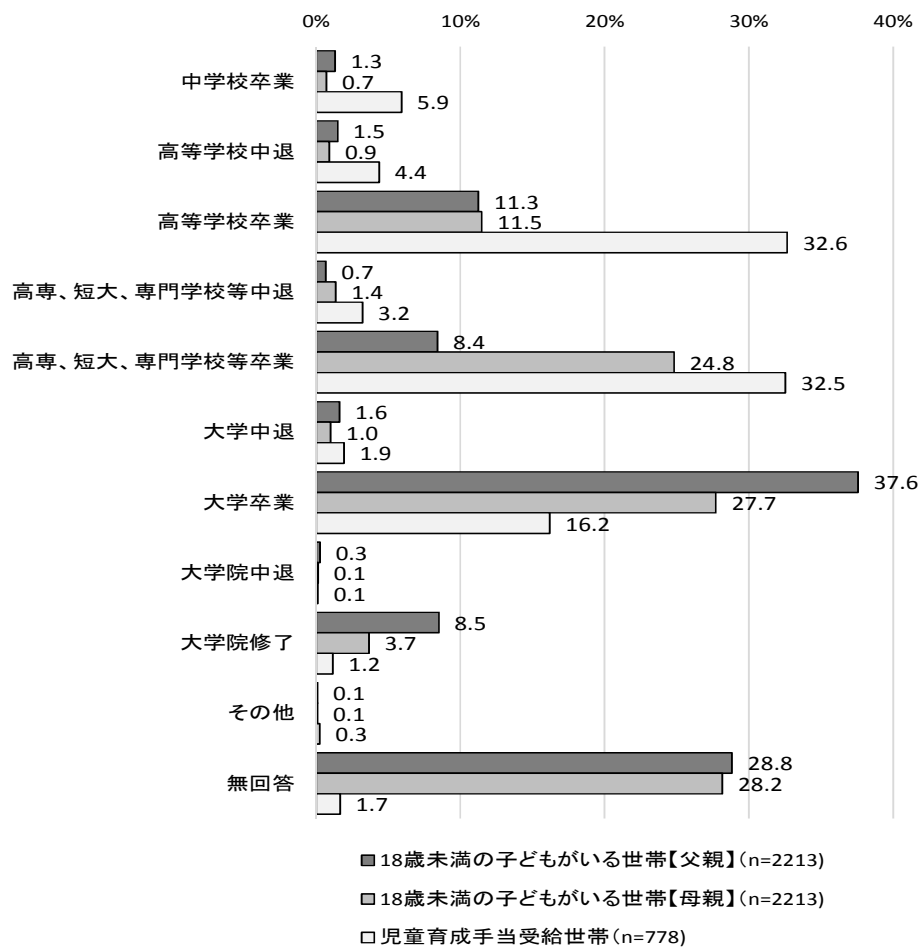
(2) 保護者の最終学歴

①保護者の最終学歴（子：問32、育：問33）

- 貧困の背景の要因に関する保護者の最終学歴について、「大学卒業」の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の父親で37.6%、母親で27.7%に対し、児童育成手当受給世帯アンケート全体では16.2%となっています。「中学校卒業」あるいは「高等学校中退」の回答では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の父親で2.8%、母親で1.6%に対し、児童育成手当受給世帯アンケート全体では10.3%となっています。
- 経済的状況別では、「大学卒業」の回答は、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの父親で39.2%、母親で30.4%、児童育成手当受給世帯アンケートで27.2%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートの父親で28.1%、母親で21.9%、児童育成手当受給世帯アンケートで15.1%となっており、経済的状況により差がみられます。

◆保護者の最終学歴

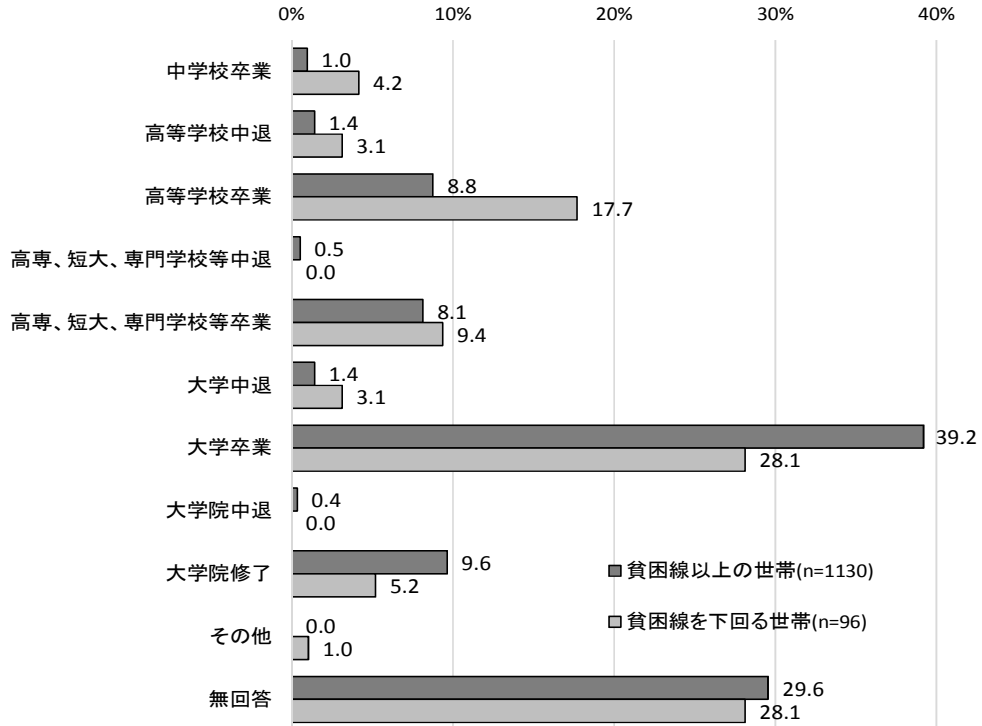
【アンケート全体】



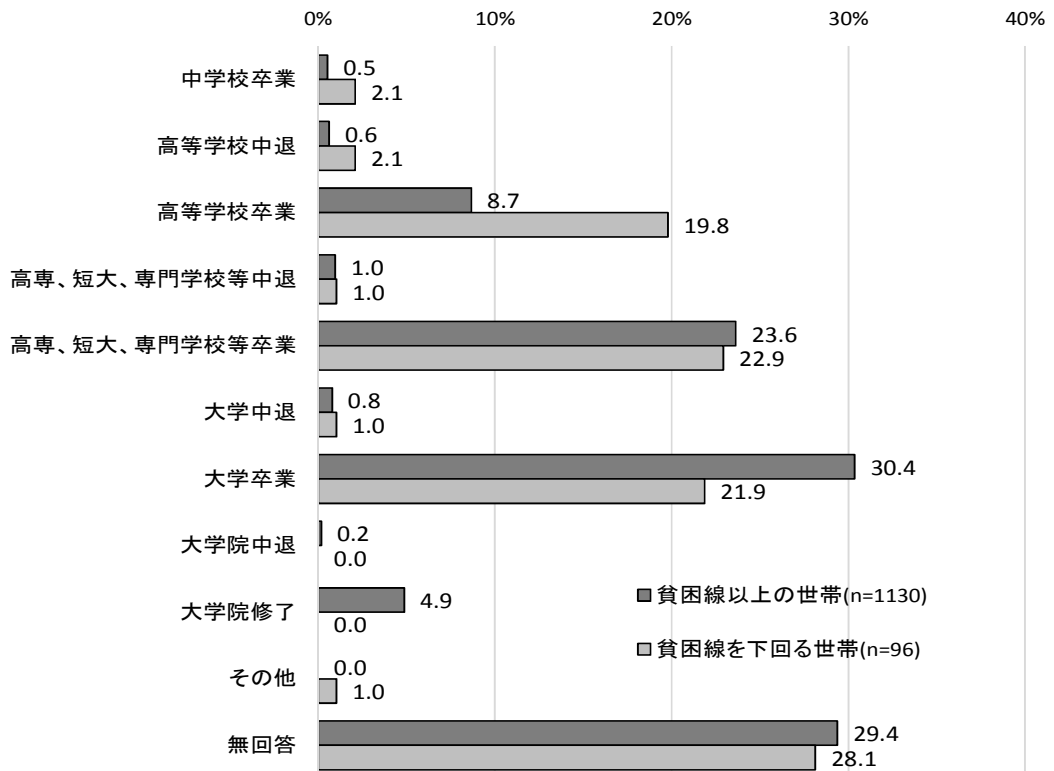
【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

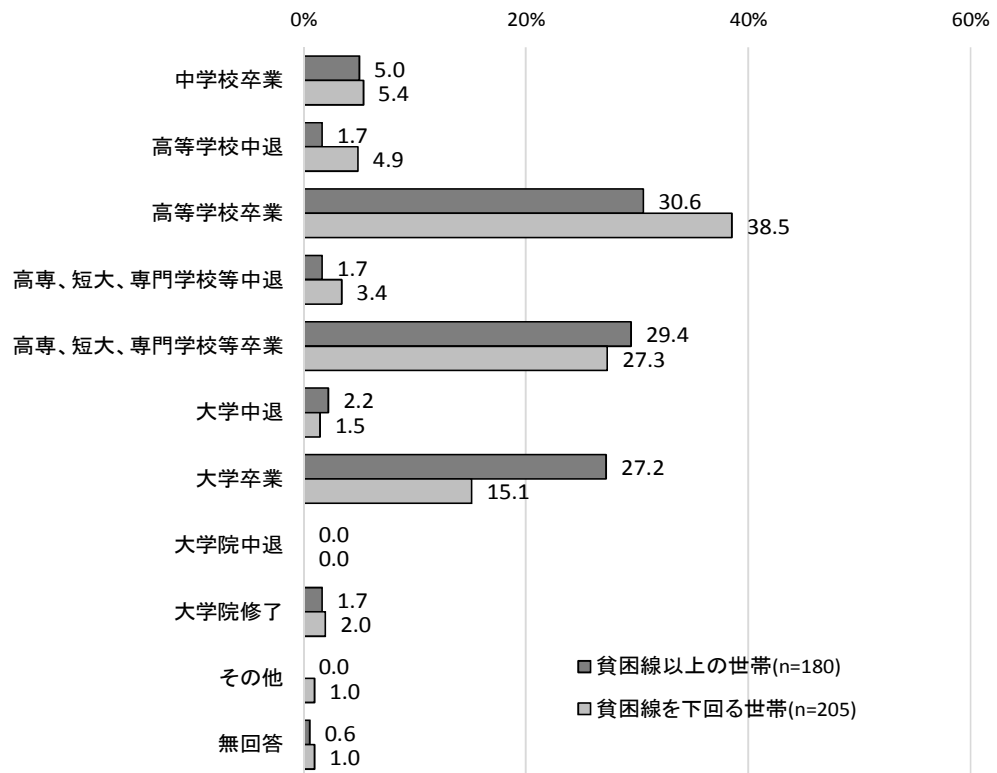
(父親)



(母親)



(児童育成手当受給世帯)

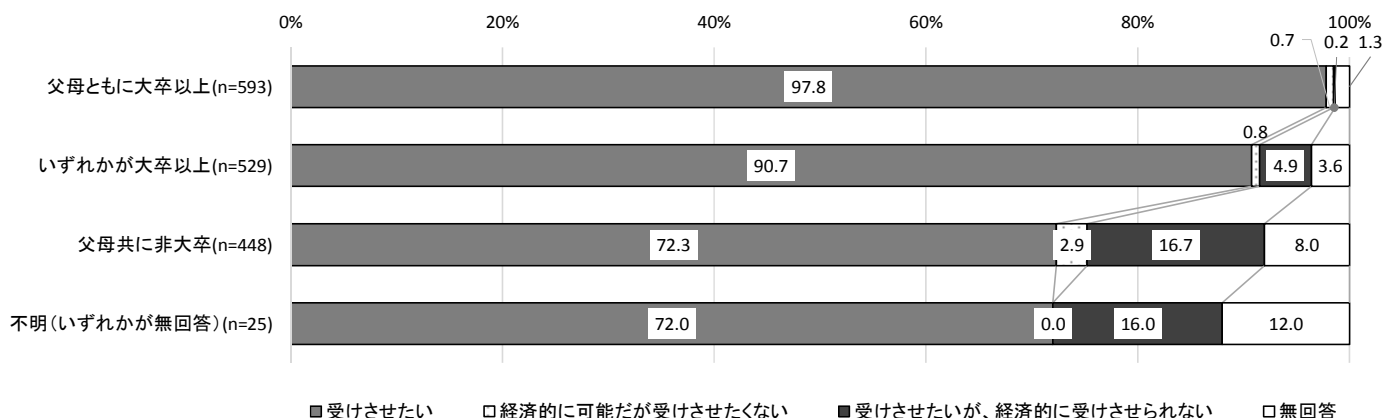


②保護者の最終学歴と子どもの進学に対する意向（子：問 32×問 13、育：問 33×問 20）

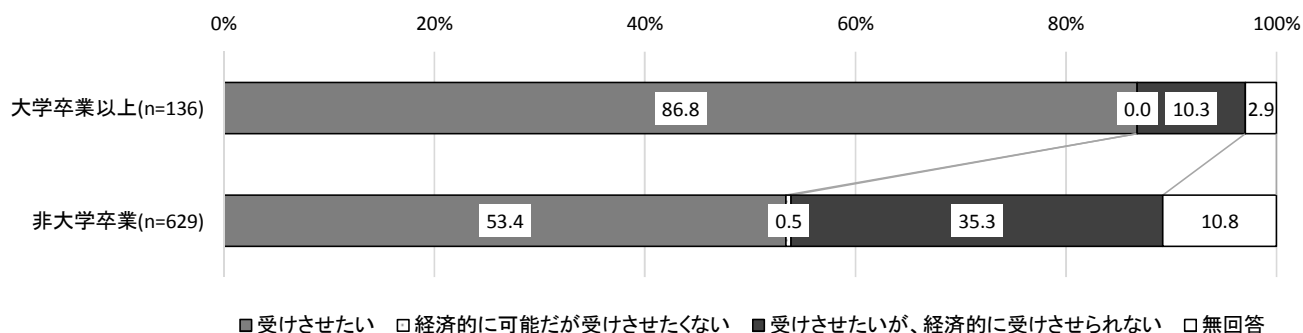
- 保護者の最終学歴と子どもの進学に対する意向の関係では、大学・大学院まで「受けさせたい」とする保護者は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、「父母ともに大学卒業以上」で97.8%、「いずれかが大卒以上」で90.7%、「父母共に非大卒」で72.3%、児童育成手当受給世帯アンケートでは、「大学卒業以上」で86.8%、「非大学卒業」で53.4%となっており、特に児童育成手当受給世帯で大きな差がみられます。
- また、大学・大学院まで「受けさせたいが、経済的に受けさせられない」とする保護者は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、「父母ともに大学卒業以上」で0.2%、「いずれかが大卒以上」で4.9%、「父母共に非大卒」で16.7%、児童育成手当受給世帯アンケートでは、「大学卒業以上」で10.3%、「非大学卒業」で35.3%となっており、明確な違いが見られます。

◆保護者の最終学歴と子どもの進学に対する意向

（18歳未満の子どもがいる世帯）



（児童育成手当受給世帯）



11. 必要としている支援等

【本節の概要】

○子どもについての悩み

子どもについての悩みについて、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート、児童育成手当受給世帯アンケートともに、「子どもの進学や受験」や「子どもの教育費」など、教育・進学に関する悩みが上位となっています。特に、児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「子どもの教育費」の回答が45.5%で、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の21.9%と比べて大幅に高くなっています。また、児童育成手当受給世帯では、「子どもが勉強しない」(19.7%)、「子どもが反抗的で、なかなかいうことを聞かない」(17.5%)など、子どもの育成に関する悩みが上位にきており、18歳未満の子どもがいる世帯と比べて8~10ポイント程度高くなっています。「貧困線を下回る世帯」では、いずれも「子どもの教育費」の回答が最も高くなっています。

子どもの年齢別では、18歳未満の子どもがいる世帯では、「0~5歳」で、「子供の食事や栄養」の回答が最も高く、『6~18歳』では、「子どもの進学や受験」の回答が最も高くなっています。児童育成手当受給世帯では、『0~11歳』で、「子どもの教育費」の回答が最も高く、『12~18歳』では、「子どもの進学や受験」の回答が最も高くなっています。

○子どもにとってあるとよい支援

子どもにとってあるとよいと思う支援について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供」(48.4%)、「地域における子どもの居場所の提供」(41.5%)など、子どもの体験、居場所等に関する回答が高く、児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「就学のための経済的支援」(65.6%)、「生活のための経済的支援」(47.4%)、など、経済的支援等に関する回答が高くなっています。

経済的状況別では、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯、児童育成手当受給世帯ともに、「就学のための経済的支援」の回答が最も高くなっています。経済的支援以外では、18歳未満の子どもがいる世帯では、「多様な活動機会の提供」、「子ども本人が相談できる場所」が、児童育成手当受給世帯では、「子ども本人がなんでも相談できる場所」、「会社などでの職場体験等の機会の提供」が、上位となっています。

子どもの年齢別では、18歳未満の子どもがいる世帯では、『0~11歳』で、「自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供」の回答が最も高く、『12~18歳』では、「就学のための経済的支援」の回答が最も高くなっています。児童育成手当受給世帯では、全ての年齢層において、「就学のための経済的支援」の回答が最も高くなっています。

○子ども食堂や無料の学習支援制度の利用意向

子ども食堂などの夜の居場所や学生ボランティア等による無料の学習支援制度の利用意向について、「現在利用している」と「今後利用したいと思う」を合わせた『利用したい』の回答は、

子ども食堂などの夜の居場所では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体で16.3%、児童育成手当受給世帯アンケート全体で30.3%、無料の学習支援制度では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体で53.2%、児童育成手当受給世帯アンケート全体で68.7%となっています。

経済的状況別では、『利用したい』の回答が、児童育成手当受給世帯では、大きな差はみられませんが、18歳未満の子どもがいる世帯では、「貧困線を下回る世帯」の方が「貧困線以上の世帯」と比べて高くなっています。

子どもの年齢別では、『利用したい』の回答が、「6～11歳」が最も高く、「12～14歳」と続いています。

○保護者が重要だと思う支援

保護者が現在必要としていること、重要だと思う支援について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート、児童育成手当受給世帯アンケートともに、「子どもの就学にかかる費用の軽減」の回答が最も高く、「様々な行政サービスの申請や相談がひとつの場所でできること」の回答も高くなっています。特に、児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「子どもの就学にかかる費用の軽減」が63.9%と高く、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体の52.8%より11.1ポイント高くなっています。また、児童育成手当受給世帯では、「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援」、「資格や技能の取得支援」、「就職・転職のための支援」の回答も高くなっています。

経済的状況別では、児童育成手当受給世帯では、大きな差はみられませんが、18歳未満の子どもがいる世帯では「子どもの就学にかかる費用の軽減」や「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援」について、大きな差がみられます。

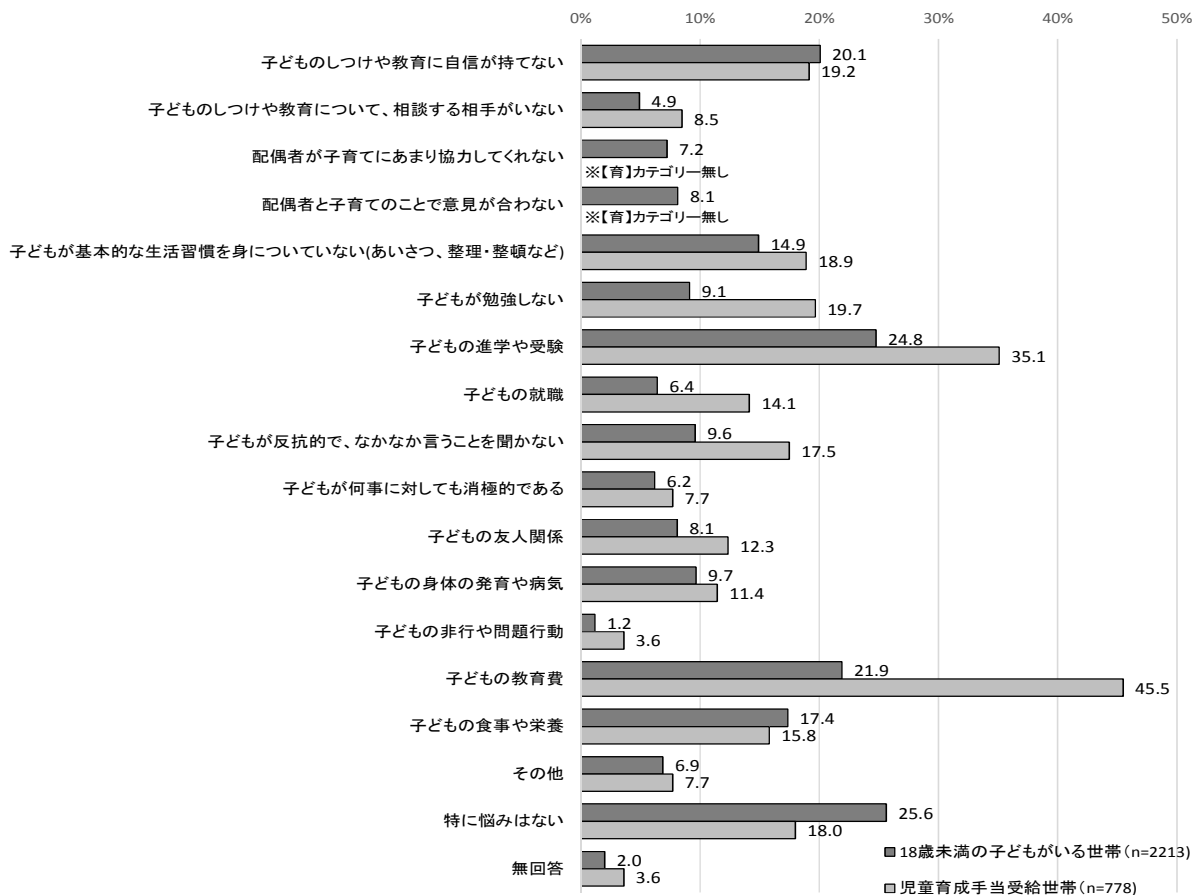
(1) 子どもについての悩み

①子どもについて悩んでいること【複数回答】(子：問14、育：問21)

- 子どもについて、現在悩んでいることをうかがったところ、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「子どもの進学や受験」(24.8%)に次いで、「子どもの教育費」(21.9%)、「子どものしつけや教育に自信が持てない」(20.1%)の回答が高く、児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「子どもの教育費」(45.5%)に次いで、「子どもの進学や受験」(35.1%)、「子どもが勉強しない」(19.7%)の回答が高くなっています。
- 経済的状況別では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、「子どもの教育費」において差がみられ、「貧困線以上の世帯」が19.4%に対し、「貧困線を下回る世帯」では27.1%となっています。児童育成手当受給世帯アンケートでは、経済的状況別による大きな差はみられません。
- 子どもの年齢別にみると、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、「0～5歳」では「子どもの食事や栄養」が、「6～11歳」、「12～14歳」、「15～18歳」では「子どもの進学や受験」の回答が最も高くなっています。児童育成手当受給世帯アンケートでは、「0～5歳」、「6～11歳」では「子どもの教育費」が、「12～14歳」、「15～18歳」では「子どもの進学や受験」の回答が最も高くなっています。

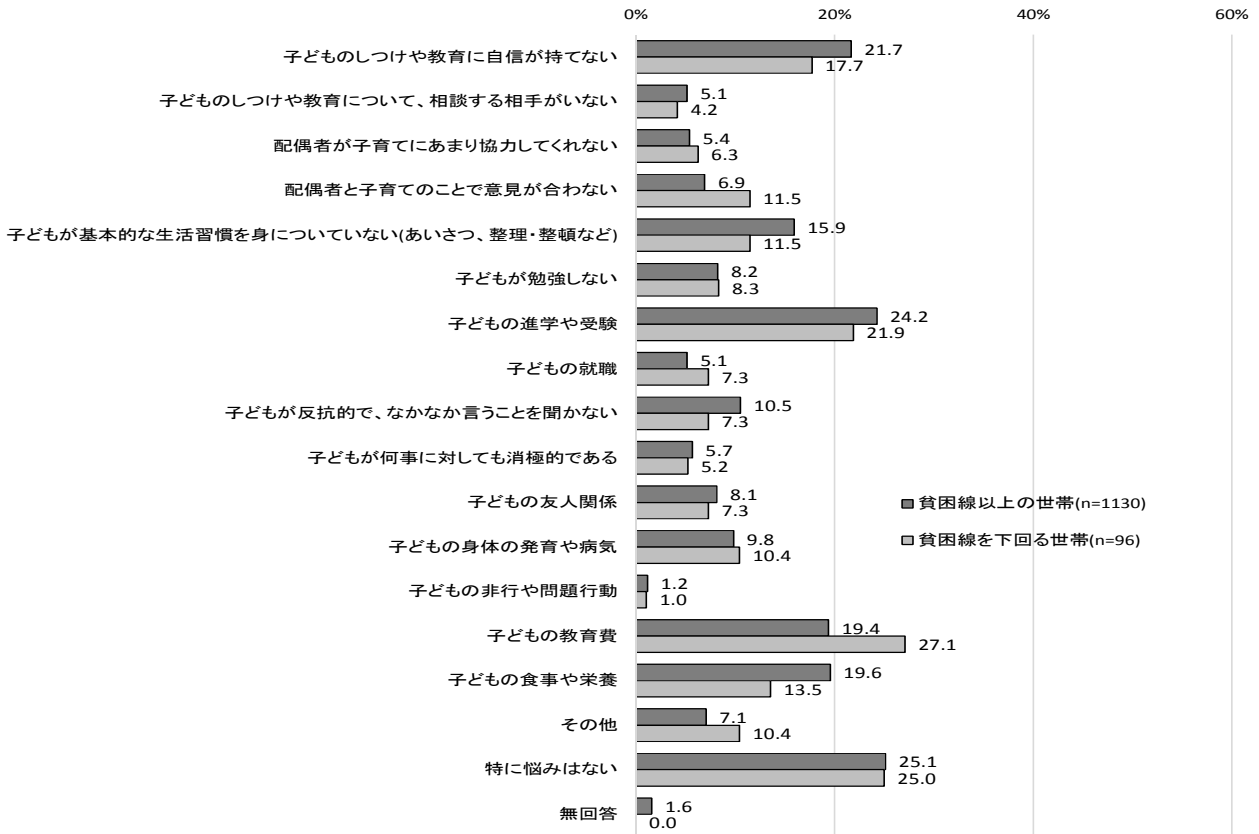
◆子どもについて悩んでいること

【アンケート全体】

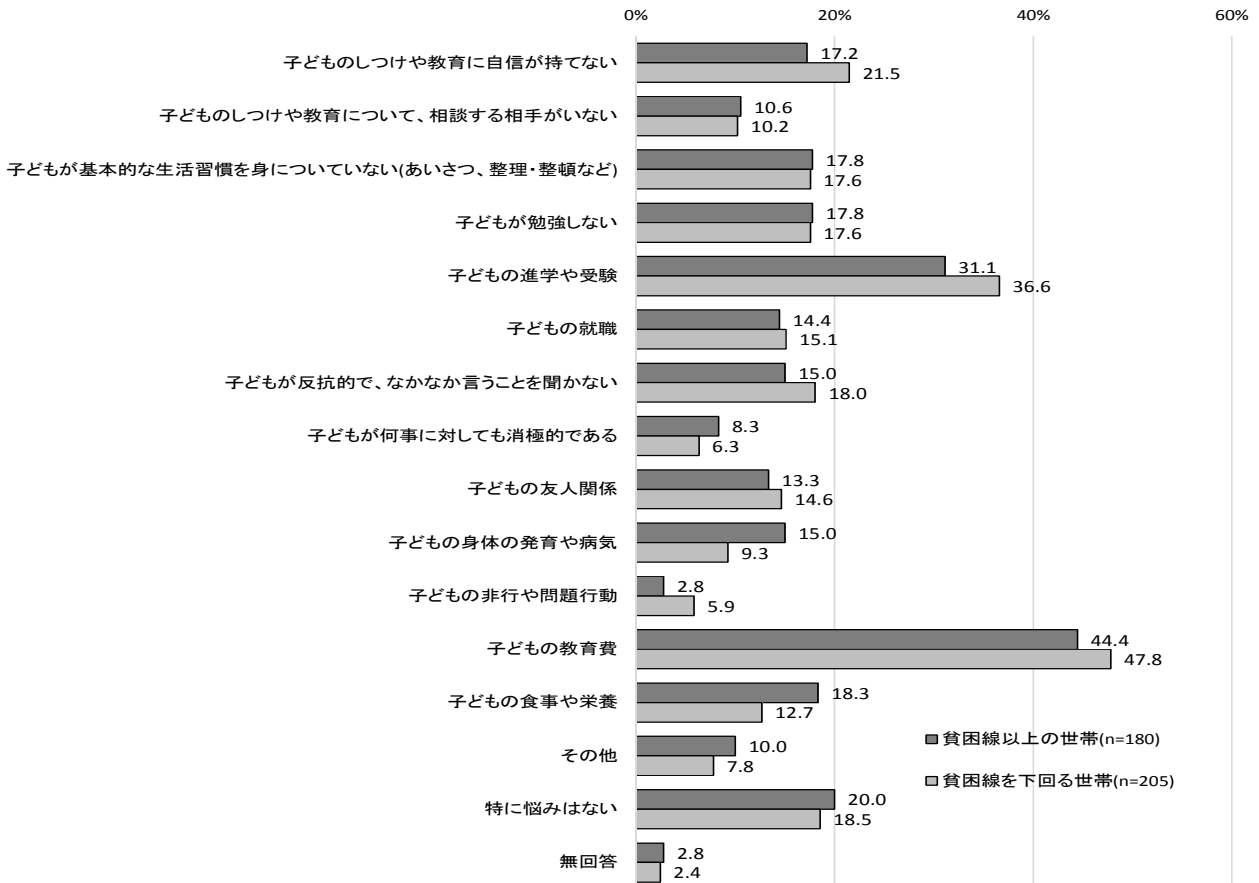


【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



【子どもの年齢別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	子どものしつけや教育に自信が持てない	子どものしつけや教育について、相談する相手がいない	子どもが基本的な生活習慣を身につけていない(あいさつ、整理・整頓など)	子どもが勉強しない	子どもの進学や受験	子どもの就職	子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない	子どもが何事に対しても消極的である	子どもの友人関係	子どもの身体の発育や病気	子どもの非行や問題行動	子どもの教育費	子どもの食事や栄養	その他	特に悩みはない	無回答		
全体	2213 100.0	444 20.1	109 4.9	160 7.2	180 8.1	330 14.9	202 9.1	548 24.8	142 6.4	212 9.6	137 6.2	179 8.1	214 9.7	26 1.2	485 21.9	384 17.4	152 6.9	567 25.6	44 2.0
0～5歳	963 100.0	250 26.0	47 4.9	57 5.9	55 5.7	76 7.9	6 0.6	67 7.0	9 0.9	76 7.9	13 1.3	43 4.5	104 10.8	11 1.1	132 13.7	255 26.5	77 8.0	310 32.2	21 2.2
6～11歳	490 100.0	111 22.7	27 5.5	44 9.0	61 12.4	120 24.5	59 12.0	126 25.7	19 3.9	58 11.8	54 11.0	81 16.5	49 10.0	8 1.6	111 22.7	55 11.2	30 6.1	105 21.4	12 2.4
12～14歳	260 100.0	34 13.1	12 4.6	20 7.7	29 11.2	54 20.8	53 20.4	119 45.8	33 12.7	37 14.2	26 10.0	26 10.0	24 9.2	6 2.3	87 33.5	26 10.0	17 6.5	49 18.8	2 0.8
15～18歳	428 100.0	35 8.2	16 3.7	35 8.2	26 6.1	73 17.1	82 19.2	217 50.7	76 17.8	38 8.9	43 10.0	25 5.8	31 7.2	1 0.2	138 32.2	41 9.6	20 4.7	87 20.3	8 1.9
上記以外	9 100.0	2 22.2	1 11.1	0 0.0	1 11.1	1 11.1	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	2 22.2	1 11.1	2 22.2	3 33.3	0 0.0

(児童育成手当受給世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	子どものしつけや教育に自信が持てない	子どものしつけや教育について、相談する相手がいない	子どもが基本的な生活習慣を身につけていない(あいさつ、整理・整頓など)	子どもが勉強しない	子どもの進学や受験	子どもの就職	子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない	子どもが何事に対しても消極的である	子どもの友人関係	子どもの身体の発育や病気	子どもの非行や問題行動	子どもの教育費	子どもの食事や栄養	その他	特に悩みはない	無回答
全体	778 100.0	149 19.2	66 8.5	147 18.9	153 19.7	273 35.1	110 14.1	136 17.5	60 7.7	96 12.3	89 11.4	28 3.6	354 45.5	123 15.8	60 7.7	140 18.0	28 3.6
0～5歳	156 100.0	38 24.4	15 9.6	20 12.8	2 1.3	15 9.6	7 4.5	21 13.5	4 2.6	10 6.4	17 10.9	3 1.9	60 38.5	30 19.2	19 12.2	44 28.2	6 3.8
6～11歳	217 100.0	52 24.0	18 8.3	52 24.0	40 18.4	53 24.4	24 11.1	37 17.1	21 9.7	46 21.2	26 12.0	5 2.3	108 49.8	39 18.0	18 8.3	35 16.1	4 1.8
12～14歳	199 100.0	45 22.6	17 8.5	42 21.1	77 38.7	105 52.8	37 18.6	48 24.1	21 10.6	23 11.6	27 13.6	10 5.0	90 45.2	20 10.1	10 5.0	24 12.1	6 3.0
15～18歳	184 100.0	11 6.0	12 6.5	29 15.8	28 15.2	89 48.4	37 20.1	27 14.7	13 7.1	16 8.7	17 9.2	9 4.9	83 45.1	27 14.7	10 5.4	33 17.9	10 5.4

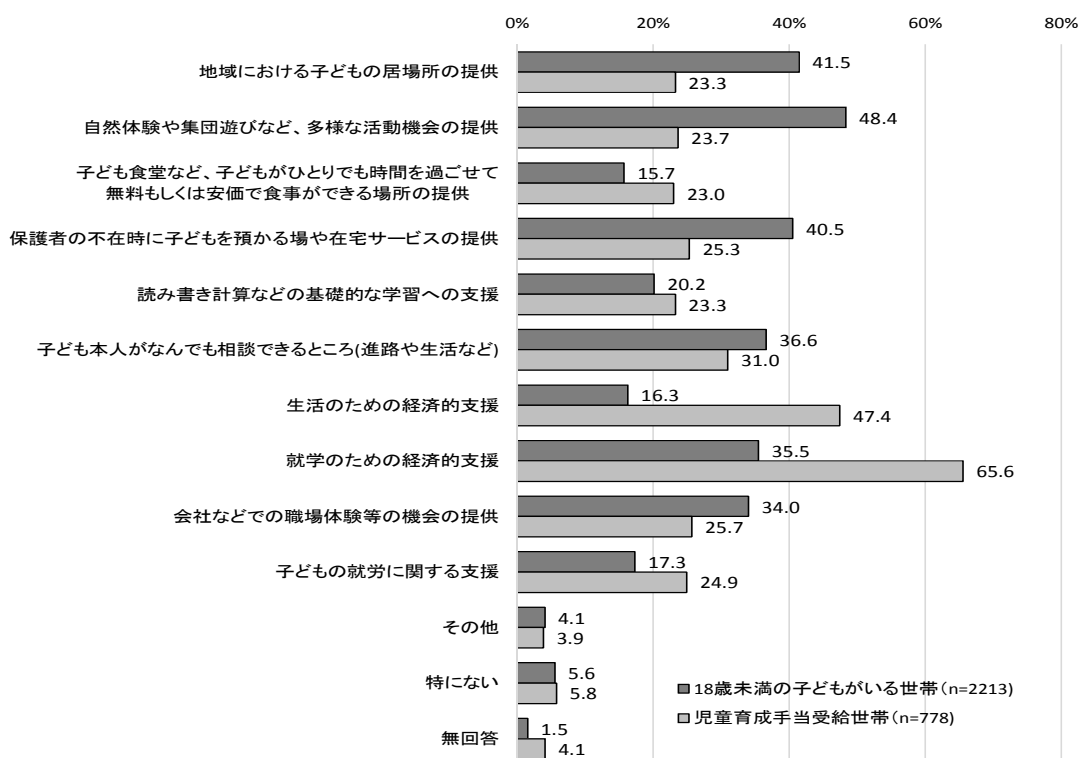
(2) 子どもにとってあるとよいと思う支援

①子どもにとってあるとよいと思う支援【複数回答】（子：問16、育：問22）

- 子どもにとってあるとよいと思う支援について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供」（48.4%）に次いで、「地域における子どもの居場所の提供」（41.5%）、「保護者の不在時に子どもを預かる場や在宅サービスの提供」（40.5%）の回答が高く、児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「就学のための経済的支援」（65.6%）に次いで、「生活のための経済的支援」（47.4%）、「子ども本人がなんでも相談できるところ（進路や生活）」（31.0%）の回答が高くなっています。
- 経済的状況別では、「生活のための経済的支援」及び「就学のための経済的支援」の回答が、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでそれぞれ13.3%及び32.0%、児童育成手当受給世帯アンケートでそれぞれ41.1%及び61.7%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでそれぞれ33.3%及び52.1%、児童育成手当受給世帯アンケートでそれぞれ50.2%及び71.2%となっており、経済的状況により差がみられます。
- 子どもの年齢別では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、「0～5歳」、「6～11歳」で、「自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供」の回答が最も高く、「12～14歳」、「15～18歳」では、「就学のための経済的支援」の回答が最も高くなっています。児童育成手当受給世帯アンケートでは、全ての年齢層において、「就学のための経済的支援」の回答が最も高くなっています。

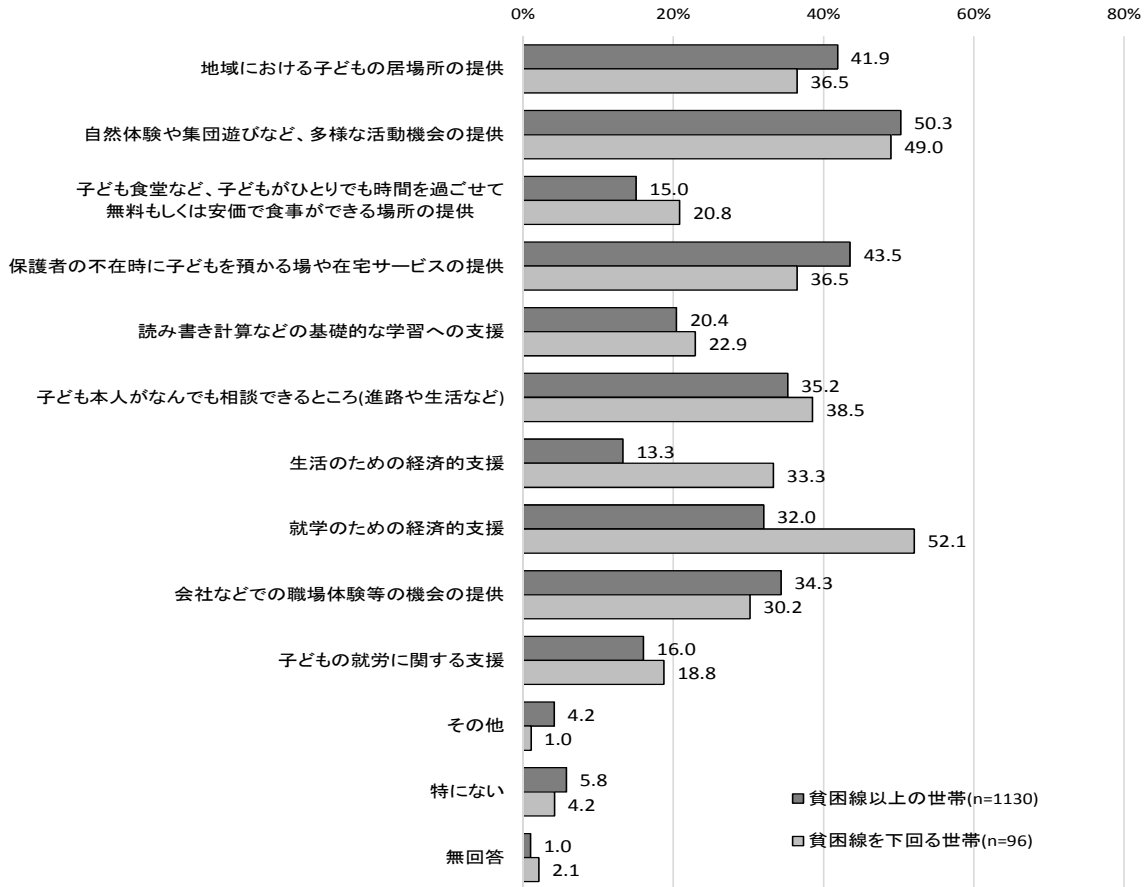
◆子どもにとってあるとよいと思う

【アンケート全体】

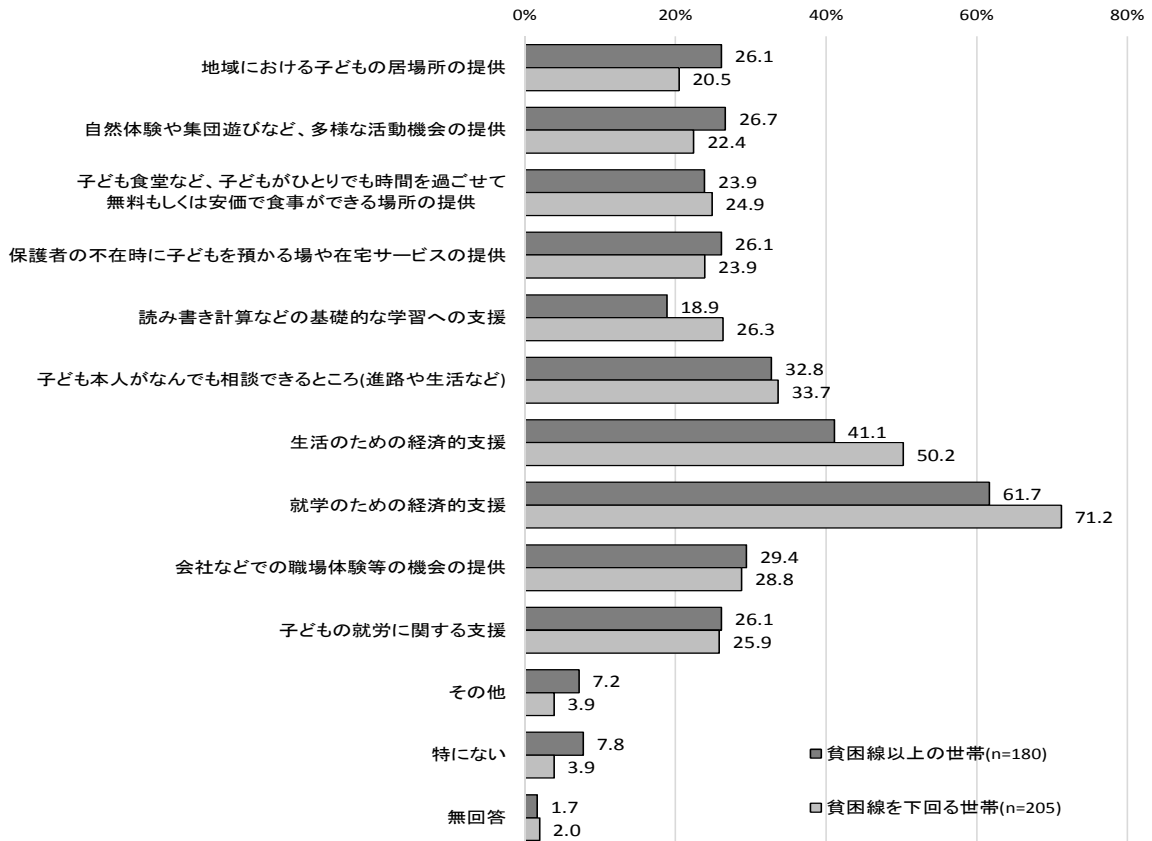


【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



【子どもの年齢別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	地域における子どもの居場所の提供	自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供	子ども食堂など、子どもがひとりで食事ができる場所の提供	子どもがひとりで時間を過ごす場所の提供	保護者の不在時に子どもを預かる場や在宅サービスの提供	読み書き計算などの基礎的な学習への支援	子ども本人がなんでも相談できる場所(進路や生活など)	生活のための経済的支援	就学のための経済的支援	会社などでの職場体験等の機会の提供	子どもの就労に関する支援	その他	特になし	無回答
全体	2213 100.0	918 41.5	1070 48.4	348 15.7	897 40.5	446 20.2	810 36.6	360 16.3	785 35.5	753 34.0	383 17.3	90 4.1	123 5.6	34 1.5	
0～5歳	963 100.0	602 62.5	660 68.5	207 21.5	616 64.0	272 28.2	382 39.7	206 21.4	319 33.1	321 33.3	159 16.5	45 4.7	7 0.7	16 1.7	
6～11歳	490 100.0	211 43.1	289 59.0	69 14.1	188 38.4	105 21.4	190 38.8	62 12.7	152 31.0	172 35.1	65 13.3	20 4.1	17 3.5	5 1.0	
12～14歳	260 100.0	47 18.1	50 19.2	30 11.5	31 11.9	30 11.5	94 36.2	28 10.8	105 40.4	82 31.5	44 16.9	10 3.8	32 12.3	5 1.9	
15～18歳	428 100.0	29 6.8	37 8.6	29 6.8	36 8.4	26 6.1	115 26.9	55 12.9	189 44.2	157 36.7	104 24.3	13 3.0	65 15.2	4 0.9	
19歳以上	9 100.0	5 55.6	6 66.7	3 33.3	3 33.3	2 22.2	4 44.4	1 11.1	3 33.3	2 22.2	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

(児童育成手当受給世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	地域における子どもの居場所の提供	自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供	子ども食堂など、子どもがひとりで食事ができる場所の提供	子どもがひとりで時間を過ごす場所の提供	保護者の不在時に子どもを預かる場や在宅サービスの提供	読み書き計算などの基礎的な学習への支援	子ども本人がなんでも相談できる場所(進路や生活など)	生活のための経済的支援	就学のための経済的支援	会社などでの職場体験等の機会の提供	子どもの就労に関する支援	その他	特になし	無回答
全体	778 100.0	181 23.3	184 23.7	179 23.0	197 25.3	181 23.3	241 31.0	369 47.4	510 65.6	200 25.7	194 24.9	30 3.9	45 5.8	32 4.1	
0～5歳	156 100.0	68 43.6	73 46.8	52 33.3	78 50.0	58 37.2	51 32.7	86 55.1	95 60.9	44 28.2	35 22.4	6 3.8	7 4.5	7 4.5	
6～11歳	217 100.0	70 32.3	75 34.6	65 30.0	81 37.3	77 35.5	78 35.9	112 51.6	144 66.4	51 23.5	51 23.5	3 1.4	9 4.1	9 4.1	
12～14歳	199 100.0	31 15.6	23 11.6	40 20.1	24 12.1	35 17.6	61 30.7	92 46.2	126 63.3	55 27.6	41 20.6	11 5.5	11 5.5	8 4.0	
15～18歳	184 100.0	8 4.3	10 5.4	18 9.8	9 4.9	8 4.3	47 25.5	69 37.5	130 70.7	45 24.5	60 32.6	8 4.3	17 9.2	7 3.8	

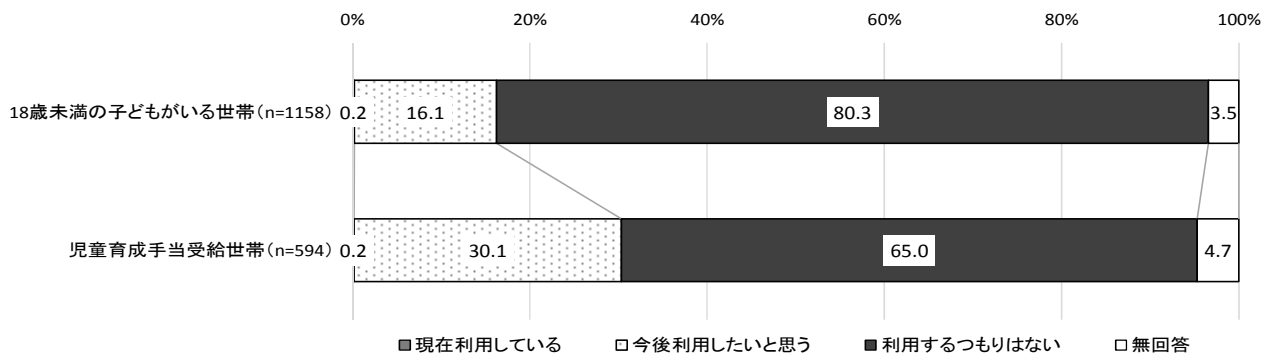
(3) 子ども食堂などの夜の居場所の利用意向

①子ども食堂などの夜の居場所の利用意向（子：問7、育：問14）

- 子ども食堂などの夜の居場所の利用意向について、「現在利用している」と「今後利用したいと思う」を合わせた『利用したい』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体で16.3%、児童育成手当受給世帯アンケート全体で30.3%となっています。
- 経済的状況別では、『利用したい』の回答が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは、「貧困線以上の世帯」で15.3%、「貧困線を下回る世帯」で27.5%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。児童育成手当受給世帯アンケートでは、経済的状況別による大きな差はみられません。
- 子どもの年齢別では、「6～11歳」で『利用したい』の回答が最も高く、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで21.9%、児童育成手当受給世帯アンケートで39.7%となっています。また、児童育成手当受給世帯アンケートでは、「12～14歳」で28.4%、「15～18歳」で21.4%が『利用したい』と回答しています。
- 親の帰宅時間別では、「20～22時の間」で『利用したい』の回答が最も高く、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで22.8%、児童育成手当受給世帯アンケートで40.4%となっています。また、児童育成手当受給世帯アンケートでは、「18時まで」で29.7%、「18～20時の間」で30.0%、「22～24時の間」で35.7%が『利用したい』と回答しています。

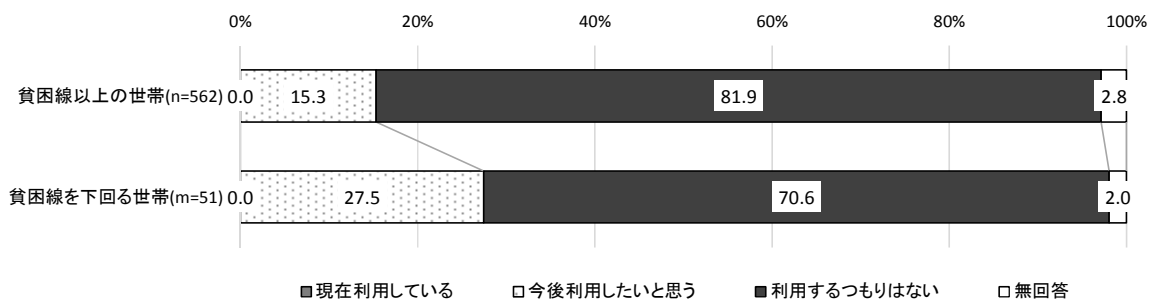
◆子ども食堂など夜の居場所の利用意向

【アンケート全体】

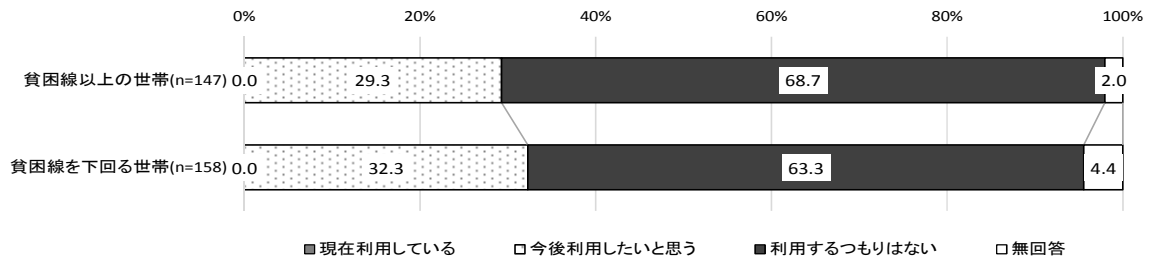


【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



【子どもの年齢別・居住地区別・保護者の帰宅時間別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)		合計	現在利用 している	今後利用 したいと 思う	利用する つもりは ない	無回答	非該当
全体		1158 100.0	2 0.2	186 16.1	930 80.3	40 3.5	1055
子どもの年齢	0-5歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	963
	6-11歳	469 100.0	2 0.4	101 21.5	353 75.3	13 2.8	21
	12-14歳	260 100.0	0 0.0	32 12.3	219 84.2	9 3.5	0
	15-18歳	418 100.0	0 0.0	50 12.0	351 84.0	17 4.1	10
	上記以外	5 100.0	0 0.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0	4
居住地区	浮間地区	115 100.0	0 0.0	18 15.7	92 80.0	5 4.3	107
	赤羽西地区	244 100.0	1 0.4	37 15.2	202 82.8	4 1.6	179
	赤羽東地区	165 100.0	0 0.0	24 14.5	135 81.8	6 3.6	160
	王子西地区	79 100.0	0 0.0	10 12.7	66 83.5	3 3.8	90
	王子東地区	255 100.0	1 0.4	46 18.0	198 77.6	10 3.9	234
	滝野川西地区	237 100.0	0 0.0	33 13.9	195 82.3	9 3.8	233
	滝野川東地区	56 100.0	0 0.0	15 26.8	39 69.6	2 3.6	47
親の帰宅時間	18時まで	356 100.0	1 0.3	63 17.7	278 78.1	14 3.9	271
	18～20時の間	267 100.0	0 0.0	45 16.9	214 80.1	8 3.0	201
	20～22時の間	123 100.0	0 0.0	28 22.8	92 74.8	3 2.4	111
	22～24時の間	76 100.0	0 0.0	8 10.5	64 84.2	4 5.3	87

※親の帰宅時間は、父親の帰宅時間と母親の帰宅時間で、「どちらか早いほう」で集計。

(児童育成手当受給世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)		合計	現在利用 している	今後利用 したいと 思う	利用する つもりは ない	無回答	非該当
全体		594 100.0	1 0.2	179 30.1	386 65.0	28 4.7	184
年齢	0-5歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	156
	6-11歳	209 100.0	1 0.5	82 39.2	117 56.0	9 4.3	8
	12-14歳	197 100.0	0 0.0	56 28.4	129 65.5	12 6.1	2
	15-18歳	182 100.0	0 0.0	39 21.4	137 75.3	6 3.3	2
	上記以外	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
	居住地区	浮間地区	54 100.0	0 0.0	14 25.9	38 70.4	2 3.7
	赤羽西地区	113 100.0	0 0.0	39 34.5	71 62.8	3 2.7	32
	赤羽東地区	69 100.0	0 0.0	20 29.0	43 62.3	6 8.7	26
	王子西地区	55 100.0	0 0.0	17 30.9	36 65.5	2 3.6	22
	王子東地区	132 100.0	0 0.0	42 31.8	82 62.1	8 6.1	42
	滝野川西地区	99 100.0	0 0.0	22 22.2	76 76.8	1 1.0	31
	滝野川東地区	28 100.0	0 0.0	6 21.4	18 64.3	4 14.3	6
普段の帰宅時間	18時まで	158 100.0	1 0.6	46 29.1	103 65.2	8 5.1	54
	18～20時の間	217 100.0	0 0.0	65 30.0	145 66.8	7 3.2	61
	20～22時の間	52 100.0	0 0.0	21 40.4	27 51.9	4 7.7	9
	22～24時の間	14 100.0	0 0.0	5 35.7	7 50.0	2 14.3	5
	その他時頃	28 100.0	0 0.0	6 21.4	21 75.0	1 3.6	8
	交替制勤務で帰宅時 間は決まっていない	27 100.0	0 0.0	9 33.3	16 59.3	2 7.4	3

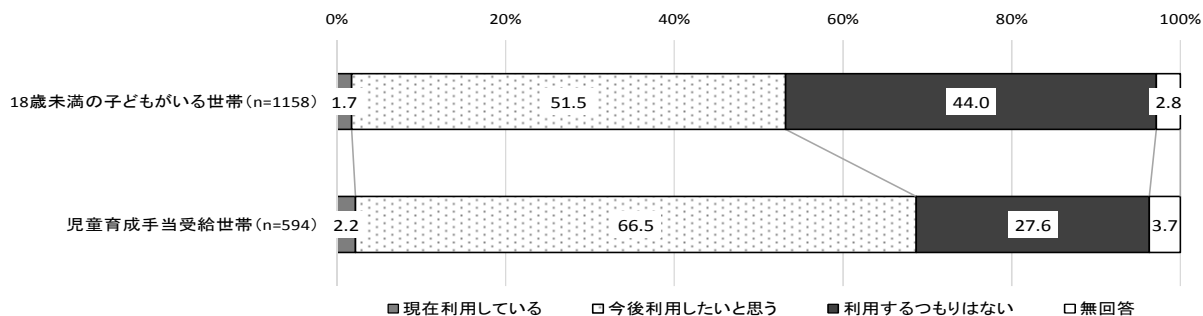
(4) 学生ボランティア等による無料の学習支援制度の利用意向

① 学生ボランティア等による無料の学習支援制度の利用意向（子：問10、育：問17）

- 学生ボランティア等による無料の学習支援制度（学習の手助けなど）の利用意向について、「現在利用している」と「今後利用したいと思う」を合わせた『利用したい』の回答は、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体で53.2%、児童育成手当受給世帯アンケート全体で68.7%となっています。
- 経済的状況別では、『利用したい』の回答が、「貧困線以上の世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで50.9%、児童育成手当受給世帯アンケートで66.0%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで68.6%、児童育成手当受給世帯アンケートで72.1%となっており、「貧困線を下回る世帯」の回答の方が高くなっています。
- 子どもの年齢別では、『利用したい』の回答は、「6～11歳」が、18歳未満の子どもがいる世帯で63.7%、児童育成手当受給世帯アンケートで79.9%、「12～14歳」が、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートで56.5%、児童育成手当受給世帯アンケートで72.1%となっており、他の年齢と比べて高くなっています。

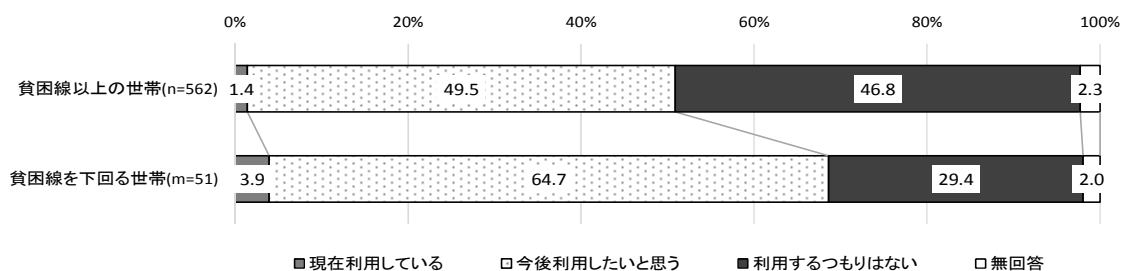
◆ 学生ボランティア等による無料の学習支援制度の利用意向

【アンケート全体】

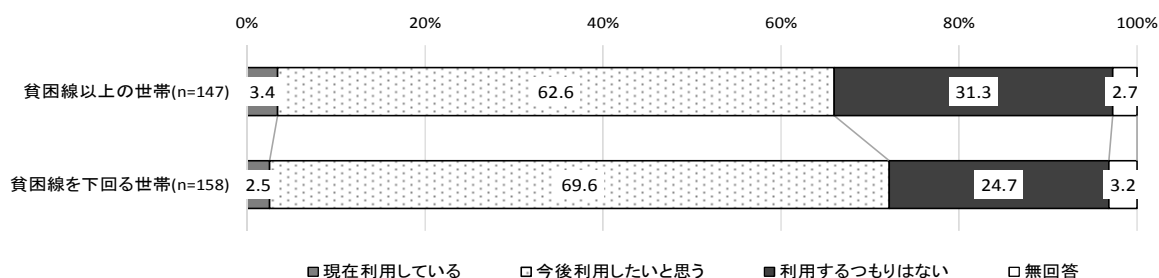


【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



【子どもの年齢別・居住地区別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)		合計	現在利用 している	今後利用 したいと 思う	利用する つもりは ない	無回答	非該当
全体		1158 100.0	20 1.7	596 51.5	509 44.0	33 2.8	1055
年齢	0-5歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	963
	6-11歳	469 100.0	10 2.1	289 61.6	159 33.9	11 2.3	21
	12-14歳	260 100.0	7 2.7	140 53.8	109 41.9	4 1.5	0
	15-18歳	418 100.0	3 0.7	160 38.3	238 56.9	17 4.1	10
	上記以外	5 100.0	0 0.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0	4
居住地区	浮間地区	115 100.0	2 1.7	64 55.7	46 40.0	3 2.6	107
	赤羽西地区	244 100.0	2 0.8	115 47.1	123 50.4	4 1.6	179
	赤羽東地区	165 100.0	4 2.4	83 50.3	72 43.6	6 3.6	160
	王子西地区	79 100.0	1 1.3	42 53.2	33 41.8	3 3.8	90
	王子東地区	255 100.0	5 2.0	136 53.3	108 42.4	6 2.4	234
	滝野川西地区	237 100.0	5 2.1	121 51.1	104 43.9	7 3.0	233
	滝野川東地区	56 100.0	1 1.8	29 51.8	23 41.1	3 5.4	47

(児童育成手当受給世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)		合計	現在利用 している	今後利用 したいと 思う	利用する つもりは ない	無回答	非該当
全体		594 100.0	13 2.2	395 66.5	164 27.6	22 3.7	184
年齢	0-5歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	156
	6-11歳	209 100.0	6 2.9	161 77.0	34 16.3	8 3.8	8
	12-14歳	197 100.0	3 1.5	139 70.6	48 24.4	7 3.6	2
	15-18歳	182 100.0	4 2.2	90 49.5	81 44.5	7 3.8	2
	上記以外	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0
居住地区	浮間地区	54 100.0	3 5.6	30 55.6	21 38.9	0 0.0	14
	赤羽西地区	113 100.0	2 1.8	79 69.9	29 25.7	3 2.7	32
	赤羽東地区	69 100.0	1 1.4	47 68.1	16 23.2	5 7.2	26
	王子西地区	55 100.0	1 1.8	40 72.7	13 23.6	1 1.8	22
	王子東地区	132 100.0	3 2.3	83 62.9	39 29.5	7 5.3	42
	滝野川西地区	99 100.0	1 1.0	67 67.7	29 29.3	2 2.0	31
	滝野川東地区	28 100.0	0 0.0	19 67.9	7 25.0	2 7.1	6

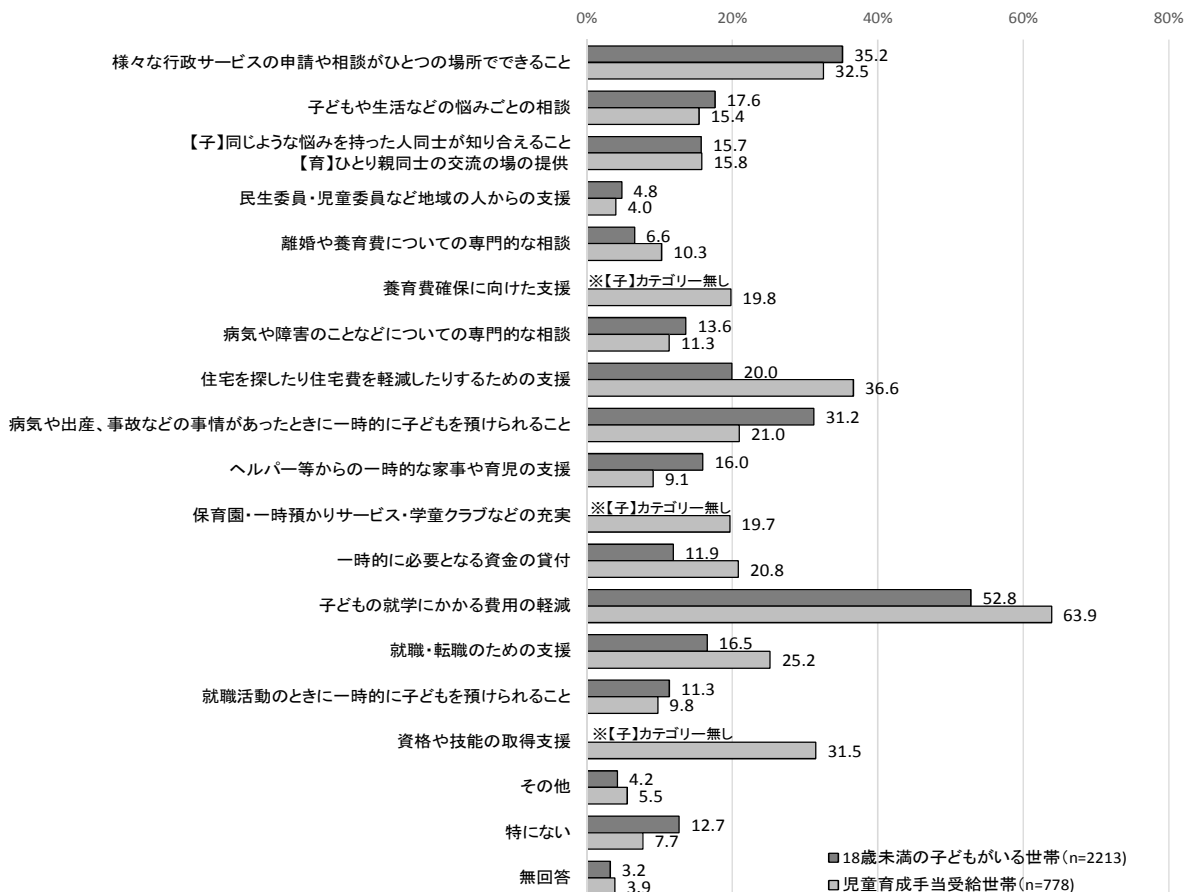
(5) 保護者が重要だと思う支援

① 現在必要としていること、重要だと思う支援（子：問 22、育：問 30）

- 保護者が現在必要としていること、重要だと思う支援について、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート全体では、「子どもの就学にかかる費用の軽減」（52.8%）が最も高く、次いで、「様々な行政サービスの申請や相談がひとつの場所でできること」（35.2%）、「病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること」（31.2%）が続いています。児童育成手当受給世帯アンケート全体では、「子どもの就学にかかる費用の軽減」（63.9%）が最も高く、次いで、「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援」（36.6%）、「様々な行政サービスの申請や相談がひとつの場所でできること」（32.5%）、「資格や技能の取得支援」（31.5%）が続いています。
- 経済的状況別では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケートでは「子どもの就学にかかる費用の軽減」の回答が、「貧困線以上の世帯」で48.7%、「貧困線を下回る世帯」で65.6%、「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援」の回答が、「貧困線以上の世帯」で18.9%、「貧困線を下回る世帯」で32.3%となっており、経済的状況による差がみられます。
- 子どもの年齢別では、18歳未満の子どもがいる世帯アンケート、児童育成手当受給世帯アンケートともに、全ての年齢層で、「子どもの就学にかかる費用の軽減」の回答が最も高くなっています。

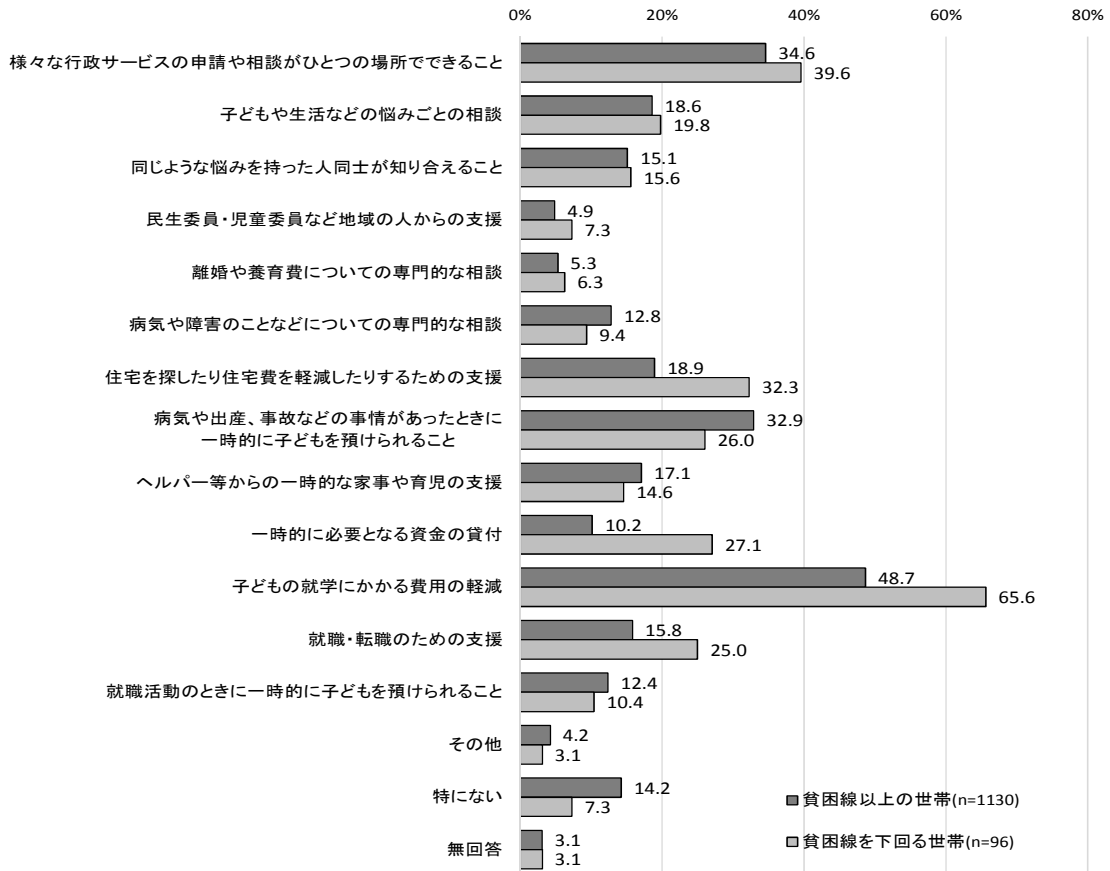
◆保護者が現在必要としていること、重要だと思う支援

【アンケート全体】

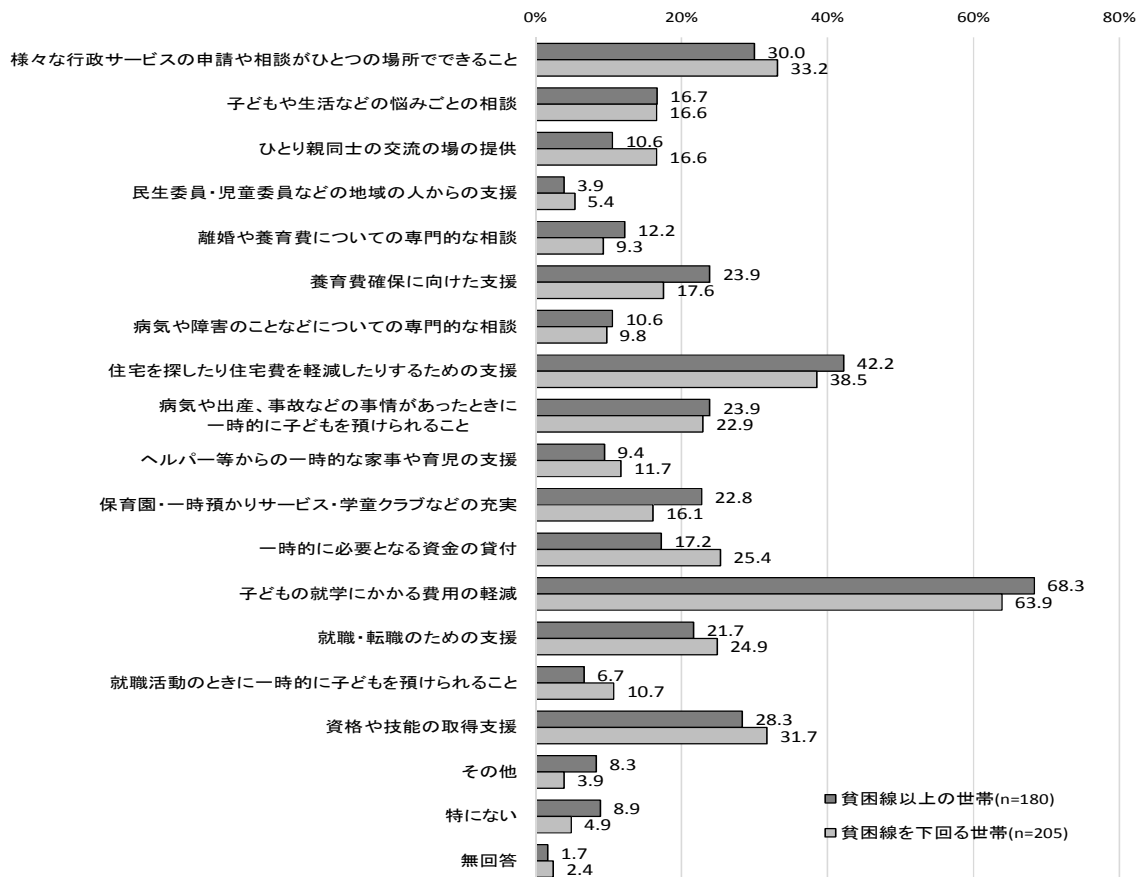


【経済的状況別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)



(児童育成手当受給世帯)



【子どもの年齢別】

(18歳未満の子どもがいる世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	様々な行政サービスの申請や相談がひとつの場所でできること	子どもや生活などの悩みごとの相談	同じような悩みを持った人同士が知り合えること	民生委員・児童委員など地域の人からの支援	離婚や養育費についての専門的な相談	養育費確保に向けた支援	病気や障害のことなどについての専門的な相談	住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援	病気になる前に子どもを預けられること	病気になる前に子どもを預けられること	ヘルパー等からの一時的な家事や育児の支援	一時的に必要な資金の貸付	子どもの就学にかかる費用の軽減	就職・転職のための支援	就職活動のときに一時的に子どもを預けられること	その他	特にない	無回答
0～5歳	963 100.0	385 40.0	227 23.6	211 21.9	67 7.0	60 6.2	147 15.3	240 24.9	456 47.4	237 24.6	106 11.0	483 50.2	173 18.0	178 18.5	51 5.3	73 7.6	32 3.3		
6～11歳	490 100.0	155 31.6	85 17.3	68 13.9	18 3.7	34 6.9	60 12.2	84 17.1	136 27.8	70 14.3	53 10.8	258 52.7	64 13.1	46 9.4	21 4.3	72 14.7	8 1.6		
12～14歳	260 100.0	83 31.9	27 10.4	26 10.0	6 2.3	19 7.3	31 11.9	43 16.5	39 15.0	18 6.9	33 12.7	150 57.7	36 13.8	12 4.6	9 3.5	37 14.2	9 3.5		
15～18歳	428 100.0	125 29.2	35 8.2	30 7.0	10 2.3	27 6.3	52 12.1	62 14.5	37 8.6	20 4.7	65 15.2	243 56.8	81 18.9	8 1.9	10 2.3	91 21.3	17 4.0		
19歳以上	9 100.0	3 33.3	0 0.0	1 11.1	2 22.2	0 0.0	1 11.1	1 11.1	4 44.4	1 11.1	0 0.0	6 66.7	3 33.3	0 0.0	0 0.0	2 22.2	0 0.0		

(児童育成手当受給世帯)

上段：回答者数(人) 下段：回答割合(%)	合計	様々な行政サービスの申請や相談がひとつの場所でできること	子どもや生活などの悩みごとの相談	ひとり親同士の交流の場の提供	民生委員・児童委員など地域の人からの支援	離婚や養育費についての専門的な相談	養育費確保に向けた支援	病気や障害のことなどについての専門的な相談	住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援	病気になる前に子どもを預けられること	病気になる前に子どもを預けられること	ヘルパー等からの一時的な家事や育児の支援	保育園・一時預かりサービス・学童クラブなどの充実	一時的に必要な資金の貸付	子どもの就学にかかる費用の軽減	就職・転職のための支援	就職活動のときに一時的に子どもを預けられること	資格や技能の取得支援	その他	特にない	無回答
0～5歳	156 100.0	54 34.6	30 19.2	45 28.8	9 5.8	23 14.7	42 26.9	16 10.3	72 46.2	62 39.7	25 16.0	82 52.6	30 19.2	96 61.5	47 30.1	38 24.4	62 39.7	13 8.3	6 3.8	7 4.5	
6～11歳	217 100.0	85 39.2	34 15.7	34 15.7	12 5.5	25 11.5	43 19.8	28 12.9	79 36.4	57 26.3	23 10.6	50 23.0	45 20.7	146 67.3	48 22.1	20 9.2	70 32.3	8 3.7	14 6.5	7 3.2	
12～14歳	199 100.0	51 25.6	33 16.6	18 9.0	5 2.5	16 8.0	37 18.6	21 10.6	69 34.7	26 13.1	13 6.5	13 6.5	47 23.6	132 66.3	42 21.1	10 5.0	52 26.1	7 3.5	18 9.0	7 3.5	
15～18歳	184 100.0	57 31.0	17 9.2	21 11.4	2 1.1	14 7.6	28 15.2	19 10.3	57 31.0	12 6.5	7 3.8	4 2.2	38 20.7	110 59.8	52 28.3	5 2.7	54 29.3	11 6.0	20 10.9	7 3.8	

III 小学校 5 年生アンケートの調査結果

各項目の横の設問番号に記載している「児」は『小学校 5 年生児童（本人）』を対象とした調査票の設問番号を示し、「保」は『小学校 5 年生の保護者』を対象とした調査票の設問番号を示しています。

また、数値で回答いただく設問には【数値回答】、複数の回答をしていただく設問には【複数回答】と記載しています。

III 小学校5年生アンケートの調査結果

1. 回答者の属性

(1) 回答者の世帯内訳

- 本調査では、小学校5年生児童アンケートで1,466件、小学校5年生保護者アンケートで1,184件から回答が得られました。
- 小学校5年生児童アンケートの回答者1,466件のうち、保護者の回答と紐づけできた回答数は1,070件(73.0%)で、そのうち「ふたり親世帯」が944件(88.2%)、「ひとり親世帯」が102件(9.5%)となっています。また、「ひとり親世帯」のうち「母子世帯」が93件(8.7%)、「父子世帯」が9件(0.8%)となっています。
- 小学校5年生保護者アンケートの回答者1,184件のうち、「ふたり親世帯」が1,040件(87.8%)、「ひとり親世帯」が115件(9.7%)となっています。「ひとり親世帯」のうち、「母子世帯」が105件(8.9%)、「父子世帯」が10件(0.8%)となっています。

◆回答者の内訳

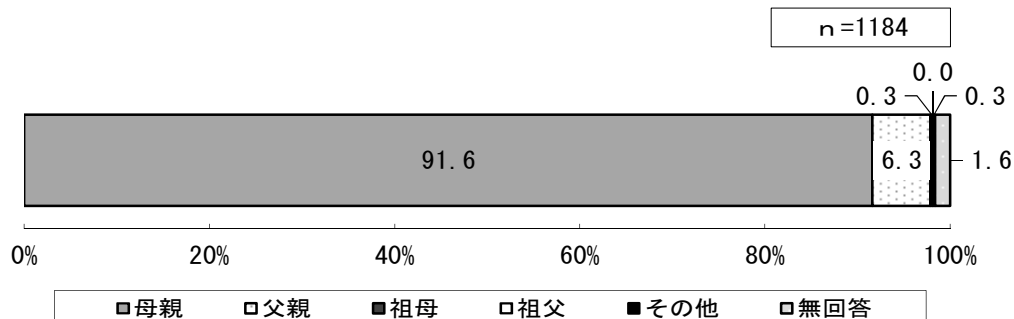
調査の種類	世帯類型	回答数(割合)
小学校5年生児童 (回答数:1,466件)	保護者と紐づけできた回答	1,070件(73.0%)
	ふたり親世帯	944件(88.2%)
	ひとり親世帯	102件(9.5%)
	母子世帯	93件(8.7%)
	父子世帯	9件(0.8%)
	無回答	24件(2.2%)
	保護者と紐づけできなかった回答	396件(27.0%)
小学校5年生保護者 (回答数:1,184件)	ふたり親	1,040件(87.8%)
	ひとり親	115件(9.7%)
	母子世帯	105件(8.9%)
	父子世帯	10件(0.8%)
	無回答	29件(2.4%)

(2) 保護者の属性

①子どもとの続柄（回答者）（保：問 21）

○ 回答者と宛名の子どもとの続柄について、「母親」が91.6%となっています。

◆回答者と宛名の子どもとの続柄（小学校5年生保護者）

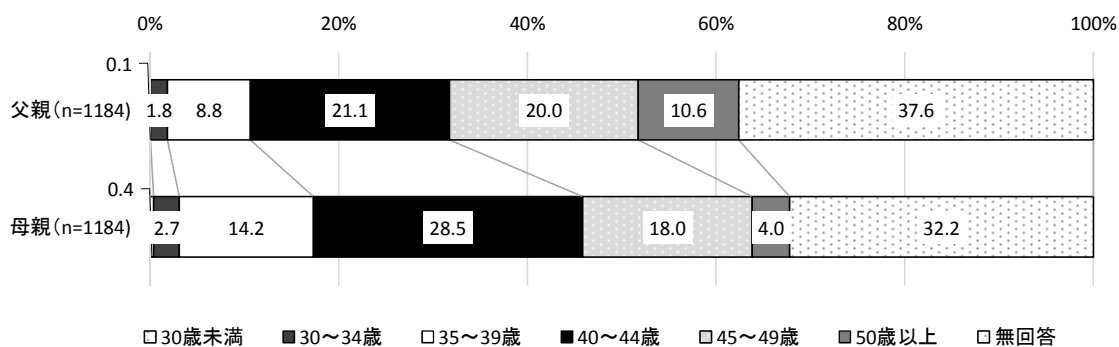


②年齢（父親・母親）【数値回答・生年月】（保：問 27）

○ 保護者（回答者）及び配偶者の生年月をうかがい、年齢別に集計したところ、父親では「40～44歳」の21.1%が最も高く、次いで「45～49歳」の20.0%、「50歳以上」の10.6%が続いています。

○ 母親では「40～44歳」の28.5%が最も高く、次いで「45～49歳」の18.0%、「35～39歳」の14.2%が続いています。

◆年齢（父親・母親）（小学校5年生保護者）

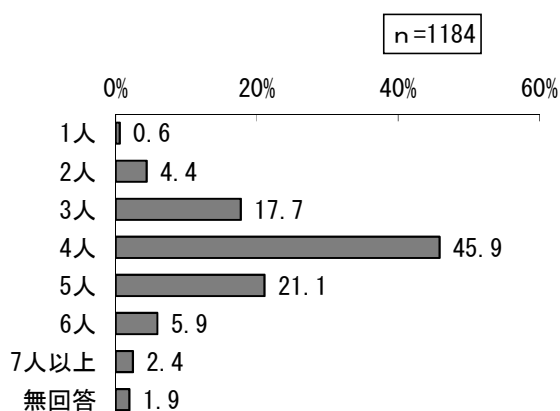


(3) 世帯構成・人数

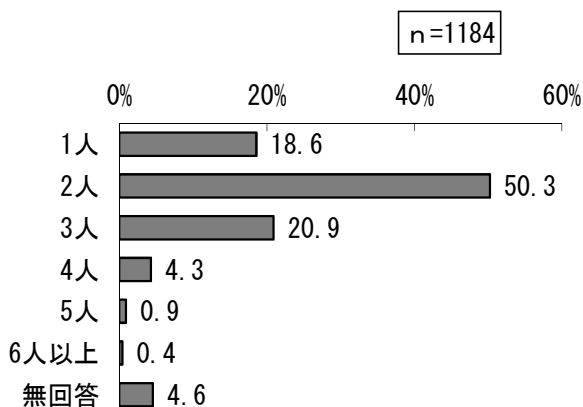
① 世帯員人数【数値回答】、兄弟姉妹の人数（保：問22、児：問2）

- 保護者の回答では、生計を共にしている世帯員の人数について、「4人」の45.9%が最も高く、次いで「5人」の21.1%、「3人」の17.7%が続いています。
- そのうちの子どもの人数について、「2人」の50.3%が最も高く、次いで「3人」の20.9%、「1人」の18.6%が続いています。
- 児童本人の回答では、兄弟姉妹の人数は、「2人きょうだい」の51.2%が最も高く、次いで「3人きょうだい」の22.2%、「1人っ子」の18.4%が続いています。

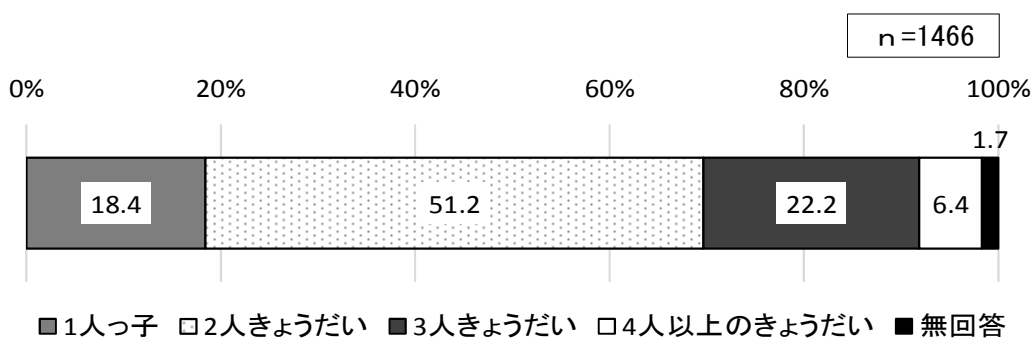
◆世帯員人数（小学校5年生保護者）



◆世帯員人数のうち、子どもの人数（小学校5年生保護者）



◆兄弟姉妹の人数（小学校5年生児童）

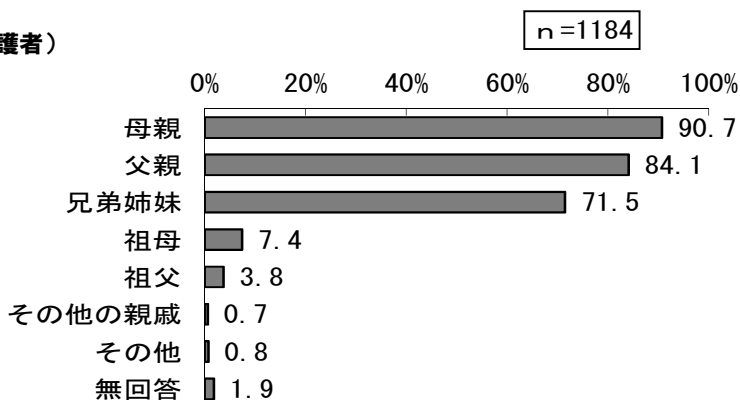


②世帯構成【複数回答】（保：問23、児：問3）

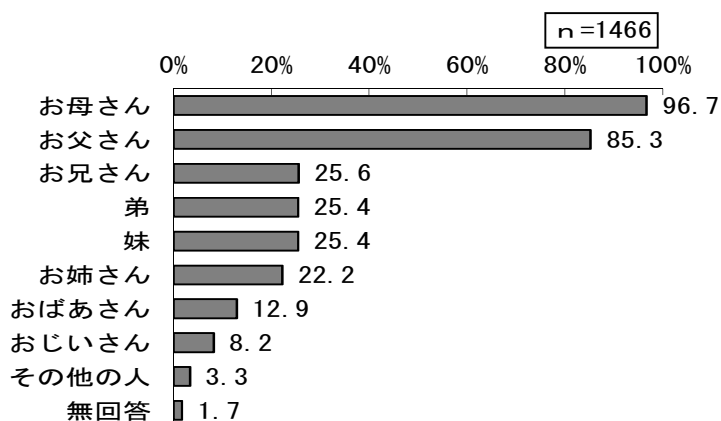
- 保護者の回答では、世帯に含まれる方の続柄について、「母親」の90.7%が最も高く、次いで「父親」の84.1%、「兄弟姉妹」の71.5%が続いています。
- 児童本人の回答では、「お母さん」の96.7%、「お父さん」の85.3%が高くなっています。

◆世帯に含まれる方の続柄

（小学校5年生保護者）



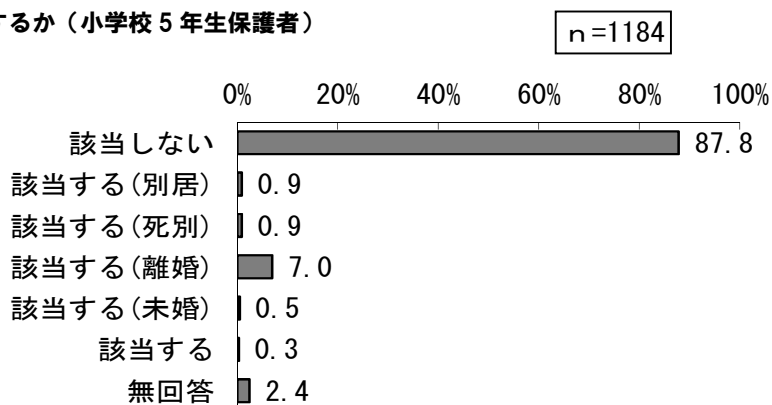
（小学校5年生児童）



③ひとり親に該当するか（保：問24）

- 保護者の回答では、ひとり親世帯に該当するか否かについて「該当しない」が87.8%となっています。

◆ひとり親に該当するか（小学校5年生保護者）



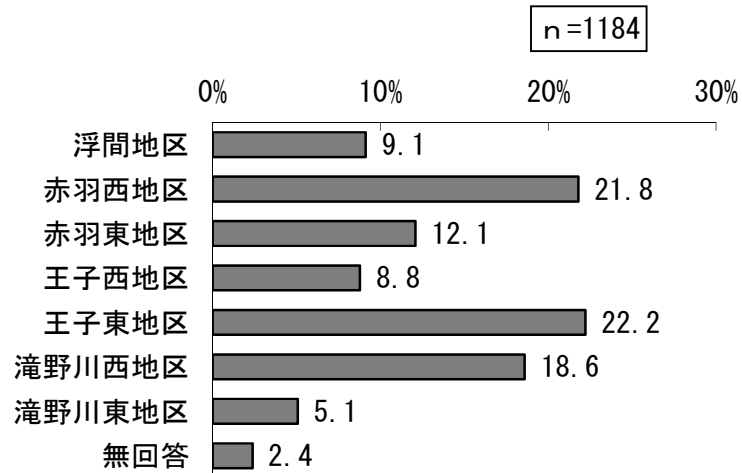
※ここでのひとり親世帯とは、現在配偶者のいない方が20歳未満の子どもを育てている世帯となっています。

(4) 居住地区

①お住まいの地区（保：問 26）

○ 居住地区について、「王子東地区」の22.2%が最も高く、次いで「赤羽西地区」の21.8%、「滝野川西地区」の18.6%が続いています。

◆居住地区（小学校5年生保護者）



2. 国の「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもと世帯の割合

区では、経済的困窮状態にある子どもと家庭の状況の把握にあたり、国が「相対的貧困率」を算出する際の基準としている平成25年国民生活基礎調査に基づく可処分所得額（貧困線）を基に、アンケート調査より得られた世帯全体の所得額、課税額等を使用して、国の貧困線を下回る水準で生活する子どもの割合及び貧困線を下回る世帯の割合を算出しました。

(1) アンケート調査における「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもの割合

- 国の「貧困線」を下回る世帯で生活している北区における小学校5年生の子どもの割合は、11.9%（225人／1,885人）となっています。

指 標	アンケート調査
小学校5年生がいる世帯に含まれる子どものうち、貧困線を下回る世帯で生活する子どもの割合（参考値）	11.9% (225人／1,885人)

※割合の算出に必要な所得額、課税額等の回答があった世帯の子どもの数は、1,885人（全体の77.1%）となっています。

(2) アンケート調査における「貧困線」を下回る世帯の割合

- 国の「貧困線」を下回る小学校5年生の子どものいる世帯は、10.7%（95世帯／886世帯）となっています。

指 標	アンケート調査
小学校5年生がいる世帯のうち、貧困線を下回る水準で生活する世帯の割合（参考値）	10.7% (95世帯／886世帯)

※割合の算出に必要な所得額、課税額等の回答があった世帯は、886世帯（全体の74.8%）となっています。

「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもの割合及び 「貧困線」を下回る世帯の割合に関する留意点

上記、「貧困線」を下回る世帯で生活する子どもの割合及び「貧困線」を下回る世帯の割合は、北区の貧困線を新たに定め、相対的貧困率を算出したものではなく、必ずしも北区の状況を正確に反映している数値ではないことに留意が必要です。また、算出結果については、次の点にも留意が必要です。

- 所得額、課税額等の無回答者の状況について

算出に必要な所得額、課税額等の設問に対し、一定割合の方が無回答となっています。

- ・ 小学校5年生保護者アンケート：全体の25.2%が無回答

3. 子どもの状況

【本節の概要】

○朝食の摂取状況

子どもの朝食の摂取状況について、全体では『毎日食べない』の回答は10.1%となっています。また、世帯類型別、経済状況別では、『毎日食べない』の回答に差がみられ、ひとり親世帯では16.6%、ふたり親世帯では7.6%となっており、ひとり親世帯の方が高く、「貧困線を下回る世帯」では18.8%、「貧困線以上の世帯」では7.4%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

○物品等の所有状況

子どもの物品等の所有状況について、「持っていない（もらっていない）がほしい」の回答は、全体では「子ども部屋」（32.2%）、「おこづかい」（24.6%）、「せんようの勉強机」（18.4%）が高くなっています。世帯類型別では、「子ども部屋」について、ひとり親世帯（43.1%）とふたり親世帯（30.6%）の差が大きくなっています。経済的状況別では、「友だちと同じような服」について、「貧困線を下回る世帯」（16.3%）と「貧困線以上の世帯」（9.7%）の差が大きくなっています。

○子どものための支出

保護者の子どもに対する支出の状況について、「経済的にできない」の回答は、全体では「学習塾に通わせる」（11.7%）、「1年に1回くらい家族旅行に行く」（11.4%）の回答が高くなっています。世帯類型別、経済的状況別では、特に、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、「学習塾に通わせる」で大きな差がみられました。

○自己肯定感

自分のことをどう思っているか（自己肯定感）について、「がんばれば、むくわれる」、「自分には良いところがある」、「自分のしょうらいが楽しみだ」の設問で、全体では「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『あてはまる』の回答は、約8割程度となっており、世帯類型別では、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が『あてはまる』の回答が10ポイント程度低くなっています。

また、「自分がかちのある人間だと思う」、「不安に感じることはない」、「こどくを感じることはない」の設問で、全体では「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の回答は、約3割程度となっており、世帯類型別では、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が『あてはまらない』の回答が高くなっています。経済的状況別は、大きな差はみられませんでした。

一方、「友だちから好かれているか」の設問で、全体では「たいてい思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の回答は、2割程度となっており、世帯類型別では、ふたり親世帯

帯よりもひとり親世帯の方が『そう思わない』の回答が高くなっています。また、経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」よりも「貧困線を下回る世帯」の方が、『そう思わない』の回答が11.6ポイント高くなっています。

○将来の夢

将来の夢の有無について、全体では「ある」が73.9%、「ない」が22.5%となっています。世帯類型別、経済的状況別による大きな差はみられませんでした。

また、将来の夢がないと回答した人にその理由をうかがったところ、「具体的に、何も思い浮かばないから」（51.5%）が大きな割合を占めています。

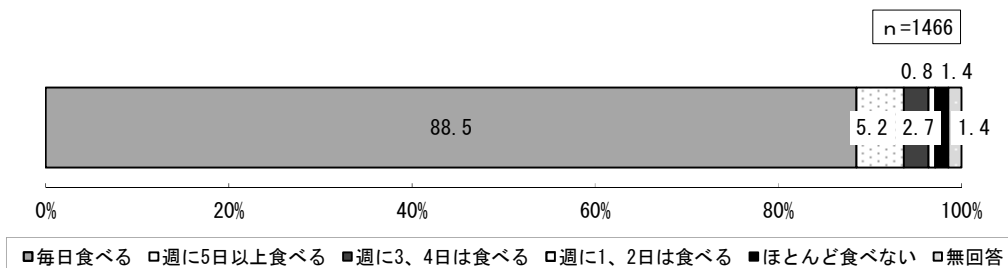
(1) 朝食の摂取

①朝食の摂取状況（児：問8）

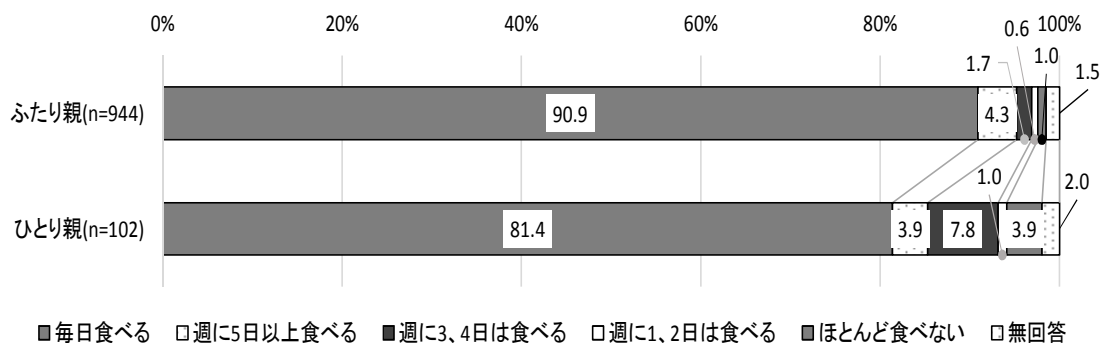
- 子どもの朝食の摂取について、全体では「毎日食べる」の回答は88.5%となっています。また、「週に5日以上食べる」、「週に3、4日は食べる」、「週に1、2日は食べる」、「ほとんど食べない」を合わせた『毎日食べない』の回答は10.1%となっています。
- 世帯類型別では、『毎日食べない』の回答は、ふたり親世帯では7.6%、ひとり親世帯では16.6%となっています。
- 経済的状況別では、『毎日食べない』の回答は、「貧困線以上の世帯」で7.4%、「貧困線を下回る世帯」で18.8%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

◆朝食の摂取状況（小学校5年生児童）

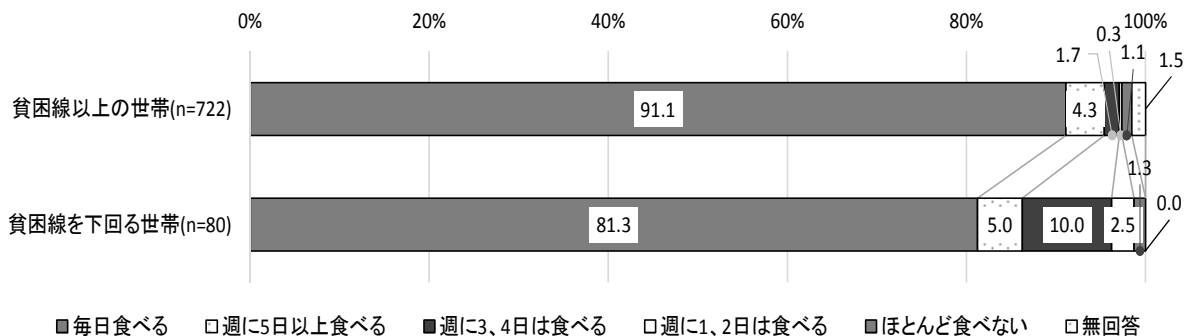
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】

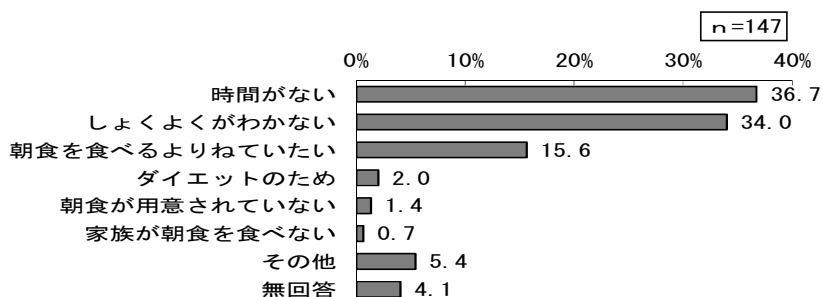


②朝食を食べない理由（児：問8-1）

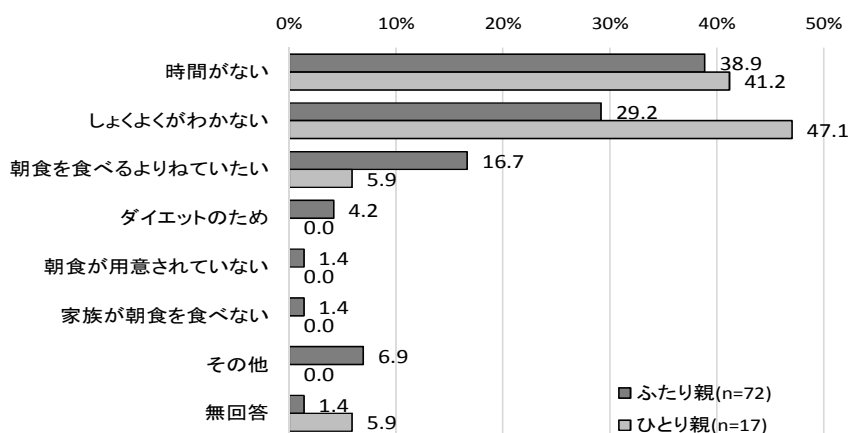
- 毎日朝食を食べない最も大きな理由について、全体では「時間がない」（36.7%）が最も高く、次いで「しょくよくがわからない」（34.0%）、「朝食を食べるよりねていたい」（15.6%）が続いています。
- 世帯類型別では、「しょくよくがわからない」の回答が、ひとり親世帯では47.1%、ふたり親世帯では29.2%で、ひとり親世帯の方が大きく上回っています。
- 経済的状況別では、「しょくよくがわからない」の回答が、「貧困線以上の世帯」では30.2%、「貧困線を下回る世帯」では20.0%で、「貧困線以上の世帯」の方が高くなっています。

◆朝食を食べない理由（小学校5年生児童）

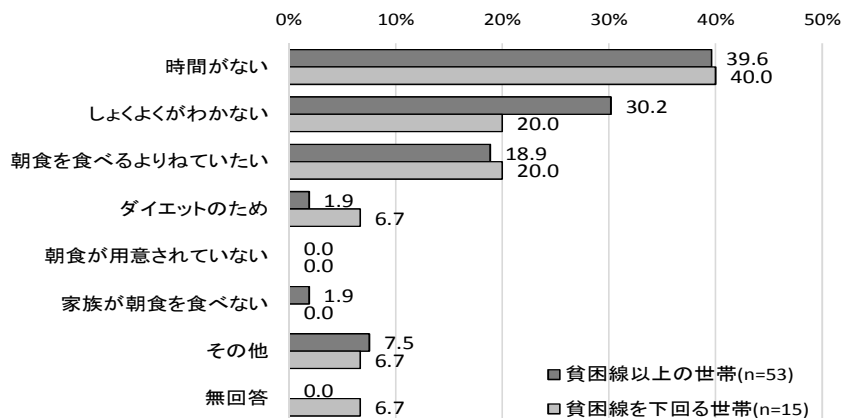
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



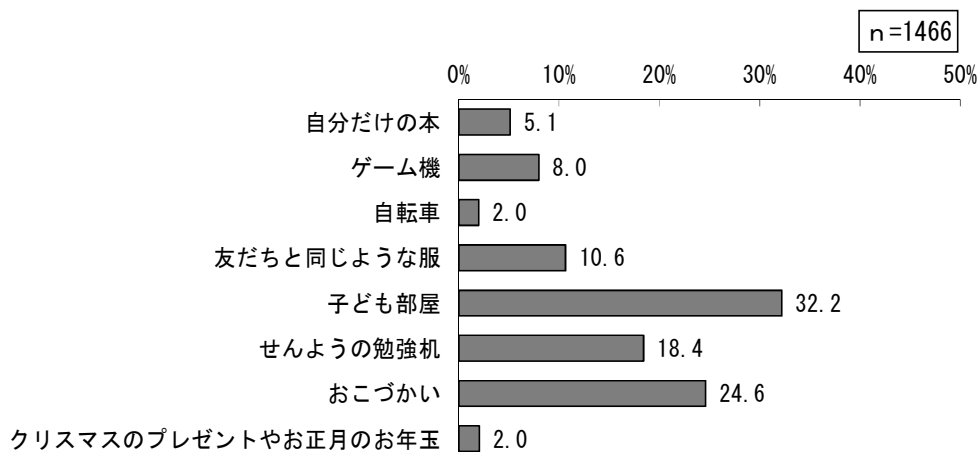
(2) 物品等の所有状況

①持っていない（もらっていない）がほしいもの（児：問 19、問 20）

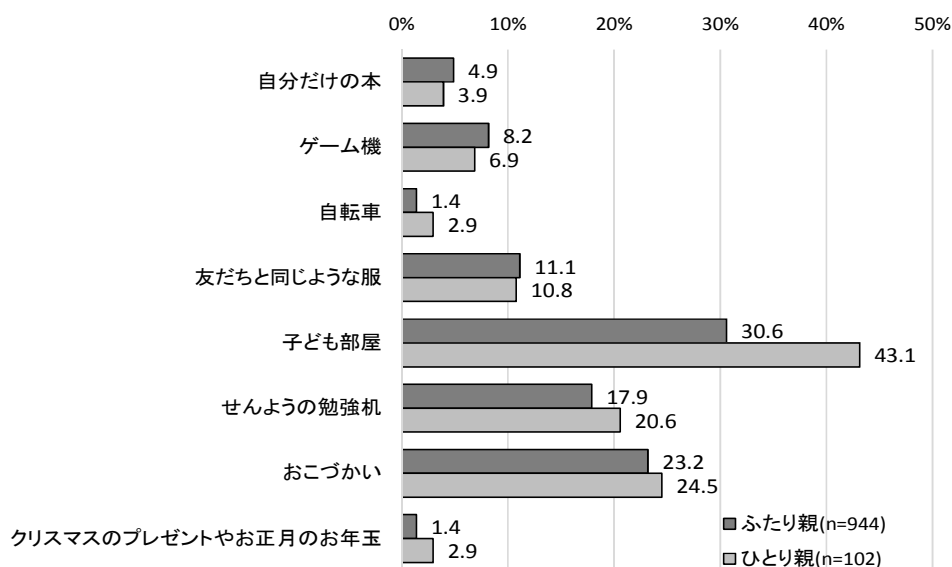
- 児童に設問した物品の所有状況について、「持っていない（もらっていない）がほしい」の回答は、全体では「子ども部屋」(32.2%)の回答が最も高く、次いで「おこづかい」(24.6%)、「せんようの勉強机」(18.4%)と続いています。
- 世帯類型別では、「持っていない（もらっていない）がほしい」の回答について、「子ども部屋」が、ふたり親世帯では30.6%、ひとり親世帯では43.1%と、ひとり親世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、「持っていない（もらっていない）がほしい」の回答について、「友だちと同じような服」が、「貧困線以上の世帯」で9.7%、「貧困線を下回る世帯」で16.3%となっています。

◆持っていない（もらっていない）がほしいもの（小学校5年生児童）

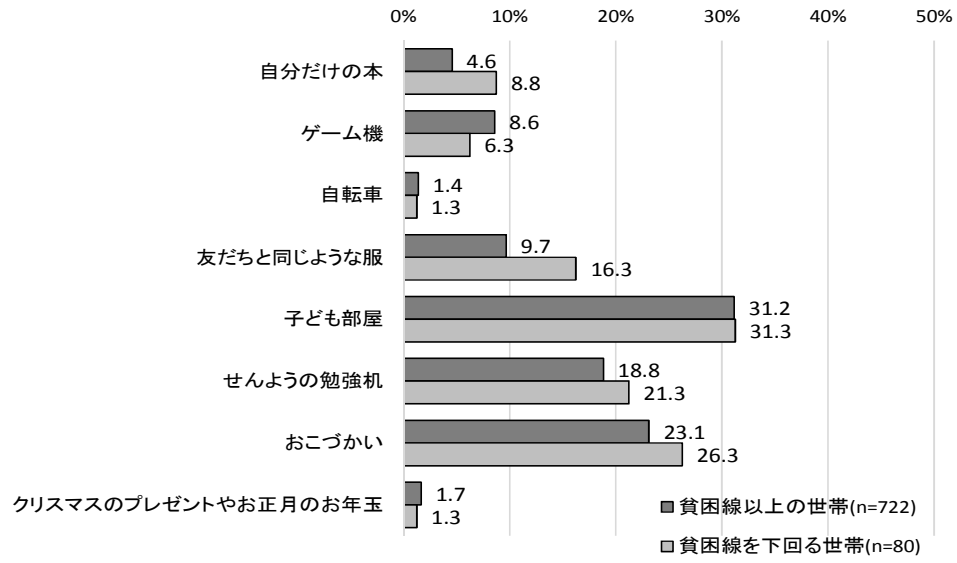
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



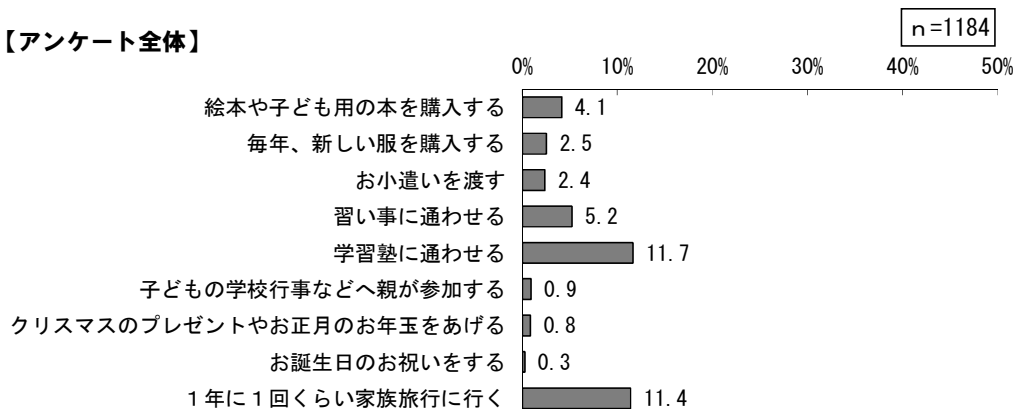
(3) 子どものための支出

①していない（経済的にできない）こと（保：問10）

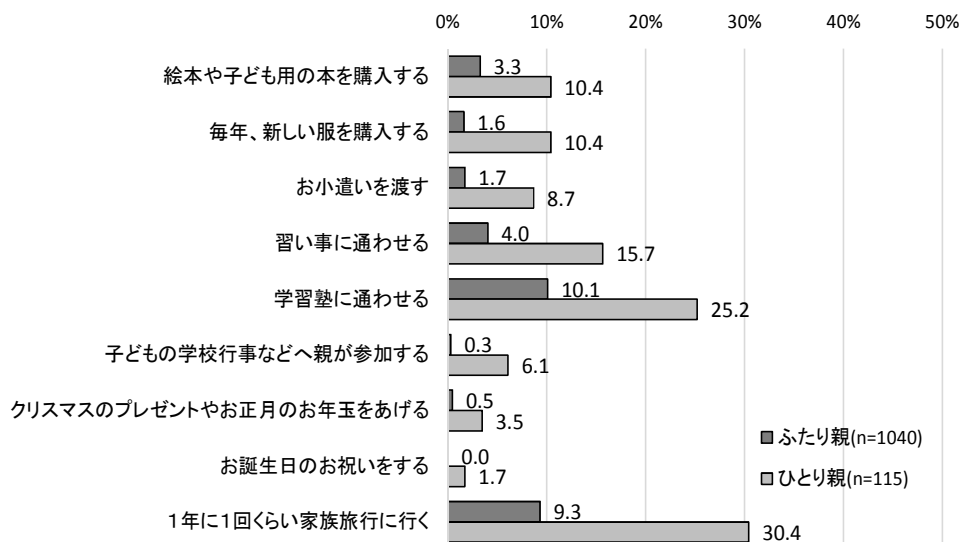
- 保護者に設問した子どもにしていることについて、「経済的にできない」の回答は、全体では「学習塾に通わせる」（11.7%）が最も高く、次いで、「1年に1回くらい家族旅行に行く」（11.4%）、「習い事に通わせる」（5.2%）と続いています。
- 世帯類型別にみると、「経済的にできない」の回答について、ひとり親世帯では、「1年に1回くらい家族旅行に行く」（30.4%）、「学習塾に通わせる」（25.2%）、「習い事に通わせる」（15.7%）において、ふたり親世帯より10ポイント以上高くなっているほか、他の項目でもふたり親世帯と比べて高くなっています。
- 経済的状況別にみると、「経済的にできない」の回答について、「貧困線を下回る世帯」では、「1年に1回くらい家族旅行に行く」（41.1%）、「学習塾に通わせる」（35.8%）、「習い事に通わせる」（22.1%）、「毎年、新しい服を購入する」（16.8%）、「絵本や子ども用の本を購入する」（14.7%）、「お小遣いを渡す」（13.7%）で、「貧困線以上の世帯」より10ポイント以上高くなっています。

◆していない（経済的にできない）こと（小学校5年生保護者）

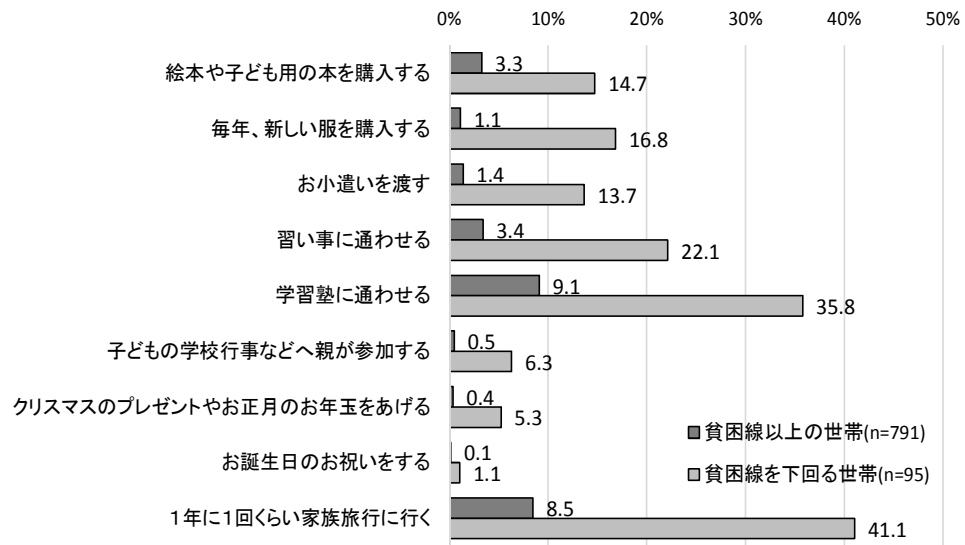
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



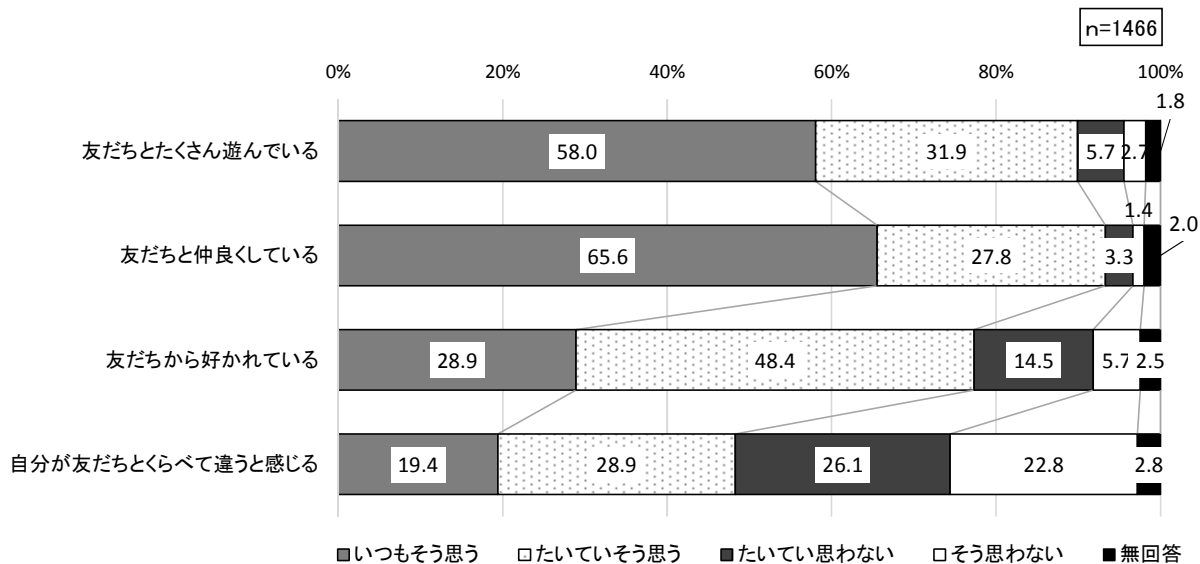
(4) 友人関係

① 友だちとの関係で思っていること（児：問 11）

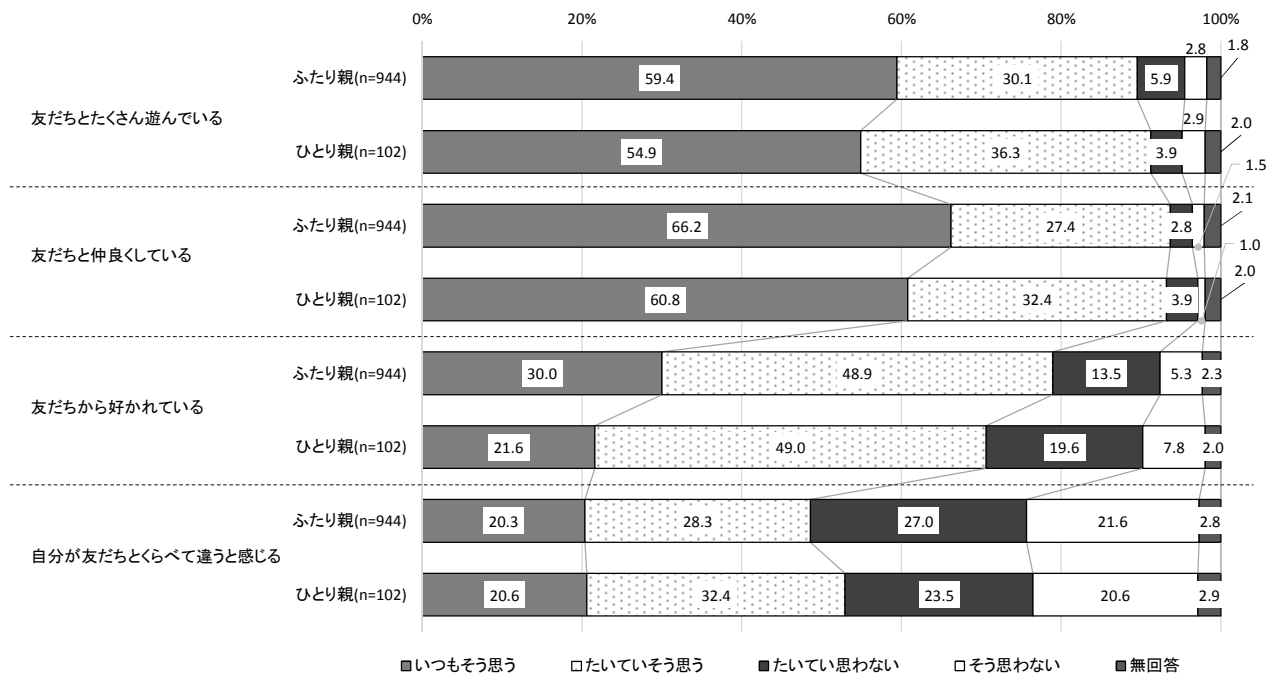
- 児童に設問した友だちとの関係について、「友だちとたくさん遊んでいる」、「友だちと仲良くしている」、「友だちから好かれている」、「自分が友だちとくらべて違うと感じる」の4項目について設問しています。
- 「友だちとたくさん遊んでいる」、「友だちと仲良くしている」の設問について、「いつもそう思う」または「たいていそう思う」と約90%以上の子どもが肯定的に答えています。世帯類型別、経済状況別でも、同様の傾向で大きな差はみられませんでした。
- 「友だちから好かれている」の設問について、全体では「いつもそう思う」と「たいていそう思う」を合わせた『そう思う』の回答は、77.3%となっていますが、「たいてい思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の回答は、20.2%となっています。世帯類型別では、『そう思わない』の回答は、ひとり親世帯で27.4%、ふたり親世帯18.8%で、ひとり親世帯の方が高くなっています。また、経済的状況別では、『そう思わない』の回答は、「貧困線を下回る世帯」では30.1%、「貧困線以上の世帯」では18.5%で、「貧困線を下回る世帯」の方が11.6ポイント高くなっています。
- 「自分が友だちとくらべて違うと感じる」について、『そう思う』と『そう思わない』の回答は、ほぼ半数ずつとなっています。世帯類型別、経済的状況別でも、同様の傾向で大きな差はみられませんでした。

◆ 友だちとの関係で思っていること（小学校5年生児童）

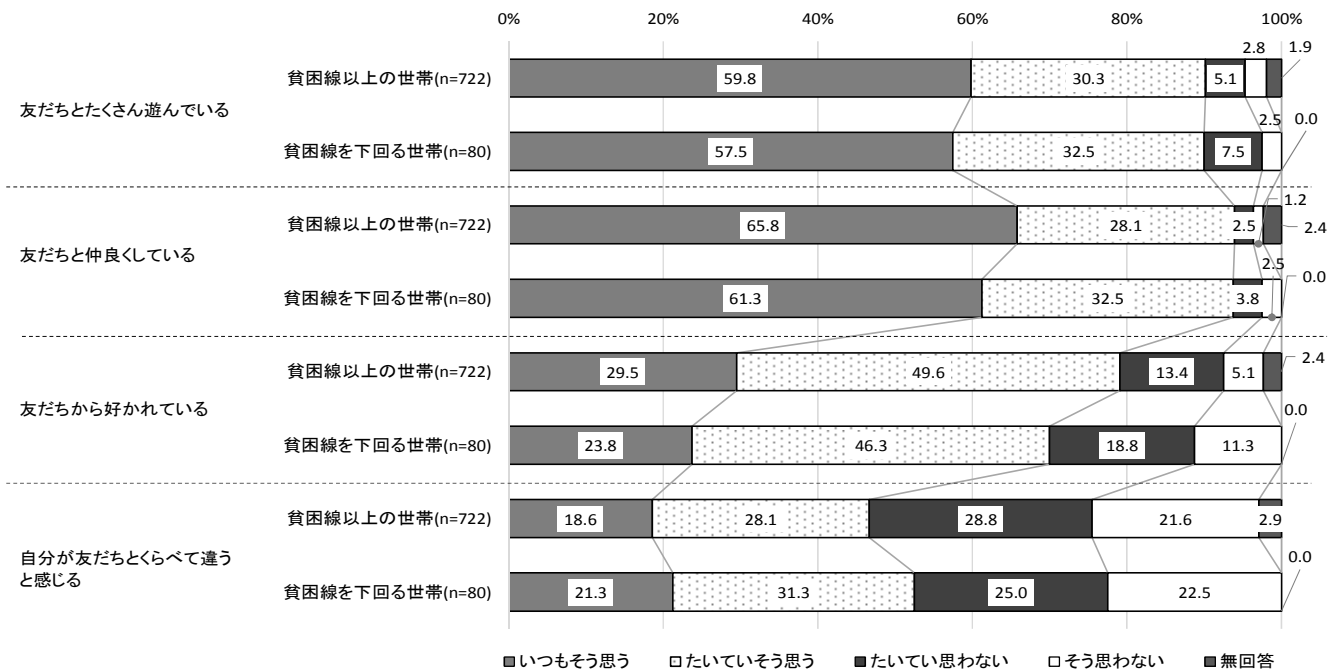
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



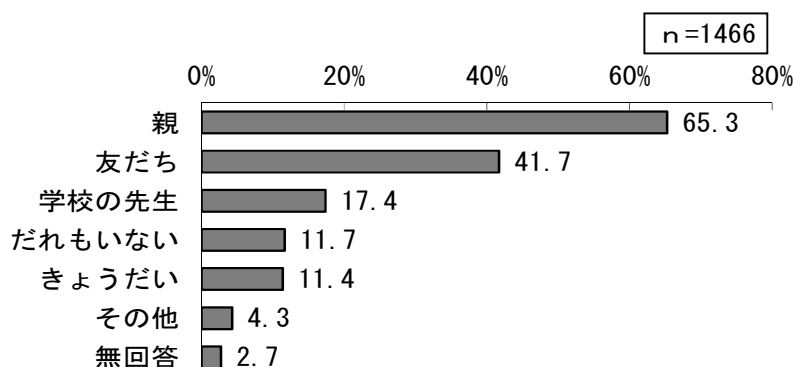
(5) 子どもの相談相手

①心配ごとや悩みの相談相手【複数回答】（児問 13）

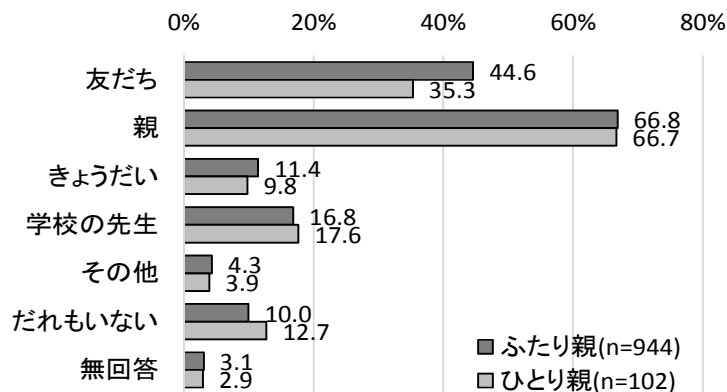
- 児童に設問した心配事や悩みの相談相手について、全体では「親」が 65.3%で最も高く、次いで「友だち」（41.7%）、「学校の先生」（17.4%）、「だれもいない」（11.7%）と続いています。
- 世帯類型別では、「友だち」の回答が、ふたり親世帯で 44.6%、ひとり親世帯で 35.3%なっており、ふたり親世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、大きな差はみられませんでした。

◆心配ごとや悩みの相談相手（小学校5年生児童）

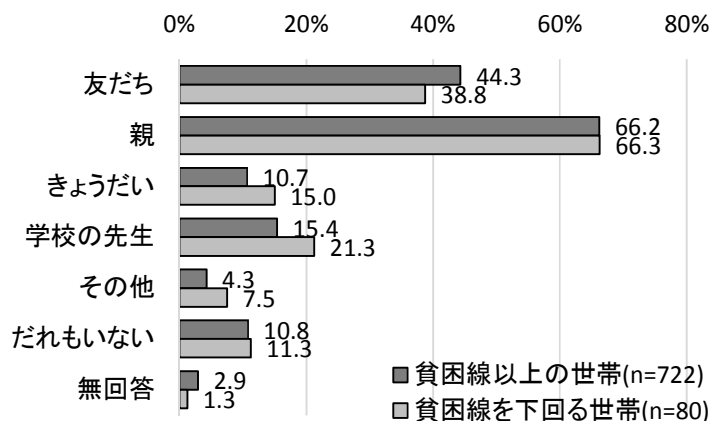
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



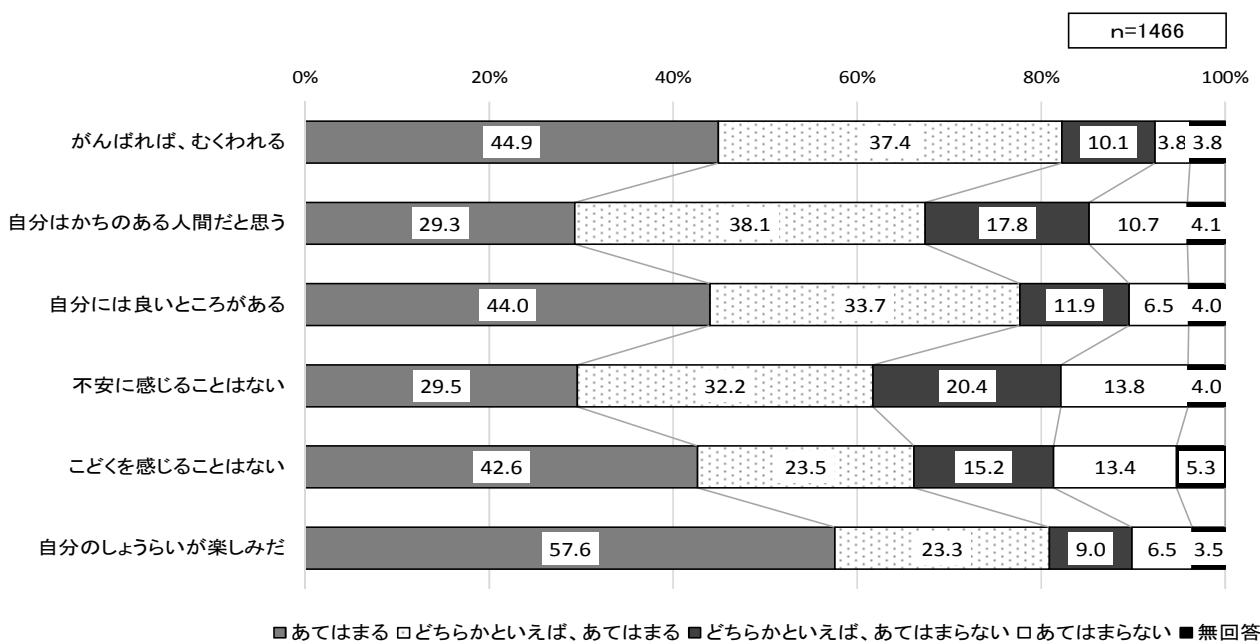
(6) 自己肯定感

①自分自身のことをどう思うか（児：問24）

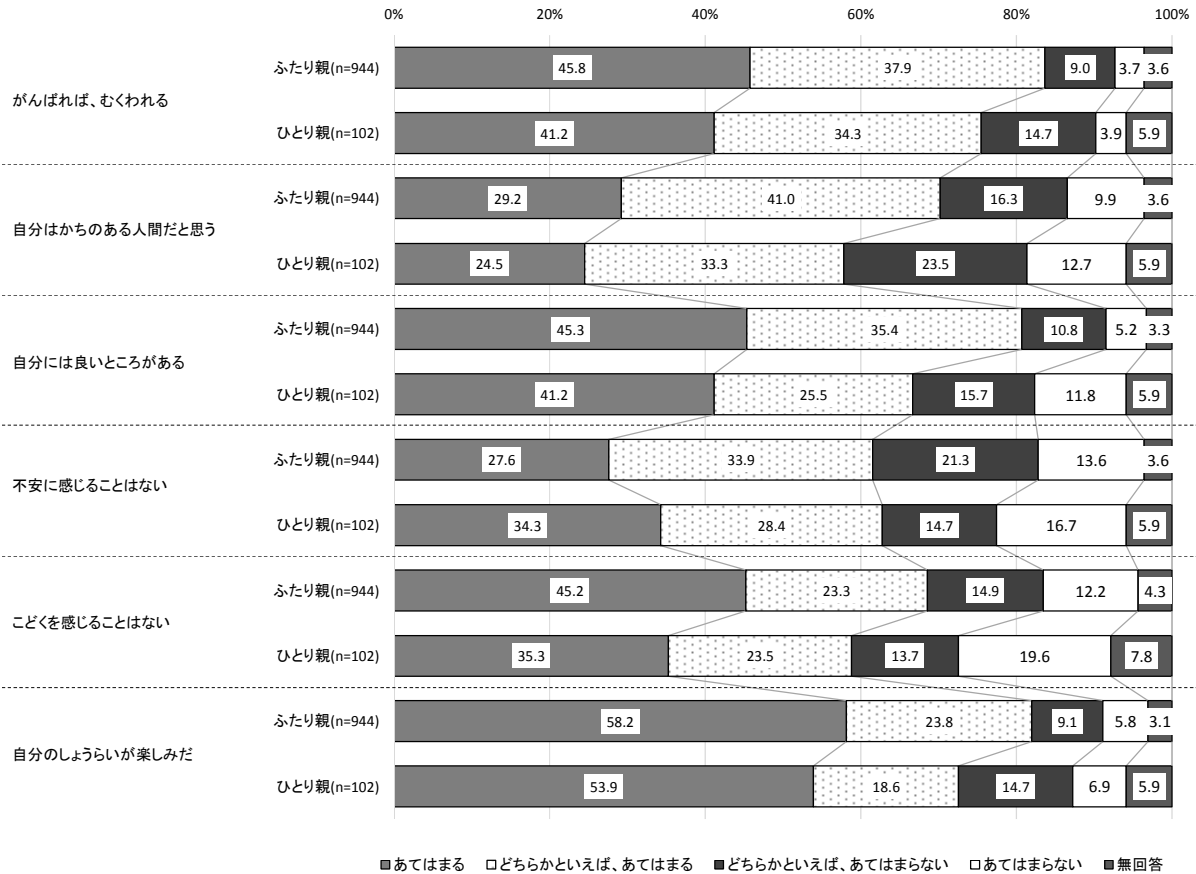
- 子どもに自分のことをどう思っているか（自己肯定感）について、「がんばれば、むくわれる」、「自分には良いところがある」、「自分のしょうらいが楽しみだ」の設問で、全体では「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『あてはまる』の回答は、約8割程度となっています。世帯類型別では、いずれも『あてはまる』の回答は、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が8～14ポイント低くなっています。経済的状況別では、大きな差はみられませんでした。
- 「自分がかちのある人間だと思う」、「不安に感じることはない」、「こどくを感じることはない」の設問で、全体では「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の回答は、約3割程度となっています。世帯類型別では、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が『あてはまらない』の回答が高くなっています。また、経済的状況別では、大きな差はみられませんでした。

◆自分自身のことをどう思うか（小学校5年生児童）

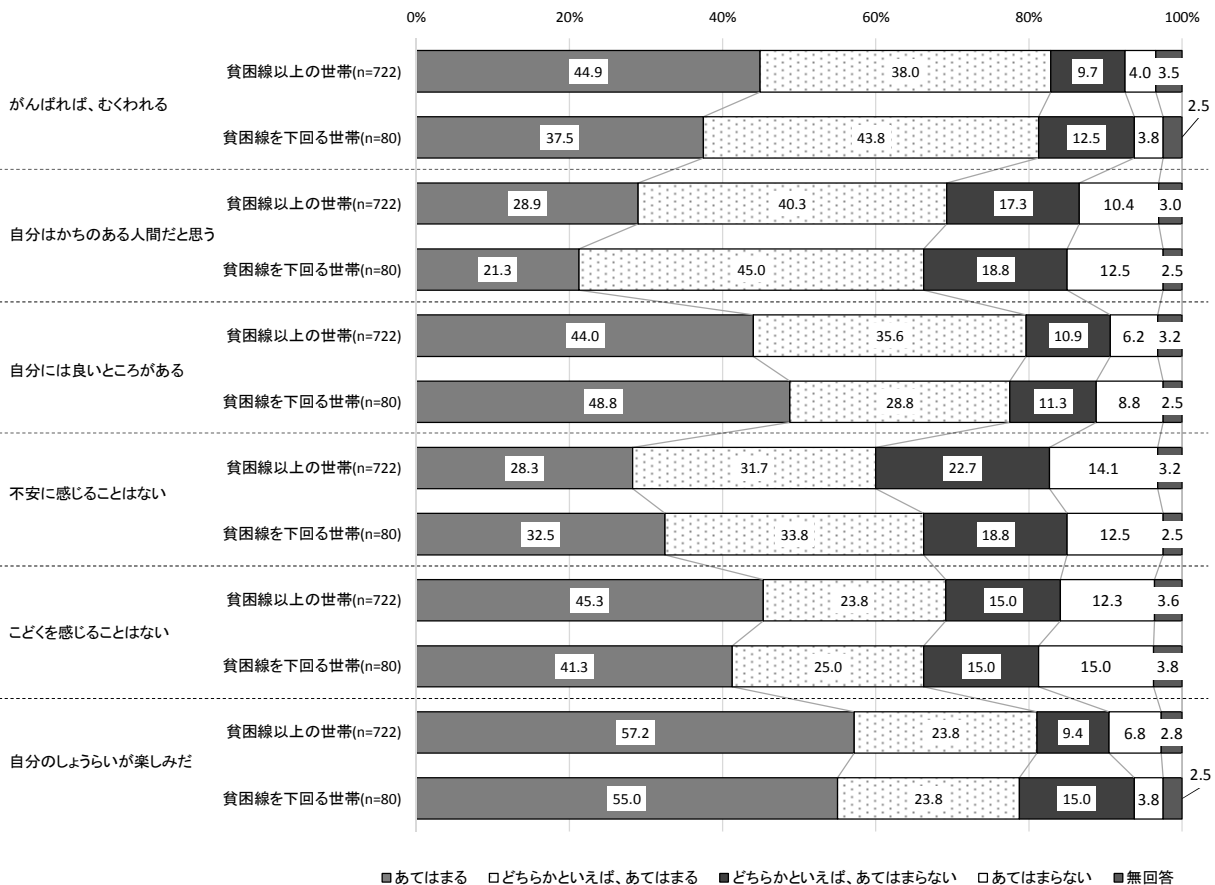
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



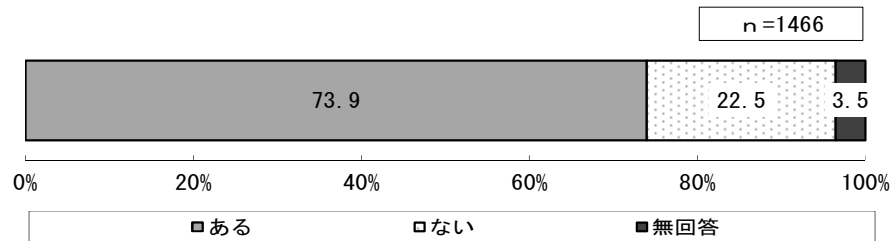
(7) 将来の夢について

① 将来の夢の有無 (児：問 25)

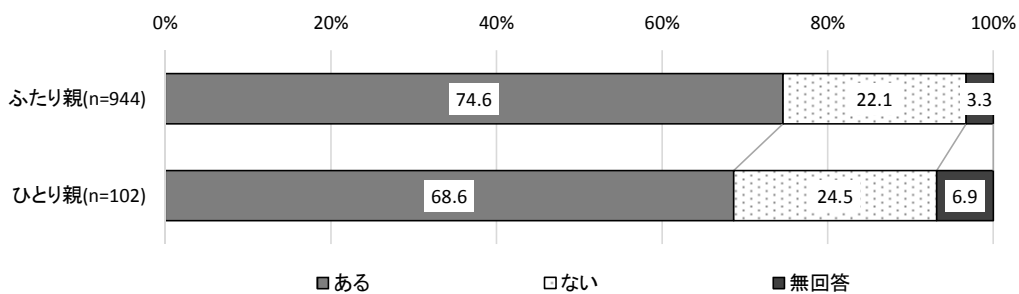
- 児童に設問した将来の夢の有無について、全体では「ある」が73.9%、「ない」が22.5%となっています。
- 世帯類型別、経済的状況別では、大きな差はみられませんでした。

◆ 将来の夢の有無 (小学校5年生児童)

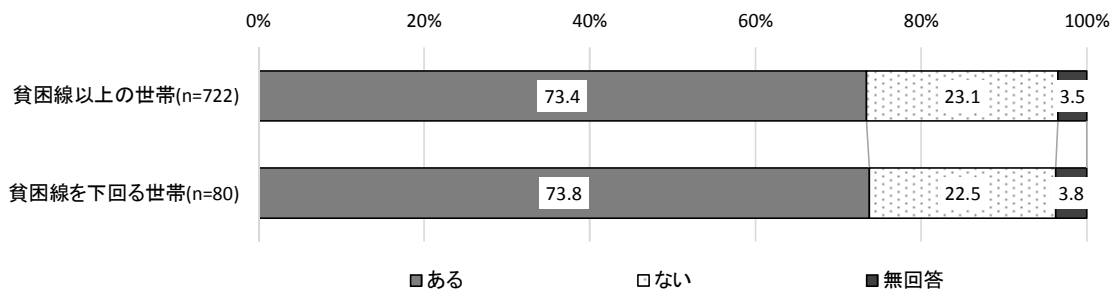
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】

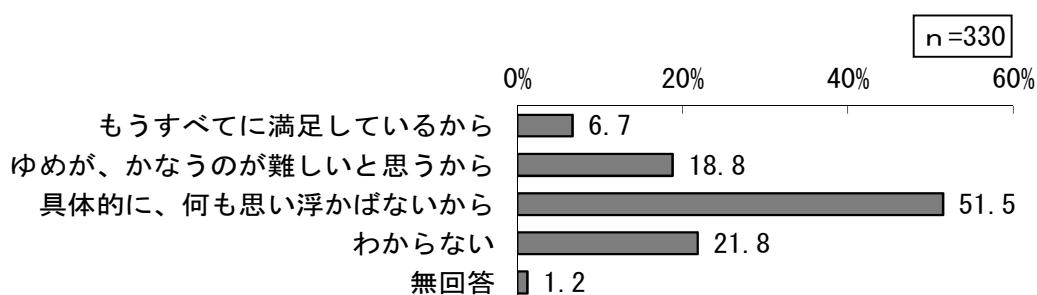


②夢がない理由（児：問 25-1）

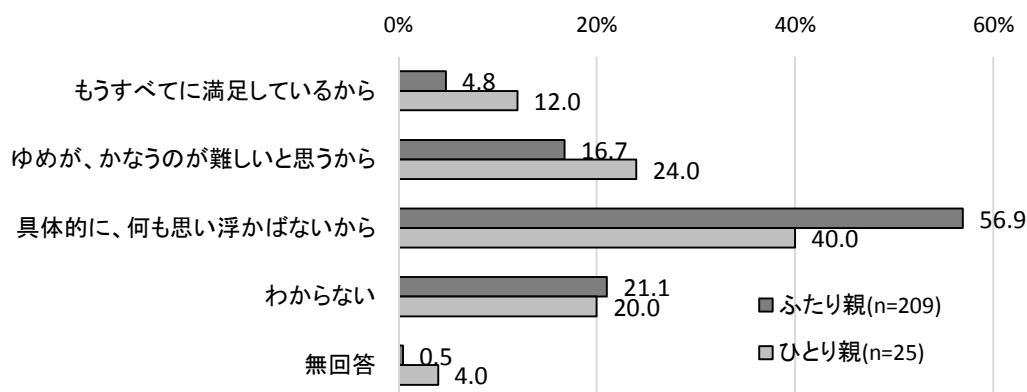
- 児童に設問した「夢がない」と回答した理由について、全体では「具体的に、何も思い浮かばないから」（51.5%）が大きな割合を占めています。
- 世帯類型別では、「ゆめが、かなうのが難しいと思うから」の回答が、ひとり親世帯で24.0%、ふたり親世帯で16.7%となっています。
- 経済的状況別では、「わからない」の回答が、「貧困線を下回る世帯」で33.3%、「貧困線以上の世帯」で18.0%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が15.3ポイント高くなっています。

◆夢がない理由（小学校5年生児童）

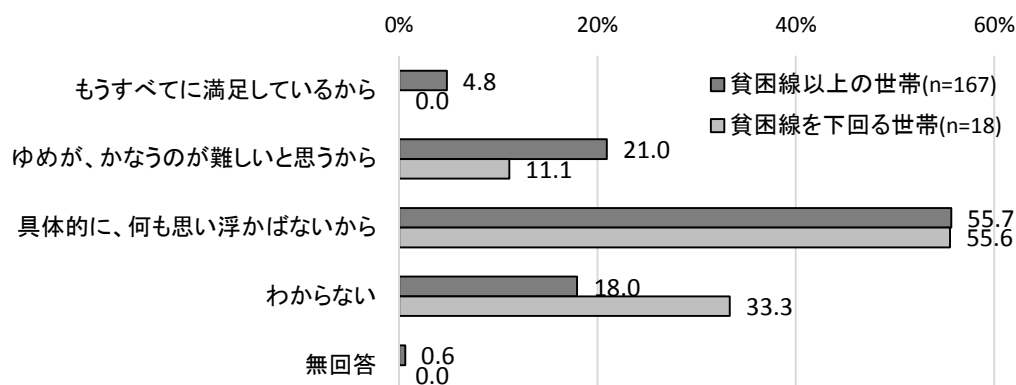
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



4. 子どもが置かれている学習・進学に関する状況

【本節の概要】

○授業の理解度・学習意欲

授業の理解度について、全体では「半分くらいわかる」、「分からないことが多い」、「ほとんどわからない」を合わせた『わからない』の回答が21.4%となっています。また、授業が『わからない』の回答は、世帯類型別では、ひとり親世帯(27.5%)の方が、ふたり親世帯(17.6%)より高くなっており、経済状況別では、「貧困線を下回る世帯」(35.1%)のほうが、「貧困線以上の世帯」(17.1%)より高くなっています。

学習意欲(勉強が好きかどうか)について、全体では「あまり好きではない」と「まったく好きではない」を合わせた『好きではない』の回答は20.0%となっています。経済的状況別では、勉強が『好きではない』の回答は、「貧困線を下回る世帯」(33.8%)の方が、「貧困線以上の世帯」(18.7%)より高くなっています。

○学習塾・習い事

学習塾や習い事の状況について、全体では「スポーツ(野球、サッカー、水泳など)」(53.4%)が最も高く、次いで「学習塾・進学塾」(46.8%)、「ピアノ・バレエなどの芸術の習い事」(27.7%)の回答が高くなっています。世帯類型別では、「塾や習い事はしていない」の回答が、ふたり親世帯の5.4%に対して、ひとり親世帯では12.7%となっています。経済的状況別では、「学習塾・進学塾」、「塾や習い事はしていない」の回答が、「貧困線以上の世帯」では、それぞれ53.2%、3.7%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、それぞれ30.0%、16.3%となっており、大きな差がみられます。

○子ども自身の進学の希望

子ども自身が将来、どの学校まで行きたいかについて、全体では「大学」(44.7%)の回答が最も高く、次いで「わからない」(15.6%)、「専門学校」(12.3%)が続いています。世帯類型別では、「大学」の回答が、ふたり親世帯で48.0%、ひとり親世帯で35.3%と、ふたり親世帯の方が高くなっています。経済的状況別では「大学」の回答が、「貧困線以上の世帯」で50.1%、「貧困線を下回る世帯」で30.0%と、経済的状況によって大きな差がみられます。

○子どもの教育・進学に対する保護者の意向

保護者が子どもにどの段階までの教育を受けさせたいかについて、全体では「大学・大学院までの教育」を「受けさせたいが、経済的に受けさせられない」の回答は15.4%となっています。また、『大学・大学院までの教育を経済的に受けさせられない』の回答は、世帯類型別では、ふたり親世帯の12.5%に対し、ひとり親世帯では39.1%、経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」の12.6%に対し、「貧困線を下回る世帯」では41.1%となっており、世帯類型別、経済的状況別で大きな差がみられます。

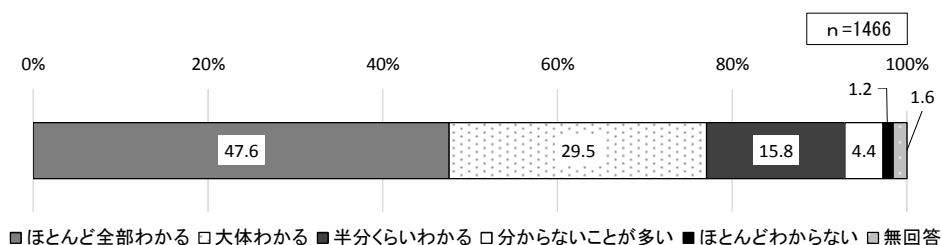
(1) 授業の理解度

①授業がどのくらいわかるか（児：問 22）

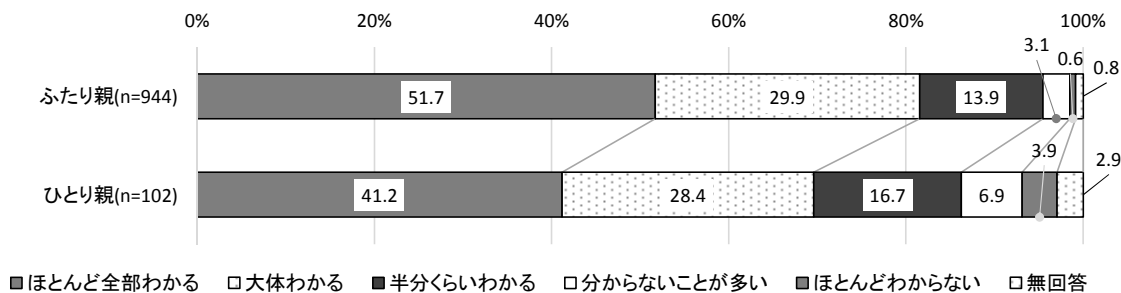
- 児童に設問した授業がどのくらいわかるかについて、全体では「半分くらいわかる」、「分からないことが多い」、「ほとんどわからない」を合わせた『わからない』の回答が 21.4% となっています。
- 世帯類型別では、授業が『わからない』の回答が、ふたり親世帯で 17.6%、ひとり親世帯で 27.5%となっており、ひとり親世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、授業が『わからない』の回答が、「貧困線以上の世帯」で 17.1%、「貧困線を下回る世帯」で 35.1%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。

◆授業の理解度（小学校5年生児童）

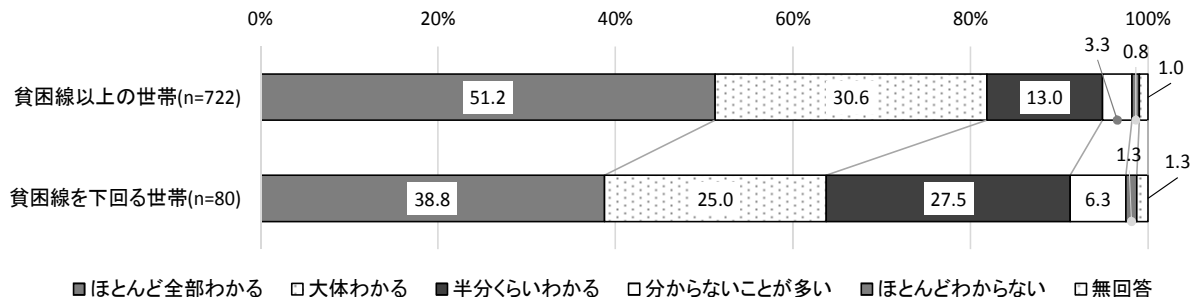
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】

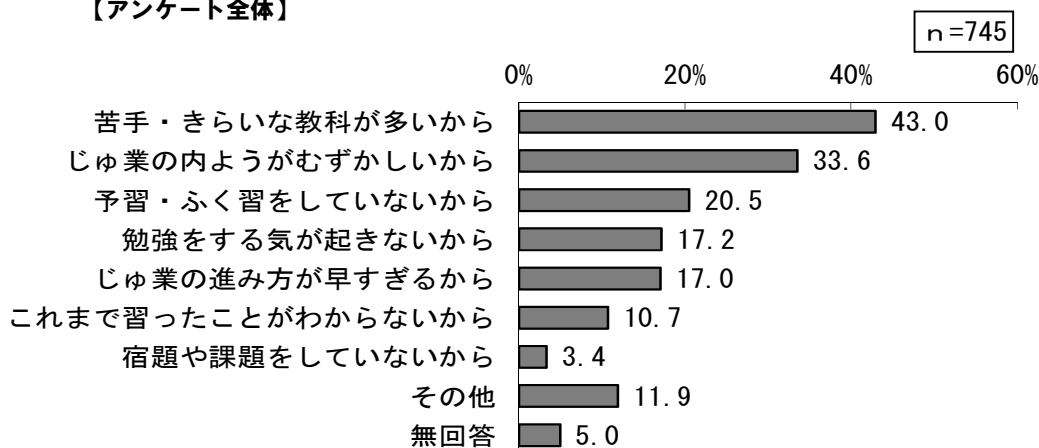


②授業がわからない理由【複数回答】（児：問 22-1）

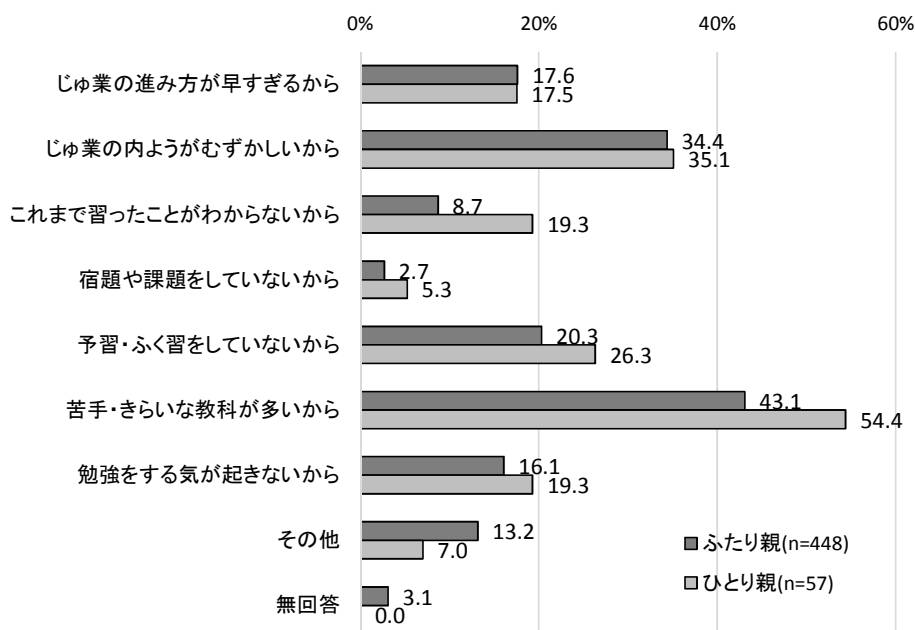
- 授業が「ほとんど全部わかる」と回答しなかった児童に設問した授業がわからない理由について、全体では「苦手・きれいな教科が多いから」（43.0%）が最も高く、次いで「授業の内容がむずかしいから」（33.6%）、「予習・復習をしていないから」（20.5%）の回答が続いています。
- 世帯類型別では、ひとり親世帯では、「苦手・きれいな教科が多いから」（54.4%）、「これまで習ったことがわからないから」（19.3%）の回答が、ふたり親世帯と比べて10ポイント以上高くなっています。
- 経済的状況別では、「貧困線を下回る世帯」では、「苦手・きれいな教科が多いから」（58.3%）、「勉強をする気が起きないから」（27.1%）、「授業の内容が難しいから」（43.8%）の回答が、「貧困線以上の世帯」の回答（「苦手・きれいな教科が多いから」（42.9%）、「勉強をする気が起きないから」（15.9%）、「授業の内容が難しいから」（33.3%））と比べて高くなっています。

◆授業がわからない理由（小学校5年生児童）

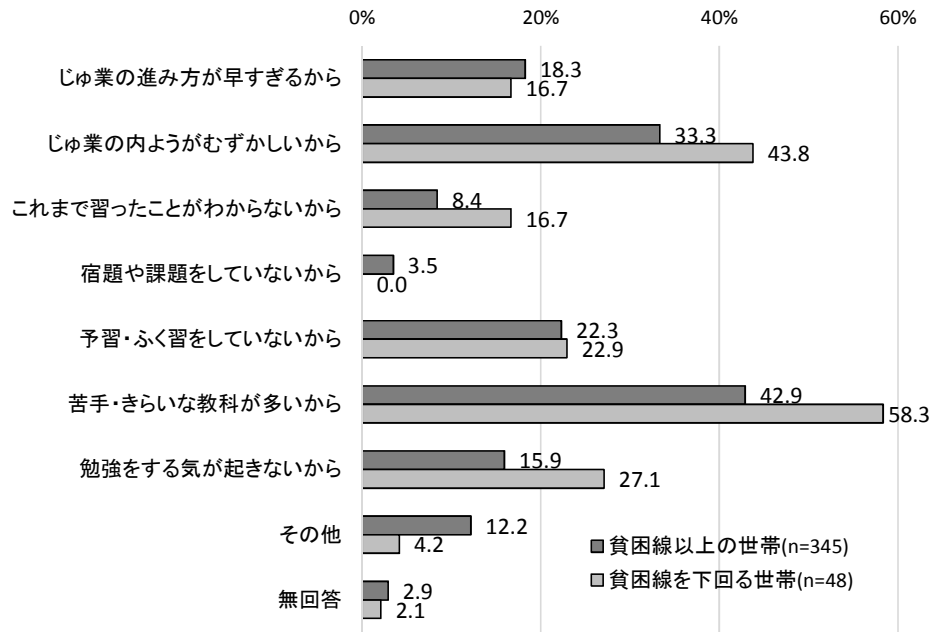
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



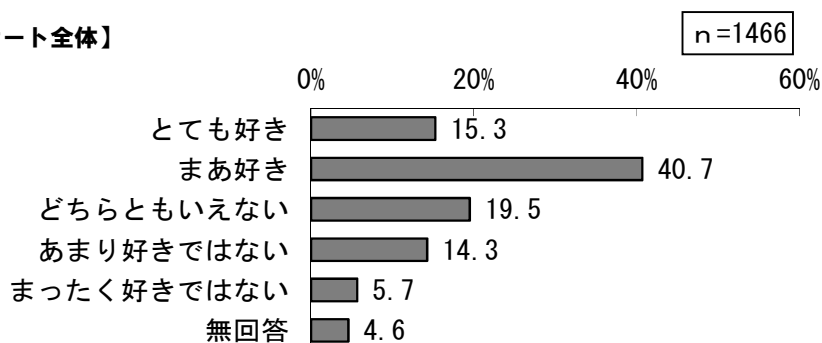
(2) 学習意欲

①勉強が好きか（児：問23）

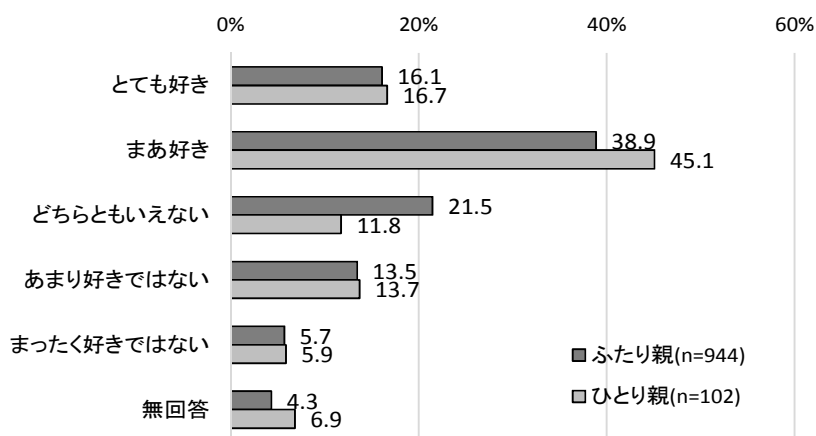
- 児童に設問した勉強が好きかどうかについて、全体では「とても好き」と「まあ好き」を合わせた『好き』の回答が56.0%、「あまり好きではない」と「まったく好きではない」を合わせた『好きではない』の回答が20.0%となっています。
- 経済的状況別では、『好きではない』の回答が、「貧困線以上の世帯」で18.7%、「貧困線を下回る世帯」で33.8%となっており、「貧困線を下回る世帯」の方が高くなっています。
- 世帯類型別では、大きな差はみられませんでした。

◆勉強が好きかどうか（小学校5年生児童）

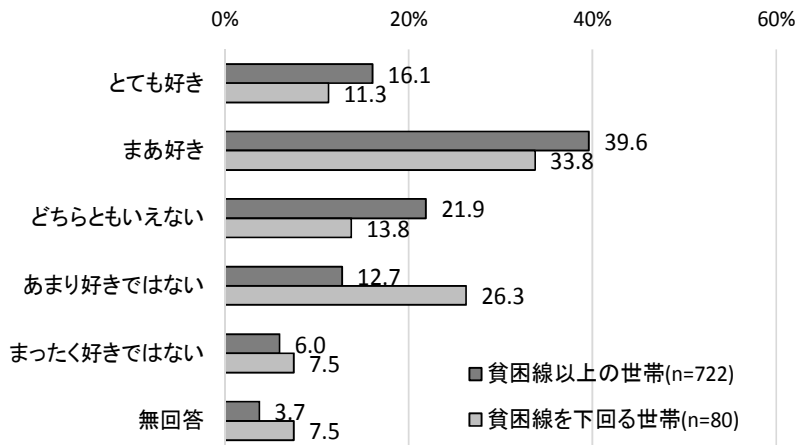
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



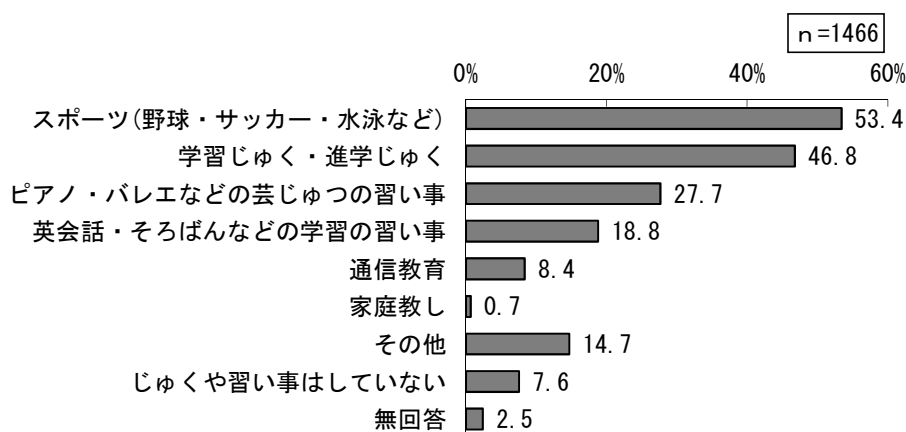
(3) 学習塾・習い事

①塾・習い事について【複数回答】(児：問14)

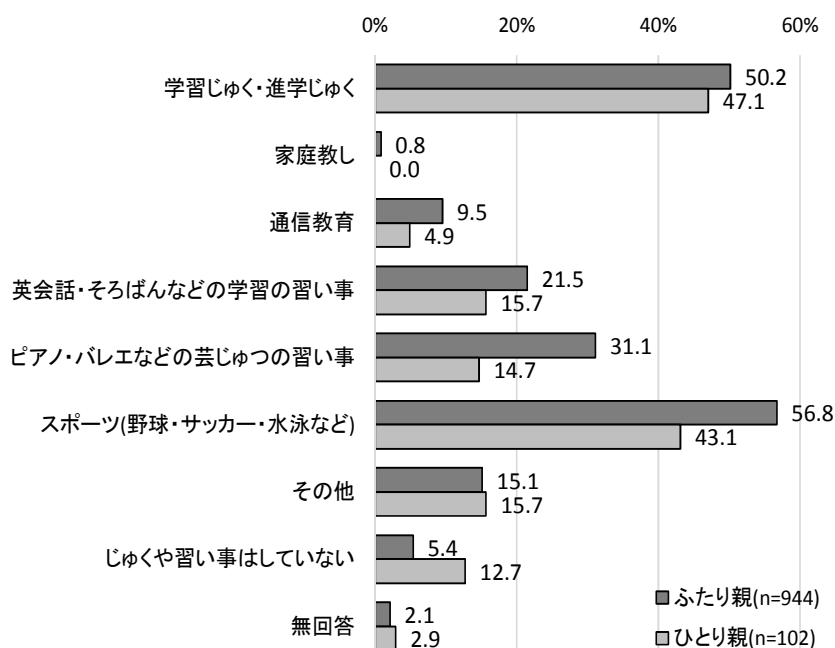
- 児童に設問した学習塾や習い事の状況について、全体では「スポーツ（野球、サッカー、水泳など）」（53.4%）が最も高く、次いで「学習塾・進学塾」（46.8%）、「ピアノ・バレエなどの芸術の習い事」（27.7%）が高くなっています。
- 世帯類型別では、「塾や習い事はしていない」の回答が、ふたり親世帯の5.4%に対して、ひとり親世帯では12.7%となっています。
- 経済的状況別では、「学習塾・進学塾」、「塾や習い事はしていない」の回答が、「貧困線以上の世帯」では、それぞれ53.2%、3.7%に対し、「貧困線を下回る世帯」では、それぞれ30.0%、16.3%となっており、経済的状況により大きな差がみられます。

◆塾・習い事の状況（小学校5年生児童）

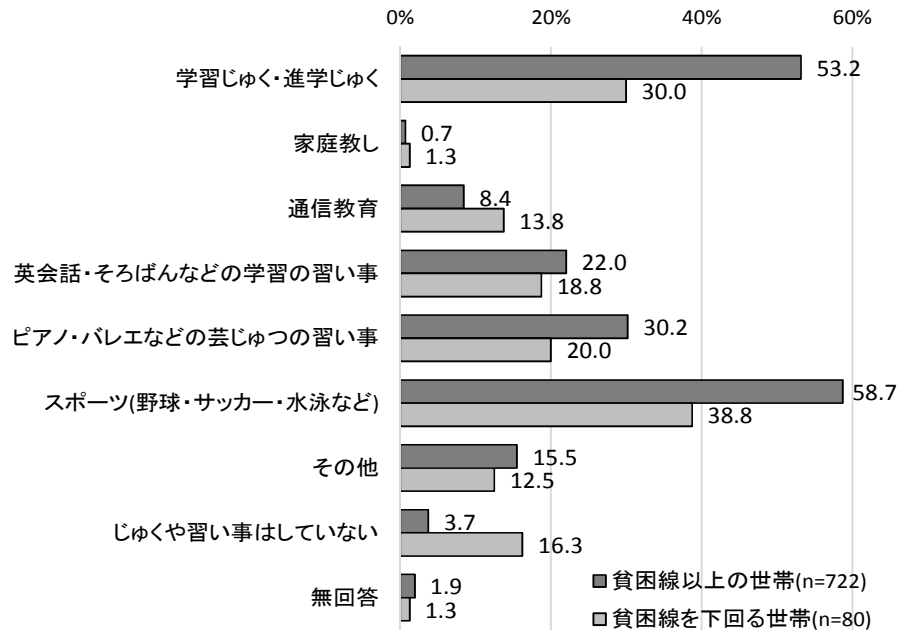
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】

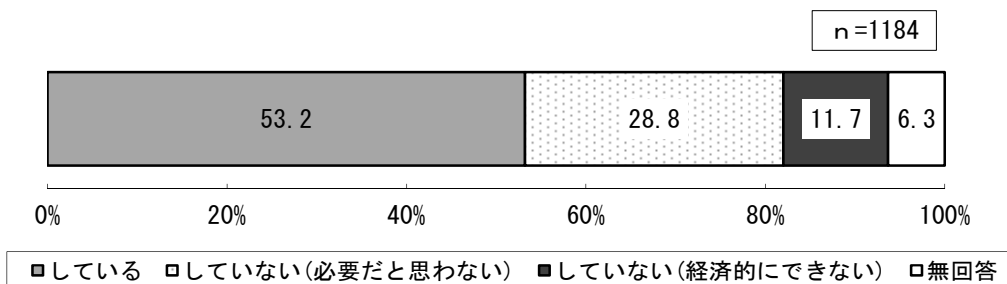


②学習塾に通わせること（保：問10(5)）

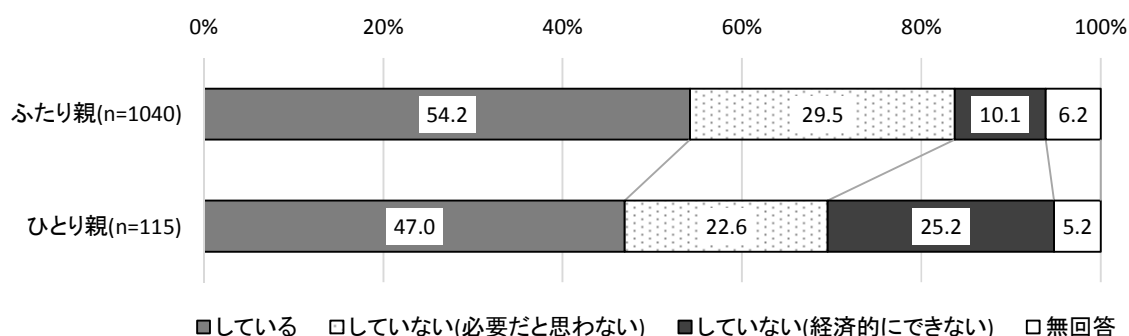
- 保護者に設問した学習塾に通わせることについて、全体では「していない（経済的にできない）」の回答は、11.7%となっています。
- 世帯類型別では、「していない（経済的にできない）」の回答が、ふたり親世帯で10.1%、ひとり親世帯で25.2%となっており、経済的状況別では、「貧困線以上の世帯」が9.1%、「貧困線を下回る世帯」が35.8%と、いずれも大きな差がみられます。

◆学習塾に通わせること（小学校5年生保護者）

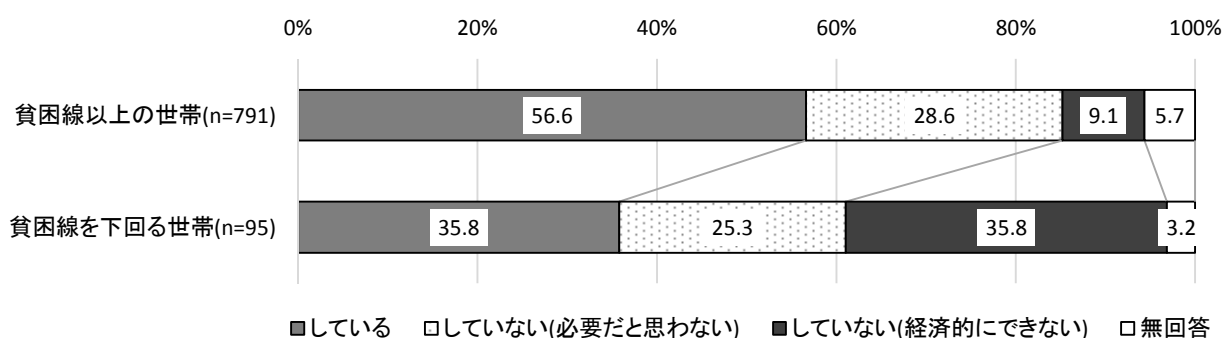
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



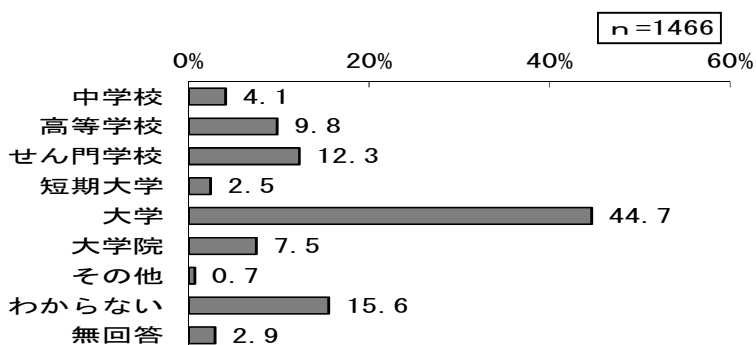
(4) 子ども自身の進学希望

①将来、どの学校まで行きたいか（児：問26）

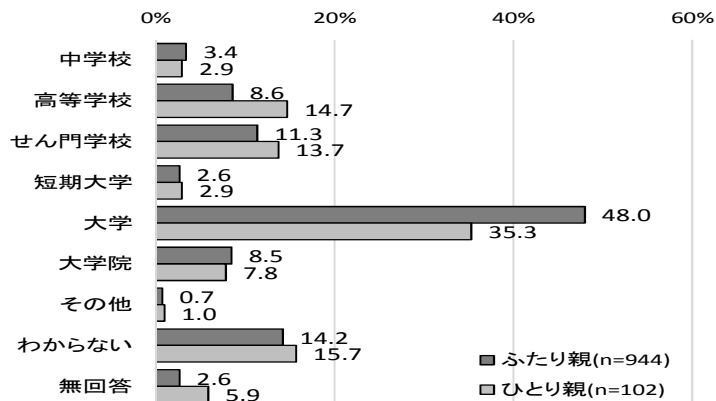
- 子どもが将来、どの学校まで行きたいかについて、全体では「大学」（44.7%）が最も高く、次いで「わからない」（15.6%）、「専門学校」（12.3%）が続いています。
- 世帯類型別では、「大学」の回答が、ふたり親世帯で48.0%、ひとり親世帯で35.3%となっており、ふたり親世帯の方が高くなっています。
- 経済的状況別では、「大学」の回答が、「貧困線以上の世帯」で50.1%、「貧困線を下回る世帯」で30.0%となっており、経済的状況によって大きな差がみられます。

◆子ども自身の将来の進学希望（小学校5年生児童）

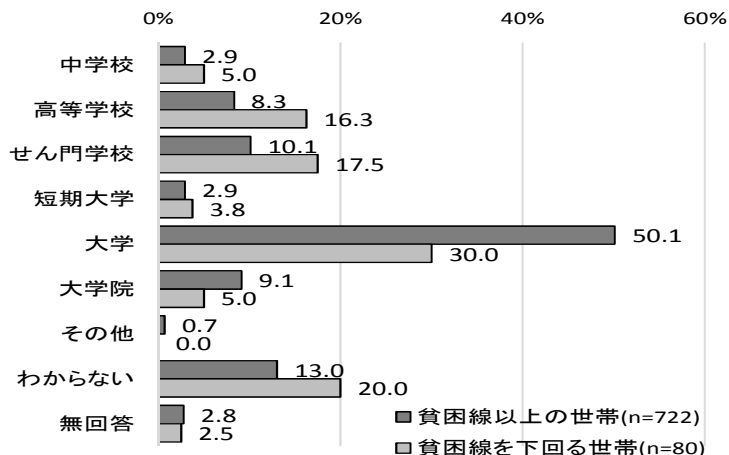
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



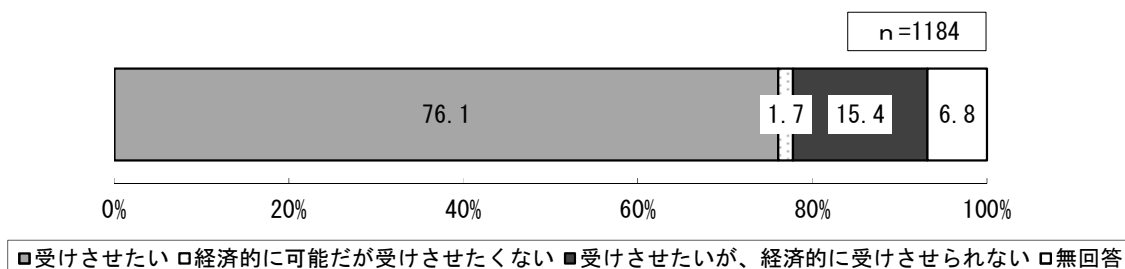
(5) 子どもの教育・進学に対する保護者の意向

①どの段階までの教育を受けさせたいか（保：問5）

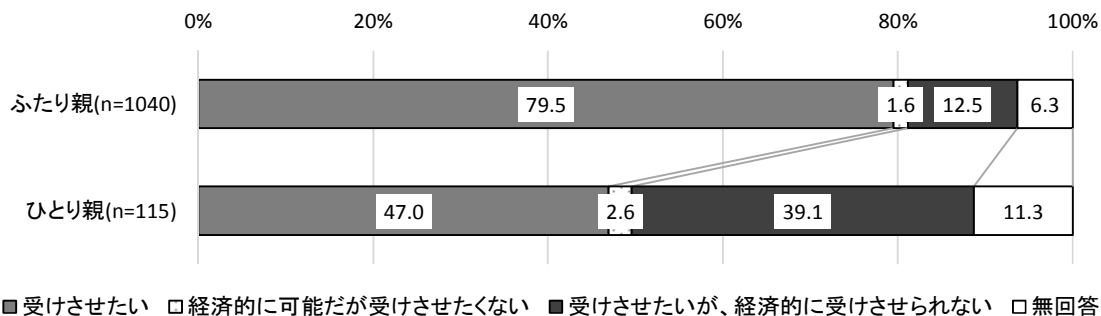
- 保護者に設問した子どもの進学に関する意識について、全体では「大学・大学院までの教育」を「経済的に受けさせられない」の回答は15.4%となっています。
- 世帯類型別では、「大学・大学院までの教育」を「経済的に受けさせられない」の回答が、ふたり親世帯では12.5%に対し、ひとり親世帯では39.1%となっており、大きな差がみられます。
- 経済的状況別では、「大学・大学院までの教育」を「経済的に受けさせられない」の回答が、「貧困線以上の世帯」では12.6%に対し、「貧困線を下回る世帯」では41.1%となっており、大きな差がみられます。

◆大学・大学院までの進学に対する意向（小学校5年生保護者）

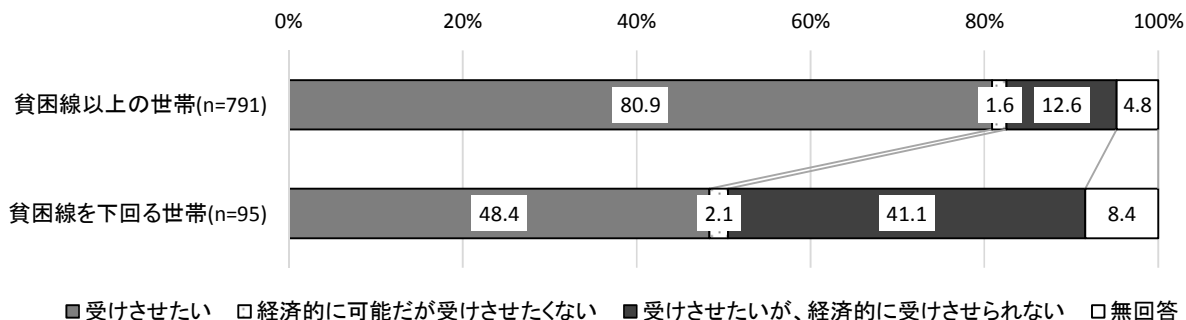
【アンケート全体】



【世帯類型別】



【経済的状況別】



IV 施設等利用者アンケートの調査結果

各項目の横の設問番号に記載している「養」は『児童養護施設に入所している子ども』を対象とした調査票の設問番号、「フ」は『フリースクールに通う子ども』を対象とした調査票の設問番号、「高」は『定時制高校生徒』を対象とした調査票の設問番号を示しています。

また、数値で回答いただく設問には【数値回答】、複数の回答をしていただく設問には【複数回答】と記載しています。

IV 施設等利用者アンケートの調査結果

【本節の概要】

○悩みや不安

悩んでいることや心配ごと、困っていることについて、児童養護施設に入所している子どもでは、「なやんでいることや心配なこと、困っていることはない」(32.6%)に次いで、「進学のこと」(30.2%)、「就職のこと」(30.2%)の回答が高く、フリースクールに通う子どもでは、「進路・将来のこと」(65.6%)、「勉強のこと」(37.5%)、定時制高校の生徒では、「学校の勉強のこと」(47.7%)、「進学のこと」(39.3%)の回答が高くなっており、いずれも進学や将来の進路に関することが上位となっています。

心配ごとや悩みがあるときの相談相手について、児童養護施設に入所している子どもの23.3%、フリースクールに通う子どもの18.8%、定時制高校の生徒の15.9%が「だれもいない」と回答しています。

日々の生活で感じていることや将来への不安について、自由記述でうかがったところ、児童養護施設に入所している子どもでは、退所後の生活に不安を抱えていることや、自分の夢や希望する進学が実現できるか不安を抱えている意見などが聞かれました。フリースクールに通う子どもでは、将来大学や会社へ通い続けることの不安などが聞かれました。定時制高校の生徒では、今の生活を変えたいといった意見や、希望する仕事等がまだ決まっていないことへの不安などが聞かれました。

○自己肯定感

自分のことをどう思っているか(自己肯定感)について、「自分が価値のある人間だと思う」の設問では、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の回答は、児童養護施設に入所している子どもでは、44.2%、フリースクールに通う子どもでは、40.6%、定時制高校の生徒では56.1%となっています。

また、「不安に感じることはない」の設問について、『あてはまらない』の回答は、児童養護施設に入所している子どもでは55.8%、フリースクールに通う子どもでは62.6%、定時制高校の生徒では62.6%となっています。

○将来の夢

将来の夢の有無について、「ある」と回答した人は、児童養護施設に入所している子どもで67.4%、フリースクールに通う子どもで37.5%、定時制高校の生徒で72.9%となっています。また、「ない」と回答した人は、児童養護施設に入所している子どもで32.6%、フリースクールに通う子どもで56.3%、定時制高校の生徒で23.4%となっています。

夢がない理由について、児童養護施設に入所している子どもでは、「夢が、かなうのが難しいと思うから」(35.7%)、「わからない」(35.7%)の回答が高く、フリースクールに通う子どもで

は、「具体的に何も思い浮かばないから」(50.0%)、定時制高校の生徒では、「具体的に何も思い浮かばないから」(56.0%)の回答が高くなっています。

自分の夢や将来の希望をかなえるために必要なことについて、自由記述でうかがったところ、児童養護施設に入所している子どもでは、物事に対し継続して取り組むことが大切などの意見がありました。フリースクールに通う子どもでは、周りの人、親からの応援を求める意見や、勉強を教えてくれる人がいて欲しいといった意見などが聞かれました。定時制高校の生徒では、将来について真剣に考えることや、進学するためには自身でお金を貯めることが必要といった意見などが聞かれました。

(1) 自分の健康状態

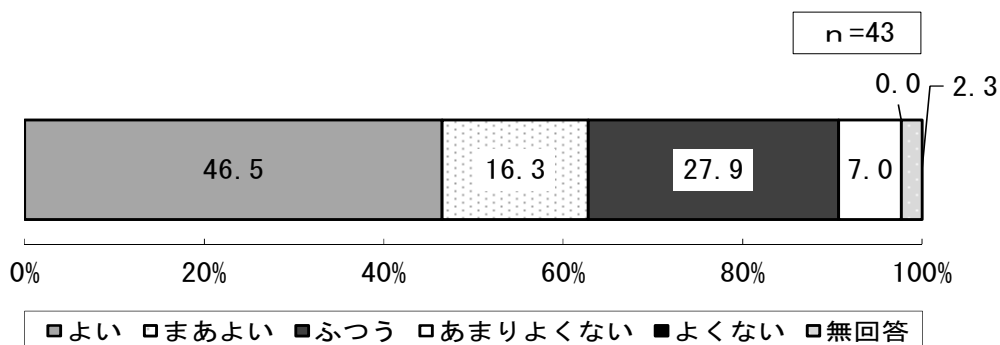
①自分の健康状態（養：問4、フ：問4、高：問6）

- 健康状態について、児童養護施設に入所している子どもでは、「よい」と「まあよい」を合わせた『よい』の回答が62.8%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』の回答が7.0%となっています。
- フリースクールに通う子どもでは、『よい』の回答が31.3%、『よくない』の回答が21.9%となっています。
- 定時制高校の生徒では、『よい』の回答が30.9%、『よくない』の回答が28.0%となっています。

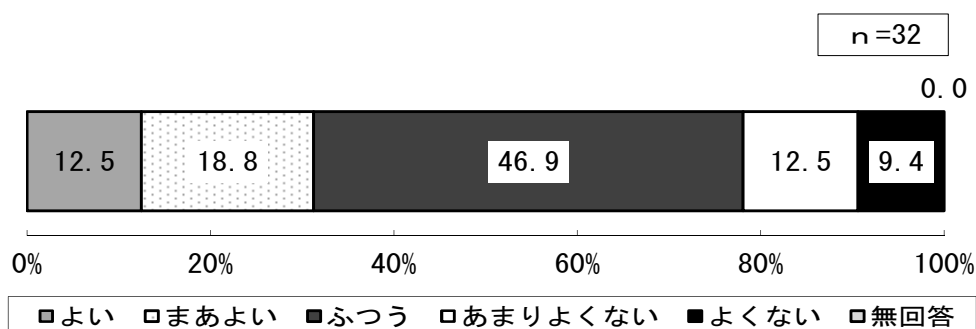
(参考) 小学校5年生アンケート全体の『よい』の回答は80.4%、『よくない』の回答は2.5%

◆自分の健康状態

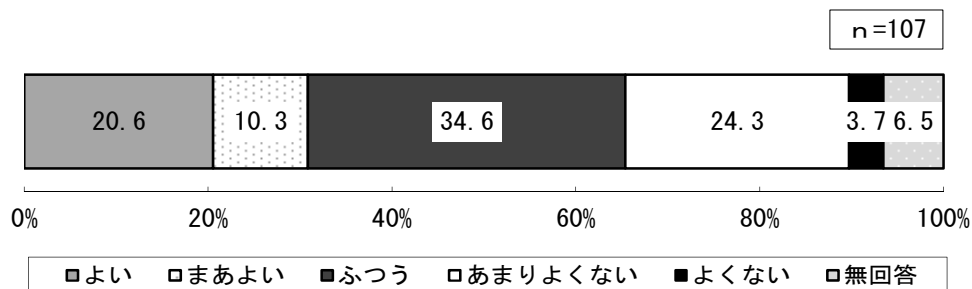
(児童養護施設に入所している子ども)



(フリースクールに通う子ども)



(定時制高校生徒)



(2) 悩みごとや心配なこと

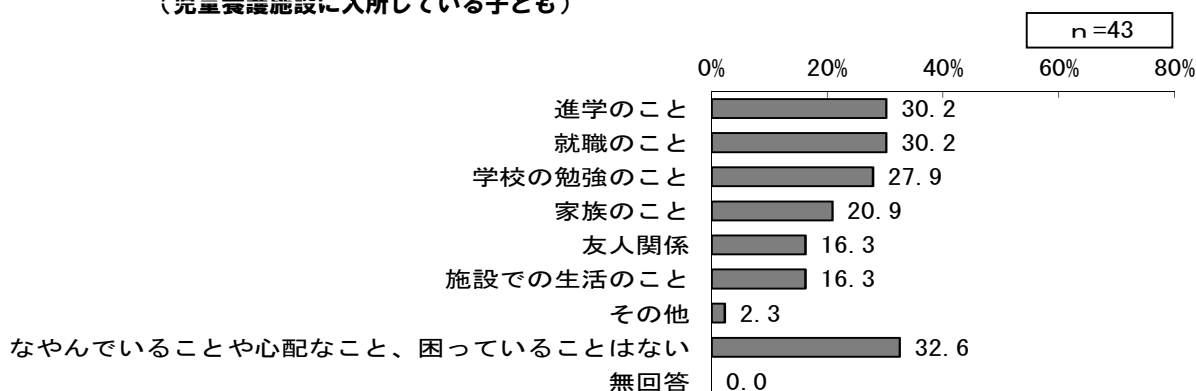
①悩みごとや心配なこと、困っていること【複数回答】(養：問6、フ：問6、高：問8)

- 悩みごとや心配なことについて、児童養護施設に入所している子どもでは、「なやんでいることや心配なこと、困っていることはない」が32.6%と最も高く、次いで「進学のこと」(30.2%)、「就職のこと」(30.2%)、「学校の勉強のこと」(27.9%)と続いています。
- フリースクールに通う子どもでは、「進路・将来のこと」が65.6%と最も高く、次いで「勉強のこと」(37.5%)、「親のこと」(15.6%)と続いています。
- 定時制高校の生徒では、「学校の勉強のこと」が47.7%と最も高く、次いで「進学のこと」(39.3%)、「友人関係」(31.8%)と続いています。

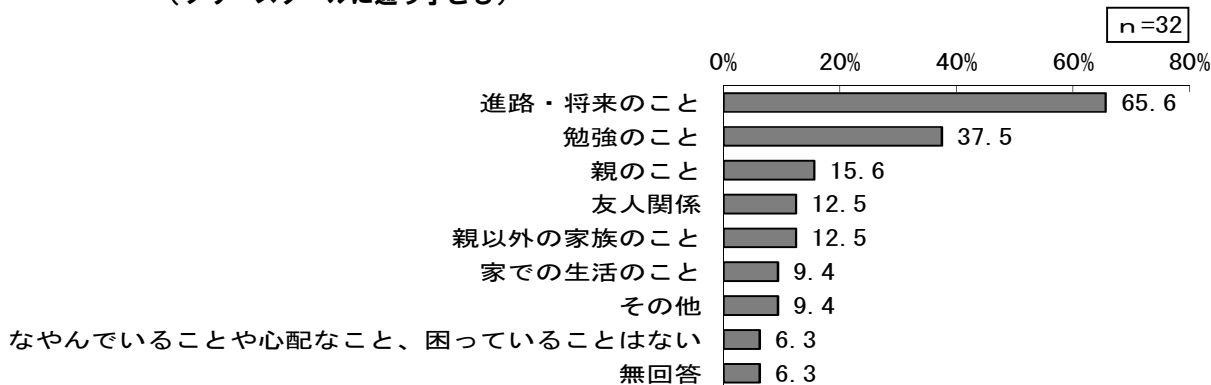
(参考) 小学校5年生アンケート全体の「進学や将来について」の悩みの回答は、16.0%

◆悩みごとや心配なこと、困っていること

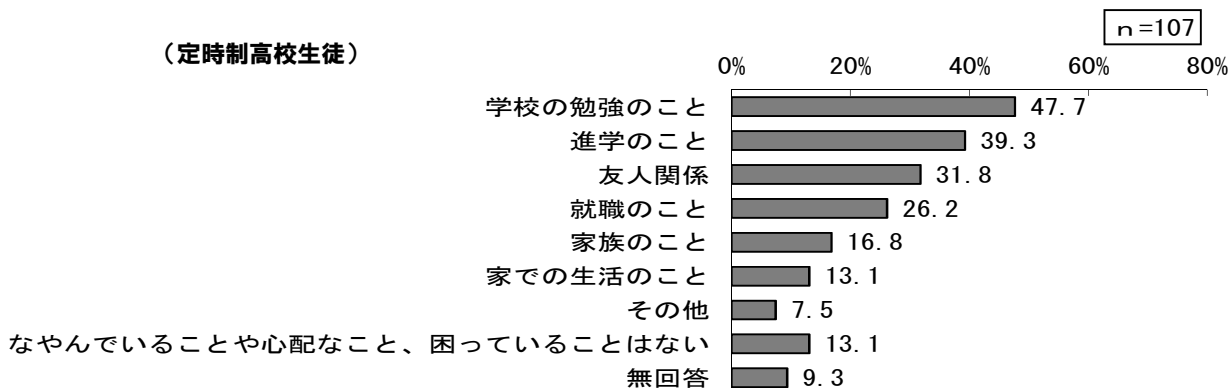
(児童養護施設に入所している子ども)



(フリースクールに通う子ども)



(定時制高校生徒)



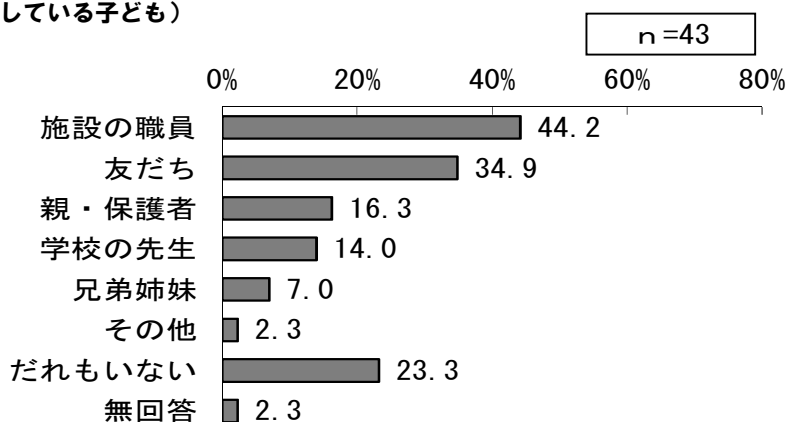
②心配ごとや悩みがあるときの相談相手【複数回答】（養：問7、フ：問7、高：9）

- 心配ごとや悩みがあるときの相談相手について、児童養護施設に入所している子どもでは、「施設の職員」が44.2%と最も高く、次いで「友だち」（34.9%）、「だれもない」（23.3%）、「親・保護者」（16.3%）と続いています。
- フリースクールに通う子どもでは、「親」「東京シューレのスタッフ」がともに43.8%と最も高く、次いで「友だち」（28.1%）、「だれもない」（18.8%）と続いています。
- 定時制高校の生徒では、「親」が50.5%と最も高く、次いで「友だち」（49.5%）、「学校の先生」（19.6%）と続いています。

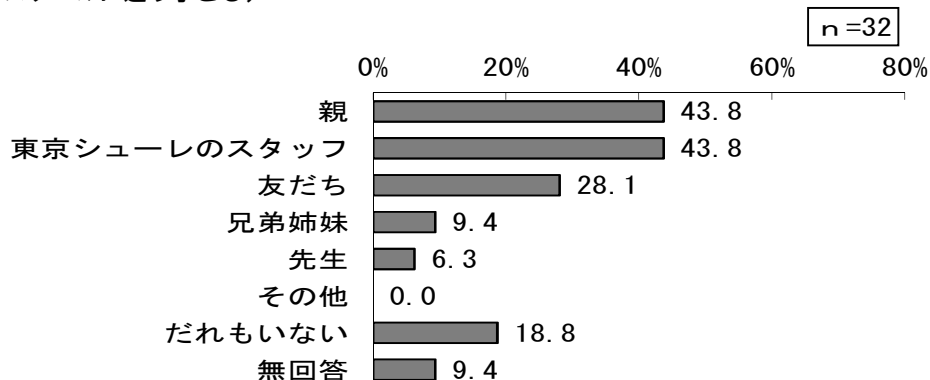
（参考）小学校5年生アンケート全体の回答は、親65.3%が最も高く、次いで友達41.7%、学校の先生17.4%

◆相談相手

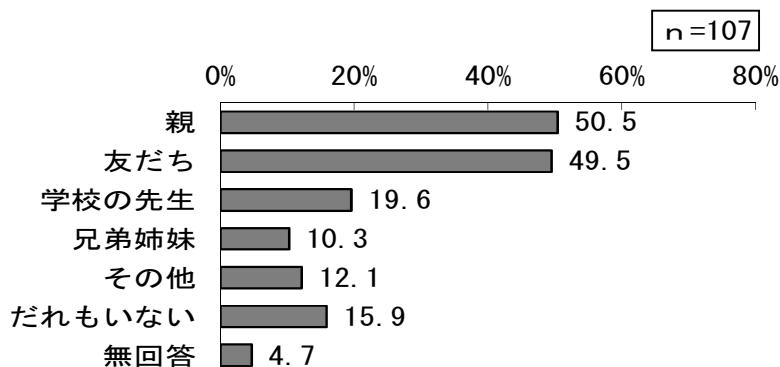
（児童養護施設に入所している子ども）



（フリースクールに通う子ども）



（定時制高校生徒）



③日々の生活で感じていることや将来への不安【自由記述】（養：問16、フ：問16、高：17）

- 日々の生活で感じていることや将来への不安について、自由記述でうかがったところ、児童養護施設に入所している子どもでは、「将来の生活に関すること」（8件）や「進学・就業に関すること」（7件）が多く、退所後の生活に不安を抱えていることや、自分の夢や希望する進学が実現できるか不安を抱えている意見などが聞かれました。
- フリースクールに通う子どもでは、「進学・就業に関すること」（3件）、「対人関係に関すること」（3件）が多く、将来大学や会社へ通い続けることの不安などが聞かれました。
- 定時制高校の生徒では、「現在の状況に関すること」（19件）、「進学・就業に関すること」（15件）が多く、今の生活を変えたいといった意見や、目標とする仕事等がまだ決まっていないことへの不安などが聞かれました。

【項目別意見等件数】

自由記述で共通して聞かれた内容や用語等から意見を「項目」ごとに分類しました。

項目	児童養護施設に入所している子ども (計22件)	フリースクールに通う子ども (計11件)	定時制高校生徒 (計54件)
勉強に関すること	1件	2件	3件
現在の状況に関すること	6件	—	19件
進学・就業に関すること	7件	3件	15件
将来の生活に関すること	8件	2件	3件
家族に関すること	—	1件	4件
対人関係に関すること	—	3件	5件
健康に関すること	—	—	5件

【項目別主な意見の概要】

○勉強に関すること

（児童養護施設に入所している子ども）

- ・勉強に対する意欲を示す意見がありました。

（フリースクールに通う子ども）

- ・勉強への意欲や苦手な克服に対する意見がありました。

（定時制高校生徒）

- ・勉強への不安や、受験に対する不安が聞かれました。

○現在の状況に関すること】

（児童養護施設に入所している子ども）

- ・今が楽しいとの意見がありました。

- ・現実と向き合いつつも、一般家庭での暮らしができていない不満やストレスを感じていることや、今自分がすべきことがわからないといった不安が聞かれました。

(定時制高校生徒)

- ・今の生活や毎日の過ごし方を変えたいとの意見が多くありました。
- ・日々の生活に疲れている状況や社会の変化についていけない状況への不安が聞かれました。
- ・学校生活に対する悩みなどが聞かれました。

○進学・就業に関すること

(児童養護施設に入所している子ども)

- ・モデルや保育士など具体的な夢を持ちつつも、それが実現できるかどうか不安を感じていることや、進学ができるかどうかについての不安も聞かれました。

(フリースクールに通う子ども)

- ・将来、大学への進学や就職をした際に、大学や会社に通い続けることができるかどうか不安を感じている意見が聞かれました。

(定時制高校生徒)

- ・専門学校や留学など、希望する進学ができるかどうかの不安についての意見がありました。
- ・将来就きたい仕事や自分がやりたいことが決まらない、どうしたらいいかわからない、といった不安が多く聞かれました。
- ・具体的な職業像や夢があっても、かなうかどうか不安であることや、将来の夢の実現には経済的な問題があるとの意見、自分がなりたい職業と親が薦める職業で進路を迷っているとの意見も聞かれました。

○将来の生活に関すること

(児童養護施設に入所している子ども)

- ・退所後の住居や生活などに対する不安が聞かれました。
- ・今後の自分の成長が楽しみとの意見がありました。

(定時制高校生徒)

- ・将来の自分が想像できないことや、将来を悲観する意見が聞かれました。

○家族に関すること

(児童養護施設に入所している子ども)

- ・就業による多忙等から家族との関わりが持てなくなることへの不安が聞かれました。

(フリースクールに通う子ども)

- ・親からのストレスを感じているとの悩みが聞かれました。

(定時制高校生徒)

- ・将来について、もう少し家族と話す時間がほしいが、何から話したらいいかわからないといった悩みが聞かれました。

- ・親と関わりたくない、親以外に相談できる大人がほしいとの悩みが聞かれました。

○対人関係に関すること

（フリースクールに通う子ども）

- ・自分は人に対して迷惑をかけているのではないかと自分を責めてしまうとの悩みが聞かれました。
- ・人と話すことがあまり得意ではないため、まずは自分に自信をもって物事にのぞみたいとの意見がありました。
- ・学校以外での友達が家の周りにいないため、休みの日などは凄く寂しいと感じてしまうといった不安が聞かれました。

（定時制高校生徒）

- ・友人と過ごすことが楽しいといった意見がありました。
- ・人や友達との付き合い方がわからない、人間関係に疲れた、友達とうまくいっていないなどの悩みが聞かれました。

○健康に関すること

（定時制高校生徒）

- ・仕事をしていくうえで体力をつけたいとの意見がありました。
- ・体調がすぐれないために、将来に不安を抱える意見が多く聞かれました。

(3) 学習意欲

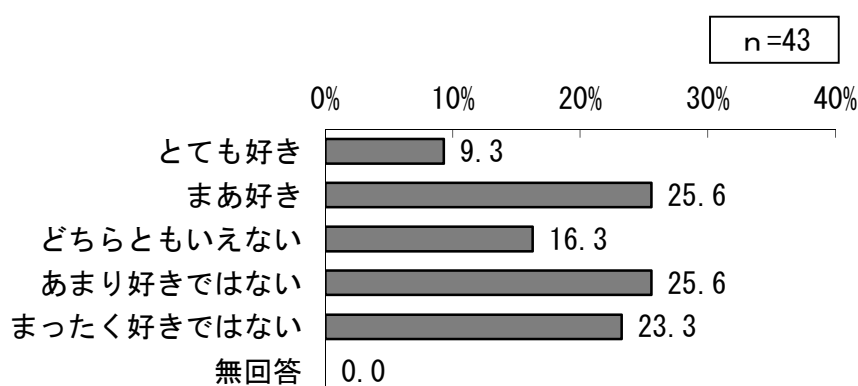
①勉強が好きか（養：問10、高：問11）

- 勉強が好きかどうかについて、児童養護施設に入所している子どもでは、「とても好き」と「まあ好き」を合わせた『好き』の回答が34.9%、「あまり好きではない」と「まったく好きではない」を合わせた『好きではない』の回答が48.9%となっています。
- 定時制高校の生徒では、『好き』の回答が20.6%、『好きではない』の回答が43.9%となっています。

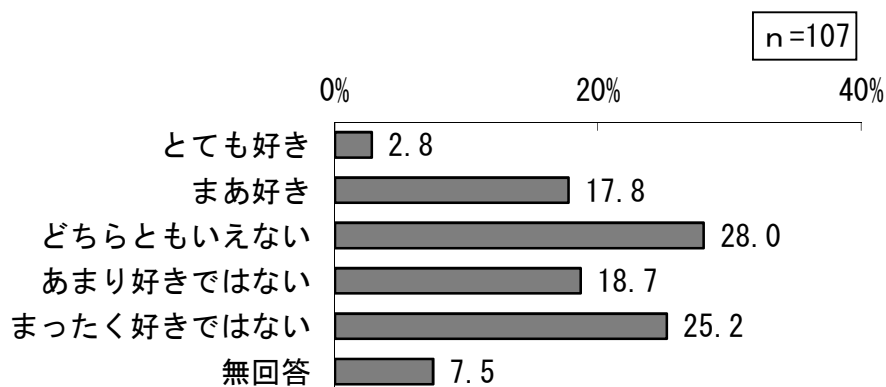
（参考）小学校5年生アンケート全体の『好き』の回答は56.0%、『好きではない』の回答は20.0%

◆勉強が好きか

（児童養護施設に入所している子ども）



（定時制高校生徒）



(4) 自己肯定感

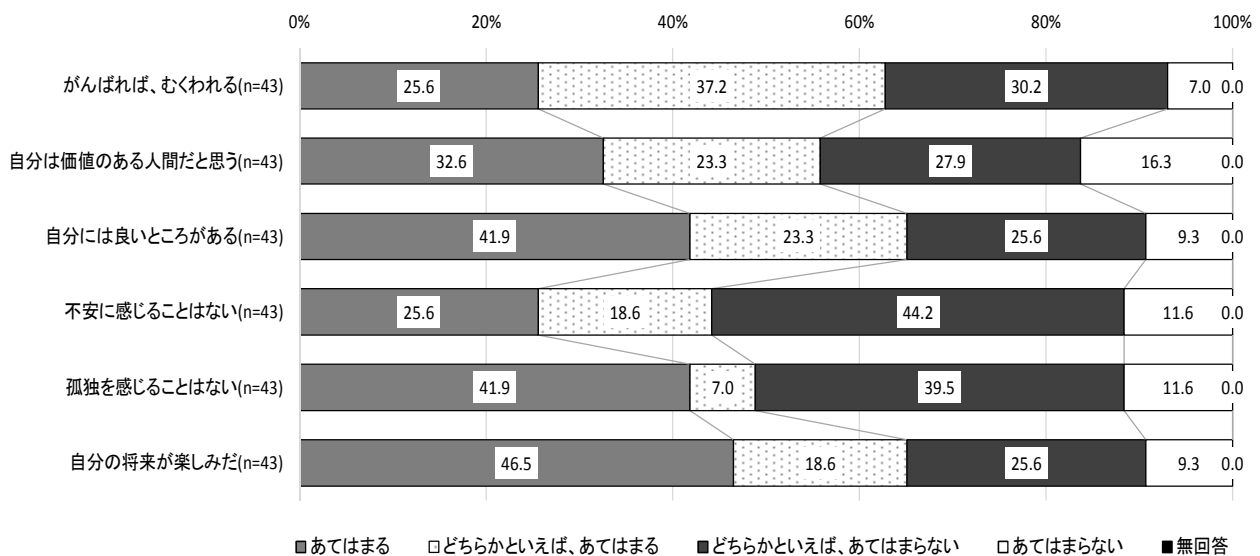
①自分自身について（養：問11、フ：問12、高：問13）

- 自分のことをどう思っているか（自己肯定感）について、「自分が価値のある人間だと思う」の設問では、「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の回答は、児童養護施設に入所している子どもでは44.2%、フリースクールに通う子どもでは40.6%、定時制高校の生徒では56.1%となっています。
- 「不安に感じることはない」の設問について、『あてはまらない』の回答は、児童養護施設に入所している子どもでは55.8%、フリースクールに通う子どもでは62.6%、定時制高校の生徒では62.6%となっています。
- 「自分の将来が楽しみだ」の設問について、『あてはまらない』の回答は、児童養護施設に入所している子どもでは34.9%、フリースクールに通う子どもでは53.2%、定時制高校の生徒では44.9%となっています。

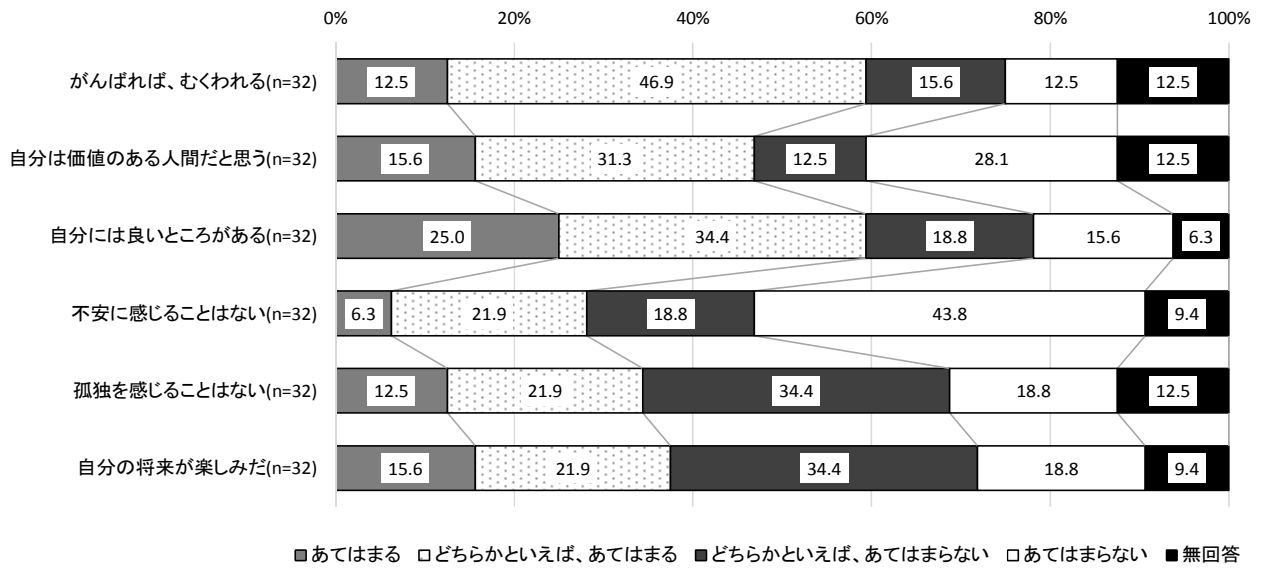
（参考）小学校5年生アンケート全体の『あてはまらない』の回答は「自分が価値のある人間だと思う」で28.5%、不安に感じることはない」で34.2%、「自分の将来が楽しみだ」で15.5%

◆自分のことをどう思っているか（自己肯定感）

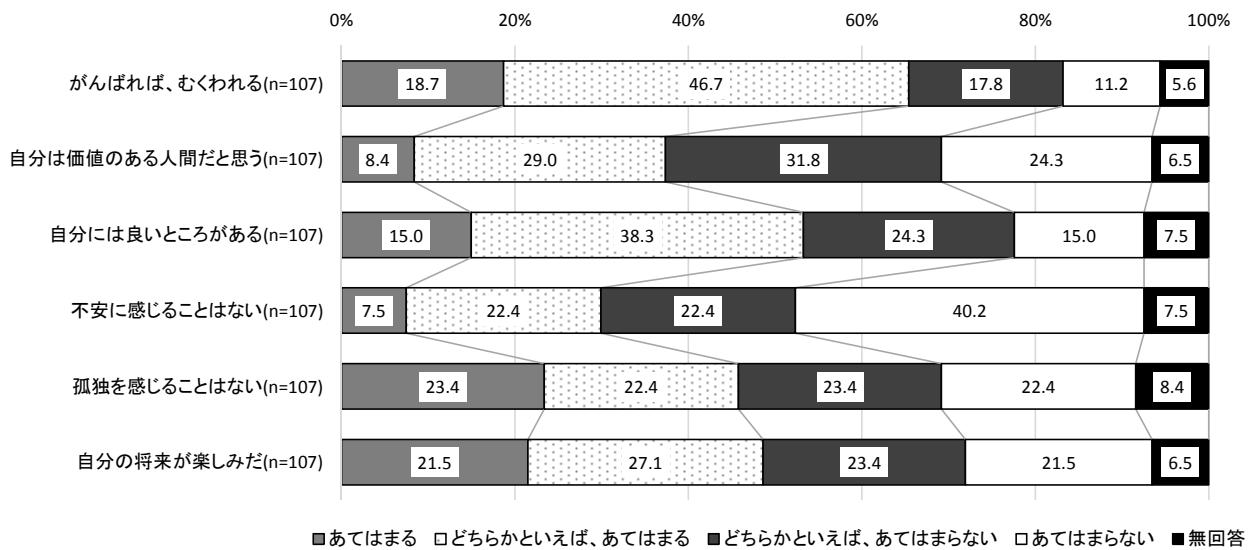
（児童養護施設に入所している子ども）



(フリースクールに通う子ども)



(定時制高校生徒)



(5) 将来の夢

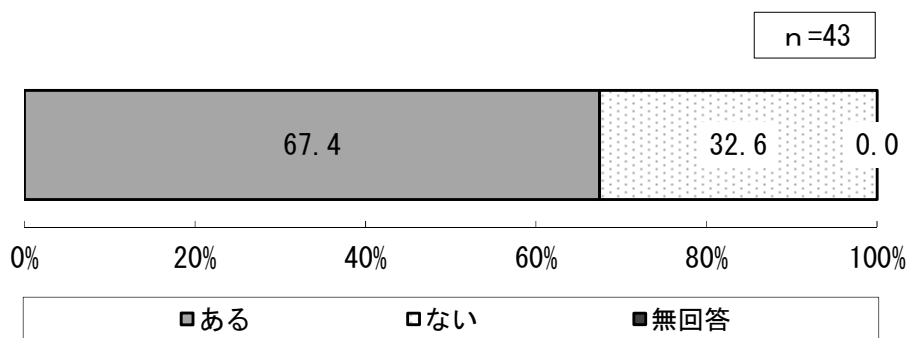
①夢の有無（養：問12、フ：問13、高：問14）

- 将来の夢の有無について、児童養護施設に入所している子どもでは、「ある」が67.4%、「ない」が32.6%となっています。
- フリースクールに通う子どもでは、「ある」が37.5%、「ない」が56.3%となっています。
- 定時制高校の生徒では、「ある」が72.9%、「ない」が23.4%となっています。

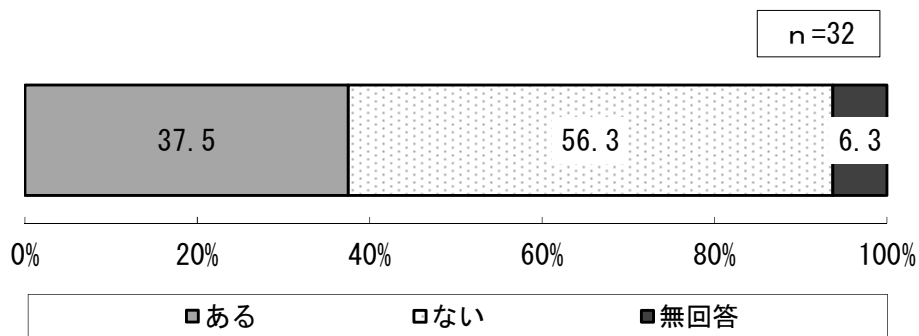
（参考）小学校5年生アンケート全体の「ある」の回答は73.9%、「ない」の回答は22.5%

◆夢の有無

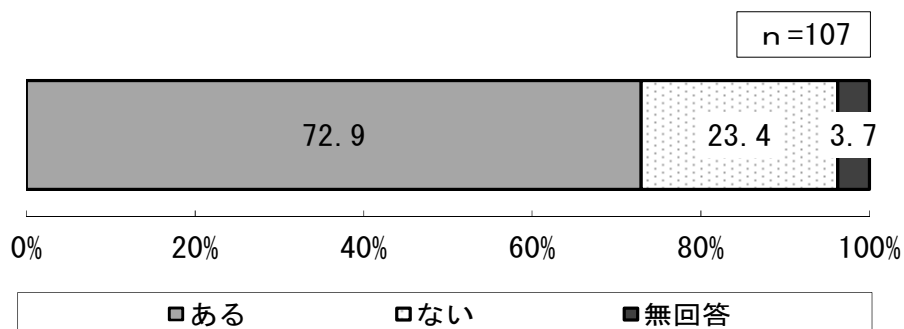
（児童養護施設に入所している子ども）



（フリースクールに通う子ども）



（定時制高校生徒）



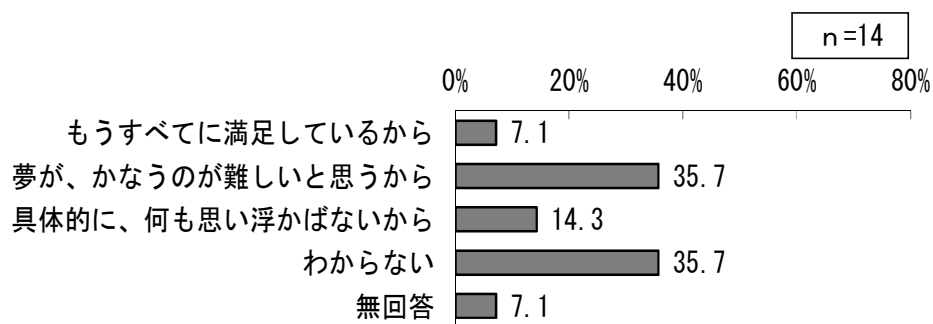
②夢がない理由（養：問12-1、フ：問13-1、高：問14-1）

- 「夢がない」と回答した理由について、児童養護施設に入所している子どもでは、「夢が、かなうのが難しいと思うから」、「わからない」がともに35.7%と最も高くなっています。
- フリースクールに通う子どもでは、「具体的に、何も思い浮かばないから」が50.0%と最も高くなっており、次いで「夢が、かなうのが難しいと思うから」、「わからない」がともに22.2%となっています。
- 定時制高校の生徒では、「具体的に、何も思い浮かばないから」が56.0%と最も高くなっており、次いで「夢が、かなうのが難しいと思うから」（28.0%）が続いています。

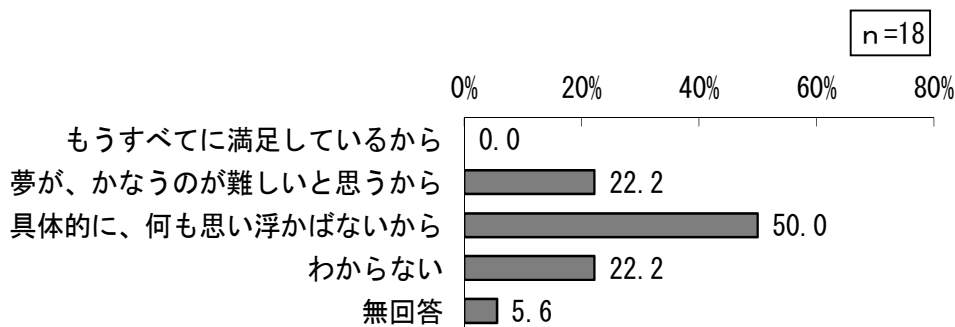
（参考）小学校5年生アンケート全体で「具体的に、何も思い浮かばないから」（51.5%）が最も高く、次いで「わからない」が21.8%

◆夢がない理由

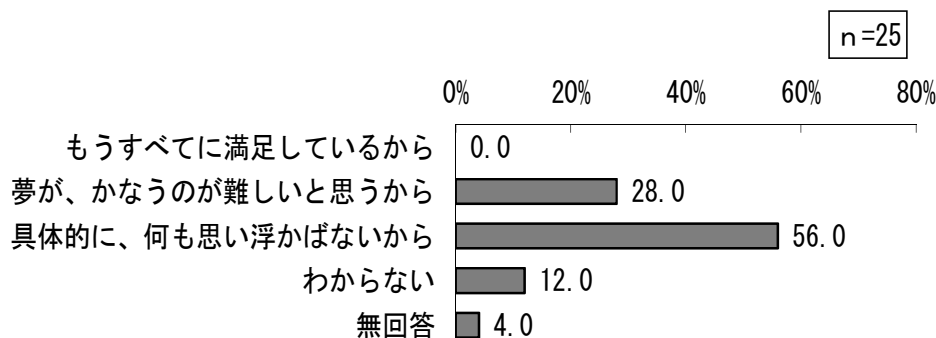
（児童養護施設に入所している子ども）



（フリースクールに通う子ども）



（定時制高校生徒）



(6) 将来行きたい学校

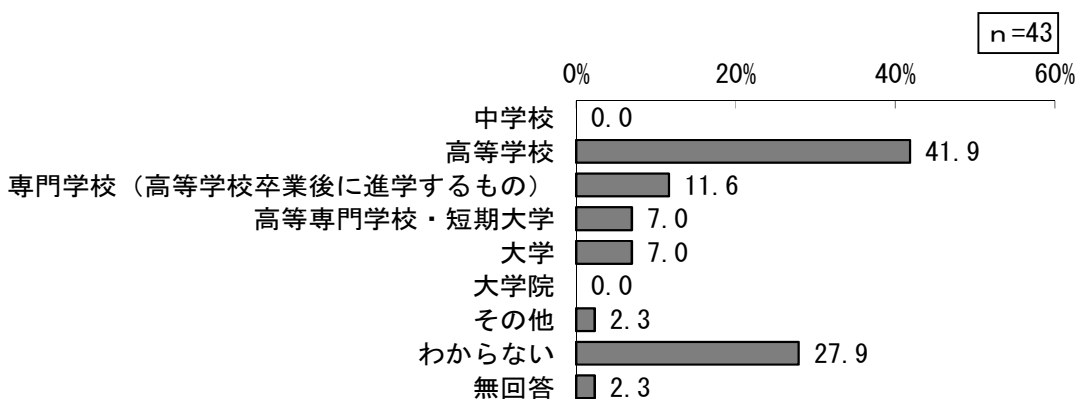
① 将来行きたい学校（養：問13、フ：問14、高：問15-1）

- 将来どの学校まで行きたいかについて、児童養護施設に入所している子どもでは、「高等学校」が41.9%と最も高く、次いで「わからない」（27.9%）、「専門学校（高等学校卒業後に進学するもの）」（11.6%）と続いています。
- フリースクールに通う子どもでは、「専門学校（高等学校卒業後に進学するもの）」が28.1%と最も高く、次いで「わからない」（25.0%）、「大学」（15.6%）と続いています。
- 定時制高校の生徒では、「専門学校」が57.6%と最も高く、次いで「大学」（39.0%）が続いています。

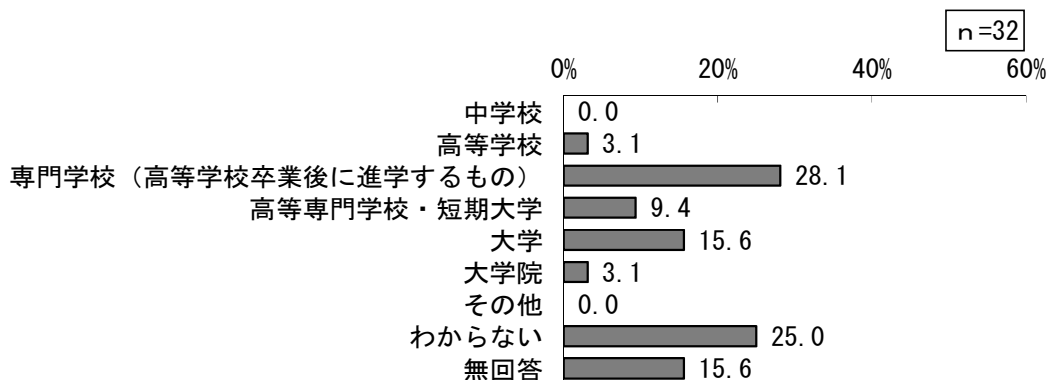
（参考）小学校5年生アンケート全体で「大学」（44.7%）が最も高く、次いで「専門学校」が12.3%

◆ 将来行きたい学校

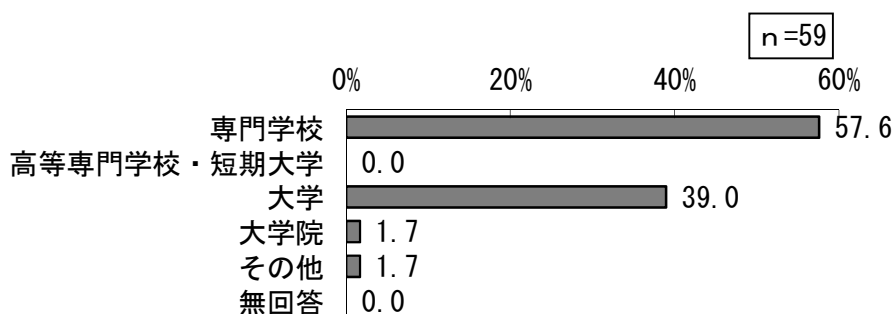
（児童養護施設に入所している子ども）



（フリースクールに通う子ども）



（定時制高校生徒）



②自分の夢や希望をかなえるために必要なこと【自由記述】（養：問14、フ：問16、高：問16）

- 自分の夢や希望をかなえるために必要なことについて、自由記述でうかがったところ、児童養護施設に入所している子どもでは、「自身の取組姿勢に関すること」（12件）、「勉強・進学に関すること」（12件）が多く、物事に対し継続して取り組むことが大切などの意見がありました。
- フリースクールに通う子どもでは、「周囲の支え・見守りに関すること」（5件）、「勉強・進学に関すること」（2件）が多く、周りの人、親からの応援を求める意見や、勉強を教えてくれる人がいて欲しいといった意見などが聞かれました。
- 定時制高校の生徒では、「自身の取組姿勢に関すること」（40件）、「勉強・進学に関すること」（31件）が多く、将来について真剣に考えることや、進学するためには自身でお金を貯めることが必要といった意見などが聞かれました。

【項目別意見等件数】

自由記述で共通して聞かれた内容や用語等から意見を「項目」ごとに分類しました。

項目	児童養護施設に入所している子ども (計32件)	フリースクールに通う子ども (計11件)	定時制高校生徒 (計103件)
自身の取組姿勢に関すること	12件	—	40件
勉強・進学に関すること	12件	2件	31件
知識・技術の習得に関すること	2件	—	12件
職業体験・職業観に関すること	—	—	6件
経済的自立に関すること	6件	—	—
対人関係に関すること	—	—	8件
周囲の支え・見守りに関すること	—	5件	2件
その他	—	4件	4件

【項目別主な意見の概要】

○自身の取組姿勢に関すること

（児童養護施設に入所している子ども）

- ・自身の努力が必要であることや、やり続けることが大切であるとの意見が多くありました。
- ・自分のことは自分でやる、てきぱきと行動する、遅刻をしないことが必要との意見がありました。

（定時制高校生徒）

- ・努力、やる気、忍耐といった取組姿勢や夢を叶えることへの強い気持ちが重要との意見が多くありました。
- ・今できることを一生懸命やることが必要との意見がありました。
- ・将来について真剣に考えることが必要との意見がありました。

○勉強・進学に関すること

（児童養護施設に入所している子ども）

- ・勉強をすること、よい成績をとることが必要との意見が多くありました。

（フリースクールに通う子ども）

- ・夢や希望を実現させるための勉強を教えてくれる人がいるといいとの意見がありました。

（定時制高校生徒）

- ・勉強して学力や能力を高め、単位を取得し、学校を卒業することが必要との意見が多くありました。
- ・専門学校や大学に進学すること、また、そのためにはアルバイト等で進学のためのお金を貯めることが必要との意見がありました。

○知識・技術の習得に関すること

（児童養護施設に入所している子ども）

- ・目指す職業に必要なスキルを上げること、センス等を磨くことが必要との意見がありました。

（定時制高校生徒）

- ・目指す職業に必要な資格や専門的な技術、語学力が必要との意見が多くありました。
- ・コミュニケーション能力やマナーを身につけることが必要との意見がありました。

○職業体験・職業観に関すること

（定時制高校生徒）

- ・仕事に慣れるためのアルバイト経験や実際に職場を体験すること、ボランティアに積極的に参加することが必要との意見がありました。
- ・希望する職業が自分に合っているか調べること、仕事を体験することなどが重要との意見がありました。

○経済的自立に関すること

（児童養護施設に入所している子ども）

- ・お金をためること、就職してお金を稼ぐことが必要との意見がありました。

○対人関係に関すること

（定時制高校生徒）

- ・友達や周囲の人と協力すること、人とたくさん関わる必要との意見がありました。
- ・協調性を持つこと、社会に適応すること、コミュニケーション能力が必要との意見が多くありました。
- ・人に対しての優しさや人の気持ちがわかること、自分の気持ちを伝えることが大切といった意見がありました。

○周囲の支え・見守りに関すること

(フリースクールに通う子ども)

- ・周りの人の支えや見守りが必要との意見が多くありました。
- ・親からの応援が必要との意見がありました。

(定時制高校生徒)

- ・周りの人の協力や、自分を取り巻く環境が重要であるとの意見がありました。

○その他

(児童養護施設に入所している子ども)

- ・今後、夢が変わるかもしれないので、部活などで楽しみながら夢を探していきたいとの意見がありました。

(フリースクールに通う子ども)

- ・どんな応援でも嬉しいとの意見がありました。
- ・夢がないので応援を必要としない、今は夢が思い浮かばないといった意見がありました。

(定時制高校生徒)

- ・あくまでも夢なので叶う事はない、今は夢がないといった意見がありました。

V 支援者ヒアリングの調査結果

V 支援者ヒアリングの調査結果

1. 調査結果に関する留意点

支援者ヒアリングの調査結果は、日ごろから支援に関わっている各機関・団体の方の視点から、困難を抱える家庭の子どもや保護者の背景・生活状況や今後求められる支援や取り組みなどについてうかがった内容を、分析者において要約し、整理を行いました。

これらの掲載している情報について、各機関・団体の視点からうかがい知れる範囲の内容であり、その機関・団体が関わる全てに該当するものではありません。このほか、「〇〇が多い」という表現については、必ずしも統計的な裏付けがあるわけではありません。

2. 調査結果からうかがわれる状況や課題

日ごろから困難を抱える家庭の子どもや保護者への支援に関わっている各機関・団体から共通して聞かれた情報について「困難を抱える家庭の子どもや保護者の状況」、「今後求められる取り組み」の観点から整理を行いました。

(1) 困難を抱える家庭の子どもや保護者の状況

① 困難を抱える家庭の保護者の背景と状況

支援者ヒアリングから、経済的困窮の要因には、就業の問題があり、その背景には、保護者自身の障害や精神疾患等の健康上の課題や、学歴が相対的に低いこと、また、ひとり親であること等が関係している可能性があることが把握されました。

このような状況にある方は、働きたくても働けない、また、仕事をしていても、非正規雇用の場合が多く収入が安定していないなど、十分な収入が得られていない場合が多いことが指摘されています。さらに、収入の安定を図るために、複数の仕事を掛け持ちしたり、比較的時間給の高い夜間勤務の仕事をするなどで長時間勤務になり、体調を崩してしまう場合があることや、保護者の成育歴や障害、精神疾患等の影響で、人とのコミュニケーションに課題を抱え、仕事が長続きしない場合などもあることも聞かれました。また、ひとり親の場合には、子育てとの関係から就業時間等の条件が合う仕事が見つからず、非正規雇用にせざるを得ない状況もあることが聞かれました。

なお、保護者の就業の困難や低所得は、結果として、食料等の必要な物が買えなかったり、子どもの教育費や学費が不足することなどにもつながり、子どもの成長や進学等に大きな影響を与えていくものと考えられます。

②保護者の孤立の状況について

困難を抱える家庭の保護者は、地域や他の保護者との人間関係をうまく築くことができない傾向にあることが多く、孤立してしまう場合があることが指摘されています。また、子どもや保護者の外見などからは、経済的困窮の状況が分かりづらくなっていることが、孤立に拍車をかけているとの指摘があります。

様々な困難を抱えているなかで、保護者が相談機関や支援機関を信じられず、関係がとぎれてしまい、支援が届かなくなってしまう場合や公的な支援を受けることに抵抗を感じて、経済的に困窮していても支援等を望まない方もいるとの話が聞かれました。

また、本人が支援の必要性を認識していない場合や、困り事があっても、他の人に家庭の事情を話したがらず、相談や支援の窓口にいかない方もいることが指摘されました。

このほか、困難を抱える家庭の保護者には、保護者自身が子どもの頃に、両親の離婚、親からの虐待や暴力などの困難を経験している場合が多いことが指摘されており、親との関係が疎遠になっている保護者も多く、親族にも頼れない状況の方も多いため指摘されています。また、父子家庭では、特に地域との関わりが希薄となっていることも指摘されています。

③子どもの障害、孤立の状況について

困難を抱える家庭の子どものなかには、障害等を抱えている子どもが増えていることが指摘されています。また、保護者が子どもの障害等を認めることができず、適切な療育や支援につながらないケースもあるとの話が聞かれました。

また、困難を抱える家庭の子どもは、平日の夕食時や週末に一人になる時間が多く、食事を子どもだけで食べている場合が多いことや、夜間に保護者が不在のため、友人に電話を頻繁にかけているなど、子どもが孤立している状況がみられることが指摘されています。

また、学校があるときは給食があるため食事に困ってなくても、夏休みなどは、保護者が日中に食事を用意できず、夏休み明けに子どもの体重が著しく減少していることもあるとの話が聞かれました。

④学力の低下、未定着、不登校について

困難を抱える家庭の子どもは、個人差はあるものの、物事に対する積極性や意欲が低下傾向にあることが指摘されています。特に、学習意欲については、「自分が少し勉強したくらいで何も変わらない」「大学を卒業しても就職できるとは限らない」といった意識のもと、学習する習慣が定着していない子どもが多いということも指摘されています。

困難を抱える家庭では、保護者の子どもの教育や進学に対する関心が低い場合があったり、本当は子どもに勉強を教えたい気持ちを持っていても、日々の生活の忙しさに追われ、勉強を教える余裕がない場合があるという話が聞かれました。

不登校についても、その背景として、家庭の経済的困窮や、友人関係のもつれやいじめの経験など、人との関わりに課題を抱えている場合が多いことが指摘されています。不登校になることで、生活リズムが崩れ、起床時間が遅くなることで不登校の傾向が更に強くなることや、保護者が不登校の課題を解決しようと思いついて悩むことでストレスを抱え、家族間の関係が悪くなり離婚に至る場合もあるという話が聞かれました。

(2) 今後求められる取り組み

①教育と福祉の連携

ヒアリングからは、教育部門と福祉部門の関係機関の更なる連携の強化を求める意見が多く聞かれました。例えば、学校や保育園、幼稚園では、子どもや家庭に関する様々な情報を把握しているが、その情報を生かし、福祉的な関わりを行うことが難しい場合があることや、福祉部門では、具体的な支援や機関につなぐノウハウを持っていても、困難を抱える家庭の子どもや保護者を発見することが難しい状況にあることが指摘されており、関係機関での情報共有や相互理解を図る取り組みなどの更なる連携の強化が求められています。

②多様な居場所づくり

北区において、子ども食堂をはじめ困難を抱える家庭の子どもへの支援に取り組む団体等が少しずつ増えていますが、まだ十分ではないことが指摘されています。また、行政の取組だけでは、困難を抱える家庭の子どもをきめ細かく見守っていくことは難しいため、地域やNPO、ボランティア等が行う活動を支援し、様々な居場所づくりを推進することが重要ではないかとの話が聞かれました。

また、支援に取り組む団体からは、活動におけるノウハウの不足やマンパワーの確保、資金面、活動場所などの活動の継続に関する課題を抱えているとの意見が聞かれました。例えば、活動への助成制度があっても、書類作成や手続きが煩雑で、活動をしながら書類等を整え申請を行うハードルが高いことや、団体同士の活動上の課題や運営ノウハウを共有し、団体同士の協力関係を深めることができる交流の場を求める意見などが聞かれました。

地域やNPO、ボランティア等の様々な主体による居場所づくりの活動を支援する取り組みが求められています。

③きめの細かな情報提供

困難を抱える家庭の保護者は、日々の生活に追われ、公的制度や相談機関等の情報収集をする時間的、精神的な余裕がない方が多いと指摘されています。困難を抱える家庭の保護者によっては、日々の生活に追われ、公的制度等の情報収集ができておらず、支援策を知らずに困窮している方もいるという話が聞かれました。

困難を抱える家庭へ必要な情報が届くきめの細かな情報の提供が求められています。

VI 調査票

VI 調査票

1. 区民アンケート

(1) 18歳未満の子どもがいる世帯

1. 宛名のお子さんについて

問1 宛名のお子さんのことについて教えてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

①今年4月2日現在の年齢	歳
②性別	1 男性 2 女性
③就学・就労等の状況	1 未就学(在宅育児) 2 保育園 3 幼稚園 4 認定こども園 5 小学校 6 中学校 7 高校 8 フリースクール 9 専門学校・大学等 10 社会人 11 就学・就労していない 12 その他()
④健康状態	1 よい 2 まあよい 3 ぶつう 4 あまりよくない 5 よくない
⑤障害等の有無	1 特になし 2 発達障害* 3 愛の手帳所持 4 身体障害者手帳所持 5 その他()

*「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害のことをいいます。

問2 宛名のお子さんは、1週間に朝食をどれくらい食べていますか。(あてはまる番号1つに○)

1 毎日食べる	2 週に5日以上食べる	3 週に3、4日は食べる
4 週に1、2日は食べる	5 ほとんど食べない	6 わからない

問3 宛名のお子さんは、朝食を誰と食べることが多いですか。(あてはまる番号1つに○)

1 家族全員	2 父または母と	3 父や母ではなく、祖父母と
4 子どもだけ(きょうだいだけ)	5 子ども1人	6 その他()

問4 宛名のお子さんは、夕食を誰と食べることが多いですか。(あてはまる番号1つに○)

1 家族全員	2 父または母と	3 父や母ではなく、祖父母と
4 子どもだけ(きょうだいだけ)	5 子ども1人	6 その他()

問4で「4」、「5」どお答えの方にうかがいます。

問4-1 宛名のお子さんが夕食を子どもだけで食べる最も大きな理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○)

1 働いている親の帰宅が遅いから	2 親が夜間の仕事で不在となるから
3 本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから	4 親が育児・介護などで忙しいから
5 その他()	



東京都北区
東京都北区教育委員会

北区の子どものいる世帯の生活状況等に関する調査

調査票

<調査へのご協力をお願いします>

拝啓 日頃から北区政の推進にご理解ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。
現在、北区及び北区教育委員会では、子どもの将来が生まれ育った家庭の経済状況等によって左右されることのないよう、未来を担う子どもたちの学びや育ちを支える支援計画の策定について検討を進めています。

この調査は、その検討の基礎資料を得るために行うもので、子どもがいる世帯の皆さまの日頃の暮らしやお子さんの様子、保護者の方々の就業や所得の状況、子育ての悩みなどについて、アンケート形式の調査をさせていただきます。

調査をお願いする方といたしましては、区内にお住まいで0歳から18歳未満の子どものいるご家庭から、4,000人を無作為に選ばせていただきました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、調査票は無記名で、お答えいただいた内容については全て統計的に処理し、今後の子育て支援施策及び学校教育の充実に向けに利用させていただきます。個々の回答内容やプライバシーに関わる内容が公表されたり、他の目的に利用されることは一切ございません。

敬具
平成28年7月 東京都北区 東京都北区教育委員会

ご記入にあたってのお願い

- この調査は、お子さんの保護者の方(おひとり)がお答えください。なお、「あなた」とはアンケートに回答いただく方を表します。
- 回答は、当てはまる回答の数字に○印をつけていただく場合と、回答を記入する場合があります。設問によって○印をつける数が増えますので、注意書きに沿ってご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、平成28年8月5日(金)までに、同封の返信用封筒に入れ、お近くの郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。

【調査に関する問い合わせ先】

北区教育委員会事務局 子ども未来部 子ども未来課 次世代育成係 (子どもの未来応援担当)
電話：03-3908-8143 FAX：03-3908-1341

問5 宛名のお子さんは、現在、塾に行ったり、習い事をしたりしていますか、費用がかかりますか、費用がかからないサークル活動等を含みません。(あてはまる番号すべてに○)

1	学習塾	2	通信教育
3	英会話・そろばんなど、学習の習い事	4	ピアノ・バレエなど、芸術の習い事
5	スポーツ(野球、サッカー、水泳など)	6	その他()
7	塾や習い事はしていない		

以下の問6～問10は、宛名のお子さんが小学生以上の方のみお答えください。

問6 宛名のお子さんは、平日の学校が終わった後、どのように過ごすごことが多いですか。(特に多いもの3つまで○)

1	まっすぐ帰り、自分の家で、一人で過ごす	2	まっすぐ帰り、自分の家で、家族と過ごす
3	児童館や学習クラブ、わくわく☆ひろばに	4	友達と遊ぶ
5	塾や習い事に行く	6	学校のクラブ活動に参加する
7	ゲームセンターや繁華街へ遊びに行く	8	アルバイトに行く
9	その他()	10	わからない

問7 宛名のお子さんについて、子ども食堂などの夜の居場所があった場合、利用したいと思えますか。(あてはまる番号1つに○)

1	現在利用している	2	今後利用したいと思う	3	利用するつもりはない
---	----------	---	------------	---	------------

※こので「子ども食堂」とは、子どもがひとりでも時間を過ごすことができ、無料あるいは安価に食事ができる場所のことをいいます。

問8 宛名のお子さんは、平日に学校以外の場でどれくらい勉強をしていますか。(1)～(2)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	全くして いない	30分未 満	30分～ 1時間未 満	1時間～ 2時間未 満	2時間～ 3時間未 満	3時間以 上
(1) 塾など自宅以外での勉強	1	2	3	4	5	6
(2) 自宅での勉強	1	2	3	4	5	6

問9 宛名のお子さんの、学校での成績はいかがですか。(あてはまる番号1つに○)

1	良好	2	まあまあ良好
3	ふつう	4	あまりよくない
5	よくない	6	わからない

問10 宛名のお子さんについて、学生ボランティア等による、無料の学習支援制度(学習の手助けなど)があった場合、利用したいと思えますか。(あてはまる番号1つに○)

1	現在利用している	2	今後利用したいと思う	3	利用するつもりはない
---	----------	---	------------	---	------------

以降は、全ての方がお答えください。

問11 あなたが、平日に宛名のお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしている時間は、平均するとどれくらいどれくらいになりますか。(あてはまる番号1つに○)

1	0分～15分未満	2	15分～30分未満
3	30分～1時間未満	4	1時間～2時間未満
5	2時間～3時間未満	6	3時間～4時間未満
7	4時間以上		

問12 あなたは宛名のお子さんについて、以下の事をしていきますか。(1)～(6)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	している	していない	必要だと思わない(経済的にできない)	受けさせたいが、経済的に受けさせられない
(1) 絵本や子ども用の本を購入する	1	2	3	
(2) 毎年、新しい服を購入する	1	2	3	
(3) お誕生日のお祝いをする	1	2	3	
(4) 1年に1回くらい家族旅行に行く	1	2	3	
(5) 医者に行く(健診を含む)	1	2	3	
(6) 歯医者に行く(健診を含む)	1	2	3	

問13 あなたは宛名のお子さんについて、今後どの段階までの教育を受けさせたいですか。(1)～(3)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	受けさせたい	経済的に可能だが受けさせたくない	受けさせたいが、経済的に受けさせられない
(1) 高校までの教育	1	2	3
(2) 短大・高専・専門学校までの教育	1	2	3
(3) 大学・大学院までの教育	1	2	3

問14 宛名のお子さんについて、現在悩んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 子どものしつけや教育に自信が持てない
- 2 子どものしつけや教育について、相談する相手がいらない
- 3 配偶者が子育てにあまり協力してくれない
- 4 配偶者と子育てのことで意見が合わない
- 5 子どもが基本的な生活習慣を身につけていない(あいさつ、整理・整頓など)
- 6 子どもが勉強しない
- 7 子どもが進学や受検
- 8 子どもの就職
- 9 子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない
- 10 子どもが何事に対しても消極的である
- 11 子どもの友人関係
- 12 子ども身体の発育や病気
- 13 子ども非行や問題行動
- 14 子どもの教育費
- 15 子どもの食事や栄養
- 16 その他()
- 17 特に悩みはない

問15 あなたには、それらの悩みを現在心おきなく相談できる相手がありますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 相談できる相手がいる
- 2 相談相手がおらず、ほしい
- 3 必要ない

問15-1 または2とお答えの方にうかがいます。

問15-1 その相談相手は誰ですか、また相談相手がほしい方はどのような相手に相談したいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 配偶者
- 2 親
- 3 子ども
- 4 その他の親族
- 5 友人・知人
- 6 隣人・地域の人
- 7 職場の人
- 8 学校・幼稚園・保育所の先生
シヤルワーカー
- 9 学校のカウンセラーやソーシャルワーカー
- 10 児童館・学童クラブの職員
- 11 相談員(教育相談所、児童相談所、子ども家庭支援センターなど)
- 12 民間カウンセラーなどの専門家
- 13 民間団体やボランティア
- 14 インターネットのサイト
- 15 その他()

問16 宛名のお子さんにとって、現在、または将来的に、どのような支援があるとうれしいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 地域における子どもの居場所の提供
- 2 自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供
- 3 子ども食堂など、子どもがひとりでも時間を過ごさせて無料もしくは安価で食事ができる場所の提供
- 4 保護者の不在時に子どもを預かる場や在宅サービスの提供
- 5 読み書き計算などの基礎的な学習への支援
- 6 子ども本人がなんでも相談できるところ(進路や生活など)
- 7 生活のための経済的支援
- 8 就学のための経済的支援
- 9 会社などでの職場体験等の機会の提供
- 10 子どもの就労に関する支援
- 11 その他()
- 12 特にない

2. 家族での生活について

問17 病名のお子さん以外のすべてのお子さんのことについて教えてください。(兄弟姉妹が5人以上いらっしゃる場合は年長の方から順に4番目の方まで回答してください。Xそれぞれあてはまる番号1つに○)

①今年4月2日現在の年齢	②性別	③就学・就労等の状況	④障害等の有無
1 男性	1 男性	1 未就学 (在宅育児)	1 特になし
2 女性	2 女性	2 保育園	2 発達障害
3 幼稚園	3 幼稚園	3 幼児園	3 要の手帳所持
4 認定こども園	4 認定こども園	4 認定こども園	4 身体障害者手帳所持
5 小学校	5 小学校	5 小学校	5 その他 ()
6 中学校	6 中学校	6 中学校	
7 高校	7 高校	7 高校	
8 フリースクール	8 フリースクール	8 フリースクール	
9 専門学校・大学等	9 専門学校・大学等	9 専門学校・大学等	
10 社会人	10 社会人	10 社会人	
11 就学・就労していない	11 就学・就労していない	11 就学・就労していない	
12 その他 ()	12 その他 ()	12 その他 ()	
		④障害等の有無	
		1 特になし	
		2 発達障害	
		3 要の手帳所持	
		4 身体障害者手帳所持	
		5 その他 ()	

①今年4月2日現在の年齢	②性別	③就学・就労等の状況	④障害等の有無
1 男性	1 男性	1 未就学 (在宅育児)	1 特になし
2 女性	2 女性	2 保育園	2 発達障害
3 幼稚園	3 幼稚園	3 幼児園	3 要の手帳所持
4 認定こども園	4 認定こども園	4 認定こども園	4 身体障害者手帳所持
5 小学校	5 小学校	5 小学校	5 その他 ()
6 中学校	6 中学校	6 中学校	
7 高校	7 高校	7 高校	
8 フリースクール	8 フリースクール	8 フリースクール	
9 専門学校・大学等	9 専門学校・大学等	9 専門学校・大学等	
10 社会人	10 社会人	10 社会人	
11 就学・就労していない	11 就学・就労していない	11 就学・就労していない	
12 その他 ()	12 その他 ()	12 その他 ()	
		④障害等の有無	
		1 特になし	
		2 発達障害	
		3 要の手帳所持	
		4 身体障害者手帳所持	
		5 その他 ()	

※「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害のことをいいます。

問18 あなたの世帯では、日々の生活の中で、以下のことがどれくらいありますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	よくある	ときどきある	まれにある	ない
(1)家族が子どもに勉強を教えること (小学生以上)	1	2	3	4
(2)家族で買い物に出かけること	1	2	3	4
(3)家族でファミリーレストラン等で外食すること	1	2	3	4
(4)地域の行事にお子さんと参加すること	1	2	3	4
(5)週末に家族みんなで出かけること	1	2	3	4

問19 あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由により、以下のものが買えなかったり、支払いができなかったりしたことがありますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった
(1)家族が必要な食料を買えなかったこと (嗜好品は含みません)	1	2	3	4
(2)家族が必要な衣料を買えなかったこと (高価な衣料や現金・至善品は含みません)	1	2	3	4
(3)子どもが必要とする文具や教材を買えなかったこと	1	2	3	4
(4)電気・ガス・水道料金の未払い	1	2	3	4
(5)家賃ローンの滞納	1	2	3	4

問20 あなたの世帯では、過去1年の間に子どもについて病気や怪我や治療のために病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、実際には受診しなかったことがありますか。(「ある」場合には、その理由について、あてはまる番号すべてに○)

1	ない (病院や診療所を受診した方がよいと思った場合は、必ず受診した)
2	ある (病院や診療所に行く時間がなかったため)
3	ある (身体上の理由で、病院や診療所まで行くことが困難であったため)
4	ある (病院や診療所までの距離が遠く、通院することが困難であったため)
5	ある (公的医療保険に加入しておらず、医療費を支払うことが難しかったため)
6	ある (公的医療保険に加入はしていたが、医療費を支払うことが難しかったため)
7	ある (その他の理由) ()

問21 あなたの世帯では、経済的な理由により、これまでに子どもに進学をあきらめさせたり学校を中退させたりしたことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

1	ある
2	これまでにないが、今後その可能性がある
3	これまでになく、今後その可能性はない (可能性は低い)

問22 あなたが現在必要としていること、重要だと思ふ支援等はどのようなものですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 様々な行政サービスの申請や相談がひとつの場所で行えること |
| 2 | 子どもや生活などの悩みごとの相談 |
| 3 | 同じような悩みを持った人同士が知り合えること |
| 4 | 民生委員・児童委員など地域の人からの支援 |
| 5 | 離婚や養育費についての専門的な相談 |
| 6 | 病氣や障害のことなどについての専門的な相談 |
| 7 | 住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援 |
| 8 | 病氣や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること |
| 9 | ヘルパー等からの一時的な家事や育児の支援 |
| 10 | 一時的に必要なとなる資金の貸付 |
| 11 | 子どもの就学にかかる費用の軽減 |
| 12 | 就職・転職のための支援 |
| 13 | 就職活動のときに一時的に子どもを預けられること |
| 14 | その他 () |
| 15 | 特になし |

3. 世帯の状況について

問23 宛名でお送りさせていただいたお子さんからみた、あなたの続柄をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | | |
|---|----|---|---------|---|----|
| 1 | 母親 | 2 | 父親 | 3 | 祖母 |
| 4 | 祖父 | 5 | その他 () | | |

問24 現在のお住まいの状況について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | | |
|---|---------|---|------------|---|----------------|
| 1 | 持家 | 2 | 都営・区営住宅 | 3 | 公社・公団 (UR) の賃貸 |
| 4 | 社宅 | 5 | 民間の借家 (賃貸) | 6 | 間借 |
| 7 | その他 () | | | | |

問25 お住まいの地区名をお答えください。(あてはまる地区名の番号1つに○)

地区名	対象地域 (参考)
1 浮間地区	浮間1～5丁目
2 赤羽西地区	赤羽北1～3丁目・柳ヶ丘1～2丁目・赤羽台1～4丁目・赤羽西1～6丁目・西が丘1～3丁目・十条5丁目・十条仲原3～4丁目・中十条4丁目
3 赤羽東地区	赤羽1～3丁目・岩淵町・志茂1～5丁目・赤羽南1～2丁目・神谷2～3丁目・東十条5～6丁目
4 王子西地区	上十条1～4丁目・十条仲原1～2丁目・中十条1～3丁目・岸町1～2丁目・十条台1～2丁目・王子本町1～3丁目・滝野川4丁目
5 王子東地区	東十条1～4丁目・神谷1丁目・王子1～6丁目・豊島1～8丁目・堀船1～4丁目
6 滝野川西地区	滝野川1～3丁目・滝野川5～7丁目・西ヶ原1～4丁目・上中里1丁目・中里1～3丁目・田圃1～6丁目
7 滝野川東地区	栄町・上中里2～3丁目・昭和町1～3丁目・東田圃1～2丁目・田圃新町1～3丁目

あなたの世帯について、平成28年7月1日現在の状況をお答えください。

- ・世帯とは、ふだん住居と生計を共にしている人々(世帯員)の集まりをいいます。
- ・世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人も含まれます。また、生計を共にしている場合は、単身赴任など離れて生活している人も含まれます。
- ・病院に入院している人も含まれますが、住民登録を病院に移している人は除きます。また、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人も除きます。

問26 ふだん一緒に住まいで、生計を共にしている方(世帯員)は、あなたを含めて何人ですか。(人数をカッコの中に記入)

- | | |
|-----------------|-------|
| 世帯員人数 (あなたを含めて) | () 人 |
| そのうち、お子さんの人数 | () 人 |

世帯構成をうかがいます。

問27 あなたの世帯に含まれる方全員について、宛名のお子さんからみた続柄を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | | | | | | |
|---|------|---|--------|---|---------|---|----|
| 1 | 父親 | 2 | 母親 | 3 | 祖父 | 4 | 祖母 |
| 5 | 兄弟姉妹 | 6 | その他の親戚 | 7 | その他 () | | |

問28 あなたの世帯は、「ひとり親世帯」に該当しますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | | |
|---|-----------|---|-----------|---|-----------|
| 1 | 該当しない | 2 | 該当する (別居) | 3 | 該当する (死別) |
| 4 | 該当する (離婚) | 5 | 該当する (未婚) | 6 | 該当する () |

※ここでひとり親世帯とは、現在配偶者のいない方が20歳未満の子どもを育てている世帯です。単身赴任など一時的な別居の場合は、ひとり親世帯には該当しません。また、法律上の婚姻をしていなくとも、事実上の状態であれば、ひとり親世帯には該当しません。一方、法的な婚姻が成立してはいても事実上離婚状態で別居している場合は、該当しません。

以下の問 29～問 33 においては、問 28 でひとり親世帯に該当するとお答えの方は、該当する欄のみお答えください。

問29 あなたと配偶者の生年月を教えてください。(それぞれについて、かつこの中に数字を記入)

宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
(西暦) 年 () 月 (西暦) 年 () 月	(西暦) 年 () 月 (西暦) 年 () 月

問30 あなたと配偶者の現在の健康状態について教えてください。(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 よい	1 よい
2 まあよい	2 まあよい
3 ふつう	3 ふつう
4 あまりよくない	4 あまりよくない
5 よくない	5 よくない

問31 あなたと配偶者の現在の収入を伴う就業状況と今後のご意向について教えてください。

①就業状況	宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 正規の会社員・職員・従業員	1 正規の会社員・職員・従業員	1 正規の会社員・職員・従業員
2 パート・アルバイト	2 パート・アルバイト	2 パート・アルバイト
3 日雇い (日払い派遣含む)	3 日雇い (日払い派遣含む)	3 日雇い (日払い派遣含む)
4 契約社員・嘱託 (臨時職員、準社員、派遣社員を含む)	4 契約社員・嘱託 (臨時職員、準社員、派遣社員を含む)	4 契約社員・嘱託 (臨時職員、準社員、派遣社員を含む)
5 自営業主 (商店主等の事業主を含む)	5 自営業主 (商店主等の事業主を含む)	5 自営業主 (商店主等の事業主を含む)
6 家族従業者 (個人商店等で店の仕事等を手伝っている家族)	6 家族従業者 (個人商店等で店の仕事等を手伝っている家族)	6 家族従業者 (個人商店等で店の仕事等を手伝っている家族)
7 在宅ワーク	7 在宅ワーク	7 在宅ワーク
8 その他の職業 ()	8 その他の職業 ()	8 その他の職業 ()
9 収入を伴う仕事はしていない →3へ	9 収入を伴う仕事はしていない →3へ	9 収入を伴う仕事はしていない →3へ

②概ねの帰宅時間 (①で1～8の方のみお答えください)

宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 18時まで	1 18時まで
2 18～20時の間	2 18～20時の間
3 20～22時の間	3 20～22時の間
4 22～24時の間	4 22～24時の間
5 その他 () 時頃	5 その他 () 時頃
6 交替制勤務で帰宅時間は決まっていない	6 交替制勤務で帰宅時間は決まっていない

③今後の就業意向 (①で9の方のみお答えください)

宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 条件が整えば、すぐに働きたい	1 条件が整えば、すぐに働きたい
2 今は働けないが、今後働きたい	2 今は働けないが、今後働きたい
3 働く予定はない	3 働く予定はない

問32 あなたと配偶者の最終学歴について教えてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 中学校卒業	1 中学校卒業
2 高等学校中退	2 高等学校中退
3 高等学校卒業	3 高等学校卒業
4 高専、短大、専門学校等中退	4 高専、短大、専門学校等中退
5 高専、短大、専門学校等卒業	5 高専、短大、専門学校等卒業
6 大学中退	6 大学中退
7 大学卒業	7 大学卒業
8 大学院中退	8 大学院中退
9 大学院修了	9 大学院修了
10 その他 ()	10 その他 ()

問33 あなたは、以下のような経験をされたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 両親が離婚した	1 両親が離婚した
2 成人する前に母親が亡くなった	2 成人する前に母親が亡くなった
3 成人する前に父親が亡くなった	3 成人する前に父親が亡くなった
4 成人する前の生活は経済的に困っていた	4 成人する前の生活は経済的に困っていた
5 親から暴力や育児放棄を受けたことがある	5 親から暴力や育児放棄を受けたことがある
6 親と疎遠になっている (なっていた)	6 親と疎遠になっている (なっていた)
7 成人する前に親の介護をしていた	7 成人する前に親の介護をしていた
8 現在、親の介護をしている	8 現在、親の介護をしている
9 配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある	9 配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある
10 配偶者または元配偶者に暴力を振るったことがある	10 配偶者または元配偶者に暴力を振るったことがある
11 過去1年間に、病気・障害等が原因で、1週間以上入院していた	11 過去1年間に、病気・障害等が原因で、1週間以上入院していた
12 過去1年間に、病気・障害等が原因で、仕事をやめた	12 過去1年間に、病気・障害等が原因で、仕事をやめた
13 「1」～「12」のいずれも経験したことがない	13 「1」～「12」のいずれも経験したことがない

問41 子育てで困っていることや、子育て支援に関してなど、ご意見がございましたら、ご自由に記入ください。

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。
切手は貼らずに同封の封筒に入れ、ご投函ください。

(2) 児童育成手当受給世帯



東京都北区
東京都北区教育委員会

北区の子どものいる世帯の生活状況等に関する調査

調査票

<調査へのご協力をお願い>

拝啓 日頃から北区政の推進にご理解ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。
現在、北区及び北区教育委員会では、子どもの将来が生まれ育った家庭の経済状況等によって左右されることのないよう、未来を担う子どもたちの学びや育ちを支える支援計画の策定について検討を進めています。

この調査は、その検討の基礎資料を得るために行うもので、子どものいる世帯の皆さまの日頃の暮らしやお子さんの様子、保護者の方々の就業や所得の状況、子育ての悩みなどについて、アンケート形式の調査をさせていただきます。

調査をお願いする方といたしましては、平成28年度の児童育成手当を受給されている方々から、2,000人を無作為に選ばせていただきます。
つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくごお願い申し上げます。

なお、調査票は無記名で、お答えいただいた内容については全て統計的に処理し、今後の子育て支援施策及び学校教育の充実に向けに利用させていただきます。個々の回答内容やプライバシーに関わる内容が公表されたり、他の目的に利用されることは一切ございません。

敬具
平成28年7月 東京都北区 東京都北区教育委員会

ご記入にあたってのお願い

1. この調査は、お子さんの保護者の方（おひとり）がお答えください。なお、「あなた」とはアンケートに回答いただく方を表します。
2. 回答は、当てはまる回答の数字に○印をつけていただく場合と、回答を記入する場合があります。設問によって○印をつける数が異なりますので、注意書きに沿ってご記入ください。
3. ご記入いただいた調査票は、**平成28年8月5日（金）**までに、同封の返信用封筒に入れ、お近くの郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。

【調査に関する問い合わせ先】
北区教育委員会事務局 子ども未来部 子ども未来課 次世代育成係（子どもの未来応援担当）
電話：03-3908-8143 FAX：03-3908-1341

1. あなたの世帯について

問1 宛名でお送りさせていただいたお子さんからみた、あなたの続柄をお答えください。（あてはまる番号1つに○）

1 母親	2 父親	3 祖母
4 祖父	5 その他（ ）	

問2 あなたの生年月月を教えてください。（かっこの中に数字を記入）

（西暦）年（ ）月

あなたの世帯について、平成28年7月1日現在の状況をお答えください。

- ・世帯とは、ふだん住居と生計を共にしている人々（世帯員）の集まりをいいます。
- ・世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人も含まれます。また、生計を共にしている場合は、単身赴任など離れて生活している人も含まれます。
- ・病院に入院している人も含まれますが、住民登録を病院に移している人は除きます。また、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人も除きます。

問3 ふだん一緒に住み、生計を共にしている方（世帯員）は、あなたを含めて何人ですか。（人数をかっこの中に記入）

世帯員人数（あなたを含めて）（ ）人
そのうち、お子さんの人数（ ）人

世帯構成をうかがいます。

問4 あなたの世帯に含まれる方全員について、宛名のお子さんからみた続柄を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

1 父親	2 母親	3 祖父	4 祖母
5 兄弟姉妹	6 その他の親戚	7 その他（ ）	

問5 お住まいの地区名をお答えください。（あてはまる地区名の番号1つに○）

地区名	対象地域（参考）
1 浮間地区	浮間1-5丁目
2 赤羽西地区	赤羽北1-3丁目・駒ヶ丘1-2丁目・赤羽台1-4丁目・赤羽西1-6丁目・西が丘1-3丁目・上十条5丁目・十条仲原3-4丁目・中十条4丁目
3 赤羽東地区	赤羽1-3丁目・岩淵町・志高1-5丁目・赤羽南1-2丁目・神谷2-3丁目・東十条5-6丁目
4 王子西地区	上十条1-4丁目・十条原1-2丁目・中十条1-3丁目・岸町1-2丁目・上十条1-2丁目・王子本町1-3丁目・滝野川4丁目
5 王子東地区	東十条1-4丁目・神谷1丁目・王子1-6丁目・豊島1-8丁目・堀船1-4丁目
6 滝野川西地区	滝野川1-3丁目・滝野川5-7丁目・西ヶ原1-4丁目・上中里1丁目・中里1-3丁目・田端1-6丁目
7 滝野川東地区	栄町・上中里2-3丁目・昭和町1-3丁目・東田端1-2丁目・田端新町1-3丁目

問6 現在のお住まいの状況について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 持家	2 都営・区営住宅	3 公社・公団 (UR) の賃貸
4 社宅	5 民間の借家 (賃貸)	6 間借
7 その他 ()		

問7 あなたの世帯は、「ひとり親世帯」に該当しますか。(あてはまる番号1つに○)

1 該当しない	2 該当する (別居)	3 該当する (死別)
4 該当する (離婚)	5 該当する (未婚)	6 該当する ()

※ここでのひとり親世帯とは、現在配偶者のいない方が20歳未満の子どもを育てている世帯です。単身赴任など一時的な別居の場合は、ひとり親世帯には該当しません。また、法律上の離婚をしていなくとも、事実婚の状態であれば、ひとり親世帯には該当しません。一方、法的な離婚が成立していなくとも事実上離婚状態が別居している場合は、該当します。

問7-1～問7-4は、問7で「4」、「5」と答えた方にかがいます。

問7-1 お子さんと、お子さんの親(相手方)との面会交流については、何か取り決めていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 調停で取り決めている	2 書面で取り決めている
3 口頭で取り決めている (口約束)	4 取り決めをしていない
5 その他 ()	

問7-2 お子さんと、お子さんの親(相手方)との面会交流は現在行われていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 子どもと自分が、一緒に相手方と会っている	頻度を教えてください 年()回程度
2 子どもだけ、相手方と会っている (と思う)	
3 子どもは相手方と会っていないが、電話やメールをしている (と思う)	
4 子どもは相手方と会っておらず、電話やメールもしていない (と思う)	
5 わからない	
6 その他 ()	

問7-3 養育費について取り決めをしていますか。(あてはまる番号1つに○)

1 調停で取り決めている	2 当事者間で書面で取り決めている
3 当事者間で口頭で取り決めている	4 取り決めていない→問7-4へ

問7-3で、「4」を取り決めていないと答えた方にかがいます。

問7-4 養育費について取り決めをしていない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1 交渉がまとまらなかった	2 相手の経済状況から養育費を要求できない
3 相手と関わりたくない	4 もらえたと知らなかった
5 取り決めの仕方がわからなかった	6 養育費を取り決める必要がなかった
7 その他 ()	

2. 宛名のお子さんのことについて

問8 宛名のお子さんのことについて教えてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

①今年4月2日現在の年齢	歳
②性別	1 男性 2 女性
③就学・就労等の状況	1 未就学(在宅育児) 2 保育園 3 幼稚園 4 認定こども園 5 小学校 6 中学校 7 高校 8 フリースクール 9 専門学校・大学等 10 社会人 11 就学・就労してはいない 12 その他 ()
④健康状態	1 よい 2 まあよい 3 ふつう 4 あまりよくない 5 よくない
⑤障害等の有無	1 特になし 2 発達障害* 3 愛の手帳所持 4 身体障害者手帳所持 5 その他 ()

※「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害のことをいいます。

問9 宛名のお子さんは、1週間に朝食をどれくらい食べていますか。(あてはまる番号1つに○)

1 毎日食べる	2 週に5日以上食べる	3 週に3、4日は食べる
4 週に1、2日は食べる	5 ほとんど食べない	6 わからない

問10 宛名のお子さんは、朝食を誰と食べることが多いですか。(あてはまる番号1つに○)

1 家族全員	2 父または母と	3 父や母ではなく、祖父母と
4 子どもだけ(きょうだいだけ)	5 子ども1人	6 その他 ()

問11 宛名のお子さんは、夕食を誰と食べることが多いですか。(あてはまる番号1つに○)

1 家族全員	2 父または母と	3 父や母ではなく、祖父母と
4 子どもだけ(きょうだいだけ)	5 子ども1人	6 その他 ()

問11で「4」、「5」とお答えの方にかがいます。

問11-1 宛名のお子さんが夕食を子どもだけで食べる最も大きな理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○)

1 働いている親の帰宅が遅いから	2 親が夜間の仕事で不在となるから
3 本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから	4 親が育児・介護などで忙しいから
5 その他 ()	

問12 宛名のお子さんは、現在、塾に行ったり、習い事をしたりしていますか、費用がかからないサークル活動等を含みません。(あてはまる番号すべてに○)

1	学習塾	2	通信教育
3	英会話・そろばんなど、学習の習い事	4	ピアノ・バレエなど、芸術の習い事
5	スポーツ(野球、サッカー、水泳など)	6	その他()
7	塾や習い事はしていない		

以下の問13～問17は、宛名のお子さんが小学生以上の方のお答えください。

問13 宛名のお子さんは、平日の学校が終わった後、帰宅までの間、どのように過ごすことが多いですか。(特に多いもの3つまで○)

1	まっすぐ帰り、自分の家で、一人で過ごす	2	まっすぐ帰り、自分の家で、家族と過ごす
3	児童館や学童クラブ、わくわく☆ひろばにいる	4	友だちと遊ぶ
5	塾や習い事に行く	6	学校のクラブ活動に参加する
7	ゲームセンターや繁華街へ遊びに行く	8	アルバイトに行く
9	その他()	10	わからない

問14 宛名のお子さんについて、子ども食堂などの夜の居場所があった場合、利用したいと思えますか。(あてはまる番号1つに○)

1	現在利用している	2	今後利用したいと思う	3	利用するつもりはない
---	----------	---	------------	---	------------

※ここでの「子ども食堂」とは、子どもがひとりでも時間を過ごすことができ、無料あるいは安価に食事ができる場所のことをいいます。

問15 宛名のお子さんは、平日に学校以外の場でどれくらい勉強をしていますか。(1)～(2)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	全くして いない	30分 1時間未満	30分～ 1時間	1時間～ 2時間未満	2時間～ 3時間未満	3時間以 上
(1) 塾など自宅以外での勉強	1	2	3	4	5	6
(2) 自宅での勉強	1	2	3	4	5	6

問16 宛名のお子さんの、学校での成績はいかがですか。(あてはまる番号1つに○)

1	良好	2	まあまあ良好	3	ふつう
4	あまりよくない	5	よくない	6	わからない

問17 宛名のお子さんについて、学生ボランティア等による、無料の学習支援制度(学習の手助けなど)があった場合、利用したいと思えますか。(あてはまる番号1つに○)

1	現在利用している	2	今後利用したいと思う	3	利用するつもりはない
---	----------	---	------------	---	------------

以降は、全ての方がお答えください。

問18 あなたが、平日に宛名のお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしている時間は、平均するとどれくらいになりますか。(あてはまる番号1つに○)

1	0分～15分未満	2	15分～30分未満
3	30分～1時間未満	4	1時間～2時間未満
5	2時間～3時間未満	6	3時間～4時間未満
7	4時間以上		

問19 あなたは宛名のお子さんについて、以下の事をしていきますか。(1)～(6)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	している	していない (必要だと思わない)(経済的にできない)
(1)絵本や子ども用の本を購入する	1	2
(2)毎年、新しい服を購入する	1	2
(3)お誕生日のお祝いをする	1	2
(4)1年に1回くらい家族旅行に行く	1	2
(5)医者に行く(雑診を含む)	1	2
(6)歯医者に行く(雑診を含む)	1	2

問20 あなたは宛名のお子さんについて、今後どの段階までの教育を受けさせたいですか。(1)～(3)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	受けさせたい	経済的に可能だが 受けさせたくない	受けさせたいが 経済的に受けさせ られない
(1)高校までの教育	1	2	3
(2)短大・高専・専門学校までの教育	1	2	3
(3)大学・大学院までの教育	1	2	3

問21 宛名のお子さんについて、現在悩んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 子どものしつけや教育に自信が持てない
- 2 子どものしつけや教育について、相談する相手がいない
- 3 子どもが基本的な生活習慣を身につけていない(あいさつ、整理・整頓など)
- 4 子どもが勉強しない
- 5 子どもが進学や受験
- 6 子どもが就職
- 7 子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない
- 8 子どもが何事に対しても消極的である
- 9 子どもとの友人関係
- 10 子ども自身の身体発育や病気
- 11 子どもが非行や問題行動
- 12 子どもが教育費
- 13 子どもが食事や栄養
- 14 その他()
- 15 特に悩みはない

問22 宛名のお子さんにとって、現在、または将来的に、どのような支援があるとよいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 地域における子どもの居場所の提供
- 2 自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供
- 3 子ども食堂など、子どもがとりでも時間を過ごせて無料で食事ができる場所の提供
- 4 保護者の不在時に子どもを預かる場や在宅サービスの提供
- 5 読み書き計算などの基礎的な学習への支援
- 6 子ども本人がなんでも相談できる場所(通路や生活など)
- 7 生活のための経済的支援
- 8 就学のための経済的支援
- 9 会社などでの職場体験等の機会の提供
- 10 子どもが就労に関する支援
- 11 その他()
- 12 特にない

3. 家族での生活について

問23 宛名のお子さん以外の方から順に4項目のお子さんのことについて教えてください。(兄弟姉妹が5人以上いらっしゃる場合は年長の方から順に4項目の方まで回答してください。)(それぞれあてはまる番号1つに○)

①今年4月2日 現在の年齢	②性別		③就学・就労等の 状況	④障害等の有無
	1 男性	2 女性		
1 男性	1 未就学(在宅育児)	1 特になし	1 特になし	1 特になし
2 女性	2 保育園	2 発達障害	2 発達障害	2 発達障害
	3 幼稚園	3 愛の手帳所持	3 愛の手帳所持	3 愛の手帳所持
	4 認定こども園	4 身体障害者手帳所持	4 身体障害者手帳所持	4 身体障害者手帳所持
	5 小学校	5 その他()	5 その他()	5 その他()
	6 中学校			
	7 高校			
	8 フリースクール			
	9 専門学校・大学等			
	10 社会人			
	11 就学・就労していない			
	12 その他()			

①今年4月2日 現在の年齢	②性別		③就学・就労等の 状況	④障害等の有無
	1 男性	2 女性		
1 男性	1 未就学(在宅育児)	1 特になし	1 特になし	1 特になし
2 女性	2 保育園	2 発達障害	2 発達障害	2 発達障害
	3 幼稚園	3 愛の手帳所持	3 愛の手帳所持	3 愛の手帳所持
	4 認定こども園	4 身体障害者手帳所持	4 身体障害者手帳所持	4 身体障害者手帳所持
	5 小学校	5 その他()	5 その他()	5 その他()
	6 中学校			
	7 高校			
	8 フリースクール			
	9 専門学校・大学等			
	10 社会人			
	11 就学・就労していない			
	12 その他()			

※「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する認知的機能の障害のことをいいます。

問24 あなたの世帯では、日々の生活の中で、次のことがどれくらいありますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	よくある	ときどきある	まれにある	ない
(1) 家族が子どもに勉強を教えること (小学生以上)	1	2	3	4
(2) 家族で買い物に出かけること	1	2	3	4
(3) 家族でファミリーレストラン等で 外食すること	1	2	3	4
(4) 地域の行事にお子さんと参加すること	1	2	3	4
(5) 週末に家族みんなで出かけること	1	2	3	4

問25 あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由により、以下のものが買えなかったり、支払いができなかったりしたことがありますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった
(1) 家族が必要な食料を買えなかったこと (嗜好品は含みません)	1	2	3	4
(2) 家族が必要な衣料を買えなかったこと (高価な衣類や貴金属・宝飾品は含みません)	1	2	3	4
(3) 子どもが必要とする文具や教材を 買えなかったこと	1	2	3	4
(4) 電気・ガス・水道料金の未払い	1	2	3	4
(5) 返済やローンの滞納	1	2	3	4

問26 あなたの世帯では、過去1年の間に子どもについて病気や怪我の治療のために病院や診療所を受診したほうがよいと思っていたのに、実際には受診しなかったことがありますか。
(「ある」場合には、その理由について、あてはまる番号すべてに○)

1	ない(病院や診療所を受診したほうがよいと思った場合は、必ず受診した)
2	ある(病院や診療所に行く時間がなかったため)
3	ある(身体上の理由で、病院や診療所まで行くことが困難であったため)
4	ある(病院や診療所までの距離が遠く、通院することが困難であったため)
5	ある(公的医療保険に加入しておらず、医療費を支払うことが難しいため)
6	ある(公的医療保険に加入はしているが、医療費を支払うことが難しいため)
7	ある(その他の理由)()

問27 あなたの世帯では、経済的な理由により、これまでに子どもに進学をあきらめさせたり学校を中絶させたりしたことはありませんか。(あてはまる番号1つに○)

1	ある
2	これまでにないが、今後その可能性がある
3	これまでになく、今後もその可能性はない(可能性は低い)

4. あなたのことについて

問28 あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1	よい	2	まあよい	3	普通	4	あまりよくない	5	よくない
---	----	---	------	---	----	---	---------	---	------

問29 あなたには、望みを現在心おきなく相談できる相手がいいますか。(あてはまる番号1つに○)

1	相談できる相手がいる	2	相談相手がおらず、ほしい	3	必要ない
---	------------	---	--------------	---	------

問29で「1」「2」とお答えの方にはうかがいます。

問29-1 その相談相手は誰ですか、また相談相手がほしい方はどのような相手に相談したいと思えますか。(あてはまる番号すべてに○)

1	配偶者	2	親	3	子ども
4	その他の親族	5	友人・知人	6	隣人・地域の人
7	職場の人	8	学校・幼稚園・保育所の先生	9	学校のカウンセラーやソーシャルワーカー
10	児童館・学童クラブの職員	11	相談機関(教育相談所、児童相談所、子ども支援センターなど)	12	民間カウンセラーなどの専門家
13	民間団体やボランティア	14	インターネットのサイト	15	その他()

問30 あなたが現在必要としていること、重要だと思える支援等はどのようなものですか。(あてはまる番号すべてに○)

1	様々な行政サービスの申請や相談がひとつの場所で行えること
2	子どもや生活などの悩みごとの相談
3	ひとり親同士の交流の場の提供
4	民生委員・児童委員などの地域の人からの支援
5	結婚や養育費についての専門的な相談
6	養育費確保に向けた支援
7	病気や障害のことなどについての専門的な相談
8	住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援
9	病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること
10	ヘルパー等からの一時的な家事や育児の支援
11	保育園・一時預かりサービス・学童クラブなどの充実
12	一時的に必要な資金の貸付
13	子どもの就学にかかる費用の軽減
14	就職・転職のための支援
15	就職活動のときに一時的に子どもを預けられること
16	資格や技能の取得支援
17	その他()
18	特になし

問31 あなたは、過去1か月で、どれくらいの頻度で以下のようなことがありましたか。(1)～(6)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	なま いっ たぐ	少 しだ け	し まじ ま	た い て い	い っ ち も
(1)神経過敏(ちょっととした事も気になる)に感じたこと	1	2	3	4	5
(2)そわそわ、落ち着かなく感じたこと	1	2	3	4	5
(3)気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じたこと	1	2	3	4	5
(4)何をしても骨折(おっくう)だと感じたこと	1	2	3	4	5
(5)自分は価値のない人間だと感じたこと	1	2	3	4	5
(6)絶望的だと感じたこと	1	2	3	4	5

問32 あなたは、以下のような経験をしたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1	あなたの両親が離婚した	2	あなたが成人する前に母親が亡くなった
3	あなたが成人する前に父親が亡くなった	4	あなたが成人する前の生活は経済的に困っていた
5	親から暴力や育児放棄を受けたことがある	6	親と疎遠になっている(なっていた)
7	成人する前に親の介護をしていた	8	現在、親の介護をしている
9	配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある	10	配偶者または元配偶者から暴力を振るったことがある
11	過去1年間に、病氣・障害等が原因で、1週間以上入院していた	12	過去1年間に、病氣・障害等が原因で、「1」～「12」のいずれも経験したことがない
13			

問33 あなたの最終学歴について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1	中学校卒業	2	高等学校中退
3	高等学校卒業	4	高専、短大、専門学校等中退
5	高専、短大、専門学校等卒業	6	大学中退
7	大学卒業	8	大学院中退
9	大学院修了	10	その他()

5. 仕事について

問34 あなたの現在の収入を伴う就業状況について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1	正規の会社員・職員・従業員	2	パート・アルバイト
3	日雇い(日払い派遣含む)	4	契約社員・嘱託(臨時職員、準社員、派遣社員を含む)
5	自営業主(商店主等の事業主を含む)	6	家族従業員(個人商店等で店の仕事を手伝っている家族)
7	在宅ワーク	8	その他の職業()
9	収入を伴う仕事はしていない→問34-6へ		

問34-1 から問34-5は、問34で「1」～「8」と答えた方にかかいます。

問34-1 過去1年間で、複数の仕事のかけもちをしたことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1	複数の仕事をかけもちしている	2	過去にかけもちしていたが、現在はしていない
3	かけもちしていない		

問34-2 あなたの帰宅時間は何時頃ですか。(あてはまる番号1つに○)

1	18時まで	2	18～20 時の間
3	20～22 時の間	4	22～24 時の間
5	その他()	6	交番制勤務で帰宅時間は決まっていない

問34-3 転職あるいは就労形態の変更(パートや正規の会社員など)の希望はありますか。(あてはまる番号1つに○)

1	今の仕事を続けたい →問35へ	2	転職・就労形態の変更を希望している
---	-----------------	---	-------------------

問34-3で「2」と答えた方にかかいます。

問34-4 転職または就労形態を変更したい理由は何か。(あてはまる番号すべてに○)

1	賃金が安い	2	仕事内容に不満
3	職場の人間関係	4	通勤時間が長い
5	子育てとの両立が難しい	6	その他()

問34-5 どのような形態を希望していますか。(あてはまる番号1つに○)

1	正規の会社員・職員・従業員	2	パート・アルバイト
3	日雇い(日払い派遣含む)	4	契約社員・嘱託(臨時職員、準社員、派遣社員を含む)
5	自営業主(商店主等の事業主を含む)	6	家族従業員(個人商店等で店の仕事を手伝っている家族)
7	在宅ワーク	8	その他の職業()
9	仕事をしなくない		

問 34 で、「9」と答えた方にうかがいます。

問 34-6 あなたは現在働きたいと思っ
ていますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------------------|---------|
| 1 条件が整えば、
すぐに働きたい | →問34-7へ |
| 2 今は働けないが、
今後働きたい | →問34-8へ |
| 3 働く予定はない | →問35へ |

問 34-6 で、「1」と答えた方にうかがいます。

問 34-7 条件が整えば、今すぐ働きたいと思
われているのに、働いていない理由は何
ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 仕事の探し方がわからない | 2 収入について条件のあう仕事がない |
| 3 時間について条件のあう仕事がない | 4 年齢制限のため仕事がない |
| 5 仕事に必要な専門知識や資格がない | 6 子どもの保育の手だてがない |
| 7 その他 () | |

問 34-6 で、「2」と答えた方にうかがいます。

問 34-8 どのような状況になれば働きたいと思
いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 子どもの保育の手だてができれば | 2 子どもが小学校に入学したら |
| 3 子どもの問題 (健康など) が解決したら | 4 自分 (健康など) が解決したら |
| 5 学校や職業訓練などが終了したら | 6 仕事に必要な資格や技能を身につけたら |
| 7 その他 () | |

6. 家計について

問35 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|---------|---------|------|------------|------------|
| 1 大変苦しい | 2 やや苦しい | 3 普通 | 4 ややゆとりがある | 5 大変ゆとりがある |
|---------|---------|------|------------|------------|

問36 家賃や住宅ローンなど、あなたの世帯で1か月に負担している住居費はどのくらいですか。
(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|-----------|------------|-----------|-----------|
| 1 負担額なし | 2 2万円未満 | 3 2~4万円未満 | 4 4~6万円未満 |
| 5 6~8万円未満 | 6 8~10万円未満 | 7 10万円以上 | |

問37 あなたの世帯では、次のような借入金
はありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------------------|------------------|
| 1 住宅・土地の購入のための借入金 (住宅ロ
ーン) | 2 車の購入のための借入金 |
| 3 教育のための借入金 (返済が必要な奨学
金を含む) | 4 親族や友人・知人からの借入金 |
| 5 母子・父子福祉資金貸付金など自治体等
からの借入金 | 6 その他の借入金 () |
| 7 借入金はなし | |

問38 あなたの世帯では、現在、以下の手当
や援助を受けていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----------------------|-------------------------------|
| 1 児童手当 ^{#1} | 2 児童育成手当 (育成手当) ^{#2} |
| 3 児童育成手当 (障害手当) | 4 児童扶養手当 ^{#2} |
| 5 特別児童扶養手当 | 6 就学援助 |
| 7 生活保護 | 8 その他 () |

※1 「児童手当」は、中学3年生修了前 (15歳未満) までのお子さんを養育している方に支給する制度です。

※2 「児童育成手当 (育成手当)」及び「児童扶養手当」は、ひとり親世帯等 (父または母が重度障害者の場合を含む) で、18歳に達した年度末 (児童扶養手当の場合、一定以上の障害のある児童は20歳) までの児童を養育している方に支給する制度です。

問9 朝食をだれと食べることが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 お母さん 2 お父さん 3 おばあさん
4 おじいさん 5 きょうだい 6 自分ひとり

問10 夕食をだれと食べるが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 お母さん 2 お父さん 3 おばあさん
4 おじいさん 5 きょうだい 6 自分ひとり
7 食べない

↓

問10で「5」か「6」をお答えの方におうかがいします。

問10-1 夕食を子どもだけで食べる最も大きな理由は何か。(最もあてはまる番号1つに○)

- 1 働いている親の帰りが遅いから 2 親が夜間の仕事で家にいないから
3 学校、部活動、習い事・じゅくなどで帰りが遅くなるから 4 親が育児・かいごなどで忙しいから
5 その他 ()

問11 あなたの友だちとの関係について思っていることを教えてください。(1)～(4)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	こうもく	いつも思う	たいてい思う	たいてい思わない	そう思わない
(1)	友だちとたくさん遊んでいる	1	2	3	4
(2)	友だちと仲良くしている	1	2	3	4
(3)	友だちから好かれている	1	2	3	4
(4)	自分が友だちとくらべて遅うと感じる	1	2	3	4

問12 あなたが今やなやんでいいることや心配なこと、こまっていること、だれかに相談したいと思っていることがあれば、教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 学校の勉強のこと 2 友人関係 3 家族のこと
4 家での生活のこと 5 進学やしょうらいのこと 6 その他 ()
7 なやんでいいることや心配なと、こまっていることはない

問13 あなたは、心配ごとやなやみがあるとき、だれかに話したり、相談したりしますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 友だち 2 親 3 きょうだい
4 学校の先生 5 その他 () 6 だれもない

問14 げんざい、じゅくに行ったり、習い事をしたりしていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 学習じゅく・進学じゅく 2 家庭教師
3 通信教育 4 英会話・そろばんなどの学習の習い事
5 ピアノ・バレエなどの芸じゅつ習い事 6 スポーツ(野球・サッカー・水泳など)
7 その他 () 8 じゅくや習い事はしてない

問15 放課後に、だれとすごすことが多いですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 家族 (おじいちゃん・おばあちゃん、しんせきなど含む)
2 家族以外の大人 (近所の大人、じゅくや習い事の先生など)
3 学校の友だち (学校の友だち以外)
4 学校の友だち (地いきのスポーツクラブ、近所の友だちなど)
5 きょうだい 6 一人
7 その他 ()

問16 放課後に、どこですごすことが多いですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 自分の家 2 友だちの家
3 じゅくや習い事 4 学校・家庭開放
5 児童館・わくわく☆ひろば 6 公園
7 その他 ()

問17 あなたは、平日に学校以外の場所でのことをどれくらいしていますか。(1)～(4)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	こうもく	全くして いない	30分未 満	30分～ 1時間未 満	1時間～ 2時間未 満	2時間～ 3時間未 満	3時間以 上
(1)	テレビやビデオ・DVD・イン ターネット動画を見ること	1	2	3	4	5	6
(2)	コンピューターゲーム	1	2	3	4	5	6
(3)	じゅくなどじたく以外での 勉強	1	2	3	4	5	6
(4)	じたくでの勉強	1	2	3	4	5	6

問18 あなたはふだん次のようなことをどれくらいしていますか。(1)～(4)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	こうもく	よくする	ときどき する	あまり しない	しない
(1)	家族に学校であった出来事を話す	1	2	3	4
(2)	家の手伝いをする	1	2	3	4
(3)	家族そろうって食事をする	1	2	3	4
(4)	家族に勉強を教えてもらう	1	2	3	4

問19 あなたは、以下のものを持っていますか。(1)～(6)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

こうちく	持っている	持っているがほしい	ほしくない
(1) 自分だけの本	1	2	3
(2) ゲーム機	1	2	3
(3) 自転車	1	2	3
(4) 友だちと同じような服	1	2	3
(5) 子ども部屋	1	2	3
(6) せんようの勉強机	1	2	3

問20 あなたは、以下のものをもっていますか。(1)～(2)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

こうちく	もっている	もっていないがほしい	ほしくない
(1) おこづかい	1	2	3
(2) クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉	1	2	3

3. 学校での生活についておうちががいます。

問21 学校での生活は、楽しいですか。(1)～(7)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

こうちく	とても楽しむ	楽しむ	少し楽しむ	楽しみではない
(1) 体育・家庭科・音楽・図工・書写のじゅ業	1	2	3	4
(2) 上記以外の学校のじゅ業	1	2	3	4
(3) 学校の先生に会うこと	1	2	3	4
(4) 学校の友だちに会うこと	1	2	3	4
(5) 学校のクラブ活動	1	2	3	4
(6) 学校の休み時間	1	2	3	4
(7) 学校の給食(または、お弁当等)	1	2	3	4

問22 あなたは、学校のじゅ業がどのくらいよくわかりますか。(あてはまる番号1つに○)

1 ほとんど全部わかる	2 大体わかる	3 半分くらいわかる	4 分からないことが多い	5 ほとんどわからない
-------------	---------	------------	--------------	-------------

問22で「2」「5」のどちらかに回答した方にお答えします。

問22-1 じゅ業がわからない理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

1 じゅ業の進み方が早すぎるから	2 じゅ業の内ようがむずかしいから
3 これまで習ったことがわからないから	4 宿題や課題をしていないから
5 予習・ふく習をしていないから	6 苦手・きらいな教科が多いから
7 勉強をする気が起きないから	8 その他()

問23 あなたは、勉強が好きですか。(あてはまる番号1つに○)

1 とても好き	2 まあ好き
3 どちらともいえない	4 あまり好きではない
5 まったく好きではない	

4. あなたの考えやしようらいのことについておうちががいます。

問24 あなたは、自分自身のことをどう思いますか。(1)～(6)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

こうちく	あてはまる	どちらかといえは、あてはまる	どちらかといえは、あてはまらない
(1) がんばれば、むくわれる	1	2	3
(2) 自分ばかりのある人間だと思う	1	2	3
(3) 自分には良いところがある	1	2	3
(4) 不安に感じることはない	1	2	3
(5) ことを感じることはない	1	2	3
(6) 自分のしようらいが楽しみだ	1	2	3

問25 あなたには、ゆめがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 ある一どのようゆめですか()
2 ない

問25で「2」をお答えの方におうちががいます。

問25-1 ゆめがない理由は何か。(あてはまる番号1つに○)

1 もうすべてに満足しているから	2 ゆめが、かなうのが難しいと思うから
3 具体的に、何も思い浮かばないから	4 わからない

問26 あなたは、希望として、しようらいどの学校まで行きたいと思えますか。(あてはまる番号1つに○)

1 中学校	2 高等学校
3 せん門学校	4 短期大学
5 大学	6 大学院
7 その他()	8 わからない

日々の生活のことで困っていることを書いてください。

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。



東京都北区
東京都北区教育委員会

北区の子どものいる世帯の生活状況等に関する調査 (小学校5年生 保護者用)

調査票

<調査へのご協力をお願いします>

拝啓 日頃から北区政の推進にご理解ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。
現在、北区及び北区教育委員会では、子どもの将来が生まれ育った家庭の経済状況等によって左右されることのないよう、未来を担う子どもたちの学びや育ちを支える支援計画の策定について検討を進めています。

この調査は、その検討の基礎資料を得るために行うもので、子どもがいる世帯の皆さまの日頃の暮らしやお子さんの様子、保護者の方々の就業や所得の状況、子育ての悩みなどについて、アンケート形式の調査をさせていただきます。

調査をお願いする方といたしましては、区立小学校5年生の児童のいる全てのご家庭の保護者を選ばさせていただきます。
つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、調査票は無記名で、お答えいただいた内容については全て統計的に処理し、今後の子育て支援施設及び学校教育の充実に向けて利用させていただきます。個々の回答内容やプライバシーに関わる内容が公表されたり、他の目的に利用されることは一切ございません。

また、この調査と合わせて、区立小学校5年生の全ての児童を対象に、生活状況等についてのアンケート調査を行います。こちらも無記名で具体的な個人は特定できませんが、同一家庭の保護者と児童のデータを照合する必要があるため、各調査票に整理番号を記載し、そのための処理をさせていただきますを申し添えます。

敬具
平成28年7月 東京都北区 東京都北区教育委員会

ご記入にあたってのお願い

1. この調査は、お子さんの保護者の方(おひとり)がお答えください。なお、「あなた」とはアンケートに回答いただく方を表します。
2. 回答は、当てはまる回答の数字に○印をつけていただく場合と、回答を記入する欄がありまます。設問によって○印をつける数が異なりますので、注意書きに沿ってご記入ください。
3. ご記入いただいた調査票は、平成28年7月26日(火)までに、同封の返信用封筒に入れ、お近くの郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。

【調査に関する問い合わせ先】

北区教育委員会事務局 子ども未来部 子ども未来課 次世代育成係 (子どもの未来応援担当)
電話：03-3908-8143 FAX：03-3908-1341

1. アンケートを持ち帰った小5のお子さんの生活・学習状況について

問1 小5のお子さんのことについて教えてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

①性別	1 男性	2 女性	
②障害の有無	1 特になし	2 発達障害*	3 愛の手帳所持
	4 身体障害者手帳所持	5 その他(難病等)	()

*「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害のことをいいます。

問2 小5のお子さんの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 よい	2 まあよい	3 ぶつう
4 あまりよくない	5 よくない	

問2で「4,5」にお答えの方にうかがいます。

問2-1 小5のお子さんは持病がありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 ある一病名を教えてください()	2 ない
--------------------	------

問3 小5のお子さんは、学校での授業をどのくらい理解していますか。(あてはまる番号1つに○)

1 ほとんど全部	2 だいたい理解している
3 半分くらい理解している	4 わからないことが多い
5 ほとんど理解していない	6 わからない

問4 小5のお子さんの、学校での成績はいかがですか。(あてはまる番号1つに○)

1 良好	2 まあまあ良好
3 ぶつう	4 あまりよくない
5 よくない	6 わからない

問5 あなたは小5のお子さんについて、今後どの段階までの教育を受けさせたいですか。(1)~(3)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	受けさせたい	経済的に可能だが受けさせたくない	受けさせたいが、経済的に受けさせられない
(1)高校までの教育	1	2	3
(2)短大・高等・専門学校までの教育	1	2	3
(3)大学・大学院までの教育	1	2	3

2. アンケートを持ち帰った小5のお子さんとの関わりについて

問6 あなたは、小5のお子さんの将来の夢を知っていますか。(あてはまる番号1つに○)

1	よく知っている	2	知っている
3	あまり知らない	4	知らない

問7 あなたは、小5のお子さんのことを信頼していますか。(あてはまる番号1つに○)

1	大変信頼している	2	信頼している
3	あまり信頼していない	4	信頼していない

問8 あなたが、平日に小5のお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしてる時間は、平均するとだいたいどれくらいになりますか。(あてはまる番号1つに○)

1	0分~15分未満	2	15分~30分未満
3	30分~1時間未満	4	1時間~2時間未満
5	2時間~3時間未満	6	3時間~4時間未満
7	4時間以上		

問9 あなたのご家庭では、小5のお子さんのかかかりの中で次のことをどのくらいしていますか。(1)~(5)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	心がけている	どちらかといえば心がけている	あまり心がけていない	心がけていない
(1) 早寝早起き朝ごはんなど、規則正しい生活習慣を身に付けさせる	1	2	3	4
(2) 家族みんなで食事をする	1	2	3	4
(3) 子どもの食事の栄養バランスを考える	1	2	3	4
(4) 学校や塾の勉強を見る	1	2	3	4
(5) 将来や進路についての話をする	1	2	3	4

問10 あなたは小5のお子さんについて、以下のことをしていますか。(1)~(11)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	している	(必要だと感わない) (経済的にできない) していない
(1)絵本や子ども用の本を購入する	1	2
(2)母衣、新しい服を購入する	1	2
(3)お小遣いを渡す	1	2
(4)習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	1	2
(5)学習塾に通わせる	1	2
(6)子どもの学校行事などへ親が参加する	1	2
(7)クリスマスやプゼントやお正月のお年玉をあげる	1	2
(8)お誕生日のお祝いをする	1	2
(9)1年に1回くらい家族旅行に行く	1	2
(10)医者に連れて行く(健診を含む)	1	2
(11)歯医者に連れて行く(健診を含む)	1	2

問11 小5のお子さんについて、現在悩んでいることはありませんか。(あてはまる番号すべてに○)

1	子どものしつけや教育に自信が持てない
2	子どものしつけや教育について、相談する相手がいらない
3	配偶者が子育てにあまり協力してくれない
4	配偶者と子育てのことで意見が合わない
5	子どもが基本的な生活習慣を身につけていない(あいさつ、整理・整頓など)
6	子どもが勉強しない
7	子どもの進学や受験
8	子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない
9	子どもが何事に対しても消極的である
10	子どもの友人関係
11	子どもの身体の発育や病気
12	子どもの非行や問題行動
13	子どもの教育費
14	子どもの食事や栄養
15	その他()
16	特に感みはない

問12 お子さんにとって、現在、または将来的に、どのような支援があるとよいと思いますか。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----|---|
| 1 | 地域における子ども居場所の提供 |
| 2 | 自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供 |
| 3 | 子ども食堂など、子どもがひとりでも時間を過ごさせて無料もしくは安価で食事ができる場所の提供 |
| 4 | 保護者の不在時に子どもを預かる場や在宅サービスの提供 |
| 5 | 読み書き計算などの基礎的な学習への支援 |
| 6 | 子ども本人がなんでも相談できるところ（進路や生活など） |
| 7 | 生活のための経済的支援 |
| 8 | 就学のための経済的支援 |
| 9 | 会社などでの職場体験等の機会の提供 |
| 10 | 子どもの就労に関する支援 |
| 11 | その他（) |
| 12 | 特になし |

3. 家族での生活について

問13 小5のお子さん以外のすべてのお子さんのことについて教えてください。(兄弟姉妹が5人以上いらっしゃる場合は年長の方から順に4番目の方まで回答してください。)(それぞれあてはまる番号1つに○)

①今年4月2日現在の年齢	②性別	③就学・就労等の状況	④障害等の有無
1 男性	1 未就学 (在宅育児)	1 特になし	1 特になし
2 女性	2 保育園	2 発達障害	2 発達障害
3 幼稚園	3 幼稚園	3 愛の手帳所持	3 愛の手帳所持
4 認定こども園	4 認定こども園	4 身体障害者手帳所持	4 身体障害者手帳所持
5 小学校	5 小学校	5 その他()	5 その他()
6 中学校	6 中学校		
7 高校	7 高校		
8 フリースクール	8 フリースクール		
9 専門学校・大学等	9 専門学校・大学等		
10 社会人	10 社会人		
11 就学・就労していない	11 就学・就労していない		
12 その他()	12 その他()		

①今年4月2日現在の年齢	②性別	③就学・就労等の状況	④障害等の有無
1 男性	1 未就学 (在宅育児)	1 特になし	1 特になし
2 女性	2 保育園	2 発達障害	2 発達障害
3 幼稚園	3 幼稚園	3 愛の手帳所持	3 愛の手帳所持
4 認定こども園	4 認定こども園	4 身体障害者手帳所持	4 身体障害者手帳所持
5 小学校	5 小学校	5 その他()	5 その他()
6 中学校	6 中学校		
7 高校	7 高校		
8 フリースクール	8 フリースクール		
9 専門学校・大学等	9 専門学校・大学等		
10 社会人	10 社会人		
11 就学・就労していない	11 就学・就労していない		
12 その他()	12 その他()		

※「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害のことをいいます。

問14 あなたの世帯では、日々の生活の中で、次のことがどれくらいありますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	よくある	ときどきある	まれにある	ない
(1)家族が子どもに勉強を教えること (小学生以上)	1	2	3	4
(2)家族で買い物に出かけること	1	2	3	4
(3)家族でファミリーレストラン等で 外食すること	1	2	3	4
(4)地域の行事にお子さんと参加すること	1	2	3	4
(5)週末に家族みんなで出かけること	1	2	3	4

問15 あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由により、以下のものが買えなかったり、支払いができなかったりしたことがありますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった
(1)家族が必要な食料を買えなかったこと (嗜好品は含みません)	1	2	3	4
(2)家族が必要な衣料を買えなかったこと (高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません)	1	2	3	4
(3)子どもが必要とする文具や教材を 買えなかったこと	1	2	3	4
(4)電気・ガス・水道料金の未払い	1	2	3	4
(5)家賃やローンの滞納	1	2	3	4

問16 あなたの世帯では、過去1年の間に子どもについて病気や怪我や怪我の治療のために病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、実際には受診しなかったことがありますか。
(「ある」場合には、その理由について、あてはまる番号すべてに○)

1	ない (病院や診療所を受診したほうがよいと思った場合は、必ず受診した)
2	ある (病院や診療所に行く時間がなかったため)
3	ある (身体上の理由で、病院や診療所まで行くことが困難であったため)
4	ある (病院や診療所までの距離が遠く、通院することが困難であったため)
5	ある (公的医療保険に加入しておらず、医療費を支払うことが難しかったため)
6	ある (公的医療保険に加入はしていたが、医療費を支払うことが難しかったため)
7	ある (その他の理由) ()

問17 あなたの世帯では、経済的な理由により、これまでに子どもに進学をあきらめさせたり学校を中絶させたりしたことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

1	ある
2	これまでにないが、今後その可能性がある
3	これまでになく、今後もその可能性はない (可能性は低い)

4. 回答者(あなたご自身)について

問18 あなたには、留みを現在心おきなく相談できる相手がいいますか。(あてはまる番号1つに○)

1	相談できる相手がいる	2	相談相手がおらず、ほしい	3	必要ない
---	------------	---	--------------	---	------

問18で「1」または「2」をお答えの方にうかがいます。

問18-1 その相談相手は誰ですか、また相談相手がほしい方はどのような相手に相談したいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

1	配偶者	2	親	3	子ども
4	その他の親族	5	友人・知人	6	隣人・地域の人の人
7	職場の人	8	学校・幼稚園・保育所の先生 シヤルワーカー	9	学校のカウンセラーやソーシャルワーカー
10	児童館・学童クラブの職員	11	相談機関 (教育相談所、児童相談所、 子ども家庭支援センターなど)	12	民間カウンセラーなどの専門家
13	民間団体やボランティア	14	インターネットのサイト	15	その他 ()

問19 あなたは、過去1か月で、どれくらいの頻度で以下のようなことがありましたか。(1)～(6)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	なま いっ たく	少 し だ け	と き ど き	た い て い	い つ も
(1)神経過敏 (ちょっとした事も気になる)に 感じたこと	1	2	3	4	5
(2)そわそわ、落ち着かなく感じたこと	1	2	3	4	5
(3)気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れない ように感じたこと	1	2	3	4	5
(4)何をしても骨折 (おっくう)だと感じたこと	1	2	3	4	5
(5)自分は価値のない人間だと思ったこと	1	2	3	4	5
(6)絶望的だと感じたこと	1	2	3	4	5

問20 あなたが現在必要としていること、重要だと思う支援等ほどのようなものですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 様々な行政サービスの申請や相談がひとつの場所で行えること |
| 2 | 子どもや生活などの悩みごとの相談 |
| 3 | 同じような悩みを持った人同士が知り合えること |
| 4 | 民生委員・児童委員など地域の人の支援 |
| 5 | 離婚や養育費についての専門的な相談 |
| 6 | 病気や障害のことなどについての専門的な相談 |
| 7 | 住宅を探したり住居費を軽減したりするための支援 |
| 8 | 病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること |
| 9 | ヘルパー等からの一時的な家事や育児の支援 |
| 10 | 一時的に必要な資金の貸付 |
| 11 | 子どもの就学にかかる費用の軽減 |
| 12 | 就職・転職のための支援 |
| 13 | 就職活動のときに一時的に子どもを預けられること |
| 14 | その他 () |
| 15 | 特になし |

5. 世帯の状況について

問21 アンケートを持ち帰った小5のお子さんからみた、あなたの続柄をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | | |
|---|----|---|---------|---|----|
| 1 | 母親 | 2 | 父親 | 3 | 祖母 |
| 4 | 祖父 | 5 | その他 () | | |

あなたの世帯について、平成28年7月1日現在の状況をお答えください。

- ・世帯とは、ふだん同居と生計を共にしている人々(世帯員)の集まりをいいます。
- ・世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人も含まれます。また、生計を共にしている場合は、単身赴任など離れて生活している人も含まれます。
- ・病院に入院している人も含まれますが、住民登録を病院に移している人は除きます。また、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人も除きます。

問22 ふだん一緒に住まいで、生計を共にしている方(世帯員)は、あなたを含めて何人ですか。(人数をかこの中に記入)

世帯員人数(あなたを含めて) () 人
そのうち、お子さんの人数 () 人

世帯構成をうかがいます。

問23 あなたの世帯に含まれる方全員について、アンケートを持ち帰った小5のお子さんからの続柄を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | | | | | | |
|---|------|---|--------|---|---------|---|----|
| 1 | 父親 | 2 | 母親 | 3 | 祖父 | 4 | 祖母 |
| 5 | 兄弟姉妹 | 6 | その他の親戚 | 7 | その他 () | | |

問24 あなたの世帯は、「ひとり親世帯*」に該当しますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | | |
|---|----------|---|----------|---|----------|
| 1 | 該当しない | 2 | 該当する(別居) | 3 | 該当する(死別) |
| 4 | 該当する(離婚) | 5 | 該当する(未婚) | 6 | 該当する() |

*ここでひとり親世帯とは、現在配偶者のいない方が20歳未満の子どもを育てている世帯です。單身赴任など一時的な別居の場合は、ひとり親世帯には該当しません。また、法律上の婚姻をしていなくとも、事実上の状態であれば、ひとり親世帯には該当しません。

一方、法的な離婚が成立していないにもかかわらず事実上離婚状態が別居している場合は、該当します。

問25 現在のお住まいの状況について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | | |
|---|---------|---|-----------|---|---------------|
| 1 | 持家 | 2 | 都営・区営住宅 | 3 | 公社・公団(UFJ)の賃貸 |
| 4 | 社宅 | 5 | 民間の借家(賃貸) | 6 | 間借 |
| 7 | その他 () | | | | |

問26 お住まいの地区名をお答えください。(あてはまる地区名の番号1つに○)

地区名	対象地域 (参考)
1 浮間地区	浮間1-5丁目
2 赤羽西地区	赤羽北1-3丁目・新ヶ丘1-2丁目・赤羽台1-4丁目・赤羽西1-6丁目・西が丘1-3丁目・上十条5丁目・十条仲路3-4丁目・中十条4丁目
3 赤羽東地区	赤羽1-3丁目・岩淵町・志茂1-5丁目・赤羽南1-2丁目・神谷2-3丁目・東十条5-6丁目
4 王子西地区	上十条1-4丁目・十条仲路1-2丁目・中十条1-3丁目・岸町1-2丁目・十条台1-2丁目・王子本町1-3丁目・滝野川4丁目
5 王子東地区	東十条1-4丁目・神谷1丁目・王子1-6丁目・豊島1-6丁目・堀船1-4丁目
6 滝野川西地区	滝野川1-3丁目・滝野川5-7丁目・西ヶ原1-4丁目・上中里1丁目
7 滝野川東地区	中里1-3丁目・田端1-6丁目・栄町・上中里2-3丁目・昭和町1-3丁目・東田端1-2丁目・田端新町1-3丁目

以下の問 27～問 31 においては、問 24 でひとり親世帯に「該当する」とお答えの方は、該当する欄のみお答えください。

問27 あなたと配偶者の生年月を教えてください。(それぞれについて、かっこの中に数字を記入)

宛名のお子さんからみた父親 (西暦)年()月	宛名のお子さんからみた母親 (西暦)年()月
----------------------------	----------------------------

問28 あなたと配偶者の現在の健康状態について教えてください。(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 よい	1 よい
2 まあよい	2 まあよい
3 ふうとう	3 ふうとう
4 あまりよくない	4 あまりよくない
5 よくない	5 よくない

問29 あなたと配偶者の現在の収入を伴う就業状況と今後のご意向について教えてください。(1～3のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

①就業状況	宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 正規の会社員・職員・従業員	1 正規の会社員・職員・従業員	1 正規の会社員・職員・従業員
2 パート・アルバイト	2 パート・アルバイト	2 パート・アルバイト
3 日雇い(日払い派遣含む)	3 日雇い(日払い派遣含む)	3 日雇い(日払い派遣含む)
4 契約社員・嘱託(臨時職員、準社員、派遣社員を含む)	4 契約社員・嘱託(臨時職員、準社員、派遣社員を含む)	4 契約社員・嘱託(臨時職員、準社員、派遣社員を含む)
5 自営業主(商店主等の事業主を含む)	5 自営業主(商店主等の事業主を含む)	5 自営業主(商店主等の事業主を含む)
6 家族従業者(個人商店等での仕事を手伝っている家族)	6 家族従業者(個人商店等での仕事を手伝っている家族)	6 家族従業者(個人商店等での仕事を手伝っている家族)
7 在宅ワーク	7 在宅ワーク	7 在宅ワーク
8 その他の職業()	8 その他の職業()	8 その他の職業()
9 収入を伴う仕事はしていない →③へ	9 収入を伴う仕事はしていない →③へ	9 収入を伴う仕事はしていない →③へ

②概ねの帰宅時間 (①で1～8の方のみお答えください)

宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 18時まで	1 18時まで
2 18～20時の間	2 18～20時の間
3 20～22時の間	3 20～22時の間
4 22～24時の間	4 22～24時の間
5 その他()時頃	5 その他()時頃
6 交番制勤務で帰宅時間は決まっていない	6 交番制勤務で帰宅時間は決まっていない

③今後の就業意向 (①で9の方のみお答えください)

宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 条件が整えば、すぐに働きたい	1 条件が整えば、すぐに働きたい
2 今は働けないが、今後働きたい	2 今は働けないが、今後働きたい
3 働く予定はない	3 働く予定はない

問30 あなたと配偶者の最終学歴について教えてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

宛名のお子さんからみた父親	宛名のお子さんからみた母親
1 中学校卒業	1 中学校卒業
2 高等学校中退	2 高等学校中退
3 高等学校卒業	3 高等学校卒業
4 高専、短大、専門学校等中退	4 高専、短大、専門学校等中退
5 高専、短大、専門学校等卒業	5 高専、短大、専門学校等卒業
6 大学中退	6 大学中退
7 大学卒業	7 大学卒業
8 大学院中退	8 大学院中退
9 大学院修了	9 大学院修了
10 その他()	10 その他()

問31 あなたは、以下のような経験をしたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

	親名のお子さんからみた父親	親名のお子さんからみた母親
1	両親が離婚した	両親が離婚した
2	成人する前に母親が亡くなった	成人する前に母親が亡くなった
3	成人する前に父親が亡くなった	成人する前に父親が亡くなった
4	成人する前の生活は経済的に困っていた	成人する前の生活は経済的に困っていた
5	親から暴力や育児放棄を受けたことがある	親から暴力や育児放棄を受けたことがある
6	親と疎遠になっている(なっていた)	親と疎遠になっている(なっていた)
7	成人する前に親の介護をしていた	成人する前に親の介護をしていた
8	現在、親の介護をしている	現在、親の介護をしている
9	配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある	配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある
10	配偶者または元配偶者に暴力を振るったことがある	配偶者または元配偶者に暴力を振るったことがある
11	過去1年間に、病気・障害等が原因で、1週間以上入院していた	過去1年間に、病気・障害等が原因で、1週間以上入院していた
12	過去1年間に、病気・障害等が原因で、仕事をやめた	過去1年間に、病気・障害等が原因で、仕事をやめた
13	「1」～「12」のいずれも経験したことがない	「1」～「12」のいずれも経験したことがない

6. 家計について

問32 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

1	大変苦しい	2	やや苦しい	3	普通	4	ややゆとりがある	5	大変ゆとりがある
---	-------	---	-------	---	----	---	----------	---	----------

問33 家賃や住宅ローンなど、あなたの世帯で1か月に負担している住居費はどのくらいですか。(あてはまる番号1つに○)

1	負担額なし	2	2万円未満	3	2～4万円未満	4	4～6万円未満
5	6～8万円未満	6	8～10万円未満	7	10万円以上		

問34 あなたの世帯では、次のような借入金はありませんか。(あてはまる番号すべてに○)

1	住宅・土地の購入のための借入金(住居ローン)	2	車の購入のための借入金
3	教育のための借入金(返済が必要な奨学金を含む)	4	親族や友人・知人からの借入金
5	母子・父子福祉資金貸付金など自治体等からの借入金	6	その他の借入金()
7	借入金は無い		

問35 あなたの世帯では、現在、下記の手当や補助を受けていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1	児童手当 ^{※1}	2	児童育成手当(育成手当) ^{※2}
3	児童育成手当(障害手当)	4	児童扶養手当 ^{※2}
5	特別児童扶養手当	6	就学援助
7	生活保護	8	その他()

※1「児童手当」は、中学3年生修了前(15歳未満)までのお子さんを養育している方に支給する制度です。

※2「児童育成手当(育成手当)」及び「児童扶養手当」は、ひとり親世帯等(父または母が重傷障害者の場合を含む)で、18歳に達した年度末(児童扶養手当の場合、一定以上の障害のある児童は20歳)までの児童を養育している方に支給する制度です。

問36 あなたの世帯全体では1年間に、以下の手当等々の受給や所得はありましたか。(1)～(13)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	いずれかに○	
	ある	ない
(1) 宛名のお子さんからみた父親の就労による「収入」	1	2
(2) 宛名のお子さんからみた母親の就労による「収入」	1	2
(3) お子さん本人の就労による「収入」	1	2
(4) (1)～(3)以外の、同一世帯の親族の就労による「収入」	1	2
(5) 元配偶者等からの「養育費」	1	2
(6) 親族からの定期的・継続的な「しおくり」	1	2
(7) 国民年金・基礎年金・厚生年金などの「公的年金・恩給」	1	2
(8) 企業年金・生命保険会社などの「企業・個人年金」	1	2
(9) 失業保険や育児休業給付などの「雇用保険」	1	2
(10) 児童手当・児童育成手当・児童扶養手当、特別児童扶養手当等の「手当」	1	2
(11) 就学援助、生活保護による扶助などの「その他の社会保険給付金」	1	2
(12) 株式の利子や配当金などの「財産所得」	1	2
(13) その他()	1	2

問37 恐れ入りますが、問36でお答えいただいた世帯全体の所得を合計した総額を、概ねで構いませんので教えてください。(金額を口の中に記入)

税込					万円程度
----	--	--	--	--	------

問38 あなたの世帯全体では1年間に、以下の各種税金・社会保険料の支払いはありましたか。
また、その総額を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

支払った項目		合計		万円程度
1	所得税			
2	住民税			
3	社会保険料(健康保険、厚生年金保険料<長期>、年金保険料、介護保険料、雇用保険料など)			
4	固定資産税			

- ※大変お手数ですが、可能であれば、
 ●会社員の方など給与所得者の方は、毎月の「給与明細(×12)」や、「源泉徴収票」をご確認のうえ、ご記入ください。1年間の総ねの金額で結構です。
 ●自営業の方など給与所得者以外の方は、「納税通知書」や「確定申告書」をご確認のうえ、ご記入ください。1年間の総ねの金額で結構です。

問39 子育てで困っていることや、子育て支援に関してなど、ご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。
 切手は貼らずに同封の封筒に入れ、ご返封ください。

4. あなたの考えや将来のことについて

問11 あなたは、自分自身のことをどう思いますか。(1)～(6)それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	あてはまる いえは、あて はまる	どちらかと いえは、あて はまる	どちらかと いえは、あて はまらない	あてはまら ない
(1) がんばれば、むくわれる	1	2	3	4
(2) 自分は価値のある人間だと思う	1	2	3	4
(3) 自分には良いところがある	1	2	3	4
(4) 不安に感じることはない	1	2	3	4
(5) 孤独を感じることはない	1	2	3	4
(6) 自分の将来が楽しみだ	1	2	3	4

問12 あなたは、夢がありますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ある→どのような夢ですか ()
2 ない

↓「2」とお答えの方におうかがいします。

問12-1 夢がない理由は何ですか。(もともともあてはまる番号1つに○)

- 1 もうすべてに満足しているから
2 夢が、かなうのが難しいと思うから
3 具体的に、何も思い浮かばないから
4 わからない

問13 あなたは、希望として、将来どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 中学校
2 高等学校
3 専門学校 (高等学校卒業後に進学するもの)
4 高等専門学校・短期大学
5 大学
6 大学院
7 その他 ()
8 わからない

問14 自分の夢や希望をかなえるためには、どんなことが必要だと思いますか。

.....
.....
.....
.....
.....
.....

問15 【高校生以上の方のみお答えください】施設を退所した後の生活で心配なことはありませんか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 住居の採し方や契約の仕方 | 2 電気、ガス、電話等の契約に関する手続き |
| 3 住民票や戸籍の手続き | 4 健康保険や年金等の加入手続き |
| 5 金銭管理 | 6 生活費等経済的な問題 |
| 7 家事 | 8 健康管理、病院の利用の仕方 |
| 9 就職に関すること | 10 学校・職場での人間関係 |
| 11 近隣との人間関係 | 12 身近な相談相手・相談窓口 |
| 13 その他 () | 14 心配なことはない |

問16 日々の生活で感じていることや、将来に向けて不安に感じていることなど、ご自由に記入ください。

.....
.....
.....
.....
.....
.....

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

3. 東京シュールでの生活について

問9 東京シュールに選い始めて何年経っていますか。(数字を記入)

()年

問10 東京シュールでの生活は、楽しいですか。(1)～(5)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	とても楽しみ	楽しみ	少し楽しみ	楽しみではない
(1) 授業や講座	1	2	3	4
(2) スタッフに会うこと	1	2	3	4
(3) 友だちに会うこと	1	2	3	4
(4) 体験やお出掛け	1	2	3	4
(5) フリーに過ごす(自分で決めたことをして過ごす)	1	2	3	4

問11 東京シュールでの学習・活動をしていたよかったと思う事はどのようなことですか。

.....

4. あなたの考えや将来のことについて

問12 あなたは、自分自身のことをどう思いますか。(1)～(6)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない
(1) がんばれば、むくわれる	1	2	3	4
(2) 自分は価値のある人間だと思う	1	2	3	4
(3) 自分には良いところがある	1	2	3	4
(4) 不安に感じることはない	1	2	3	4
(5) 孤独を感じることはない	1	2	3	4
(6) 自分の将来が楽しみだ	1	2	3	4

問13 あなたは、夢がありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 ある一どのような夢ですか ()
 2 ない

↓「2. お答えの方におかかいます。」

問 13-1 夢がない理由は何ですか。(もともともあてはまる番号1つに○)

1 もうすべてに満足しているから 2 夢が、かなうのが難しいと思うから
 3 具体的に、何も思い浮かばないから 4 わからない

問14 あなたは、希望として、将来どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1 中学校 2 高等学校
 3 専門学校 (高等学校卒業後に進学するもの) 4 高等専門学校・短期大学
 5 大学 6 大学院
 7 その他 () 8 わからない

問15 自分の夢や希望をかなえるためには、どんな配慮があると良いと思いますか。

.....

問16 日々の生活で感じていることや、将来に向けて不安に感じていることなど、ご自由に記入ください。

.....

これでアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。

問10 あなたは、仕事(アルバイトを含む)をしていますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 週に6、7日している 2 週に4、5日している 3 週に2、3日している
4 週に1日している 5 その他() 6 していない

↓「1」「5」とお答えの方におうかがいします。

問 10-1 仕事(アルバイトを含む)と学校生活を両立する上で大変なことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 学習時間が確保できない 2 友人と遊ぶ時間が確保できない
3 自分自身の自由な時間がない 4 睡眠時間が足りない
5 その他() 6 特に大変なことはない

問11 あなたは、平日に学校以外の場所での勉強をどれくらいしていますか。(1)～(2)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	まったくしていない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間以上
(1) 塾など自宅以外の勉強	1	2	3	4	5	6
(2) 自宅での勉強	1	2	3	4	5	6

問12 あなたは、勉強が好きですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 とても好き 2 まあ好き
3 どちらともいえない 4 あまり好きではない
5 まったく好きではない

3. あなたの考えや将来のことについて

問13 あなたは、自分自身のことをごどう思いますか。(1)～(6)のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目	あてはまる	どちらかといえは、あてはまる	どちらかといえは、あてはまらない	あてはまらない
(1) がんばれば、むくわれる	1	2	3	4
(2) 自分は価値のある人間だと思う	1	2	3	4
(3) 自分には良いところがある	1	2	3	4
(4) 不安に感じることはない	1	2	3	4
(5) 孤独を感じることはない	1	2	3	4
(6) 自分の将来が楽しみだ	1	2	3	4

問14 あなたは、夢がありますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ある一歩のような夢ですか()
2 ない

↓「2」とお答えの方におうかがいします。

問 14-1 夢がない理由は何ですか。(もっともあてはまる番号1つに○)

- 1 もうすべてに満足しているから 2 夢が、かなうのが難しいと思うから
3 具体的に、何も思い浮かばないから 4 わからない

問15 あなたは、卒業後の進路についてどう考えていますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 進学 2 就職 3 現在の仕事を続ける 4 わからない

↓「1」とお答えの方におうかがいします。

問 15-1 どの学校まで行きたいですか。(もっともあてはまる番号1つに○)

- 1 専門学校 2 高等専門学校・短期大学
3 大学 4 大学院
5 その他()

問16 自分の夢や希望をかなえるためには、どんなことが必要だと思いますか。

.....
.....
.....
.....
.....

問17 日々の生活で感じていることや、将来に向けて不安に感じていることなど、ご自由に記入ください。

.....
.....
.....
.....
.....

これでアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。

(仮称) 東京都北区子どもの貧困対策に関する支援計画策定のための実態調査
調査結果の概要

平成 28 年 11 月発行

刊行物登録番号

28-1-072

編集・発行 東京都北区教育委員会事務局子ども未来部子ども未来課
〒114-8546
東京都北区滝野川 2-52-10
電 話 03 (3908) 8143

調査分析 株式会社 ジャパンインターナショナル総合研究所